叕 テツ、テチ。陟劣切 屑

㊀つらなる（連）。㊁つどる（聚）。

取 シュ、ス。此主切 麌

とる。

（い）敢らて我が有となす。○（戰）「戰勝攻—（不レ知二其數一）。

（う）貪る。○（易）「恣二近相—」。

（え）持つ。○（詩）「如レ如レ摠」。

（お）使ふ。○（南）「與二華之實一レ華—」。

（か）採る。○（史）「以レ觀—レ人、失二之于羽一」。

（き）事ふ。○（老）「故—二天下一者」。

（く）聚る。○（北）「即令—」。

（け）受く。○（左）「昭公—二子矣一」。

（こ）求む。○（禮）「一レ表者亦以レ國」。

（さ）捕らふ。○（禮）「力行以待レ—」。

（し）默。○（詩疏）「能捕二—猛獸一」。

（す）行ふ、爲す。○（莊）「成其自—、惡者其誰耶」。

（せ）擊つ、殺す。○（史）「吾爲レ公—二彼一將一」。

（そ）戰ひに師徒を用ひずして敵のものに克つ。○（春秋）「即伯伐—之」。

（た）取り。○（詩）「如二商—」。

（ち）取る。○（史）「以レ人不レ勝レ取」。

（つ）正しきに置して取る。○（禮）「學記—」。

（て）取り。○（詩）「以二—」。

（と）取る。○（詩）「—之」。

（な）取り。○（詩）「—之」。

（に）取り。○（詩）「—之」。

（ぬ）取る。○（詩）「—之」。

（ね）取る。○（詩）「—之」。

（の）取る。○（詩）「—之」。

（は）取る。○（詩）「—之」。

（ひ）取る。○（詩）「—之」。

（ふ）取る。○（詩）「—之」。

（へ）取る。○（詩）「—之」。

（ほ）取る。○（詩）「—之」。

（ま）取る。○（詩）「—之」。

（み）取る。○（詩）「—之」。

（む）取る。○（詩）「—之」。

（め）取る。○（詩）「—之」。

（も）取る。○（詩）「—之」。

（や）取る。○（詩）「—之」。

（ゆ）取る。○（詩）「—之」。

（よ）取る。○（詩）「—之」。

（ら）取る。○（詩）「—之」。

（り）取る。○（詩）「—之」。

（る）取る。○（詩）「—之」。

（れ）取る。○（詩）「—之」。

（ろ）取る。○（詩）「—之」。

（わ）取る。○（詩）「—之」。

（を）取る。○（詩）「—之」。

（ん）取る。○（詩）「—之」。

（ヲ）取る。○（詩）「—之」。

（ン）取る。○（詩）「—之」。

（ヰ）取る。○（詩）「—之」。

（ヱ

〔論心篇〕「文辭をよくする人を言目する時用ふる語」。○〔後漢書〕「…」。

口 コウ、ク。苦勾切 侯

むかし。あな。〔後〕。

叩 コウ、ク。苦后切 厚

たゝく。

（い）うつ。〔擊〕。○〔論〕「一レ之以二小者一則小鳴、一レ之以二大者一則大鳴」。

（ろ）おこす。ひらく。〔發〕。○〔論〕「我一レ其端而竭」。

（は）たづぬ。とふ。〔問〕。○〔梁武帝〕「獨擊少一擊」。

（に）稽顙す。ぬかづく。○〔漢〕「一頭自請」。

（ほ）引き止む。ひかふ。○〔史〕「一馬而諫」。

〔論語〕「ものしかく」。○〔梅福傳〕「門一」。

〔呼名〕（ろ）たとへ。○〔梅福傳〕「門一」。

（ろ）種々をひとあらはに用ふる語。○〔朱書〕「一…陳者例」。

只 シ。掌氏切 紙　支移切 支

（い）此れのみの意を表はす字。たゞ。○〔晉先生圖堂記〕「今事」。○〔范希文作三此記〕「學太伯在」。○〔唐書〕「一字未安」。○〔左〕「一字未安」。

（ろ）調のなはりに用ふる助字。○〔左〕「晴、侯師二書之餘一」。

（は）一説に是れの意をなす助字。○〔詩〕「樂一君子」。

叫 キウ。古弔切 嘯　ケウ。古幼切 宥

（い）呼ぶ。○〔後漢書〕「門一」。

（ろ）前に同じ。○〔後漢書〕「不一者所聞」。

（は）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（に）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ほ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（へ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（と）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ち）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（り）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ぬ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（る）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（を）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（わ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（か）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（よ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（た）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（れ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（そ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（つ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ね）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（な）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ら）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（む）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（う）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ゐ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（の）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（お）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（く）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（や）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（け）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ふ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（こ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（え）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（て）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（あ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（さ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（き）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ゆ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（め）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（み）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（し）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ゑ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ひ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（も）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（せ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（す）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ん）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

古 コ、ク。願暮切 遇

むかし。○〔劉向〕「興二離騷之微一文一兮、雲、雲修之章悟、遭二余車于南郢一兮、復二社執于初一」。

句 ク。九遇切 遇

（い）字を聯られて章の一小節をなすものゝ稱。古は之を言と謂ふ。秦漢以後に此の稱始まれりとぞ。卽ちことばのこまかくかざられたる部分、ことばのふばしとゞまれる箇處、若しくはことばのある部分の完全なる意味を形づくれるもの。例へば〔博愛之謂レ仁〕、〔行而宜レ之之謂レ義〕の如き。力拔レ山兮氣蓋レ世〕などの如し。こゑのふし、ことばのふし、くぎり、きり。○〔文心雕龍〕「因レ字而生」、積レ一而成レ章」。

（ろ）長上の者の卑賤の者に告ぐるとき。○〔史〕「大行設二九賓禮一、傳二」。

（は）屈曲す。まがる。かゞまる。まぐ。○〔禮〕「一中レ鉤」。

〔論句〕議論にて起承轉合の四句を以て組み立てられたるもの。五言(字)七言(字)の別あり。往々四言六言なる詩は論じ或は詩よりあり。○〔白〕「作時春晚雅、九工一…」。

〔起句〕又は、〔發句〕詩句にて第一次の句。○〔後漢書〕「一…好古敏而求」。〔承句〕詩句にて第二次句。〔轉句〕詩句にて第三次句。〔結句〕詩句にて最後の句。○〔後漢書〕「一…好古敏求」。

〔對句〕平仄兩句の字數相同じく意字は違字と賓字なれば賓字を相當嵌して表とい（はば表といふ語といふ）表はるゝもの、例へば（はば鉢金の類）等にて「日不過、時詩大師之文、事不作、使我百年後之語」。この二句の如き此れなり。要するに文章大朝時代には詩賦を作るに當りて詩を主とし大師は詩賦のもの故文には多く用ひず詩賦は上り作成を主とするものなれば詩句を用ふること多きなり。社會の其文章に「歌雅頌」「風」「賦」「比」「興」の四の別あり。詩は作詩の詩体「雅」「頌」「風」「賦」「比」「興」の五つ。

〔絶句〕又は〔絶句〕二人以上の人間集まり詩句を作れば一句を作れば此れ一句を聯ぎて「連」二言をなすもの。○〔白居易〕「秋雨夜窗一…詩」。

〔警句〕すぐれたる句。○〔水事詩〕「夜來雨月明、明後一番民」。

〔句〕人の言ひ及ぼしたる句。○〔宋〕「林逋詩話」「詩、其詩雖淡而有味」。

〔麗句〕美しき句。○〔論語〕「巧一言」。

〔好句〕よき句。○〔天一詩話〕「詩人貴求一」。

〔佳句〕前に同じ。○〔詩話〕「詩無一」。

〔妙句〕氣象雄大なる句。○〔詩話〕「詩貴妙」。

〔警句〕巧に構へたる句。又巧に句を構へ。○〔光書〕「無非一詩」。

〔秘句〕前に同じ。○〔玉篇〕「一麗」。

〔輪句〕活潑なる句。○〔論語〕「巧一」。

〔活句〕活潑なる句。○〔論語〕「巧一」。

〔死句〕意味少く淡く物なきもの。○〔論語〕「文一」。

〔奇句〕奇用の句。○〔梁武帝〕「詩一」。

〔離騷句〕詩賦の句を歌ふ句。○〔論語〕「詩一」。

〔長句〕長き字數多し句と短き字數少し句と。○〔史〕「一…」。

〔金章玉句〕他人の詩文を褒賞する時用ふる語。○〔論語〕「一…」。

〔月在星句〕前に同じ。○〔許有孚〕「一…」。

〔知搏鵬〕「鵬託二春風一管一來」。

（ろ）はる。みつ。やゝ。〔數〕。○〔詩〕「一敷弓既一」。

（は）すべたる。○〔論語〕「一…」。

（に）とりまる。○〔論語〕「一…」。

（ほ）めぐりあるきて任務を作す。○〔論語〕「一…以一…」。

句 コウ、ク。古侯切 侯　俗に勾に作る。

（い）かゞまる。まがる。〔曲〕。○〔論〕「一者畢出」。

（ろ）短形を對角に折中せしものゝ稱。卽ち直角三角の稱。○〔周髀算經〕「折一矩爲一」。

句 ク。雄倶切 虞

（い）鉤に同じくつさきのかざり。○〔周〕「青一」。

（ろ）拘に同じ。ひく。とゞむ。「者」。

（は）矩に同じ。けた。○〔莊〕「一屋」。

句 キウ、ク。古有切 有

まがる。まぐ。〔曲〕。○〔推〕「一寒民」。

另 レイ、リヤウ。郎定切 徑

（い）分かれ居る。わかる。

（ろ）割き開く。さく。

另 クワ、ケ。古瓦切 馬　尚又は剮に作る。

肉を割きて其の骨のみを置く。わかつ。さく。

叨 タウ、トウ。土刀切 豪

（い）分外の欲望を恣にす。むさぼる。貪ぼる。○〔書〕「一懷日欲」。

（ほ）粉殘す、忝藍す、むさぼりそこなふ、そこなふ、かたじけなくす、みだりにかたじけなし。○〔後漢〕「横二一天功一」。

叩 コウ、ク。苦后切 厚　丘候切 宥

たゝく。

（い）うつ。〔擊〕。○〔論〕「一之以小者一則小鳴、一之以大者一則大鳴」。

（ろ）おこす。ひらく。〔發〕。○〔論〕「我一其端而竭」。

（は）たづぬ。とふ。〔問〕。○〔梁武帝〕「獨擊少一擊」。

（に）稽顙す。ぬかづく。○〔漢〕「一頭自請」。

（ほ）引き止む。ひかふ。○〔史〕「一馬而諫」。

〔論語〕「ものしかく」。○〔梅福傳〕「門一」。

〔呼名〕（ろ）たとへ。○〔梅福傳〕「門一」。

（ろ）種々をひとあらはに用ふる語。○〔朱書〕「一…陳者例」。

只 シ。掌氏切 紙　支移切 支

（い）此れのみの意を表はす字。たゞ。○〔晉先生圖堂記〕「范希文作三此記」。○〔唐書〕「一字未安」。○〔左〕「一字未安」。

（ろ）調のなはりに用ふる助字。○〔左〕「晴、侯師二書之餘一」。

（は）一説に是れの意をなす助字。○〔詩〕「樂一君子」。

叫 ケウ。古弔切 嘯　ケウ。古幼切 宥

（い）呼ぶ。○〔後漢書〕「門一」。

（ろ）前に同じ。○〔後漢書〕「不一者所聞」。

（は）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（に）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ほ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（へ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（と）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ち）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（り）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ぬ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（る）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（を）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（わ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（か）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（よ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（た）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（れ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（そ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（つ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ね）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（な）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ら）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（む）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（う）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ゐ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（の）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（お）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（く）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（や）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（け）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ふ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（こ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（え）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（て）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（あ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（さ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（き）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ゆ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（め）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（み）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（し）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ゑ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ひ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（も）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（せ）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（す）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

（ん）前に同じ。○〔後漢書〕「一」。

召 セウ、ショウ。時照切 嘯

地の名。人の名。

叭 ハツ、ハチ。普八切 黠

擊にいふ字。

叭 ハツ、ハチ。普活切 曷

口開く。

〔軍記〕軍中の吹笛、一名を觀笛といふ。

召 テウ、デウ。直少切 嘯

長上の者の卑下の者を呼び來たすにいふ字。よぶ。まねく。めしよびだし。○〔禮〕「父一無諾唯而起」。

〔後漢〕呼び出だす。○〔後漢書〕「一…天下之賢士」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢書〕「一以爲書生二尺以一…」。

〔後漢〕官吏などに採用すること。○〔後漢書〕「官無一時」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢書〕「不一者所聞」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢書〕「一…」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢書〕「一…」。

〔後漢〕前に同じ。○〔後漢書〕「一…

可 カ 居何切 歌

❶何古文の歌の字。
❷何に通じ用ふ。○石鼓文「其魚惟「」。

台 イ 延知切 支

❶われ。「我」。○書「非一小子敢行天罰」。
❷子敬行行帰悅。○史「虞舜不一」。
❸やしろ。ふ。悅。○史「恵鮮不一」。
❹ましなふ。「衆」。○孫楚「衆也百一」。
❺うしなふ。「失」。○孫楚「之而日一」。
〔台々〕ようこそ。○書「台台」。

台 タイ 遺来切 咸

❶星の名。○書「三一八星」。
❷三公の所。○書「炎中星一」。
❸居所。一に同じ。○書「炎中星一」。
❹新。一に同じ。○史「夏台」。
❺新に通じ用ふ。○史「孫子敬行行帰悅」。
〔台ゆ〕「黄髪一書」。

台 ジ ガ 諸夷切 魚

〔台ゆ〕「黄髪一書」。

叱 シツ シチ 尺栗切 質

❶中ぶかう。「叱」。○公羊「叱」。

吒 シツ シチ 尺栗切 質

同に同じつ。○古文尚書「弗一」。

吒 タ 陳知切 麻

❶手。「手吒而一之」。
❷いかる。怒。○〔周〕「等出一人為奏」。
❸見。○太平御覽「一管蘇日袋」。
❹いかる。怒。○〔後漢〕「一時月正之日」。
〔吒々〕ようこそ。○〔後漢〕「一時月正之日」。

吒 タク タ 切火跨 麻 作一咤。

口を開く。一に同じ。

史 シ 疎止切 紙

❶書を記す。○書「動則左一書」。
❷文。○書「動則右一書」。
❸書の源。○史「孫子敬行行帰悅」。
❹文。○書「動則左一書」。
❺書。○〔周〕「孫子敬行行帰悅」。
〔史官〕書を記す

合 カフ、ゴフ、胡閤切 **合**

一あふ。
(い)同じくあり。○〔騷〕「神・靈威・明興レ天一」。○〔荀〕「男女之一」。
(う)配ふ。○〔呂氏春秋〕「才民未レ一」。
(は)交はる。
(ひ)合す。○〔禮〕「不レ能三五十里者・不レ一」于天・子二」。
(ほ)和ぐ。○〔呂氏春秋〕「物一而成」。
(へ)集まる。○〔論二〕「荀一矣」。
(と)應ず。○〔史〕「二生・氣之和」。
(ち)重なる。○〔王褒〕「海・衆一杳」。
(り)著く。○〔周〕「秋合三・材・則一」。
(ぬ)結ばる。閉づ。○〔後漢〕「光武至二漳・汦・河一無レ船・適遇・冰一得レ過」。
(る)答ふ。○〔左〕「既一而來奔」。
(を)あはしむ、同じくす、たぐはす、あつむ、交ふ、和ぐ、重ぬ、著く、とづ、結ぶ、あはす。○〔論一〕「桓公九二一天・下」、不レ以三兵・車一」。
三 配偶、對匹。○〔屈平〕「渴・禹儀・求レ一州」。○〔晉書〕「後・魏・匿二一水合・流之處也」。
四 物を盛る一種の器、はこ、食に同じ。○〔茶經〕「羅一以三竹・節一爲レ之」。或風・杉以漆レ之。
五 物の量をはかる名目、即ち龠(勺)の十倍にて斛の千分の一。○〔西京雜記〕「曹・元理明二算・術一、陳・廣・漢曰、吾有二一囷米一、忘二其石・數一、子爲計之」。元・理以二食・筋二十餘・轉曰、東囷七・百・四十九・石二升七・合、四囷六・百・九十七・石七・斗九・升」。
六 當に同じ。適合の意。心あらはす字、べしべく。○〔家〕「桑・穀野・木而不レ

(合)合同す。○〔史〕「此世有・京阿・食俗一一」。
(綜合)前に同じ。○〔史〕「一一・取・捨」。
(適合)ぐあはせる。○〔史〕「力・田不・如・遇・年、勢・仕不・如・一一」。
(好合)(う)家・婚・調・和・ゆ。○〔詩〕「寒・子・一一、「牧・歌」。
(うつり結婚)。○〔晉書〕「夫・子・新一一、不・顧・思」。
(訴合)よろこばしき事にあはせる。○〔後漢書〕「休・嘉一一・号・邪・修・張・麗」。
(和合)やはらぐ、むつまし。○〔周〕「可・以一一・一・子下」。
(配合)つれそふ、又つれあひ。○〔漢書〕「日・月・月・日、一方と一方とあはせ始めて完全なるもの、一方と一方とあはせ始めて結婚などに用ふ。○〔詩〕「且・以・偕・老」。
(野合)(う)正當なる媒介者なくして男女心のまゝに結婚を爲す。○〔史〕「叔・梁・紇・與・顏・氏・女一一、而生・孔子」。
(うら)(野)(ひ)「夫」。
(婚合)あつむ、又、あつまる。○〔後漢〕「貴・時一一、・女・鮮・能・密・固」。
(媒合)媒をすゝめてあはす。○〔後漢〕「「・・・

銘に同じ。ふるす。(記)。○(禮)銘者自一也。

【名】 ベイ、ミヤウ。(メイ) 彌正切 敷

諡に同じ。なづく。

【后】 コウ。ゲ。胡口切 侯 胡遇切 遇

㊀のち。おくる。(後)。○(禮)再拜稽首而一對。

㊁きみ。

(い)君主の位置を承けつぐ者。繼體の君。○(書)朕〔予〕一。

(ろ)君主の諸侯を呼ぶに用ふる敬稱。○(書)班瑞于羣一。

(は)君主の其の臣を呼ぶに用ふる敬稱。○(書)汝一。穆播。時百穀。

(に)王地は萬物の主たるより土を司る神の尊稱。○(書)告于皇天一。土。

㊂君主の正配の稱。天子よりおくるゝものにて、又其の後胤を嘗くする義といふ。殷以前には之を妃といひ周に至りて王后といひ、秦漢以後にては皇后といへり。ひめ。きさき。○(禮)天子有一。

(光韻) 天子のこと。○(書)敢非一一河朔。

(下韻) 前に同じ。○(宋)(韓琦)帝一一公謀。

(東韻) 諸侯のこと。○(書)伊尹以一一。

(支韻) 君行に同じ。○(光)官、後一一相國。

(侵韻) 結髮の代を導ぐる比時物を用ふるの時より成す女を記とせずにいふ。○(晉)「一一于昭註」。

(納韻) 下のかをきさきとなすがいふ。○(後漢)「光武紀」十七年、至二鄧皇一四一一。

(孟女韻) 天子の嫡母。

(女孟女韻) 天子の嫡祖母。

【吏】 リ。力地切 置

㊀つかさ。

(い)人を統ぶるの任に當たれる者。○(孟)無一敵一于天一下一者天一也。

(ろ)官府の長。○(禮)「五官之長曰一伯是職一方、其旗一于天一子一也、曰一天子之一」。

(は)官府に屬して官府の事を執る者。○(周)廢置以馭其一。○(史)一一治刻深。

㊁人を統御するのこと。

(小韻) 海に勝めて師をつかさ。○(史)牛少好讀一一。

(三韻) 三公に同じ。○(左)王使一一來予一一。

(五韻) 文書のみを司る者。○(史)(酈)「一一」。

(軍韻) 軍中の事を司る者。○(史)(酈)「一一」。

(沃韻) 郡國の事を掌る官人。○(史)(酈)「一一」。

(麥韻) 政府の米穀を掌る役人。○(後)孔子曰「一一」。

(職韻) 罪囚をつかさどる者。○(史)以一一令御「一一」。

(麥韻) 勢力のつよき役人。○(史)少年一一如「一一」。

(藥韻) 法を任ずる官職の事をなす役人。○(史)「一一」。

(職韻) 「一一」。

(藥韻) 部下の官吏。○(晉)「大會一一」。

(陌韻) 證みて叙前を守り時宜に適する官吏。

(錫韻) 「一一」。

(屋韻) 「一一」。

(沃韻) 「一一」。

(錫韻) 「一一」。

(職韻) 「一一」。

(麥韻) 「一一」。

(藥韻) 「一一」。

(陌

く、うなる、なげく、ためいきをつく、うめき、ためいき、なげき。○〔山海經〕「其聲如レ—」。

㊀うたふ。

（い）詩歌に述ぶ。○〔詩、大序〕「—ニテ所性情」。

（ろ）詩歌を唱ふ。○〔莊〕「倚レ樹而—、搖レ槹栢」而吟。

（は）言ひ傳ふ。○〔荀〕「盜跖—レ口」。

㊁うたふこと、うたふ調章、うた。○〔後漢〕「庶民之謠—」。

㊂なく、鳴く、さけぶ、〔叫〕、うそぶく、〔嘯〕。○〔李白〕「笛發龍—レ水」。

〔歌唱〕聲を長めてうたふ。○〔後漢〕「雅門子童—」。

〔歌唱〕（い）語り歌しうたふ。○〔李白〕「—一曲新」。

（ろ）風ひ流るゝ考ふるも。○〔後漢〕「秦夜琴、物—一寒」。

〔音吟〕音所りて調歌をつくるも。○〔李白野鶴〕

〔長吟〕歌謠を風ふと共に唱りいふ調。○〔後漢〕「陳蒙問王蘭不聞吳人唱越音乎、聲亦悲乎、左右目、故歌使人悲之耳、蘭問乎、聲亦悲乎、左右目、故悲耳」「—、今蒙博問、至—」。

〔歌吟〕樂をなしてうたふこと。○〔後漢〕「—」。

〔歌吟〕多人數のもの、調子を揃へて大聲をなす。○〔呉越春秋〕「三皆—、以讓其出」。

〔歌吟〕聲を長くすして調歌を謳ふ。○〔孟郊〕「—一言絲々」。

吟 ギン、ゴン。牛錦切 侵

うめく。○〔揚雄〕「蚓—漸以嘶—而笑」。唐韻ニ。

吟 ギン、ゴン。宜禁切 沁

㊀うたふ。○〔韓愈〕「白蛾叫相—」。

㊁うめく。○〔史〕「肇レ有二舜禹之智一、而不レ言」。

吠 ハイ。扶廢切 廢

犬鳴く、ほゆ、又、犬の鳴く聲。○〔詩〕「無レ使二尨也—一」。

〔狗吠〕（い）狗のほゆるは人家を惑なるゆえ人家多きときに用ふる語。○〔後〕「桑間—」。

（ろ）狗吠されの主人より外の人は怪しみてほゆるとも人の主に親ゆるときにいふ語。○〔史〕「路之狗—」。

〔犬吠〕犬を使ひ、「—田—」。

（は）河は怪しき者をほゆるより此事かならずして夜中に怪しき者の行き通ふなどにいふ語。○〔史〕「今中國無—一—之警」。

〔吠狗〕人を惑はしわる狗に其の人を咬口するも。○〔後〕「—、—所惑」。

〔守狗〕狗の家を守ふより守護するに借り用ふる語。○〔後〕「世々爲—、大—」。

〔鳴狗〕（い）なきほゆ。○〔後漢〕「無大五—一」。

（ろ）僅かばかりの技能に借りいふ語。○〔柳宗元〕「—一之能、而必欲用」。

〔取狗〕己れの意見を主張するものを採用すると借りいふ語。○〔北〕「狗本—、今以—、今以取狗」。

之、必時來報復狗」。

昉 ハウ。旁兩切 養

聞くが如しほのか

呼 ホウ、フ。普溝切 尤

すふ、吸。

否 ヒウ、フ。俯九切 有

㊀可とせず、いなむ。○〔左〕「或欲或—」。

㊁然なさず、ふかせず。○〔詩〕「—、害」。

㊂然あらず、ふからず。○〔書〕「—則威レ之」。

㊃然あらざるか、ふからざるか、いなか。○〔詩〕「書、其旨—」。

否 ヒ、ビ。符鄙切 紙

㊀善からず、清からず、通ぜずあしけがる、ふさがる。○〔詩〕「未レ知、畏、—」。

「○易」「利レ出レ—」。

㊁あしき事、けがれし物、ふさがる所。

㊂易の卦 ䷋ 坤下乾上 ○〔史〕「得二觀之否一」。

〔否否〕よし、もし、又、所すでにかゝるか。○〔史〕「—、—、「國語、晉語」「—」。

〔否否〕其の卦くにてあるとは其の卦くにてあるとは、又、あやまりなるかあやまりたるか。○〔史〕「故、其知乎—」。

〔否否〕實とかばりしも、然なきはいふ語。○〔後漢〕「伯夷傳—、—、「實不—」」。

〔否否〕出世の出來ると出來ぬとと。○〔後漢〕「聖人之不、而—、—之基也」。

〔否否〕小人、又、惡者なるを惡むべきなる。○〔後〕「—、實—」、「別不仁者遠」。

〔否否〕失實を惡り調ふなと。○〔後〕「—、功—」。

〔否否〕やすきかゝるかゝるかとの、即ち其の人の狀況、やうす。○〔後〕「今日—、—何如」。

〔否否〕味のよしあし。○〔後〕「言其—」。

〔否否〕人民が官府の政令なを惡に思ひひかりとなすと。○〔後〕「—、—則其心違也」。

〔併否〕容色のよしあし。○〔白居易〕「綠人無地材、柴拾量—」。

〔工否〕下手と上手と。○〔後漢〕「何—、—、秋乎」。

〔去否〕臣下の其の君主を惡に導くとはいふ語。○〔左〕「桑子對公曰、君所謂可而—、是臣獻其否、以成其可、君所謂否而有、可是臣獻其可、以去其否」。

〔若否〕よしあし。○〔後〕「邦國—、—、仲山甫明」。

〔休否〕前に同じ。○〔孝經〕「若心小—」。

〔倫否〕惡なること。○〔易〕「上九—、—、光否後喜」。

〔出否〕分かれしもの、又、あしきものをかれにいたす。○〔易〕「聞命のひらくとひらかざるとのと、即ち官位の卑なると高けなるとのなどに用ふる語。○〔後〕「卑、—、卑朝、—、—」。

〔屈否〕屈命わろし。○〔風俗通〕「時有—、—」。

〔宅否〕前に同じ。○〔後漢、光武〕「明詔—、—」。

〔難事身否〕行ふところ正しきも立身の出來ぬこと。○〔李商隱〕「時年命屯、—、—、—」。

吧 ヘ、ヘ。披巴切 麻

—、吻は、小兒の怒爭するにいふ語。口の大いなる貌にいふ語。

吨 トン、徒渾切 元 他袁切 阮

㊀了からず、言語明かならず。

㊁意樂合ひ雜し。

吡 ヒツ、ビチ。毘必切 質

鳥の聲にいふ字。

吡 ヒ。匹蜱切 紙

そしる、〔責〕。○〔列〕「—二其所レ不レ爲者一」。

昏 クワツ、クワチ。古活切 曷

クワツ、ゲチ。下刮切 黠

口を塞ぐ、又塞ぐ。

吆 コウ、沽紅切 東 ショウ、諸容切 冬

口衆し、かまびすし。

吮 クワ、クワ。吾禾切 歌

㊀うごく、〔動〕。○〔詩〕「貨寐無—」。

㊁かはる、〔化〕、又、あやまる、〔謬〕。○〔詩〕「周公東、征、四國是—」。

吮 クワ、ゲ。乎瓜切 麻

口を開く。

呰 古文の化の字。○〔揚雄〕「陰陽路—」。

含 カン、ゴン。胡男切 覃

㊀ふくむ。

（い）口に入る口に持つ。○〔莊〕「—一萬物一」。

（ろ）つゝむ、〔包〕、いる、〔容〕、○〔易〕「—」。

（は）いだく、〔懷〕。○〔國〕「—レ怒日久」。

（に）ふのぶ、〔忍〕。○〔左〕「國—、君—」。

〔含〕中に有して未だ外に申びず。○〔江淹〕「臨レ風默—一情」。

㊂莫り盛んなる貌にいふ字、さかんなりふくげし。○〔後漢〕「惟季春兮華阜、麥—一兮方秀」。

〔含含〕盛起してゐるとにいふ語。○〔後漢〕「—一、—大動」。

〔含含〕よくむ。○〔後漢〕「周卯南嘉海月、—」。

〔含含〕よくむ。○〔史〕「中庸—一」。

〔含含〕ものをよくむ。○〔後〕「—一、玉藻」、「外表」。

〔含含〕事物が明瞭なるも。○〔後漢〕「如「西雍」、「以—一」。

〔含含〕眼を惑ますもの。○〔前漢〕「相者唐舉、注」。

〔含含〕小子がしく解脫せしを留止するとにいふ語。○〔國語〕「—一、作半自可」。

含 カン、ゴン。胡紺切 勘

古昔支那にて死者の口中にふくましめたる玉、一說に喪に贈る珠玉の類、殮又は殯に同じ。○〔春秋〕「王使」榮叔歸ヒ—」。

呿 チツ、チチ。陟列切 屑

ふさぐ、塞。

听 ギ。魚其切 支

口を開く貌にいふ字。

听 ギン、ゴン。擬引切 軫

㊀笑ふ貌にいふ字、わらふ。

㊁口の大いなる貌にいふ字。

听 ギン、ゴン。擬巾切 欣 擬斤切 文

ギツ、魚乙切 質

前條の㊁に同じ。

听 ギ、ゲ。魚衣切 微

沿に同じ、嫌づる貌にいふ字、ばづ。

吭 カウ、胡郎切 陽 下孟切 漾

口の奥より胸部に至る迄の呼吸飲食の通路のんど、のど、轉じて物事の要處の義に借りいふ字。○〔左思〕「吾—一清塵」。

〔喉吭〕喉嚨の者部たるのんどをもめつくとの轉じて喉嚨の地に屬して氣を制すると借り用ふる語。○〔史〕「今陛下入關而都、塞喉之地、地、此亦一天下之一」、「西推其吭、吭」。

〔咽吭〕のんどをたちきるも、即ち生命を絶つるとにいふ語。○〔後漢〕「投、死」、「—一而不悔」。

〔引吭〕くびをもしのみをる。○〔史〕「李斯」、「—一、—」。

〔伸吭〕首を伸べて、物事を待つるとにいふ語。○〔後漢、光武〕「—、—、—、—」。

〔伸吭〕首を伸べて、物事を待つるとにいふ語。○〔後漢、光武〕「伸首—、—、—、日百前日、老遠有、望、略西垂」に有、思。

〔呼吭〕島の鳴くこと。○〔王褒〕「鳳凰賦」「—一」。

〔咽吭〕のんどを出入口の器にかり用ふる語。○〔後漢〕「—、—、焦樂、樂賦」「—一」。

〔弁其吭〕他の人ののんどに弁を打ち込むとの義、即ち人の生命をたつこと。○〔韓愈〕「邦國不—、注」。

〔組雜吭〕聲ののんどをしめつくるとにて危險を言すとに借りいふ語。○〔後漢、光武〕「—一、—、—、—

吵 サウ、セウ。楚教切 **図**

吵に同じ、かろし。（喧、

肉 ダツ、チチ。女刮切 **黠**

❶どもる。（訥）。❷ひくき聲。

肉 セツ、如劣切 **屑** ドツ、奴滑切 **月**
チチ、切 チチ、切

訥・吶に同じ、どもる。

吶 ドツ、奴滑切 **月** セツ、女劣切 **屑**
ナチ、切 ナチ、切

言語滑す、言語を出だすに澁し、言語遲鈍にして明かならず、ことばにぶしく、くちごもる、くちごもる、どもる。○（禮）「其言―――然、如不出諸其口―」。

吷 ケツ、ケチ。許劣切 **屑**

❶小さき聲。○（莊）「吹二劍一首一者―而已矣」。❷のむ（飲）。

吷 セツ、ゼチ。呂悅切 **屑**

歇・同じ、のむすゝる。

映 ケツ、ケチ。呼決切 **屑**

❶疾き貌にいふ字、はやし、とし。❷鳥の聲さへづる聲、なきごゑ。❸決に同じ、わかつ、さだむ。

吸 キフ、コフ。許及切 **緝**

❶すふ。

（い）息を引き入る。○（淮）「一吐一―、時間時伸」。

（ろ）引き入るゝ息につれて物を喉内に引き入る。○（楚辭）「―飲露之浮涼」。

は）一氣に飲むのむ。○（杜甫）「飲如長鯨―百川」。

（ほ）蓋に同じ、引き入る、ひく。○（詩）「載―其舌」。

「戾」。

❶こゑ、聲。○（劉向）「聲―――以湫」。

（い）息をすること。○（莊）「吹噓―――、吐故納新」。

（ろ）息を人入ること、すゝ上。○（後漢）「―――、即、求、華人之仿佛」。

（は）初めて初日朝に借りいふ語。○（晉）「扶餘負殺一翁、――切風」。

（に）蓋風の義に借り用ふる語。○（元稹）「風雷劍一仗、――切風」。

（ほ）蓋の義に借り用ふる語。○（木華海賦）「――百川、奔潮沸流」。

（へ）首の（は）に同じ。○（楚辭）「――之間、聲音以一吸」。

（と）ひと息、又ひとのみ。○（殷敬）「吞酒」。

（ち）吸・吸に同じ。○（詩）「――之間、聲音以一吸」。

（り）すゝ。○（荀子）「――、聲、淨」。

（ぬ）息木の風に吹く聲を形容するに用ふる語。○（史）「――、聲、金石之聲、聲音之音」。

（る）風などの吹きぬける聲をいふ語。○（陳琳）「――、風、如之吹、吹之聲」。

（を）蓋に同じ。○（詩）「――、聲、淨」。

（わ）息の出でるもの、息の出つるもの、引く息するもの出でる義、物音の到来、迅速にしてこれ感ずるに用ふる語。○（莊）「――、――」。

吹 スヰ。昌垂切 **支**

❶ふく。

（い）風うごく、又、風うごきて其の物にあたる。○（詩）「――、――、――、

〔嗷〕ごうたん。○〔左〕「——無所」——。
〔嗷〕嗷嗷なるのようなためを思ひてするしつた。○〔詩〕「————」——。
〔嗷〕言語を語ひて中出せつのす。○〔漢〕「投嗷——」——。
〔嗷〕いひあかせ、天いひかるる。○〔漢〕「——」——。
〔嗷〕ときしるを強してつと。○〔後〕「——」——。
〔嗷〕やすみ。○〔後〕「——」——。
〔嗷〕嗷嗷する。○〔後〕「嗷嗷所寄嗷」。

告 カウ、コウ。居勞切 豪
まをす（白）。

告 キク、コク。居六切 屋
朝に同じ。きはむ。○〔禮〕「其刑—則絲剝亦—于甸人」。

告 カク、轄覺切 覺 コク。切 覺 カウ、胡刀切 豪
やすみ（休・憩）。

呼 カ、虎何切 歌
くちあく、あく。○〔韓愈〕「王母聞以笑、衞官助——。」「不知萬々人、生身埋泥沙」。

呼 カ。虎何切 歌
〔嗷呼〕口をひとにとなりなかにいふ。○〔左〕「自——」——。
〔嗷呼〕大いに思ひたるに、なほしきと、思ひなきものを。
〔開呼〕口をひらく。○〔孟子〕「——」——。
〔嗷呼〕かけて例となる。○〔嗷嗷〕「——」——。
〔嗷呼〕はじめて明くる。○〔孔武仲〕「嗷呼口々」。
〔嗷嗷呼〕いかりをるるはして口を開く。嗷嗷などの鳥に對するとなりの鳥にいふ。○〔張衡〕「日光照嗷呼——」——。

呼 カ。虎何切 歌
〔嗷呼〕口をひとにとなりなかにいふ。○〔左〕「自——」——。
〔嗷呼〕大いに思ひたるに、なほしきと、思ひなきものを。
〔開呼〕口をひらく。○〔孟子〕「——」——。
〔嗷呼〕かけて例となる。○〔嗷嗷〕「——」——。
〔嗷呼〕はじめて明くる。○〔孔武仲〕「嗷呼口々」。
〔嗷嗷呼〕いかりをるるはして口を開く。嗷嗷などの鳥に對するとなりの鳥にいふ。○〔張衡〕「日光照嗷呼——」——。

呂 リョ、ロ。力舉切 語
一せぼれ（脊骨）。○〔戰〕「昔太—獄爲二萬心——之臣」。
二つちぬ、つちなる（旅）。○〔魯〕「—旅也、言陰氣旅二助陽氣一也」。
三ながし（長）。○〔揚雄〕「狄—長也、東齊曰レ狄、宋魯曰レ—」。
四陰の音律。○〔史〕「制二六律六—」。
〔大呂〕陰の音律にて六番りあるもの。「——」。
〔大呂〕（一）大呂の一。○〔周〕「乃奏—若鐘、狄——」。
〔大呂〕（二）大いなる陰の名。下の引例にて、陰陽の名なりといふ。○〔後〕「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三）陰の音律にて六番りあるもの。「——」。
〔大呂〕（四）「——不—樂、樂物也」。
〔大呂〕（五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（五十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（六十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（七十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（八十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（九十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百二十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百三十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百四十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百五十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百六十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百七十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百八十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（百九十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百二十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百三十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百四十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百五十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百六十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百七十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百八十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（二百九十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百二十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百三十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百四十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百五十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百六十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百七十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百八十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（三百九十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百二十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百三十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十一）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十二）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十三）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十四）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十五）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十六）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十七）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十八）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大呂〕（四百四十九）「——陰—元英、夜—孔子夢—」。
〔大

【咂】 キカ・ク・縫元切　因

❶〔一〕〔字〕〔字〕〔字

謂に同じ、聲多し、言語多し、やかましかまびすし。○〔詩〕賓既醉止載號載呶。

〔呶〕シュ、ス。朱戊切 遇

咮に同じ、くちばしくちさき。（喙）。

〔咮〕シュ、ス。朱戊切 遇

㊀牛羊の草をかむにいふ字、かむくらふ。㊁としばやし（疾）。

〔咤〕チツ。勅栗切 質

こゑ（聲）。○〔揚雄〕藻―盼以掘根兮。

〔哘〕ケウ。許嬌切 嘯

虚大なる貌にいふ字、むなし。○〔莊〕〔非レ不二―然大一也。〕

〔哘〕カウ、ゴウ。乎刀切 豪 後到切 號

風の聲、怒り叫ぶ聲、又、聲を發す、さけぶ。○〔莊〕「萬竅怒―。」

〔哘〕サフ、セフ。側洽切 洽

豕食ちふ、ついばむ。

〔呻〕シン。失人切 眞

憂へて息つく、惱みて呼ぶ、綿べて苦痛を惑じて聲を漏らすにいふ字、によふ、うなる、うめく。○〔列〕「―呼徹早息焉。」

〔呻吟〕詩を口ずさみてうなる、苦痛のあまり長吐息つく。〔後漢〕「―不絕於口。」

〔呻吟〕うなる呻。○〔金剛〕「―一本無文。」

〔呼〕コ。荒胡切 虞

●よぶ。

（い）風息を外に出だす。○〔韓愈〕「五白氣呼―。」

（ろ）大いなる聲を發す、よばふ、さけぶ。○〔史〕「如二風レ風而―。」

（は）來たらしむ招く。○〔蘇軾〕「不レ勢折レ鬲―。」

（に）聲をかけて招く。○〔史〕「遍レ道而―レ涉。」

（ほ）稱ふ。○〔北〕「道―爲二弟子一。」

㊁歎息して氣を嘯く聲、又、虛態して息を出す聲、あ。○〔論〕「曾子聞レ之瞿然曰―。」

〔呼〕まねきよび、來たす。○〔蘇軾〕「―一明月一對芳樽。」

〔呼〕歌曲の長きものゝ、ゝ。○〔參〕「―一曲。」

〔呼〕其れより其れ（とつたへよび。○〔論〕「―一使百官鼓噪。」

〔歌呼〕大いなる聲にて歌をうたふ。○〔史〕「自歌―。」

〔號呼〕大いなる聲をなす。○〔孟〕「由二是不敢―。」

〔歌呼〕よろこびて大いなる聲をなす。○〔元稹〕「萬歲―。」

〔呼〕さけぶ。○〔後漢〕「―一明堂、執鞭自表、非敢和之衆也。」

〔呼〕さわがしくよぶ。○〔後漢〕「歌舞―。」

〔號呼〕絶叫に同じ。○〔孟〕「聲音―。」

〔號呼〕いもがはしくよぶ。○〔韓愈〕「呼中不聞。」

〔歩呼〕うなる。○〔列〕「音則―一百鳥事。」

〔夜呼〕いはずき、鼾聲の別名。

〔呼〕カ。火故切 遇

大いなる聲を發す、よぶ、さけぶ。○〔詩〕「式敍式―。」

〔呼〕カウ、ケウ。虛交切 肴

詨に同じ、よぶ。○〔集韻〕「矣人謂二叫一爲レ詨。」

〔呼〕カ。許箇切 箇

怒り又は驚きて發する聲、あ。○〔左〕「江辛怒曰、―役夫、宜君王之欲殺若而立職也。」

〔命〕メイ、ミヤウ。（メイ）眉病切 敬

●使に同じ、つかふ。○〔左〕「十年十一載民不レ堪―。」

㊁教諭、政令、敕諭、告示、警戒、任免、其の他すべて尊者より卑者にある事を爲さしむるに下したる言の稱、みことのり、のり、をしへ、おしへ、しつけ、いましめ、おほせ、まうしつけ。○〔書〕「王言惟作レ―。」

㊂尊者より卑者に或る事を爲さしむるために言を下すにいふ字、のる、をしふ、つぐ、いましむ、おしへ、おほせ、まうしつく。○〔書〕「乃―羲和―。」

㊃政令、詔書、告示の文、官吏任免の書、すべて尊者より或る事を卑者にまうしつくる文書。○〔周〕「作二六辭一以道二上下親疎遠近一、一曰、罰二曰―。」

㊄自然の暦數、天道の配剋、禍福吉凶の際會、生死夭壽、用の遭遇、めぐりあはせ、まはりあはせ、かず、うん。○〔呂氏春秋〕「死生―也。」

㊅天地の間に生息し得る性、又は生息し得る際限、いのち。○〔禮〕「性―不レ同。」

㊆天より人への付與。○〔中〕「天―謂レ性。」

㊇みち（道）。○〔詩〕「維天之―、於穆不レ已。」

㊈天子の諸侯を封じ又は諸侯の繼位を承認する證として與ふる圭玉。○〔國〕「襄王賜二晉率公一。」

㊉官服。○〔國〕「襄王賜二晉文公一。」

㊋名を附く、なづく。○〔史〕「因―曰二胥山一。」

㊌住民たる證として其の地の官府の據錄に姓名を記載しあると、名錄。○〔漢〕「管仲―逝、外黃。」

㊍指名する處、まと。○〔漢〕「射レ―中。」

㊎はかる（計）。○〔後漢〕「先其尊―。」

㊏めす（召）。○〔後漢〕「―居數、授二不レ應。」

〔命〕（イ）天命、天運、天數、天理、天意、天道、天心、天性、天位、天子、天下、天人、天地、天時、天年、天壽、天祿、天倫、天理、天人合一、天人相感、天人相與、天人相交、天人相接、天人相通、天人相合、天人相一、天人相分、天人相離、天人相違、天人相反、天人相對、天人相應、天人相隔、天人相遠、天人相親、天人相疎、天人相和、天人相同、天人相異、天人相合一、天人相分離、天人相違反、天人相反對、天人相應隔、天人相遠疎、天人相親疎、天人相和同、天人相異同

(ろ)いのちを君上に捧ぐ。死を以て忠を君上に尽くす。○(孟)「盡心」「殤・夭在レ一一」。
(はく命)(ち)在来の付属をあるがまま。○(左)「一一」。
(はく)名をかえ。○(左)「一一日生」。
(はく)(ち)頭を官吏にのし付けられんとをねがえ。○(左)「一一日生」。
○(左)「陳・火・鍼・鍼・二・州・一一・子・京・師」。
(ち)謝罪ねがひをなす。○(後漢)「一一乞」。
(待命)君上・官府より呼び出しの来るまで其の宿にむかしてまつ。○(韓)「安之十月日面一一也」。
(死命)いのちを投げ出だして事を図す。○(論)「見一一」。
(待命)前に同じ。○(管)「管仲一一以報」。
(聞命)御沙汰を承りたまはる。○(孟)「聚・新之徒・家・城之人・一・敵一一」。
(来命)前に同じ。○(左)「司刑を奏・敢不一一」。
(授命)謹密なる勅命を外の人に知らず。○(左)「一一・刑・時・臣・本・不・孤」。
(勅命)申し付けに上る。○(左)「所以一一事君之一一」。
(官命)来命に同じ。○(韓)「臣・當一一・子」。
(恩命)官吏に任ぜられし時などに臣れの命を下していう語。○(韓)「所・恩・加一一」。
(革命)君上の天を少はずして己が私欲に事を図す。○(孟)「革命則不敬・一一則不孝」。
(延命)長生する。○(孟)「殤・夭・在一一」。
(病命)いのちをすつ・死ぬる覚悟。○(孟)「仁・一一」。
(種命)死ぬるとを言ふ。○(後漢)「一一・歯・齒之」。
(勅命)牛死を図みざるる。○(後漢)「守・雖・勅・死」。
(出命)命をなげうす。○(後漢)「一一之秋」。
(賞命)いのちのあるかぎり恩に力を尽くす。○(呉)「恩・刀・一一」。
(全命)御事に出話す。○(後漢)「子・時・出・命・以」。
(所命)生命をうちまかす。○(詩)「既・為・命・大海之南」。「一一・確・禍之・地」。
(命命)オカのあらん限り事を命ず。○(孟)「自以」。
(死命)死前に定まりしものたすからんなどと。○(孟)「殷・下・以・臣・伊・尹・自・伐・一一・耳」。
(命命)申し付けられたるとを行ひうる。○(論)「弊・於・天・無・所・禱・也」。

命 ビン、ミン。眉辛切 眞

おほせ、まうしつけ。○(詩)「保・有・一一之・自・天・申・之」。

咀 タツ、タチ。當割切 曷

一相呼す、ふかる。○(韓愈)「不・有者・之・一・也」。
二相呼ぶ聲。

咀 アツ、エチ。乙鎰切 ヲツ、チ。職軋切 職

一相呼ぶ聲。
二語正しからず、言ひそこなふ。

呿 カ、ケ。丘加切 麻 キヨ、コ。丘於切 魚 エフ、オフ。於業切 葉

口を張る、あくび。○(荘)「公・孫龍口一一而不レ合」。

呿 ケフ、コフ。乞業切 葉

腹臥してなす息れいき、いびき。

咀 シヨ、ソ。慈呂切 語

咬決す、含味す、商量斟酌す、かみわく、あぢはふ、かむ、くらふ、かんがへは

(死命)いのちのかすかるんとをねがえ。○(史)「酷吏一一・刑・今・朝・殺」。
(故命)天の職責たる命に安んじて命令の事をなみす。○(論)「知・天・命・無・以・為・君子」。
(命命)いのちを大事と思はぬ。○(孟)「重・輕」。
(命命)いのちは天・君上より出づる命令となす。○(文命)いのちを別ちす。○(呉越春秋)「闔・閭・刑・一一・投・死・士之所・貴也」。
(聚命)中命に同じ。○(李白)「明・皇・百・年・重・一一」。
(了命)命令の旨を承け使ずとなりて聴く其の時を為うるとは以上の上官・主君の申し付けに対する答たるねぬ。○(論)「使・于・四・方・不・辱・君・一一」。

咀 シヨ、ソ。子與切 御

樂を修むるとき。

咂 サフ、ソフ。子答切 合

口に入る、かむくらふ。

咄 トツ、トチ。當沒切 月

一ふかる(詞)、ふたうち(吒)。○(戰)「恣・唯・奮・擊、呴・嗟・叱・一、則・徒・隸之人至矣」。
二ふかる聲にいふ字、ふたうちの聲にいふ字。○(漢)「期・癸之日・一」。
三呼びかくる聲にいふ字相謂ふ聲にいふ字、やあ。○(漢)「一・少・卿・良・苦」。
四驚き怪む聲にいふ字、奇き語る聲にいふ字。○(晉)「爲・客作・豆・粥・一一・嗟・便・辨」。
(嗟々)(ち)驚れなるに驚きて別する聞。○(後漢)「令・郎・欲・入・所・聞・光・聞・日・一一・し・于・廣・不・可・相・助・語・題・恩」。
(ち)驚歎の言を発して句調を助くるに用ふる聞。○(宣和書譜)「欲・已・一一・嘆之・我」。
(呵嗟)ふかる。○(殺龍記)「安・能・我・一一」。
(歌舞音曲)何事にても聞者ならざるとにふと聞。○(史記・滑稽)「一一・一一・一・聞・若・無・人・亡・者」。

咨 トウ、他豆切 宥 ホウ、薄后切 厚 フ、切 有

一あざける、わらふ(嘲)。
二つぶき、つぶきす(嗤)。

咨 咨に同じ。

咆 ハウ、ベウ。薄交切 肴

一烈しく叫ぶ、怒り叫ぶ、さけぶ、ほゆ。○(淮)「虎・豹・鬪・穴・而不二敢一一」。
二怒る聲にいふ字、いかる、たけし。○(藩岳)「何・猛・氣・之一一・勃」。
三無に通じ用ふのむ。○(左思)「呑・滅一一・咏」。
(咆哮)なきほゆ。○(林邑記)「一一・命・徒」。
(咆哮)ほゆ。○(博物志)「駱・一・虎・來・聞・鳴・口・一一・聞」。

咆 ハウ、ベウ。皮教切 效

歌呼ぶ、さけぶ、ほゆ。

咬 ヒツ、ビチ。毘必切 質

一かうばし、かをり、芳香。○(司馬相如)「唵・藹・一・勃」。
二眦に同じ、なく。
三官明かならず。
四多言なり、ことばおほし、かまびすし。

咬 ヘツ、ベチ。蒲結切 屑

一かたる(語)。二かうばし。

咬 ヒ、ビ。毘至切 寘

哀み鳴くなく。

咈 フツ、符勿切 物 ヒチ。切 微 ヒツ、薄密切 質

一もとる(戾)、たがふ(違)。○(書)「二其弼・良・舊有・位人」。

(かる)。○(韓愈)「(名)英一レ華」。
(呵嗟)詩文なさを讃みとは、又、讃みなさしつゝ其の詩を唱ふるとにふと聞。○(史記・文帝紀)「(名)・聞・一・一・言・歌・舞」。
(嗟叱)くちよかむ。○(荘)「相如」「一・一・之・表」。
(嗟嘆)よく味はす。○(殺龍記)「春・一・一・義・歌」。
(歌嗟)日・夜。
(歌嗟)舞樂のこと。○(梅・舞・臣)「刀・儿・高・一・一」。

咀 シヨ、ソ。子與切 御

樂を修むるとき。

咂 サフ、ソフ。子答切 合

口に入る、かむくらふ。

咄 トツ、トチ。當沒切 月

一ふかる(詞)、ふたうち(吒)。○(戰)「恣・唯・奮・擊、呴・嗟・叱・一、則・徒・隸之人至矣」。
二ふかる聲にいふ字、ふたうちの聲にいふ字。○(漢)「期・癸之日・一」。
三呼びかくる聲にいふ字相謂ふ聲にいふ字、やあ。○(漢)「一・少・卿・良・苦」。
四驚き怪む聲にいふ字、奇き語る聲にいふ字。○(晉)「爲・客作・豆・粥・一一・嗟・便・辨」。
(嗟々)(ち)驚れなるに驚きて別する聞。○(後漢)「令・郎・欲・入・所・聞・光・聞・日・一一・し・于・廣・不・可・相・助・語・題・恩」。
(ち)驚歎の言を発して句調を助くるに用ふる聞。○(宣和書譜)「欲・已・一一・嘆之・我」。
(呵嗟)ふかる。○(殺龍記)「安・能・我・一一」。
(歌舞音曲)何事にても聞者ならざるとにふと聞。○(史記・滑稽)「一・一・一・一・聞・若・無・人・亡・者」。

咈 ハイ、バイ。步味切 隊

馬を疲きとむ、とどむ。

映 アウ。烏郎切 陽

一に否に作る、層答の聲。

映 アウ。烏郎切 陽

むせぶ、咽、かなしむ(悲)、塞がりて通ぜず、ふさがる。○(左思)「泉・流・迸・集而一一咽」。

味 味

古文の和の字。

咋 サク、シヤク。側格切 陌

一大いなる聲、おほごゑ、又、聲大いにして外に渇る、うなる。○(周・註)「一一・然」。
二聲多し、大いに呼ぶ、かまびすし、さけぶ。○(韓愈)「王坐・南方・北・向落・其角・距・敗死・一不・能・入・寸・尺」。
三くらふ(啖)、かむ(嚙)。○(漢)「孤・豚之一レ虎」。
(嚙咋)大聲を発す、又、かまびすし。○(荘)「前・年・一一・一・其・嗟・歎・起」。
(嚙咋)前に同じ。○(李・論)「嚙・一一・之・聲」。
(嚙咋)前に同じ。○(韓)「嚙・肌・碎・骨」。
(嚙咋)前に同じ。○(韓愈)「嚙・一一・而・動・西」。
(嚙咋)前に同じ。○(韓愈)「弄・衣・嚙・一一」。

咋 サ、シヤ。助駕切 禡

語る聲、一説に、まばらく(聲)、○(左)「鉏・子・一・謂・三・林・楚・二・曰、而・先・嘗・季・氏之・其也」。

和 クワ、ワ。戶戈切 歌

一やはらぐ。
(い)かなふ(諧)。○(國)「樂・從レ一一」。
(ろ)といのふ(調)。○(呂氏春秋)「夔・能レ一一之」。
(はふたがふ(順)。○(淮)「治・而不レ能レ一一下」。
二たひらか、平。○(山海經)「鳳・鳥見則天・下一一」。
三むつまじ、睦。○(國)「言・惠必及レ一一」。○(詩)「一一樂且湛」。
四會まる。
五齊しきこと。○(呂氏春秋)「無レ・致レ一一」。
六同じきこと。○(素問)「一一於陰・陽」。
七爭はざること。○(論)「一一而不レ同」。
八自得。○(淮)「不レ足三以・證・其一一」。
九交易。○(管)「萬・人之所二一而利一」。
十剛柔相適すること。○(周)「知仁聖義忠一一」。
十一可否相濟すること。○(詩)「終一一且平」。
十二彼此相對すること。○(戰)「與レ秦交・一一而舍」。
十三過不及なき宜しき節度(ホウ)にかなふこと。○(中)「發而中レ節謂二之一一」。
十四仇怨を解きて交誼を結ぶこと、なかなほり、わぼく、たひらぎ。○(戰)「割・地・求レ一一」。
十五男女の牌合、えんぐみ、まじはり。○(周)「五・物・詢・三・衆・庶二一日一一」。
十六萬物の元氣。○(淮)「此・皆・生二一・父・母・一而・閼二一一」。
十七身心の精氣。○(後漢)「黄・神・質レ一一」。
十八陰陽の順氣。○(荀)「性之一一所レ生」。
十九春暖の時氣。○(史)「暖一一方・起」。
二十おだやか、やはらか。○(史)「暖・我一一之時」。
二十一のどか、あたゝか。○(漢)「方二春一一之時」。
二十二車の軾に懸くる鈴、すず。○(詩)「一一鸞聲々」。
二十三小さき笙。○(周・註)「一十三簧」。
二十四陣營の正門、ちんやのいりぐち。○(周)「以レ旌爲二左・右一一之門一」。
二十五館の風、かまち。○(呂氏春秋)「見二館之前一一」。
(和合)(ち)高の名。○(周)「祇・竹之管一一之事」。
(ち)春和より別出せる妃嬪。○(王昌齢)「鳳・輦・一一・御・見・月」。
(太和)(ち)心の精氣、「萬物の元氣、又、國正大中の氣。○(周)「春正・時・春・氣・行一一」。
(ろ)はは北やはらぐ。○(荘)「調・理四・時・一一」。
(和合)(い)身心の精氣をやはらぐ、事物のために精神をみだらしめざるよ。○(後漢)「黄・神一一・以・年・利・物・其・生・命」。
(ろ)官・位・に・身・命・をたかくる義、よりかゝる。○(孟)「孟・子・休・以・王・道・治・天・下・者・一一・耳」。
(和合)敵化をとゝめて天下をやはらぐ。○(後)「一一・我・有・道」。
(合和)やはらぐ。○(後漢)「同・心・一一・萬・小・國」。
(人和)ひとゝのやはらぎ、人心の一致。○(孟)「地・利・不・如・一一」。
(共和)合議して政事を執る。○(史)「周・公・召・公二相・行・政・號・曰・一一」。
(諸和)(ち)其・諸侯の所有せし政と和氏の職の職。○(書)「胤・征・曰・一一」。
(ろ)諸侯・官・位・先・諸・和・氏・官・職。
(ろ)諸侯、すべれたる村・郷の職に・居りいふ職。○(漢)「村・郷・一一」。
(漢和)(い)言よりおしてやはらぐる。○(荘)「一一・思・視・聞・心・文・色」。
(ろ)のどかなり、ゆるゝ、ゆし。○(韓文・後)「天・一一・而・事・治」。
(史)春の時・時。○(周・語)「春・氣・一一」。
(史)春の時・時。○(周・語)「春・氣・一一」。
(史)春の時・時。○(周・語)「春・氣・一一」。
(和)(い)やはらぎをなる、おだやかなるこゝ、そとゝかなるこゝ。○(荘)「聲・氣・一一・一・百・不・如・人・所・也」。
(ろ)天氣、精氣。○(夏侯嘉)「呼・吸・一一・吐・故・納・新」。
(和)(い)物事の過不及なくして長き宜しきにかなふこと、節上の謂語。○(中)「發・而・一一」、「天・地・位・焉・萬・物・育・焉」。
(ろ)節の名。○(周)「王・東・巡・狩・作・一一・樂」。
(はふ)節の二月一日。○(管)「節・日・二・月・一・日」。
(和合)(い)善をやはらぐ、又、完・風・結・晶。
(ろ)(い)善をやはらぐ、又、完・風・結・晶。
○(管)「節・一一之・候・一・之・候」。
(ろ)春の東京の見和・平・中・春・時の詩人・元・稹・白・居易の二人、長き詩は名ありて、其の詩、金・玉・琴・瑟・音・響の如くなるとなる。後世、由に・詩・人・詩・体・強の結なく、詩・故・由に・詩・人・詩・体・強の・結・なく、詩・者・明・かに・其の・意・を・明・するを・見・るとより・人・々・を・驚・して・天・下・を・風・靡せり、其の・詩・体・を・名・づけて・元・和・詩・といふ。○(白居易)「詩・論」。
(和)自己の生活を弘方する。○(論)「一・一・除・陽之一一」。
(和)自然に出来たること。○(荘)「生非・我・有、為天・地之一一也」。
(和)やはらぐ。○(荘)「不・足・以・一一」。
(和)すなほしくあたゝかし。○(周・書)「春・風・一一」。
(和)一致す、やはらぐ。○(後漢)「三・國・先・時、其・和一一」。
(和)やはらぐ、おだやか。○(書)「一一・萬・邦」。
(和)やはらぎ、おだやかなる。○(史)「和・諸・侯」。
(和)やはらぐ、又、やはらぐことをあつて、やはらぐことをつとむ。○(後)「朝・有一一・時・神・氣・天」。
(和)やはらぐ。○(荘)「風・所・氣・類・和・所・生」。
(和)やはらぐ、又、やはらぐことをあつて、やはらぐことをつとむ。○(荘)「風・所・氣・類・和・所・生」。
(和)おだやかなり、のどかなり。○(孟・九・歌)「春・命・和一一」。
(和)右・左、賓・主を所・持せし人の名、轉じて朝・有の賓・主に・接せ・ひ・し・人・の・名。
(和)(い)やはらぎ、おだやかなる。○(史・記)「中・庭・為一一」。
(和)(ろ)やはらぎをなる、おだやかなるこゝ、そとゝかなるこゝ。○(荘)「聲・氣・一一・之・一」。
(和)おだやかなる、やはらぎ。○(荘)「聲・氣・一一・之・一」。
(和)(い)やはらぎ、やはらぎ。○(荘)「天・王・一一」。
(和)(ろ)やはらぎ、やはらぎ。○(荘)「天・王・一一」。

（名）あたゝかし。○（宿題文）「春風――如手」。
（休形）やはらぐ。○（名）「若能―――、雖人間」。
（動形）（名）甚上略く臣下をいつくしみ「臣下はよく一致する」。○（名）「上下―――」。
（名）なさけ深くしてやはらかなること。○（詩）「往事―――」。
（平形）（名）やはらぐ。○（詩）「世安なる―――不抑」。
（参形）（名）人々慎むと、正しきと、直きとの三つを備えるにいふ語。○（名）「徳・民・謙・慎・正・直・謙・正・直」。
（動）（名）まと（あはす）。○（論語）「――、朝寅」。
（名）おつまとき。○（名）「親・――」。
（接形）二つ以上の語立をしもの、連合すること。○（名）「飲・酒――、佩・西」。
（名形）（名）あたゝかきこと。○（名）「時・在・中・事・――」。
（名）朝とて、家の時間に上時。○（詩）「今・――」。
（調形）（名）と、のゝやはらぐ。○（名）「三・公・典・――」。
（名）調子よく物事の行くこと。○（詩）「――、――、三・氣」。
（名）除・除を調和するは宰相の職責なりといふこと。○（名）「――、宰・相・職・調・和・――」。
（語形）（名）あたたかなり。○（名）「性・――、――、鼎・能」。
（名）あたたかし。○（詩）「地・――、田・柴」。
（名形）（名）前の（名）に同じ。○（詩）「――、――、――、

咥 シ。職吏切 [齒] テツ、徒結切 [屑] デチ。

かむ。〔論〕。〔易〕「履虎尾、不レ咥レ人。」

咥 チ。陟利切 [齒]

とゞまる。〔止〕。

咦 イ。以之切 [支] タイ、直皆切 [佳] ダイ。

一大いに呼ぶよ。

二笑ふ貌にいふ字、又、わらふ。

咧 レツ、レチ。力薛切 [屑]

鳥の聲、又、さへづる。

咨 シ。津爽切 [支]

一物事を相談す、善良の人士にたづぬ、はかる。〔詩〕「咨レ爾多士」。〔書〕「咨十有二牧」。

二なげく、なげき。〔嗟〕。〔書〕「咨々涕洟」「和」。

三歎息の聲、あゝ、あ。〔書〕「一汝羲暨和」。

四茲と同じ、これ、こゝに。〔茲〕。

〔論語〕「咨爾舜！天之曆數在レ爾躬。」〔孟子〕「咨爾殷王！」。〔詩〕「咨爾多士、殷之未喪師。」〔書〕「咨爾多士、殷之未喪師。」〔詩〕「咨爾多士、殷之未喪師。」〔詩〕「咨爾多士、殷之未喪師。」〔詩

咽 エン。於甸切 霰

嚥に同じ、のむ〔呑〕。〔孟〕三一然後耳有レ聞、目有レ見。

〔字彙〕食らひのむ。○〔篇〕〔韻〕喉也。〔古文〕口中。〔食〕〔字〕よくみのみ、味をして、心に知りて言に出だるなり。〔字彙〕一ー草子之類。○風俗通義、「讀文帝記、涕唾、「〔字彙〕。

〔咽〕のみくらふ。○〔愛〕〔韻〕〔字〕。

〔嚥〕食物の咽にとりてからつばをのむ。○〔愛〕〔字〕〔通雅〕〔韻〕、立待雷一ー。

咽 エツ、エチ。烏結切 屑

❶ふさがる、塞。○〔新序〕「雲・霞充ー、則雰日月之明」。

❷噎に同じ、むせぶ。

（い）悲しさ胸につかふ、泣く音喉にふさがる。○〔岑參〕「蒼・蒼氣ー不能レ語」。

（ろ）越べて、聲の物に支へられてうらゝかなる音の殘ざるにいふ字。○〔漢〕「離・頭流水鳴・聲幽ー」。

〔嚥〕むせぶ、又、むせびなく。○〔愛〕〔字〕「不能言」。

〔嚥〕前に同じ。○〔韻〕〔篇〕「手長相聯」。

〔咽〕前に同じ。○〔陸〕〔篇〕「言聲」。

〔咽〕前に同じ。○〔陸〕〔篇〕「言聲」。

〔咽〕前に同じ。○〔陸〕〔篇〕「言聲」。

〔咽〕嗚咽して、むせびなく。○〔任〕〔昉〕「國語」。

〔咽〕聲を伏せて、むせびなく。○〔江〕〔通〕「涙・聲」。

〔咽〕うらむ心のかうとしてむせびなく。○〔樊武帝〕「ー一聲金鼎」。

〔咽〕かなしみむせぶ。○〔沈〕〔約〕「〔歌〕〔詩〕」。

〔咽〕前に同じ。○〔陸〕〔篇〕「往々ー一嘆」。

〔咽〕むせぶ。○〔陸〕〔篇〕「ー一出花」。

〔咽〕むせぶ。○〔陸〕〔篇〕「ー一口」。

〔咽〕聲の立ちりてあるいしきにいふ語。○〔陸〕〔篇〕「流聲ー一」。

〔咽〕えやくりなく。○〔元〕〔稹〕「嗚呼」。

咤 ラウ、ロウ。魯晧切 皓

こゑ〔聲〕。

咿 イ。於爽切 支

聲を發ず、わらふ、なく、うなる、ものいふ。○〔楚辭〕「含」哀傷レ心嘆ー不レ能二自禁一。

〔咿〕かなしき聲を立つ、なげく、なく。○〔長門賦〕「眞口嘆ー」。

〔咿〕かなしみなげく。本文のかをり。

〔咿〕わらひさゞめく。○〔杜牧〕〔秋〕「ー一」。

〔咿〕おなじかなしみむせぶ。○〔沈〕〔約〕「〔歌〕〔詩〕」。

〔咿〕うなりたる。○〔陸〕〔篇〕「琴・瑟調ー」。

〔咿〕（ろ）つくりわらひ。○〔陸〕〔篇〕「ー一嘲」。

（は）あたる。○〔韻〕〔金〕「天・星・牛・女・華ー」。

〔咿〕聲を發ず。○〔李賀〕「女・如・蒼・月・角ー」。

〔咿〕わらふ。○〔錦〕〔絵〕「每・不・曉・聲ー」。

哀 アイ。烏開切 灰

❶同情す、あはれむ。○〔左〕「秦不レ二我喪一而伐二吾同・姓一」。

❷愛憐す、いつくしむ。○〔呂氏春秋〕「人・主胡可・以不二務一レ士」。

❸悲傷す、かなしむ。○〔論〕「關・雎樂而不レ淫一而不レ傷」。

❹あはれむべし、いつくしむべし、かなしむべし、いとをしかなし。○〔書〕「嗚・呼尤・靡・懿一哉」。

❺かなしみ、なげき。○〔詩〕「君子作レ歌、以告二其一ー」。

❻喪中、凶祭。○〔宋〕「居レ毀・滅」。

〔哀〕かなしみ、いたむべき殺伐の上聲。○〔詩〕「一ー」。

〔哀〕父母、生・養・動・勞。

〔哀〕P中の聲の物、神・天子の喪。○〔史〕「ー」。

〔哀〕七日目のかなしむべきも、節ち、哀みてかなしむ、殺はかなしまれてかなしむ、動・動してかなしむ、思みてかなしむ、耳に聞き目に見るにつけてかなしむ、言離にあるはしてかなしむ、悲つまるしてかなしむ、

〔哀〕世時代の時人は七宮の時を作りしもの多し。○〔社〕〔恵〕「宋・新ー一」。

〔哀〕讓の王綱の衰微に到りて大いに哀せしとき之れ上に鄭ひて其の後にかはんとする者をいふに用ふる語。○百・官・位・歌・「ー一以・厚・」。

〔哀〕かなしむ、又、かなしみ。○〔論〕「子・山・新・歌・劇ー一」。

〔哀〕其の事の憐み是て一後にても時なる時のかなしみあるにいふ語。○〔字〕〔感〕「其・始・兵・卒・哀・哀・有ー一」。

〔哀〕前に同じ。○〔社〕〔度〕「何・事・有ー一」。

〔哀〕あはれむ。○〔左〕「ー一ー寡人・而・謂・之・愛」。

〔哀〕かなしみを心に持するにいふ語。○〔孟〕〔哀〕「〔哀〕心ー一」。

〔哀〕前に同じ。○〔陸〕〔文〕〔史〕「〔哀〕」。

〔哀〕非常なさにてかなしき世のすさまにいふ語。○〔江〕〔通〕「ー一也」。

〔哀〕ものすさまかなし。○〔劉・伶〕〔酒〕「〔歌〕〔詩〕」。

〔哀〕「ー一以」。

〔哀〕たのしみ・ものしきものはかなしむ、ものはしゝ心のかろ〳〵しきゆゑの語。○〔中〕「ー一」。

〔哀〕必ー一ー〔經〕〔論〕者・必・好・琴。

哀 イ、エ。於希切 微

かなし、かなしむ、かなしみ。○〔詩〕「山有二蕨・薇一、有二杞・桃一、君・子作レ歌、維以告レ」。

咍 ヒン、ホン。丕飲切 寢

❶もろ〳〵、衆庶。○〔易〕「ー一物流レ形」。

❷ふな。

（い）もの、物件。○〔國〕〔華・豆之實・水土之一也」。

（ろ）いろ、種類。○〔書〕「惟・金・三ー一」。

（は）わかち、差別。○〔書〕「五ー一不レ逸」。

（に）くらゐ、位・椅。○〔禮〕「ー一ー節・斯ー」。

❸つかさ、官職。○〔漢〕「軍・官ー一員」。

❹のり、法式。○〔漢〕「叔・孫・通・通レ秦・儀・制ー一作」。

❺かず、定數。○〔漢〕「〔綱〕ー者」。

❻ふなを詐り定むるとき、ふなさだめ。○〔漢〕「〔綱〕ー一藏」。

❼官位の高下をわかつに用ふる稱呼。○〔通〕「立・九ー一官・人之法」。「州・郡・皆置二中・正・以定二其選」。

❽ひとし、齊。○〔國〕「ー一元・百・藏」。

❾おなじ、同。○〔漢〕「百・里・爲レ」。

〔哀〕（ち）多くの位。○〔漢〕「天子・有ー一・公・官」。

〔哀〕（り）いろ〳〵の物かず。○〔國〕「國・實ー一」。

〔哀〕規則のもの。○〔國〕「天下・作ー一」。

〔哀〕（上品）人にては貴人、物にては高物、すべてにてもすべてみとりてあるもの。○〔國〕「上品・無・後・門」。

〔哀〕（下品）人にては賤人、物にては劣物、すべてみとりてあるもの。○〔國〕「下品・無・勢族」。

〔哀〕（神品）すぐれたる品なり、又、其の物。○〔哀〕（能品）出來はへのよきなり。○〔陸〕〔機〕「風・雲・生・動・出・乎天」。「人・傳・作・實・北・巧・者」。「顧之・神品」。「錄・品・第・能」。「傳・論・書・宮・之・作・品」。「殺・其・形・似・西・不・失・眞・相」。

〔哀〕（な）妙品に同じ。○〔曹・植〕「曹・植・突・禮ー」。

「妙・藝」。

〔哀〕（ら）くるる品を異にす。○〔唐・書〕「ー一」。

〔哀〕前の（な）に同じ。○〔陸〕「妙・藝ー一」。

〔哀〕前に同じ。○〔陸〕「取・官・者ー一之・者」。「詩・伸之」。

〔哀〕（ま）「ー一也」。

〔哀〕（ま）「ー一」。

〔哀〕（ま）「ー一」。

〔哀〕（ま）「ー一

哇 ワ、エ。烏瓜切 麻
一みだりかはしき聲。
二小兒の聲こゑ。○王安石「中使猶作二嚶兒一—」。
三又他の聲にいふ字。○〔梅堯臣〕「一—吸入レ腹鳴咿—」。
〔博雅〕（ト）小兒の聲にいふ字。○〔廣韻〕「兒、智慧、嗚聲—」。
（ろ）其上聲なるときは、上字。○〔元稹〕「言嚶々、究

哇 クワイ、エ。胡卦切 卦
喉ふさがる、ふさがる。

哈 ガフ、ゴフ。五合切 合
魚の口を動かす貌にいふ字。又、魚の多き貌にいふ字。

哈 サフ、セフ。色洽切 洽
口をつけてすゝり飲む、のむ、すゝる。○〔淮〕「嘗一—レ水」。

哈 カフ、コフ。曷閤切 合
一飲に同じ、大いに歌る、すゝる。
二給に同じ、くらふ（食）又、齧む聲。

味 ライ、レ。魯猥切 賄
言を以て相述る、さへぎりあふ、いひふせぐ、いひあらそふ。

哉 サイ。將來切 灰 古文才に作る。
一かな。
（い）斷定に用ふる字。○〔禮〕「宗子在二他國一、庶子無レ爵而居者、可二以祭一乎、孔子曰、祭—」。
（ろ）感美に用ふる字。○〔易〕「大—

唷 キク、ヲク。于六切 屋
はく（吐）又、其の聲。

哟 ガツ、ガチ。五割切 ガツ、ザチ。才達切 曷
こゑ、聲。

哟 ヤ。乾元「萬物資始」。
一（い）疑問に用ふる字。○〔韓愈〕「今聞之於二神書一、有二旭之心一—」。
（ろ）反語に用ふる字。○〔柳宗元〕「烏能得二其心服一—」。
二語末に用ふる無意味の助字。○〔詩〕「我其試—」。
三はじむ、はじまる（始）。○〔書〕「朕—レ自考」。
四材に通じ用ふ、ばかる。○〔論、註〕「古字材—同」。
五載に通じ用ふ、のす。○〔詩〕「陳錫—レ周」。
〔字典〕（ハ）載歌の載を表はすときに用ふる聞。○〔史〕「馬融論十餘位宜—」。
（ろ）機関の載を表はすときに用ふる聞。○〔韓愈〕「論十且以爲二人—」。
（ほ）反語の載を表はし、又、反語を爲す句に附加する時用ふる聞。○〔史〕「何任而不解—」。
〔集韻〕（ハ）斷定の載の義も強き意を表はすときに用ふる字。○〔柳宗元〕「不能已而鈍他人能—」。
（ろ）疑歌の載の義も強き意を表はすときに用ふる字。○〔史〕「何任而不解—」。
〔伯載〕（ハ）前のハに同じ。○〔韓愈〕「唯本人責—」。
（ろ）手偏の（ほ）に同じ。
〔篇耳字鏡〕手偏の（ろ）に同じ。○〔論〕「子路篇」。
〔也字鏡〕手偏の（ハ）（ろ）（ほ）と同じ。○〔名〕「孟嘗君—」。

哟 ガツ、ガチ。語訐切 月
相詞り抵むこゝばむ。

哨 キ、ギ。許貴切 未
ふかる聲。

周 古文の周の字。

聖 蚤に同じ。

口部 七畫

員 ウン、チン。于分切 文
一ます（益）。○〔詩〕「—予蘭輻」。
二云に通じ用ふ、無意味の助字。○〔詩〕「鄭樂—我」。

員 ウン、チン。千權切 先
一かず。
（い）物の數、ものかず、又、人の數、ひとかず。○〔史〕「願君即以レ滌備—而行矣」。
（ろ）一定の數、きまりのかず、又、普通の數、なみのかず。○〔漢〕「國人過—」。
二職を行ふ人、官に當たる人、かゝり、つかさびと。○〔唐〕「職不レ置—」。
三圓に同じ、まどか、まる。○〔孟〕「規、矩方—之至也」。
四頑に同じ、ばゝ、めぐり。○〔詩〕「景—維河」。
〔員韻〕たび〳〵、たばゝ。○〔書〕「明年—」。
〔字典〕ものをてある人數。○〔禮〕「職有常守、國位有—」。
〔定員〕前に同じ。○〔禮〕「正朔—」。○〔唐〕「三百人」。
〔吏員〕官につかふる者のあたまかず、又、官につかふる人。○〔後漢〕「官—」。
〔官員〕前の人數。○〔禮〕「自侍中以下、一員」。
〔大員〕高位の者のあたまかず、又、高位の人。○〔禮〕「不可能充—」。
〔編員〕あまりたるあたまかず、又、餘所の人かず。○〔五經〕「和道—」。
〔見員〕其の國に其の兵に屬するあたまかず。○〔禮〕「博士—」。
〔士員〕在職なるあたまかず、又、其の人。○〔白居易〕「—足餘者」。

哭 コク。空谷切 屋
一哀みて大いなる聲を發すなく、さけぶ。○〔淮〕「仰レ天而—」。
二人の死にしとき之を悲みてなきさけぶ禮。○〔禮〕「陽門之介夫死、而子—」。
〔喪哭〕哀しき聲を發すること。○〔禮〕「可—」。
〔大哭〕甚だしく聲を揚げてなき悲しむ。○〔史〕「項王—」。
〔號哭〕聲をあげてなげび泣く。○〔史〕「子產病死、而鄭人—」。
〔泣哭〕前に同じ。○〔史〕「古人—」。
〔哀哭〕かなしみなく。○〔史〕「每—」。
〔陪哭〕他の人にもとりて泣きさけぶ聲をなす。○〔禮〕「既葬、朱衣、朝服、衣冠、—」。
〔殯哭〕悲しからざるを強て悲しみ泣くこと。○〔禮〕「—者、雖不哀」。
〔臨哭〕なげきなく。○〔元結〕「兵興、十年、所見—」。
〔嘷哭〕前に同じ。○〔王粲賦〕「泰來、對嘷—」。
〔號哭〕悲しからざるを強て悲しむ貌をなす。○〔禮〕「—者、雖不哀」。
〔號哭〕たびかりて泣きさけぶ。○〔禮〕「—者、無定數」。
〔嘷哭〕なげきなく。○〔元結〕「兵興、十年、所見—」。
〔嘷哭〕前に同じ。○〔王粲賦〕「泰來、對嘷—」。
〔號哭〕人の死をなげきながら泣き悲しむ貌をなす。○〔字鏡〕「—、號泰—」。
〔嘷哭〕ねたみ泣くこと。○〔禮〕「—、而哀」。
〔嘷

（説文）世（この世に出でたる明らかなる知を開くたる人。○（名）報——以発也。
（光武）前に同じ。○（曾）樞——偶配・事部・不部。
（荘子）前に同じ。○（説）——妖歌。
（説文）事理に通じて明らかなるなるとき知ある人。○（名）「聞求——之上」。
（貫子）性行善良にして才智すぐれたるも、又、其の人。○（後漢）顧——欲、「求我天録」。
（説文）前に同じ。○（後漢）明慎・静・節、「欲求——」。
（論語）ものを欲して出で来たるべき明らかなるものを聞くたる人。○（名）「求相手——」。
（後漢）前に同じ。○（名）「求相手——」。
（説文）事情に明らかなるもの。○（江）「聞公求——」。
（説文）かしこし、又、其の人。○（名）「——且——」。
（説文）すぐれてかしこし、又、其の人。○（名）「克生——」。
（説文）前に同じ。○（李）「——」。
（説文）前に同じ。○（後）「——」。
（説文）前に同じ。○（後）「——」。
（説文）前に同じ。○（後

❶王朝の名、又、盛の名。
（梅書）我が紀元前千七百六年より前千六百七年に至るまでの支那を支配せし王朝を殷といふ、即ち、殷都にて古昔の太聖として尊敬する湯の在位の間にして其の都亳に居城ありしといふ。殷時天下服あつて治平なりしと言ひ傳へるとも世の治平なるに比引例す。○（書）惟殷——。
（論書）殷と殷との在位間、又、前の末及に同じ。○（史）配殷——。
（孝書）我が紀元一千二百七十八年より同千五百六十六年まで支那を支配せし王朝の號を唐といふ、其の昔主の手位なりしとのいふ。○（周礼）「事玉才名殷——。」
（後書）我が紀元千五百八十三年より千五百九十五年まで支那を支配せし王朝の號。○（礼）「玉——。」
（尊書）隱りなく喜がるにいふ語。○（荀）「風相如」「項（尊々）ひろくいなる說にいふ語。○（孟）「德指書」「論——……合無々こ。
（朝書）くづれかなしくなる、勢のみどろ上るにいふ語。○（詩）「說」「——說佳。

唇 カツ、カチ。乎刮切 曷
いき、又、いきす（息）。

唯 セイ、ゼイ。時制切 霽
嘘と同じ。○（海監圖說）「土人以爲海——」。

哘 カ。虎何切 歌
口を開く聲。

嘗 ケン。嚴演切 銑
小ひさき塊つちくれ。

刼 カ、ケ。枯駕切 禡
歌く聲。

哤 テイ、タイ。丁計切 霽
鳥鳴くと、くさみ、ばなひる。

喧 クヮン、古環切 刪
關に同じ、やはらぎなく（和鳴）。

唆 シウ、ジュ。承呪切 宥
冒語もて誨ふ、さづく。

唆 ヲ。烏和切 歌
小兒の啼くにいふ字、なく。

唆 井。鄙段切 紙
こゑ（聲）。

唾 ホウ、フ。達孔切 董
こゑ（聲）。

唾 ホウ、フ。父鳥切 麌
❶おほいなるこゑ（大聲）。
❷おほわらひ（大笑）。

唾 ホウ、フ。父鳥切 麌
❶口高き說にいふ字、くちたかし。
❷おほわらひ。

唼 キン、ゴン。巨錦切 寢
❶冒語の急迫なるにいふ字、いそがしどもる。
❷口を閉づ、聲を出ださずとづ。○（揭雄）「萬物各一」。
（注）口を閉きたる間なりするとも、又、閉りたり歌したりするとも、又、やみたりするとにもいふ語。○（禮問）「——之數」。

唼 ギン、ゴン。魚音切 侵
❶吟の古文、うたふ、うなる。○（漢）「秋風爲我一」。
❷鉴に同じ、げはし、たかし。○（穀梁）「必於二殷之義一之下」。

唬 カ、ケ。呼訝切 禡
虎の聲、又、嘘ぶ聲。

唬 カウ、ケウ。盧交切 肴
ほゆ（嘷）。

唬 カウ、ゴウ。乎刀切 豪 學讀に同じ。
よぶ（呼）。

唬 カウ、ゴウ。下老切 皓
虎の聲。

唬 クヮク。郭擴切 陌
虎の聲。

唬 キ。去吏切 寘
❶虎の聲。
❷鳥啼く、なく。

唯 キ、ユキ。以道切 支
其ればかりの意を表はす字、ひとり、ただ。○（易）「其一——人乎」。

唯 スキ。視佳切 支
諾に同じ。

唯 キ、ユキ。以水切 紙
❶他の言ふ所をうべなふ意を表はす應答の敬辭、本邦の俗語の「はい」に同じ、うけこたへ。○（禮）「必愼「——諾」」。
❷出入に制せられざる說に行きて相隨順する說にいふ字、又、柔順なる說にいふ字。○（詩）「其魚——」。
（詩々）（いすれなふの意を表はす語の敬辭。○（論）（ろ）輔にて、他の言說に對して少しもかはらざるにもいひ、又、他の意に從ひて何になりとにもいふ語。○（史）「韓大夫朝徒聞——」、「不聞命之唯」。
（廿）又、表現なるとにもいふ語。○（詩）「無其——」。
（論）うけがひたることにもいふ。○（禮）「——聲聞」。
（論）前に同じ。○（孟）「之知其非口——」。

唰 セツ、サチ。所劣切 屑 一に、嘁に作る。
鳥のその毛を治むるにいふ字、はれつくらふ。

唰 サツ、セチ。數滑切 黠
少しく嘗むなむ。

唧 セキ、ジャク。前歷切 錫
ふづか、さびし（寂）。

唧 シュク、ソク。子六切 屋
❶まづか、さびし。
❷なげく（歎）又、其の聲にいふ字。

唱 シャウ、サウ。尺亮切 漾
行くとやすし。

唱 キク、サク。于六切 屋
❶節を付けて吟するもの、詩歌、○（晉）「國人痛二其忠烈一、爲作二小海一」。
（高書）（ち）歌入音樂。○（西京雜記）「後宮數——」、「歌入音樂」。
（ち）高聲なるうた。○（陸機）「嘯詩——」。「所聽」。
（後書）歌ひくうた。○（文選）「清詩——」。
（晉書）直先を以とな（詩と）。○（史）「丘朝——」。
（前書）「杜說——」。
（前書）すみ直りたる說にてうたふ。○（後書）「高也比」「——」。
（後書）——高歌、小無調歌。
（後書）音聲なるの意味を樂聲して述べ言ふ。○（後書）「——門徒千數」。
（後書）高官の人なるの行列をとゝのへて道路の先拂ひする。○（史）「——不入宮」。
（後書）文字にて記したるものを見ずして其の記したるものを述べいふ。○（後書）「——數一卷書」。
（後書）詩文の聞書をなすこと。○（後書）「——」。
「詩書」。
（後書）先人をみちびくにいふ語。○（後書）「子——」。
（後書）「——門道」。
（後書）他をみちびく。○（後書）「教授——」。

唱 ヤ。子夜切 禡
なく、（鳴）又、其の聲にいふ字、なげく、（歎）又、其の聲にいふ字。○（後漢）「日氣住哉」。
（詩）わめきなく、其の聲にもいふ語、又、鳥獸、ひなうた。○（後書）「——」。

唱 サク、ジャク。助伯切 陌
多言なり、くちがまし。○（史）「晉鄙——」。
「左」（行歌）——」。
❶大いに呼ぶ、大聲を發す、さけぶ、又、
❷聲にいふ字、特に鳥の聲にいふ。○
❸歎く聲。

唱 イク、ヨク。盈六切 屋
聲を出だすこわづくる。

唸 テン。丁練切 霰 都念切 豔
うなる（呻）。○（詩）「民之方——」。

唸 テン。丁練切 霰 都念切 豔
（先書）第一のものに於ては、他に先だちみちびく。○（文選）「——者詩之類」。
（後書）後より先へとつた（傳）（てとなる）。○（水經）「——」。
（後書）後漢の詩歌。○（後書）「——」。
（後書）「——」。
（後書）「——」。

暘 セキ、シヤク。先的切 圖
一に晰に作る、鳥の聲にいふ字、又、なく。

啣 カン、ガン。胡南切 覃
いかる(怒)又其の聲。

唾 タ、ダ。渦臥切 箇
一口中の粘液つば、つゝばき。○(揚雄)「一流涎」。
二つばきす、つばきを吐く。○(禮)「讓レ雖二涕唾一」。
(秋)(禮)つばき。○(孝)白「一…孩子九天」。
(禮)「…」。
(禮)(玉篇)「…」。
(禮)(玉篇)「…」。
(禮)(玉篇

のむ又其の聲にいふ字。○〔禮〕「來賓兄弟則皆|レ之」。

啐 サイ、セ。倉夬切 卦

くちふ。〔唱〕。

啐 シュツ、シュチ。昨律切 質

㊀すふ。〔啜〕又其の聲。
㊁衆くの聲又、かまびすし。

啐 ガツ、ガチ。五割切 曷

語もて呵りさとむ、いましむ。〔戒〕。

啐 サツ、サチ。才割切 曷

喫に同じ、聲にいふ字。

啠 ロク、　盧谷切 屋

㊀わらふ。〔笑〕。㊁鳥の聲。

啠 サフ、セフ。所甲切 洽

水鳥の魚を食らふ貌にいふ字、ついばむくらふ。

啠 サフ、ソフ。子答切 合

啑に同じ、すゝるすふ。○〔南〕「刺鼻不|レ知|レ」。

啠 セフ。卽涉切 葉

多言なり、かまびすし。

啝 コツ、コチ。呼骨切 月

うれふ。うれふる貌又、うれひ。〔憂〕。

啓 ケイ、カイ。康禮切 齊

㊀ひらく。

（い）智識を開發せしむ、なしふさとす。○〔書〕「|二|迪後人|二」。
（ろ）智識開發すふる、さとる。○〔論〕「不|レ憤不|レ|」。
（は）あけはなる、あけはなす、とく、あく。○〔左〕「晏子立三|于崔氏之門|。外門|而入」。
（に）ひろぐ、ひろがる。○〔南〕「編戶歲滋、疆宇日|」。○〔徐陵〕「皇運物|」。
（ほ）おこる、おこす。○〔徐陵〕「皇運物|」。
（へ）導く、佐く。○〔國〕「天|レ之」。
（と）とほる、とほす、疏通す。○〔南〕「驪河津于孟門、百川復|」。
（ち）なしはじむ、はじまる。○〔柳宗元〕「是|レ之也」。
（り）ひざまづく〔跽〕、ひざくむ〔跪〕。○〔詩〕「不|逸|一|處|」。
（ぬ）わかつ、わかる〔別〕。○〔禮〕「|一|漑|藍|藍|」。
（る）文書にて陳述すまをす。○〔晉〕「昔先帝、然後公奏」。
（を）隊列などのさきばらひをなす。○〔詩〕「元戎十乘以|レ行」。
（わ）雨降りて晝晴るゝにいふ字。
㊀さきばらひ、おさ〈、平前遐鋒。○〔詩註〕「軍前曰|レ|後曰|レ殿」。
㊁事を陳述すゝもの、手輪上書。○〔晉〕「時稱二山・公|事|」。
㊂星の名。○〔詩〕「東有|一|明|」。
（ち）〔漢書〕天上りひらく天鼓。○〔晉〕「而非|一|」。
（り）〔漢書〕前後開出。○〔晉〕「四徒生風、可謂|一|」。
（ぬ）〔漢書〕小さい孔の開りあるも、見聞の少きと比喩りいふ語。○〔左〕「|一|苟聞之良也」。
（る）〔晉書〕ものすひらく、教ふ、開陳せしむ、開進せしむ。
（を）〔晉書〕「|一|我徒」。
（わ）〔晉書〕魚人はひらかせざる事物。○〔晉〕「卑|一|」。
（か）〔晉書〕はたらけ、はたらき。○〔宋書〕「井田|一|」。

啊 タス、ドフ。徒刀切 豪

㊀多言なり、かまびすし。
㊁本詞に作る、喝に同じ、往來す又、ゆき。
㊂小兒の未だ正しく言ふ能はざるに同じ。いほふいはい〔感〕。

啖 タン、ドン。徒覽切 豏 | 噉、啗に同じ。

（い）くらふ。
（い）食す、はむ、かむ。○〔晉〕「狼|二|」。
（ろ）轉じて、併せ取るの義にもいふ字。○〔史〕「秦割|レ齊而|二晉趨|二」。
㊁くらはす。
（い）食せしむ、はます、かます。○〔漢〕「吉婦取|レ雉以|レ吉」。
（ろ）欲するものを與へて誘ふの義にもいふ字。○〔避暑清話〕「疑|二以|レ俸厚|二出|」。
〔晉書〕多費はくらふ、大食。○〔後漢書〕「|一|飲食作小飲心相賞」。
〔食啖〕くらふ又、食物。○〔後漢書〕「人相|一|、白骨藉地」。
〔今啖〕ひや、かなるものをくらふ、又、其の食物。○〔史〕「吹|二野蒿|一|、蔡馬」。
〔啖々〕併せくらふ貌、又、くらふ貌にいふ語。○〔晉〕「|一|常飲|入之有」。
〔皮啖〕猛大の者小を脅すに比喩りいふ語。○〔晉〕「大之費、小强之費、猶|皮、卵石之投卵|一|之」。

啖 タン、ドン。徒濫切 勘

㊀くろふ〔狂〕。㊁かむ〔噍〕。
㊂淡に同じ、あはし又、あはきもの、卽ち甘味なき食物など。○〔史〕「呂后與二陛下二、攻|苦食|レ」。

啗 タン、ドン。徒覽切 豏 | 徒濫切 勘

㊀くらふ、くらはす〔啖〕。○〔韓〕「先飯|レ黍而後|レ純」。
㊁のむ、のます〔飲〕。○〔唐〕「右手持|レ酒
〔勝啗〕くひもの、食物。○〔晉〕「衣冠之便、於轉|一|之便、於啗|二日|」。
〔飲啗〕のみくらふ、食事をなす。○〔國〕「飲啗書|一|相|相|」。
〔祭啗〕のみくらふ、又、祭り頒る。○〔參同契〕「祭|一|」。
〔判啗〕皮をはぎ肉をくらふ、又、他の所物を奪ひ取る。○〔陶山野趣〕「逐鹿者不|一|相|一|兎之勢|二」。
〔綱啗〕あばをくらはす、又、其の人の飲するものをもて其の人を誘ふことにもいふ語。○〔劉禹錄〕「取强|一|不可|飲伏」。

啖 タン、ドン。徒鑑切 勘

（ち）〔後漢書〕つねにくらふ、又、つねの食物。○〔白居易〕「|一|、蔬|蹲子|如|蹲九|鐵武|一|之」。
（り）〔後漢書〕「|一|」。
（ぬ）〔後漢書〕かみくらふ。○〔李德裕〕「|一|、飛行、存|一|」。
（る）〔後漢書〕わかつ。○〔後漢書〕「|一|、眼前」。
（を）〔後漢書〕かみくらふ。○〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（わ）〔後漢書〕かみくらふ。○〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（か）〔後漢書〕かみくらふ。○〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（よ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（た）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（れ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（そ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（つ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ね）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（な）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ら）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（む）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（う）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ゐ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（の）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（く）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（や）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（け）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ふ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（こ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（え）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（て）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（あ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（さ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（き）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ゆ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（め）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（み）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（し）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ゑ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ひ）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（も）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（す）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ん）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ず）〔後漢書〕「|一|、|一|」。
（ま

啷 キヤク、カク。極虐切 ㊥ 墨乞切 ㊥
大に笑ふわらふ。

啾 シウ、シユ。卽由切 尤
小さき聲にて鳴く、なく、なげくさゝやく、又其の聲にいふ、又、小兒の聲にもいふ字。○〔楊載〕「彼レ林白鳥」。〔聲之〕——。〔雜〕なく、又、なく聲にいふ字。○〔雜記〕「喘ニ手前に同じ。○〔綱宗元〕「——有餘音」。〔雜〕かなびすしく、なく。○〔雜記〕「——百鳥」。〔雜〕。〔雜記〕耳のなるにいふ字。○〔雜記〕「耳——而」。〔雜〕なく、聲を發す。○〔風仲之〕「烏聲上——」。〔雜〕前に同じ。○〔利登野晨〕「秋も雀少聞——」。

啣 ゴウ、ゲ。語口切 ㊥
となふ、よぶ、又其の聲。

喁 ゴ。魚矩切 ㊥
魚の口の聚りつどふ貌にいふ字。

喂 井。於章切 ㊥
おそる、おそれ、恐。

嗌 ホン、ボン。步奔切 元
はく(吐)。

嗌 フン、ボン。芳問切 問
盜に同じ、水の聲。

喃 ダン、尼咸切 ㊥ ナン。那含切 ㊥
實語多し、くどくしし、又、くどくしく語るかたる、又、其の聲にいふ字。○〔北〕「乃向二四・北一奪」頭——細語」。〔喃〕言多くかたる、又、其の聲、特に、輕にいふ字。○〔綱宗〕「見朱上聲——」。〔喃〕前の上半段に同じ。○〔元稹〕「語報報——」。

喃 ダン、ナン。乃感切 ㊥
なむ(菩)。

善 セン、セン。上演切 ㊥
○惡の反、正理に戻らざると法則に適ふと、又、物事の正しき極度に至ると、完全なると、總べて、人の良心に譽め敬ふものなると、卽ち、德行、仁政、直實など、又、人の良心に願ひ望めるものなると、卽ち、快樂幸福便利など。○〔老〕「皆知二之爲一斯不一已」。○よし。
(イ)惡しからず、〔前項對照〕。○〔易〕「出二其言一——則千里之外應レ之」。
(ロ)まされり、貴し。○〔論〕「求二——賈一而沽レ諸」。
(ハ)多し。○〔禮〕「管レ誤——則世子亦能食」。「子一相」。
(ニ)親し、睦まし。○〔左〕「伍舉與二聲一——」。
(ホ)快し、安し。○〔戰〕「皋牀其——」。
○よく。
(イ)惡しからざるやうに、親切に、委しく、巧みに。○〔老〕「戰者服二于上一利」。
(ロ)大いに、多く、やゝもすれば、たびたび。○〔詩〕「女子一——」。「——レ刀而藏レ之」。
○よくす。
(イ)よく其の物の處置をなす。○〔莊〕「——」。
(ロ)よく其の事を爲し得る。○〔韓愈〕「——」。「結又——於古詩」。
○よしと爲す、よしとす、よみす。○〔公羊〕「君子之——レ善也長」。
○よき道を行ふ者、孝子、貞婦、賢者、君子など。○〔左〕「能舉レ善也」。
○單と通ず。○〔漢〕「單于曰——于」。
○勝と通ず。○〔莊〕「具大牢二爲レ」。
○〔論〕「——之民、必有餘慶」。○〔論〕「——之民、必有餘殃」。○〔論〕「——之民、必有餘福」。○〔論〕「——之民、必有餘禍」。○〔論〕「——之民、必有餘祥

噯 エヲ。伊檜切 匿
聲にいふ字。○〔詩〕「——草蟲」。

喔 アク、於角切 覺 チク。烏谷切 屋
㊀強ひて笑ひ顔をつくる貌にいふ字、へつらひわらふ、わらふ。○〔楚辭〕「吾將——咿嚅晥以事二諸人一」。
㊁鳥鳴くなく、又其の聲。○〔詩愈〕「天・星牢落雞——咿」。
〔喔喔〕強ひて笑ひ（つらよし。○〔王逸〕「——好ヤ笑」
〔喔喔〕鳥の鳴くにいふ語。○〔詩〕「————」
〔喔喔〕引之切眞長。○〔前〕前に同じ。
〔喔喔〕前に同じ。○〔白居易〕「——休——————」
〔喔喔〕前に同じ。○〔白居易〕「——十四——」
〔喔喔〕前に同じ。又、（つらり笑ふ上にいふ語。○
〔喔喔〕正言切————。

嚶 シ。齒支切 支
雞を驅る聲、こゑ。

咽 ベン、メン。彌演切 銑
苦はす。

咄 コ、ウ。洪孤切 遇
のむ。〔咽喉〕。○〔揚雄〕「——二」。

暉 ケン、ゼン。牛殘切 阮 ケン、ゼン、ソン。粗本切 阮
魚吻切 語 ソン、ソン。
口大いなり、くちひろし、又、大いなる口、又口ひろくして齒醜き貌にいふ字。○〔賈誼〕「——豫多飲レ酒」。

喘 セン、セン。昌流切 銑
㊀氣息の出入疾きにいふ字、いきせくあへぐ、せく、又、いきせくこと、いきせく病せき。○〔漢二四〕「——唐汗」。
㊁睡中の鼻息、いびき、又、いびきを發すにいふ字。○〔蘇軾〕「蛙獲龜不レ——」。
㊂氣息、又、生存の義にもいふ字。○〔張說〕「假——殘生」。「言」。
㊃微かに言ふ、さゝやく。○〔荀〕「——而言」。
〔喘息〕微かなる氣息、又、死に近き生存。○〔張說〕「假及——」、「言」前に同じ。○〔張說〕「————殘生」。
〔喘息〕前に同じ。○〔李商隱〕「——殘生」。
〔喘息〕前に同じ。○〔李商隱〕「——無復餘生却」。
〔喘息〕前に同じ。○〔李商隱〕「若——」。
〔喘息〕おすかなるせき、又、氣息、微、前に同じ。○〔李朝隱〕「假臣——使殘喘」。
〔喘息〕「假臣——」。○〔李朝隱〕「感恩——」。
〔喘息〕「假臣——」。○〔李朝隱〕「感恩自——」。
〔喘息〕一つのあ（ぎ、「一の氣息、輕にして、殆めて死かる時間に殘りし上語。○〔李朝隱〕「感恩——」。
〔喘息〕めぐる。○〔陳琳〕「——殘也。
〔喘息〕あるかぎせて、又、不安快の生存。○〔張說〕「——殘命。
〔喘息〕せきはらひ。○〔陳琳〕「——伸——」。
〔喘息〕せきはらひ。○〔陳琳〕「——伸——」。
〔喘息〕氣息の音をひとし。○〔陳琳〕「——伸——」。
〔喘息〕せきする貌にいふ語「又、心もとなくあくせくする貌にいふ語。○〔前〕「————無——」。
〔喘息〕なまめかしき風、美人にいふ語。○〔李商隱〕「————無——」。
〔喘息〕おそれおのゝきて氣息あるかぎり。○〔李商隱〕「————無——」。
〔喘息〕ねいびき。○〔孔平仲〕「————」。
〔喘息〕つかれて氣息あるも。○〔孔平仲〕「————」。
〔喘息〕口を開けてあ（ぐ。○〔白居易〕「————」。
〔喘息〕あつさの苦めにあ（ぐ。○〔李商隱〕「————」。
〔喘息〕氣息す、ゆきすぐ又、せくあ（ぐ。○〔白居易〕「————」。
〔喘息〕「————」。
〔喘息〕「見月樓」「風の氣は吸の地にて數間の暑さ苦しきものから其の地の牛の夜間月の出づるを見て太陽と誤り鳴めて夜もあさに若めもす、かと思ひ過ぎして、夢かもするに日れとなく、くとの故事上、思ひ過ぎして眠り越し、對等するに似ぬ上語。○〔金史〕「國官長、氣、在「武」中生、化物作」「地鳴野鳴、實物の說、官者の解色、「物鳴」、「人物」、「官物」、「物」、「物」、「

喲 ヨウ。祝羽切 圖 匈于切 圖

㊀吠、又は、咆に作る。いきふく、ふく。〔吹〕又、いき。〔息〕。○〔漢〕「來…漂レ山」。

㊁熊に同じ。あたゝむ。〔溫〕。○〔唐〕「醫二民之勞一」。レ之若レ子。

㊂謟ひ奬ふ親にいふ字、又、へつらふ。○〔柳宗元〕「——趨趨」。

㊃あらはし示す、ためす。〔呈示〕。

哑 カ、ゲ。何加切 麻

のど。〔咽〕。

哢 バン、マン。毋官切 寒

あざむく。〔欺〕。

喤 クワウ、ヲウ。胡光切 陽

カウ、キヤウ。胡官切 庚

㊀小兒の泣く聲、又、小兒の聲。○〔詩〕「其泣——」。

㊁和ぎたる聲、又、調〔ハヽ〕へる聲。○〔詩〕「鐘鼓——」。

㊂鼓せしき聲、又、怒りたる聲。○〔詩〕「——厥聲」。

㊃さきばらひ、廣唱。○〔通雅〕「——人執二儀一、褒二不レ一」。

〔別傳〕「さきばらひ」。○〔禮記〕「——要」。

嗟 ヲウ。虎晃切 養

おほしゝ、衆。

嗖 ソウ。都故切 遇

ト。

○口部（九畫）

嗄 タク、ダク。達各切 陌

まかる。〔せ〕

嗄 タク、ダク。達各切 陌

言語なきこと。でばうだい。

嗣 アフ、チフ。尼朝切 寒

多育す。

嗣 セフ、而沙切 寒 本、講に作る、或セフ。切 寒 は嗾に作る。

爭ひ育ふ、あらそふ。

喧 ケン、クヲン。許元切 元 許遠切 阮

山又は、咀に同じ。大聲にて語る、音聲聞くに厭はし、かまびすし、やかまし。○〔拾遺記〕「惡二車轍馬跡之一」。

〔周尺少一——〕。

〔後漢〕世祖のやかましきに上聞。○〔宋書〕「頻聞かまびすし」。○〔漢書〕「風十實一——」。

〔後漢〕前に同じ。○〔任昉〕「遂跡若一——」。

〔呼〕前に同じ。○〔任昉〕「曰入夜、實少一——」。

〔敏〕小さき聲かまびすし。○〔宋書〕「市廛雜——」。

〔後漢〕かまびすし。○〔對語〕「後園鹿出聲一——」。

〔後漢〕魯に同じ。○〔禮記〕「——出聞」。

喻 ユ。愈戍切 遇 諭に同じ。

㊀告げて了解せしむ、導きて改善せしむなしふ、さとす、なし、へさとし。○〔論〕「入則有保、出則有師、是以教一而德成也」。

㊁了解す改悟す考へつく、さとる、さとり。○〔論〕「君子一於義一、小人一於利一」。

㊂譬へ、言ふ、言ひ比ぶ、たとふ、たとへ。

〔書〕「言、○〔孟〕「舜聞之一豈惑談說」。

〔論〕さとす。○〔孟〕「以ものをもつて——」。

〔後漢〕「——之情」。

喻 ユ。容朱切 虞

妄りに說く、いつはる、又、いつはり、又、いふ。〔言〕。

喫 ハツ、ハチ。普活切 曷

やはらぐ、和ぐ、よろこぶ、悅ぐ、一に、うたふ。〔歌〕。○〔漢〕「喧——受レ之」。

〔論〕よろこぶ。○〔博物〕「喧々——」。

〔前に同じ。○〔杜甫〕「小人——」。

喫 キ、キツ。苦擊切 錫

㊀くらふ、〔食〕。○〔杜甫〕「果熟許同二朱老一——」。

㊁のむ、〔飲〕。○〔杜甫〕「對二酒不レ能一——」。

〔後漢〕みたりにくらふ。○〔杜甫〕「歌前カ——」。

〔生〕なまでくらふ。○〔後〕「飛肉——」。

〔後漢〕少しづゝくらふ。○〔論〕「——三日」。

喫 カイ、ケ。口戒切 卦

力尋す、あらそふ、いさむ。○〔莊〕「使二——鼠求之、而不レ得也」。

嘒 シフ。阻立切 キフ。訖立切 緝

吹に同じ。

嘒 シフ。阻立切 キフ。訖立切 緝

ヒフ、北及切 緝

おほきくち、おほきことば、衆口。

喰 喰に同じ。

喬 ケウ。拳夭切 篠

㊀上がり出がる、まがる。○〔詩〕「句如二羽一」。

㊁上がり續つたかし。○〔青〕「喬木旌」。

㊂矛の柄の刃に近き處に設けあるかぎ、矛の飾りの毛羽を掛くるもの。○〔詩〕「矛重一——」。

㊃高き處、又、高き山。○〔列〕「周以二——」。

㊄驕と通ず用ふ、ほしいまゝ、おごる。○〔表記〕「——而野」。

㊅意平ならざる貌にいふ字。○〔莊〕「天下始——詰卓鷙」。

〔後漢〕鳥の高き木にうつるを、轉じて進め出世す。○〔易〕「出自幽谷、——于一木」。

〔後漢〕高きところ。○〔論〕「鳥獸——」。

喬 ケウ。魚變切 霽

唱に同じ。

嗜 ガン。魚旰切 翰

暗說を失へるにいふ字、又、粗俗なり、いやしあらし。○〔論〕「由也——」。

嗜 ガン、ゲン。語限切 銑

いさゝか笑ふ貌にいふ字、わらふ。

單 タン。都寒切 寒

㊀こさゝくく、〔蟲〕。○〔國〕「夏禹能一平二水土一」。

㊁寢ならぬと、又、其のもの、ひとへ。○〔杜甫〕「蟲事衣裳一裳一」。

㊂ひとり。

〔い其の物のみにてあると、遇れなきと、又、其のもの。○〔史〕「形一影雙」。

〔う〕援けなきと、又、其のもの。○〔後漢〕「以二——兵一固二守邯城一」。

〔え〕又、餘りなきと、又、其のもの。○〔詩〕「其軍三——」。

〔詩〕「其軍三——」。

㊃めぐる、めぐり。〔周〕。○〔揚雄〕「一佛一仙」。

㊄ひとりにてあるやうに爲す、ひとりにす、又、ひとへにす。○〔禮〕「鬼神之祭——レ席」。

〔前に同じ。○〔詩〕「——而其名有一」。

〔後漢〕ひとりもの、兄弟なきもの。○〔宋書〕「無二之祝、以謂——」。

〔後漢〕かたゐひと、〔のもの、又、身がるくしてひとりなるも。○〔後〕「出入——し、不二官一、唯一度」。

〔後漢〕勢強くして孤なるも。○〔後〕「本——」。

單 セン、ゼン。時連切 先 上演切 銑

廣大なる貌にいふ字、おほいなり。○〔漢〕「——于者廣大之貌」。

單 タン。多簡切 旱

殺多し、おほし、ゆたか、又、まこと、〔信〕あつし、〔厚〕。○〔書〕「乃一三文一祖考」。

單 セン、ゼン。之膳切 霰

輕殺す、かろくおこる。

嘵 喪に同じ。

嗜 ヘン。敢驗切 豏

舌を暢ばして呼ぶ、よぶ。

喉 喉の本字。

喪 サウ。四浪切 漾 ソウ、作る。

㊀亡失すほろぼす、うしなふ、ほろぶ、ほろぼす。○〔易〕「震驚二百里一、不レ喪二匕鬯一」。

㊁死の題辭。○〔問〕「論二國之凶、荒民之礼一——」。

〔後漢〕つひえうす。○〔前に同じ〕「以二傾覆大禍一——」。

〔後漢〕えびみほろぼす。○〔宋書〕「呼萬反——」。

〔後漢〕人の死ぬるをなきいたむも。○〔左〕「小人——失位、計、而一——我親」。

〔後漢〕「うるもとうしなふことと。○〔韓、詩〕「靜幾不一育利、皆大夫不一育一——」。

〔後漢〕今よれば、ほろぶ。○〔王朝之〕「宋南一——分」。

〔前漢〕失敗といふに同じ。○〔任昉〕「敗績一——」。

〔前漢〕「所、遭」。

〔前漢〕せがれてうしなふ。○〔韓、宗元〕「——宮」。

喪 サウ。蘇郎切 陽

㊀人の死にし時緣故ある者、一定の期日の間凶服を著けてうれひにこもり居ると、忌服も。○〔禮〕「子一夏一」。

其子一而喪、其明」。

㊁ひつぎ、〔柩〕。○〔唐〕「吏、民數、百、皆縞服送レ」。

〔後漢〕上は天子より下は庶人に至るまで行はれ、皆ふく。○〔禮〕「三年之喪、天子之一——也」。

〔後漢〕喪服のうけたるも。○〔禮〕「周四——」。

喪 喪に同じ。

喪 書

嗜 シン。之人切 眞

おどろく、〔驚〕。

喪 サウ、ソウ。蘇到切 號

鳥の群がり鳴くにいふ字、なく。

喪 シヤウ、セウ。千遙切 蕭

一に、鍬に作る、すき。

嗟 タイ。勝俎切 泰

口に滿つる貌にいふ字、みつ。

嗟 ゲン。丘虔切 先

噂に同じ、よろこぶ、〔喜〕、たのしむ、〔樂〕。

嗟 イク、井ヨク。於六切 屋

喚に聲立つのどなる。

設 カク、コク。許角切 覺 カク。黑各切 陌 コク。呼木切 屋

はく、〔吐〕。○〔左〕「君將レ一之」。

嗟 ゲキ、ギヤク。宣戟切 陌

啼に同じ、なく、〔吐〕。

嗟 アイ、ダイ。杜兮切 齊

さけぶ、〔號〕、なく、〔啼〕。○〔漢〕「家人立而——」。

嗟 エウ。餘昭切 蕭

よろこぶ、〔喜〕、たのしむ、〔樂〕。

嗟 ア、エ。烏化切 禡

小兒の噂くにいふ字、なく。

嗟 カク。黑各切 陌

㊀殿、厲の貌にいふ字、きびし、おごそか。○〔易〕「家人——悔厲吉」。

㊁おごそかにして大いなる聲。

㊂悅び樂しむ、たのしむ。

㊃熱に苦しむ、くるしむ。

嗟 カク、コク。黑角切 覺

悅び樂しむ、たのしむ。

嗟 コク。呼酷切 沃

聲。

嗟 カウ、ケウ。許交切 肴

叫ぶ聲、又、迅き聲、一說に、笛の音。○〔莊〕「夫吹、笙也、猶有レ一也」。

嗟 カウ、ケウ。孝絞切 巧

嘷に同じ、ほゆ、さけぶ、わめく、よぶ。

嗟 カウ、ケウ。呼教切 效

說、同じ、よぶ、さけぶ。

嗟 サ、セ。所嫁切 禡

聲敗れ、聲はる、かはる、まばがる、まやがる。○〔老〕「終日號而聲不レ一、和之至也」。

嗟 アイ。於蓋切 泰

㊀嗚くと極まりて聲立たず。

㊁聲敗るゝやぶる、まばがる。

㊂氣逆上す、のぼす。

嗅 キウ、許救切 宥 キウ。香仲切 送

鼻に同じ、鼻にて氣を吸ふ、かぐ。○〔論〕「三一而作」。

單 タン、ナン。切 國 タン、乃旦切 翻 [illegible]に同じ、痰を除くこと、おにやらひ。

嘗 俗の嘗の字。

嗆 シヤウ、サウ。千羊切 陽 ㊀鳥の食ふにいふ字、ついばむ、あさる。㊁愚なる貌にいふ字、おろか。

嗆 サウ、シヤウ。鋤庚切 庚 愚にして怯なること、おくびやう、うつけ、おろか。

嘯 コウ、ク。古候切 宥 ㊀なく、〔鳴〕。㊁雄鳴くなく。

嘯 コウ、ク。古候切 尤 ㊀うたふ、となふ、〔唱〕。㊁聲亂る、みだる。㊂大いなる聲を發す、さけぶ。

嗇 シヨク、所力切 國 本、盜に作る。㊀貪やすき嫌ふ、おしむ、〔愛〕。〔家語〕「[illegible]於時」。㊁過度に欲しく思ふ、むさぼる、〔貪〕。〔左〕「[illegible]手[illegible]」。㊂おしむと、むさぼると、やぶさか、又、やぶさかなり、ものおしみ。〔進〕「嗇自公之[illegible]也何異[illegible]」。㊃集めて、費やすと少きにいふ字。〔老〕「治人事天莫如[illegible]」。㊄稽に通ず用ふ、禾穀を收むること。〔漢〕「服田力[illegible]」。

噉 サウ、ソウ。呆老切 皓 人の無き貌にいふ字、ものづか、〔靜〕、又、さびし、〔寂〕。

嗾 シツ、ジチ。秦悉切 質 こゑ、〔聲〕。

嗽 ソ、ス。桑故切 遇 鳥の食を受くる處、ふくろ。〔爾雅〕「尤鳥嘴其[illegible]」。

噴 コウ、ク。呼孔切 董 呼貫切 送 うたふ、又、うたふ、〔歌〕。

噙 ケフ、コフ。許劫切 業 ㊀すふ、〔吸〕、あふ、〔含〕。〔莊〕「吾口張而不能[illegible]」。㊁言語もて人を恐迫す、おどす。

啗 咽の誤字。

啦 ドウ、ノウ。奴等切 河 多言なり、ことばおほし。

噬 エキ、ヤク。伊昔切 陌 のむこと、〔咽〕。〔史〕「飲食下[illegible]」。

噬 アク、ヤク。乙卒切 覺 笑ふ貌にいふ字。〔韓詩外傳〕「嫉[illegible]」。

噬 カツ、下瞎切 黠 ガチ。切 國 カイ、下蓋切 泰 ガイ。切 翻 のむこと、〔咽〕。

噬 カフ、ガフ。谷盍切 合 ㊀口を閉じ、あく。㊁こゑ、〔聲〕。

噬 カフ、ガフ。谷盍切 合 ㊀多言なり、ことばおほし、ものべる、かまびすし。㊁かたる、〔語〕。㊂あふ、〔合〕。㊃笑ふ聲、わらひごゑ。㊄すふ、〔吸〕。

噠 タフ、トフ。託合切 合 ㊀肢體解けくつろぐ、くつろぐ、又、懷ふ所を忘る、わする。〔莊〕「[illegible]似喪其機」。㊁れぶる、〔疲〕。

噤 テン、デン。徒年切 先 俗の然の字。

噤 テン、デン。徒年切 先 氣の盛んなる貌にいふ字、さかんなり。

噤 シン、ジン。昌眞切 眞 いかる、いかり、〔瞋〕。

噤 ショク、ニク。而蜀切 沃 憐れむ貌にいふ字、又、あはれむ。

啼 コウ、ク。胡貫切 送 ㊀あつまりて貨物の交換を行ふ人、市人。㊁衆くの聲、又、かまびすし。

喟 アツ、アチ。烏八切 黠 飲む聲にいふ字、又、のむ。

喟 ハウ、バウ。補盲切 庚 ㊀歎ふ聲にいふ字、又、うたふ。㊁ためいき、〔嘆〕、又、其の聲にいふ字。

喟 ハウ、バウ。補曠切 宕 こゑ、〔聲〕。

嗚 チ、ウ。哀都切 虞 あゝ。〔い〕緩くして長き歎息の聲。〔[illegible]〕「[illegible]呼曷歸」。〔ろ〕緩くして長き歌謠の聲。〔史〕「歌呼[illegible]快三耳自一者」。

嗚 チ。烏故切 遇 歌き嘆む、なげく、いたむ。〔後漢〕「嗚[illegible]流涕」。

嗛 ハク、バク。伯各切 陌 噛む貌にいふ字、かむ。

嗛 シユ、ス。窟鉤切 虞 吐る聲にいふ字、又、しかる。

嗛 ダフ、チフ。呢洽切 洽 小人の言説の輕薄なる貌にいふ字、うすし。

嗛 タウ、トウ。徒郎切 陽 語の中らざるにいふ字、いつはり、又、大言、れなしごと。

嗛 ケン。苦鎌切 添 ㊀頰の裏に食を貯ふる處、ふくみ、い。〔爾雅〕「寓鼠曰[illegible]」。㊁歎に同じ、足らず無し、腹に滿たず、

又、五穀の升らざるにもいふ字。〔呂氏春秋〕「天固有[illegible]衰[illegible]摩伏」。㊂小さき貌にいふ字、ちひさし。〔國語〕「[illegible]之鄙」。〔[illegible]〕すくなし、[illegible]。〔[illegible]〕[illegible]。〔[illegible]〕[illegible]。〔[illegible]〕[illegible]。

嘘 カン、ケン。戶監切 咸 ㊀ふくむ。〔い口にくはへ持つ。〔史〕「鳥[illegible]」。〔ろ〕恨むる。〔史〕「心[illegible]之而未[illegible]發也」。㊁金壺くつく。〔管〕「唯一之視」。

嘘 ケン。苦緘切 鹽 歎に同じ、〔りくだる、ゆづる。〔漢〕「溫良[illegible]退」。〔[illegible]〕[illegible]。

嗛 ケフ。詰叶切 葉 たる、〔足〕、かなふ、〔愜〕、こゝろよし、〔快〕。〔荀〕「[illegible]然而終日不[illegible]」。

嗛 嗛に同じ。

嗜 シ、ゼ。時利切 置 ㊀喜び欲す、食り好む、すく、このむ、たしなむ、たしむ。〔書〕「神[illegible]」。飲食[illegible]。㊁たしなむと、たしなむ憤たしなみ。〔書斷〕「一味之[illegible]五味不[illegible]」。〔[illegible]〕すき好む。〔[illegible]〕[illegible]。〔[illegible]〕[illegible]。〔[illegible]〕[illegible]

〔嗶〕前に同じ。○〔廣韻〕「朝鮮人呼二朝鮮人一爲二嗶人一」。

〔嗶〕前なるものにひきつぐ。○〔呂覽〕「嗶中夜先代の人に離れたる子孫。○〔篇海〕「嗶々立」。

〔嗶〕嗶々孤立。○〔後漢〕「—書」。

〔嗶〕嗶々相聯すること。○〔後漢〕「—書」。

嗤 シ。赤之切 支 〔谷は歌に作る。歌は谷はあり。〕

觀覽して冷笑す、あざけり、そしる、さげしむ、わらふ、又、わらひ、あざけり、そしり、さげしみ。○〔後漢〕「時人—レ之」。

〔詩〕大いなるあざけり。○〔孔叢子〕「孟軻—時之—」。

〔詩〕そしり、わらひ。○〔呂覽〕「有二聞—之者一、必—」。

〔荀子〕前に同じ。○〔劉禹錫〕「此必相—」。

〔荀子〕前に同じ。○〔劉基〕「嗤嗤防—」。

嘻 イ。於離切 支

いかるこゑ、歎聲。

喝 タフ、トフ。德盍切 合

口動くこゑ。

第十畫書部

嗷 ガウ、ゴウ。牛刀切 豪

遍して囂、敖、又は、褒、綦に作る、さはぐ、なく、又、かまびすし。○〔四京雜記〕「紡紅翻集—鳴」。

〔荀子〕かなしびに堪へざるなり。○〔荀子〕「—一堂」。

〔荀子〕かなしびすくなく。○〔史記〕「曹參—飲何—」。

〔荀子〕かなびすし。○〔史記〕「曹參—飲何—」。

咎 前に同じ。○〔詩〕「採薇于兩哀鳴—」。

コウ、戶冬切 冬 ゲウ。切 豪 トウ、徒弄切 送

嘲 ゲウ。切 豪 トウ、徒弄切 送

〔嘲〕前に同じ。○〔貨泉〕「所—嘲」。

〔嘲〕嘲あらくしてかまびすし。○〔元曲〕「—嘲州大—」。

〔嘲〕前に同じ。○〔廣韻〕「—人聚集皆—」。

〔嘲〕前に同じ。○〔貨泉〕「所—嘲」。

〔嘲〕嘲あらくしてかまびすし。○〔元曲〕「—嘲州大—」。

嘉 カ、ケ。古牙切 麻

一よし。

（い）うつくし、うるはし（美）。○〔詩〕「山有二—一卉一」。

（ろ）めでたし、よろこばし（慶）。○〔管〕「京室是—」。

（は）あぢよし、うまし（旨）。○〔詩〕「爾殽—」。

（に）あしからず、たゞしよろし。○〔儀〕「爾有二—謀一獻一」。

一よろこぶ（喜）、たのしむ（樂）。○〔禮〕「交獻以二魂魄一」。

一このむ（好）、よみす（善）。○〔國〕「吋用可レ—」。

四さいはひ。○〔史〕「神降二之—一」。

五よさもの、うまきもの。○〔歐陽修〕「飲レ旨食レ—」。

〔字書〕時時に遊覽する。○〔歐陽修〕「早蟬—一之音」。

〔字書〕今すくしてよし。○〔詩〕「其音雖何、事豆—一嘉則」。

〔字書〕今せらるべしよ。○〔詩〕「仲山甫之德、—一—之」。

〔字書〕愛しよみす。○〔詩〕「其自彼—叔以下、實—一嘉則」。

〔字書〕めでたきもの。○〔禮〕「今與—一、千載承—」。

〔字書〕日切之義ひよみす。○〔管子〕「以—一時事」。

〔字書〕長生ひよきもの。○〔史記〕「庫量—一」。

〔字書〕愛よくしてよみすべし。○〔後漢〕「士眞且—一」。

〔字書〕喜びよみす。○〔後漢〕「—一—在音」。

〔字書〕めづらかにしてよし。○〔後漢〕「—一—在音」。

〔字書〕安らかにしてよし。○〔論語〕「事政事和、人—一」。

〔字書〕前に同じ。○〔管子〕「今方有—一百物」。

〔字書〕前に同じ。○〔呂覽〕「今方有—一百物」。

〔字書〕前に同じ。○〔古居易〕「大—紋—一—如拳」。

〔字書〕前に同じ。○〔古居易〕「大—紋—一—如拳」。

嘉 カ、ケ。古牙切 麻

うつくし、よし（美）。

嘽 ラウ、ロウ。耶刀切 豪

大いなる聲、かまびすしき聲。○〔戒公殺〕「來音繁發、若レ箭若レ簫、磾、磾震、鼕、鼕、鼕

㊀詩りて語る、かたる。
㊁鶴く、說にいふ字、おどろく。
㊂鶴の鳴く聲。

噭 ハウ、被交切 ヘウ、蒲交切 ヘウ、切 **豪**
胥實あらずして詩る、ほこる。

嘐 ラウ、ロウ。郎刀切 **豪**
語多し、かまびすし。

嘐 ハウ、ヘウ。巴校切 **效**
聲。

嘐 ビウ、ミユ。眉牧切 **宥**
狂者の妄言、たはごと、いつはり。

嘑 コ、ク。荒烏切 **虞**
㊀大聲を發して號呼す、よぶ、さけぶ。
○〔周〕「夜―レ旦以酬二百官一。」
㊁譁に同じ、水の名。○〔史〕「南有二―一。」
花易水一。

嘑 コ、ク。荒故切 **遇**
㊀號呼す、よぶ、さけぶ。○〔漢〕「仰レ天大―。」
㊁咄嗟す、ふかる、ふたうちす、のゝしる。○〔孟〕「―爾而興レ之。」

嘒 ケイ、ケ。呼惠切 **霽**
㊀微小なる聲、ちひさきこゑ、こゞゑ。
○〔說文〕「―小聲也。」
㊁聲急し、いそがし、又、聲和ぐ、やはらぐ、又、聲節に中たる、とゝのふ。○〔詩〕「鳴鸞――。」
㊂小なる說にいふ字、かすか、ちひさし。○〔詩〕「―彼小星。」

嘓 カク、キヤク。古獲切 **陌**
わづらはしうるさし（煩）。

嚌 セツ、セチ。千結切 **屑**
㊀さゞめき、さゞめごと、小語。
㊁たゞしきことば、正言。

嚌 セイ、サイ。子例切 **霽**
さゞめき、さゞめごと。

嚵 キン、ギン。丘引切 **軫**
脣に生ずる瘡、くちびるがさ。

嚘 オウ、ウ。烏侯切 **尤**
㊀小兒の語る所、小兒の語る聲、かたこと。○〔荀〕「睨―之」。
㊁よろこぶ（喜）。○〔博雅〕「―――喻。」
㊂譁に通じ川ふ、うたふ、うたふ。○〔漢〕「毋レ歌―一道中」。
㊃聲。○〔陸游〕「―――啞々車轉急」。

嚘 ク。御于切 **虞**
悅び言ふ聲又は慈愛の聲にいふ字。
○〔史〕「言語―――」。

嚘 シユ、ス。眷朱切 **虞**
怒れる聲。

嚘 ウ。威遇切 **遇**
和悅の說にいふ字、やはらぐ、よろこぶ。○〔漢〕「―喻受之」。

嚘 オウ、ウ。烏后切 **有**
歐に同じ、はく。○〔左〕「伏レ弢―レ血。」

嚘 ケン。許延切 **先**
よろこぶ、（喜）、たのしむ、（樂）、わらふ、（笑）、又、其の說にいふ字。○〔楚辭〕「醫輔奇牙宜笑―只。」

嚘 タン、ドン。徒甘切 **覃**
味少し、あはし、うすし。

嚘 サク、シヤク。士革切 **陌**
㊀大いに呼ぶ、爭ひ言ふ、よぶ、なくさけぶ、あらそふ。○〔管〕「名曰二―室之議一。」
㊁聲多し、言多し、かまびすし。○〔陸游〕「―爭兒二煩言一。」
㊂頗に同じ、いたる（至）。○〔左〕「會同雖―有三煩言一、莫之治一。」
㊃情。○〔元堂〕「陰陽所以―也抽也。」
㊄物事の初、はじめ。○〔易傳〕「聖人有三以見二天下之一二。」
〔嚘〕大聲を發してさけび、呼びてかまびすし。○〔綱宗元〕「―序。」
〔嚘〕前に同じ。○〔典論〕「―――祭雜拜、人相
〔嚘〕うらみていたゞくにそしるにいふ字。○〔管〕
〔嚘〕「管晏列傳、晏子、子相齊―――。」
〔嚘〕小き酸のかまびすしきにいふ字。○〔陸龜蒙〕「―――谷吟記。」

嚘 ヤウ、ヤク。市羊切 **陽**
一に嘗又は、嘗に作る。
㊀なむ。
（い）口に味はふ、あぢはひを試驗す。
○〔詩〕「―其旨否。」
（ろ）經歷して知る。○〔左〕「除―嚘雜

〔嚘〕吐く物を試はく氣の偉よすん。○〔王勃之〕「―――韓潮。」
雜―レ之矣。○〔戰〕「聽則少―レ之。」
㊂過去の事件を說くときに用ふる字、あるときにまへかたに、かつて。○〔史〕「吾―爲二四守一。」
㊃新穀を廟に薦めて神を祭るにいふ字、卽ち、秋期の祭事、まつる、あきのまつり、にひなめ。○〔禮〕「未―不レ食レ新。」
〔嚘〕「王曾の其の朋先に所說を強めてまつる。○〔嚘〕「―――」。
〔嚘〕「―之義」。
〔嚘〕食物の甘苦をわけなだ、咎誅。○〔嚘〕「先嚘
〔嚘〕まつる又、まつりのもの。○〔嚘〕「孔子
〔嚘〕「―――」。
〔嚘〕すゝめまつる又、まつりのもの。○〔嚘〕「百嚘
〔嚘〕前に同じ。○〔嚘〕「―――乃止。」
〔嚘〕前に同じ。○〔嚘〕「―――百神。」
〔嚘〕前に同じ。○〔方言〕「―――。」
〔嚘〕祭はよ。○〔方言〕「日昨―――。」
〔嚘〕新穀を廟に供ふる。○〔左傳〕「野嚘―――。」

噓 キヨ、コ。休居切 **魚** 許御切 **遇**
㊀緩き氣を吹き出だす、口を張り開けて氣を吹き出だす、ふく、はくふきだすはきだす。○〔莊〕「仰レ天而―。」
㊁轉じて、物の吹き出づる說にいふ字。
○〔蘇軾〕「―――雲霧出。」
㊂歎息して發する聲、又、歎息の意を表はすときに用ふる字。○〔李白〕「噫―嘘危乎高哉。」
〔噓〕いきを吹くこと。○〔後〕「三上章―――神―――之說。」
〔噓〕前に同じ。○〔王褒〕「―――呼吸卽消散。」
〔噓〕（ふ）いきの出づる後より發なるの出づるに用ふる語。○〔孟〕「―――陸。」
〔噓〕（ふ）いきの聲。○〔孟〕「目高耳聰鼻―――。」
〔噓〕風を吹きかく。○〔孟〕「―――不相接。」

噓 ヒツ、ヒチ。逼密切 **質**
嚏に同じ、あはし、うすし。

噓 ウ。擊乙切 **屑**
おそる（懼）、又、其の聲にもいふ字。○〔詩〕「予維音―――。」

噘 セイ、サイ。先稽切 **齊**
㊀むせぶ、噎。○〔周禮〕「人患二頭痛一、則有三醫―而痛一。」
㊁聲破る、やぶる。○〔北〕「揖公聲―、股戰不能二一言一。」
㊂馬鳴く、いなゝく、いばゆ。○〔蘇頌文〕「擒頭櫪上―。」

噬 ハ、バ。皮浚切 **願**
呪の語に用ふる字。

噁 シツ、シチ。思栗切 **質**
ひどき、（甚）。〔紘宋辨論〕「―律々。」

噓 噓に同じ。

噗 ヘイ、メ。莫鷄切 **齊**
羊の鳴くにいふ字、なく。

噞 ダン、女閑切 ヂン。切 **刪** セン、如延切 ヂン。切 **先**
㊀語る聲。
㊁こたふ（應）。

噉 サイ、セ。楚快切 **卦**
㊀一擧して食らひ盡くす、つくす、くらふ。○〔國〕「無―レ炙。」
㊁かむ、（齧）。○〔孟〕「蠅・蚋・蚊―レ之。」

噗 タウ、テウ。丑交切 **肴** タ。切 **麻**
かまびすし（譁）。

噗 カウ、ケウ。虛交切 **肴**
說に同じ、よぶ、さけぶ又、ほこる。

噗 ラウ、ロウ。郎刀切 **豪**
嘐に同じ、かとやく（灼）又、聲多し、かまびすし。

噍 シフ、子入切 **緝**
㊀かむ說にいふ字、かむ（嚙）。㊁すふ、すゝる（歃）。

嘯 セウ。蘇弔切 **嘯**
口を整めて聲を出だす、又、吹きて聲を發す、總べて、長き音調の聲を發するにいふ字、うそぶく、ふく、又、囀じて詩歌などを曲節を付けてこゑ長くうたふにいふ字。○〔司馬相如〕「長―哀鳴。」
〔嘯〕うそぶく、又、詩歌をなをうたふ。○〔李白〕「―――、而好―――。」
〔長嘯〕音調を長くうそぶく。○〔後〕「不好言―。」
〔長嘯〕前に同じ。○〔孟〕「―――、恢然―――。」
〔長嘯〕前に同じ。○〔孟〕「―――長吟。」
〔水嘯〕水をよとらかに歌ふ。○〔孟〕「安―――。」
〔清嘯〕清きよとらかに歌ふ。○〔陸龜蒙〕「―――。」
〔新嘯〕ものをたかに歌ふ。○〔陸龜蒙〕「―――。」
〔高嘯〕高く歌ふ。○〔陸龜蒙〕「―――。」
〔悲嘯〕かなしさの餘りに聲を發す。○〔古今注〕「傳
戶而―――。」
〔鳳嘯〕うたふ。○〔孟〕「―――其人。」
〔歌嘯〕うたふ。○〔孟〕「―――、嘯歌長吟。」
〔牧嘯〕牛かひわらべなどのうたふこゑ。○〔晉書〕
〔鳥嘯〕「馬歌―――之語。」
〔呼嘯〕さけびうそぶく。○〔水華〕「―――、賈相―
―――。」
〔別嘯〕いとも聲あるかとうたふ。○〔王褒〕「長嘯
〔嘯傲〕とはゝうそぶく。○〔孟〕「―――呼嘯。」
〔嘯傲〕なきうそぶく。○〔後〕「―――、自在
―――、無羈。」
〔蘇門嘯〕「蘇門の故事」、うそぶく、髮のすぐれたる人に借りいふ語。○〔孟〕「―――山、風、林、
聲、與音、叫、呼、石、谷、響、神、草、氣、之、術、聲、音、不
嘯、與、―――、而、聽、蘇、門、嘯、聽、其、聲、聲、風、之、音、聲、
乎、嘯、谷、乃、聲、之、響、也。」
〔孫登嘯〕前に同じ。○〔後〕「―――、林、鳥、々、―――
、聲、杜、嘯、樵、人、の、嘯、するこの、語、を、賞、（ゆ、と、て、詩、歌
、を、歌、ふ、と、も、借、りいふ語。○〔列女傳〕「春、漆、宜之
女、嘯、幼、未、適、人、―――、而、―、嘯、嘯、日、子、欲、保、乎、
日、吾、聞、嘯、不、聲、之、聲、故、嘯、聲、者、嘯、太、子、少、聞。」

嘯 シユク、ソク。息六切 **屋**
氣を吹くと欲ふが如きにいふ字、ふく。○〔詩〕「有レ女仳―離條其―矣。」

嘯 シツ、シチ。尺栗切 **質**
吐に同じ、ふかる。○〔禮〕「不レ―不レ留。」

噦 キ、居希切 ケ。切 **微** 巨至切 **寘**
㊀小しく食らふ、くらふ。○〔司馬相如〕「噍二咀芝一、英二而―瓊華一。」
㊁なげく、（嘆）。○〔淮〕「號而哭―、而哀、而知二聲動一矣。」
㊂口醜し、みにくし。

噣 クワク。胡參切 **覃**
喝に同じ。

噣 クワク。胡參切 **覃**
さけぶ、よぶ、（叫）。○〔參邑〕「―噴怒語。」

嘲 タウ、テウ。陟交切 **肴**
あざける、又、あざけり。
（い）戲れ言ふ、たはむる、又、おどけ。○〔雜愈〕「中靜雜二―戲一。」
（ろ）下げしみて言ふ、恥かしめ言ふ、そしる、又わうひ、そしり、下げしみ、はづかしめ。○〔晉〕「博士王齊於二衆中一―之。」
〔嘲〕「―――。」
〔冷嘲〕靜もてあざけるこ。○〔歐陽修〕「安能事
〔善嘲〕巧にあざけるこ。○〔孟〕「伯閑―――論。」
〔好嘲〕あざけるこのこ。○〔孟〕「然快樂―――。」
〔狡嘲〕ずるしろくあざける。○〔孟〕「―――嘲劍。」
〔朝嘲〕鳥のあざ鳴くこ。○〔孟〕「山鳥―――。」
〔狂嘲〕無法にあざける。○〔白居易〕「―――賈誼。」
〔自嘲〕自身をあざける。○〔白居易〕「以―――。」
〔淡嘲〕そしり。○〔王安石〕「―――出鼻己。」
〔嘲嘲〕前に同じ。○〔劉禹錄〕「―――地。」
〔嘲嘲〕多人嘲にてあざける。○〔白居易〕「―――。」
―――而聚鳴、嘲、笑、千、百。」

嘲 ヒツ、ヒチ。逼密切 **質**
嚏に同じ。

嚏 ヒツ、ヒチ。逼密切 **質**
なく、（鳴）。

嘴 シ。祖委切 **紙**
本、鳥、に作る、くちばし。

嗡 アン、オン。烏甘切 **覃**
嚶に同じ、あはし、うすし。

嚶 クワイ、ケ。苦怪切 **卦**
㊀氣息の出入、いきづかひ、又、いき。
○〔文選〕「―息激昂。」
㊁太息す、おほいきつく、又、なげく。○〔晏子雜篇〕「―然而歎。」
㊂他を譏る、そしる。
㊃あはれむ（憐）。○〔揚雄〕「凡言二相憐哀一、謂之二―。」

嚶 キ。丘媿切 **寘**
嚏に同じ。

嚶 ヒツ、ヒチ。逼密切 **質**
なく、（鳴）。

嚶 シ。祖委切 **紙**
本、鳥、に作る、くちばし。

嚶 アン、オン。烏甘切 **覃**
嚶に同じ、あはし、うすし。

嚶 クワイ、ケ。苦怪切 **卦**
おそる（懼）、又、其の聲にもいふ字。○〔詩〕「予維音―――。」

嚶 セイ、サイ。先稽切 **齊**
㊀むせぶ、噎。○〔周禮〕「人患二頭痛一、則有三醫―而痛一。」
㊁聲破る、やぶる。○〔北〕「揖公聲―、股戰不能二一言一。」
㊂馬鳴く、いなゝく、いばゆ。○〔蘇頌文〕「擒頭櫪上―。」

〔論語〕鳳鳥不至、河不出圖、吾已矣夫！○〔孟子〕「聞伯夷之風者、頑夫廉、懦夫有立志、聞柳下惠之風者、薄夫敦、鄙夫寬、興起而不能已者、聞而興者也、聖人百世之師也、伯夷、柳下惠是也、故曰、聖人、百世之師也、伯夷、柳下惠是也、故曰、聖人、百世之師也、伯夷、柳下惠是也、故曰、聖人、

噢 燠に同じ。

噂 エツ、チチ。王伐切 月

本、專に作る。無意味の助字、こゝに。

喳 俗の喳の字。

啜 テン、デン。丁練切 霰

本、啜に作る。うなる、うめく（呻）。

噣 チウ、チユ。陟救切 ツ。都豆切 宥

㊀くちばし（喙）。○（史）「射二―鳥于東海」（註）「謂ア大鳥之有二鉤喙一者上」。㊁星の名。○（詩傳）「三・心五―」。

噣 タク、トク。竹角切 覺 本、喙に作る。

鳥の子白から飼を口にすついばむ。○（戰）「黄雀因是俯―二白粒一」。

噤 キン、ゴン。巨鴆切 沁

㊀とづ。（い）口を閉ちて開かず、つぐむ。○（史）「喪然―口不能言」。（ろ）口閉ぢられて開かれず、むすぼる。○（聞見後錄）「夜中口―如二死狀一」。㊁言はず、語らず。○（番岳）「肆其―、不レ喧」。㊂音せず、聲やむ。○（蘇軾）「河聲―」。（註）「口を閉ぢ、黙るを。○（禮）「左右―」。○（後漢）「自安釣」―入川人。○（漢書）「聲噤―」。○（後漢）「聲噤―」。

噥 ドウ、ノウ。奴冬切 冬

多言にして中たらざるを、たはごと、そらごと。

噥 ダウ、ノウ。濃江切 江

㊀噴ぎりて聲を發す、いかる。㊁語明かならず、もつる。㊂貪甘しあまし。○（呂氏春秋）「甘而不レ―」。

噫 カン、ゴン。許含切 覃

ほゆ（吼）。

噫 カン、ゴン。古禪切 ガン、ゴン。五感切 感

㊀鳥の聲、さへづるこゑなきこゑ。㊁よし（可）。

噫 カン、コン。苦濫切 勘

喊に同じ、ふかる。

噪 ゲフ、ゴフ。逆怯切 業

口の動く貌にいふ字、うごく。

嚮 キヤウ、カウ。許兩切 養

響に同じ、應ふる聲、ひびき。

噦 エツ、於月切 月 エツ、乙劣切 屑 チチ。切

氣逆らひて喉に通ふと、又、吐くに聲ありて物の出でざるとさくり、ふやくり、からはき、からえづき。○（禮）「不二敢―噫噫咳咳一」。

噦 クワイ、ケ。呼外切 泰

㊀鳥の鳴くにいふ字。一說に、鈴かに行きて節度亂れざるにいふ字。○（詩）「雝雝―」。㊁喜くして明かなる貌にいふ字。○（詩）「其笑―」。

噦 カイ、ケ。許穢切 霽

響に同じ、頤の下にある毛、ふたひげ、一說に、頰。

噶 カイ、詞介切 卦 タツ、他達切 曷

氣勢を高く張りて多言す、こゑたかし、かまびすしいきほひはげし。○（說文）「春秋傳曰――官」。

噶 キ、ギ。許倚切 紙

㊀勢強き聲、いきほひあるこゑ。㊁ことばはやし、多言。

器 キ。去冀切 寘

㊀うつは、うつはもの。（い）丙部の空虛にて物を盛るに用ふるもの。○（史）「―械一量」。（ろ）一の形體をなすもの、品物、もの。○（易）「形乃謂二之―」。（は）使用に堪ふる有形物の泛稱、だうぐ。○（書）「如二五―一」。（に）使用すべきもの、作すに操るべきもの。○（禮）「禮義以爲レ―」。（ほ）一定な使用の目的を有して流通する能はざるものにもいふ字。○（論）「君子不レ―」。（へ）才能度量、總べて事を擔當し得る心智の動き、はたらき、きりやう、ちから。○（論）「管仲之―小哉」。㊂使用に堪ふるを得しむ、うつはにす。○（論）「及二其使レ人レ之」。（大學）（ち）大いなる器、物にて人の大器量あるに上聞。○（史）「―晚成」。（り）政權の又、權柄にも用ひ上聞。○（左）「貴」。（ぬ）「―不二器」。（る）「以器―」。（を）よく切る、刃もの。○（後漢）「器械」。（わ）轉じて他に屬りたる才能なる。○（論）「器」。（か）器物のこと。○（後漢）「器械不良」。（よ）「―不二器人」。（た）宗廟に用ふる器物。○（史）「瘠之器」。（れ）太廟に。（そ）祭を祭るに用ふるうつは。○（禮）「天夫―」。（つ）前に同じ。○（史）「上器」。（ね）「―」。（な）大事に取捨すべきうつは、又、人の大器量。○（史）「堪執斗筲不足算―」。（ら）「―」。（む）祭祀のおもなるうつは。○（史）「陳其―」。（う）たからもの。○（史）「選入貴用取其―」。（ゐ）「―」。（の）杯のこと。○（禮）「杯人掌―」。（く）前に同じ。○（後漢）「管仲器其才」。（や）前に同じ。○（禮）「管仲器其才」。（ま）「器」。（け）「器」。（ふ）前に用ふるうつは。○（禮）「器」。（こ）「器」。（え）轉じて不許なる事に用ふるもの。○（史）「兵者―也」。（て）「器」。（あ）うつは。○（禮）「受二物因二方器」。（さ）器を拭むる任に堪ふる者。○（史）「器者器」。（き）「―」。（ゆ）世に稱れなるうつは。○（史）「宗器」。（め）「―」。（み）ちひさん（視線）。○（史）「器器」。（し）「不二器器」。（ゑ）「不二器器中」。（ひ）「―不二中度」。（も）器物に用ふるうつは。○（禮）「―不二中度」。（せ）器物に用ふるうつは。○（禮）「修二來器」。（す）「器」。（ん）「器」。（ゐ）前に同じ。○（後漢）「器」。（ゑ）「―」。（ひ）前に同じ。○（禮）「器」。（も）前に同じ。○（後漢）「器」。（せ）「器」。（す）前に同じ。○（後漢）「器」。（ん）「器」。（ゐ）前に同じ。○（後漢）「器」。（ゑ）「―」。（ひ）前に同じ。○（後漢）「器」。（も）「器」。（せ）「器」。（す）「器」。（ん）「器」。（ゐ）「器」。（ゑ）「器」。（ひ

噰 ヨウ、ユ。於容切 冬
㊀和げる鳥の聲、又、樂しき聲。○〔爾〕「噰々—」聲音和也。
㊁和げる貌又は樂しき貌にいふ字。○〔爾〕「—」皆々民協服也。

雝 ヨウ、ユ。委勇切 腫
むせぶ（咽）又、ふさがる（塞）。

噱 キヤク、ガク。其虐切 藥
㊀聲たて〻大いに笑ふ、わらふ。○〔漢〕「談笑大」。
㊁口内の上下、あご、又、あごを張る、ちあく。○〔揚雄〕「遙」「康衢中」。
〔漢書〕つらひわらふ。○〔論衡〕「問」「交獻—」。
〔後漢〕酒のみてわらふ。○〔後漢〕「敢過」「文家—」。
〔後漢〕よろこびわらふ。○〔後漢書記〕「不知諸郎敢何此—」。
〔後漢〕あざけり。○〔後漢〕「蹴自取」「—」。
〔後漢〕さけびて口をあく。○〔高啓〕「頃夷顏歡語—」。

噫 シ、ジ。膳之切 支
愧づる貌にいふ字、はづかし。

噢 エイ。烏分切 齊
こゑ（聲）。

噲 クワイ、ケ。苦夬切 卦
㊀のんど（咽）。㊁すゝる（噏）。
㊂寛やかにして明かなる貌にいふ字、又、快き貌にいふ字、はれ〻し、ここちよし。○〔詩〕「—其正」。

噲 ワイ、エ。烏快切 卦
少しく喝ぶむせぶ。

噲 クワツ、クワチ。古活切 曷
㊀顏—は、顏色憂氣の衰へたるにいふ語、やつる、やつれ。○〔莊〕「顏色顦—、手足胼胝」。

噳 ク、ゴ。五矩切 麌
㊀麋鹿の羣りて口のあひ聚まる貌にいふ字、あつまる、又、おほし（衆）。○〔詩〕「麀鹿—」。
㊁笑ふ貌にいふ字、又、わらふ。

噴 ホン。普悶切 願 ホン。普魂切 元
㊀鼻を鼓す、ならす、又、聲荒らげていふ、ふまかる（叱）。○〔韓詩〕「嚇」目扼腕疾言—」。
㊁氣を吐く、はく、又、吐く、出だす、吐き散らす、ふく。○〔戰〕「俛而—仰而鳴」。
〔後漢〕口中にある食物をふき出だす、大いに笑ふ貌にいふ語。○〔後漢〕「失笑—」「—」。
〔後漢〕くさみしてふき出だす、又、くさみ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕飛沫が如くにふき出だす。○〔孝經〕「—」。
〔後漢〕はえてふき出る。○〔玉篇〕「溥泉—而—」。

噴 フン、ホン。芳問切 問
㊀吹く聲にいふ字。㊁ふまかる、叱る。

噷 コク。古或切 職
口に聲あるにいふ字、くちのおと。

十四畫

噬 アイ、乙芥切 卦 カツ、許葛切 曷 カチ。切
喝に同じ。

噬 アイ。於蓋切 泰
むせぶ、噎。

嚥 ガフ、ゴフ。五合切 合
衆多なる聲、こゑ。

嚶 ル、ロ。良遇切 遇
吳人の狗を呼ぶにいふ方言。

噸 サク、シヤク。士革切 陌
本、齧に作る。

噴 ス井、祖誅切 紙
鳥の喙、くちばし、又、鳥の聲。

噂 デイ、子イ。奴丁切 青
寧き通下用ふれんこゑ。

嚔 テキ、ヂヤク。亭歷切 錫
こゑ、聲。○〔成公綏〕「聲激—而清厲」。

嚂 ラン、ロン。盧瞰切 勘
貪り食らふ、むさぼる、くらふ貌にいふ字。○〔淮〕「以—其口」。

嚂 カン、コン。苦濫切 感
㊀ふかる（呵）。
㊁喊に同じ、こゑ、聲、こゑを出だす、いふ。○〔戰〕「横人—口利機」。

嚂 ラン、ロン。盧甘切 豐
嚂に同じ、貪る貌にいふ字、むさぼる。

嚏 タイ、坦亥切 賄 タイ、堂來切 灰 テイ。切
衝に同じ。

嚏 タイ、坦亥切 賄 タイ、堂來切 灰 テイ。切
㊀言の止まざるにいふ字、やまず。
㊁言の舛ふにいふ字、いつはる、あやまる。

嚏 タフ、託合切 合 タイ、吐內切 隊 トフ。切
一口に入れたる食物を嚼（ま）まずに嚥下す、のむ、すゝる、まるのみ、あらのみ。○〔禮〕「無—羹」。

嚄 クワク。胡伯切 陌 ワク。屋虢切 陌
㊀大聲に喚ぶ、よぶ、又、言辭多し、やかまし。○〔史〕「晉鄙—、暗宿將」。
㊁痛惜して發する聲、驚愕して發する聲、いたみなげく聲、びっくりする聲、あゝ、あ。○〔史〕「武帝下車泣曰、—、大姊何巖之深也」。

嚄 ワク。屋郭切 藥
護に同じ、味無し。

嚈 ラク、ロク。呂角切 覺
俗の擇の字、口辨あり、ことばすぐる。

嚇 ジュ、ニュ。人朱切 虞
㊀多言なり、かまびすし。○〔黃晞〕「嚇—」。
㊁又、言ひ掛けて口を縮む、つぐむ。○〔韓愈〕「口將レ言而囁—」。
〔後漢〕さゝやきて名言す。○〔後漢〕「嚇嚅駭耳—」。
〔後漢〕かまびすしいなり。○〔呂覽〕「車論—」。

嚆 カウ、ケウ。虛交分 肴
囁に同じ、さけびよぶ。○〔莊〕「鴟知二晉—史之不仁一」。

嚇 カ、ケ。呼訝切 禡 カク、
キヤク。許白切 陌 赫又は、嚇に作る。

嚇 甘語もて他を拒む、ふかる、こばむ。○〔詩〕「反予來—」。
㊁ふかり又はこばみて發する怒聲、となりごゑ。○〔莊〕「疏得二齋息一、嫗雖過レ之仰而視レ之曰—」。
㊂笑ふ聲。○〔晉占古語〕「正月三日田公笑—」。
〔後漢〕莊子の言より、思想の鼻しき者も思想高き者も己れと同樣なる者と心得、己れが意しとするものは强らなしとするものなるに、他はなしとせざるを笑はれんとを恐るゝに借りいふ語。轉じて、思想鼻しき者の他を誘導するに借りいふ語。○〔國語〕「公嚇以其嚇言」「韋昭曰、嚇、恐也、若在山—」「嚇臣乎」。
〔後漢書〕前に同じ。○〔莊〕「今子欲以子之—」「—」と同意。
〔後漢書〕前に同じ。○〔後漢〕「—何等」。
〔後漢〕あ（ぎ）〻てあら〻しき氣息の出づるにいふ語。○〔任昉〕「—狀雷奔」。
〔後漢〕口を開けてあら〻しき氣息を吞す。○〔後漢〕「—朝宴」。
〔後漢〕えかる。○〔後漢〕「—朝宴」。
〔後漢〕思ひ沸はんとてえかる。○〔司馬光〕「—」。
〔後漢〕おそかしえかる。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕おそかしえかる。○〔後漢〕「—」。

嚇 エフ。徐涉切 葉
嚇の條を見よ。

嚎 エイ、ヤウ。于兄切 庚
なく（啼）。

噫 チン。烏本切 阮
小さき口。

嚊 ヒ。匹備切 寘

嚊 キ。虛器切 寘
咽に同じ、いき、又、いきす。○〔揚雄〕「飛廉雲師吸—」。

嚈 アツ、アチ。烏八切 黠
咽の中の聲の利ならざるにいふ字、むせぶ（噎）又、其の聲にもいふ字。

嚌 ギヨク、ゴキ。魚力切 職
ギ、キ。偶起切 紙 魚記切 寘
㊀小兒の智多きにいふ字、さとし。
㊁笑ふ貌にいふ字、わらふ。
㊂あざむく（紿）。
〔漢書〕「—」「疑無」。

嚌 チウ、ヂュ。除留切 尤
㊀たれ、たそ（誰）。㊁たぶらかす（誑）。

嚊 ヨ。羊諸切 魚
嘘—は、重き物を引くに力を勵むる聲、ばやし、きやり。

嚊 ボウ、モウ。謨蓬切 東
言明かならず。

嚌 セイ、ザイ。才詣切 霽
㊀なむ（營）。○〔禮〕「小祥之祭、主人之酢也—レ之」。
㊁祭に同じ、まつる、まつり。○〔儀〕「加レ俎—レ之」。
㊂なむるに供ふるもの、なめもの、又、まつりに供ふるもの、そなへもの。
〔禮〕「君執二鬯・刀一盥レ—」。
〔後漢〕ねむ。○〔後漢〕「—」。
〔後漢〕あやはかなむ。○〔後漢〕「—」。

嚌 セイ、ザイ。前四切 齊
鳥の哀しき聲。

嚌 カイ。居諧切 佳
衆多の聲、衆多の語、かまびすし、やかましく、くだくだし。○〔趙抃〕「—咨誰復兒女如」。
〔後漢〕みはくの聲、みはくの輩。○〔後漢〕「嚌嚌嗟—」。

嚌 サイ。莊皆切 佳
笑ふ貌にいふ字、わらふ。

嚌 シン。即忍切 軫
いきどほる（憤）。○〔揚雄〕「除二中心之所欲通二諸人一—者莫レ如レ言」。

嚔 サフ、ソフ。從納切 合
—嚏は、深く算るる。○〔淮〕「至虛無二純一、而不レ—嚏苛事一也」。

十五畫

嚙 レフ。良涉切 葉
骨を齧む聲、又、齧む聲。

嚙 シツ、シチ。阻瑟切 質
咬—は、聲出づる貌又は言多き貌にいふ語。○〔王褒〕「啾咬—而將レ吟」。

嚙 シツ、シチ。之日切 質
俗の嚙の字。

嚙 シツ、シチ。之日切 質
野人の言、いやしきことば。

嚙 セキ、シヤク。施隻切 陌
たのむ、あつらふ（囑）。

嚙 テイ、タイ。丁計切 霽
鼻より氣の遊び出づるにいふ字、はなひる、くさめす、くさめ。○〔詩〕「嚙言則—」。

嚙 チ。陟利切 霽
本、齧に作る。「嚙」りて行かず、さゝはる。

嚙 ロ。備五切 麌
㊀かたる（語）。㊁へつらふ、諂。
㊂惜しむ、ものしむ、をし。○〔樂王女阿〕「吐—尋河・歌」。

嚙 イフ、オフ。域及切 屋
嘔に同じ、衆くの聲。

嚙 キフ、コフ。迄及切 緝
衆くの聲の疾き貌にいふ字、こゑはやし。○〔王褒〕「—蟲嘩疑」。

嚙 ケン、ゲン。胡千切 先
㊀なゝる（雜）。㊁こゑ（聲）。
㊂囂に同じ、けはし。

嚙 ラウ、ロウ。盧皓切 皓
人無し、まづか（靜）さびし（寂）。

嚙 ゲキ、ギヤク。奇逆切 陌
㊀たはむる、又、たはむれ（戲）。
㊁笑ひて止まざるにいふ字、わらふ、（嘻嚙）。

嚱 シツ、シチ。貧悉切 質

一蟲鳴く、なく。　二鼠の聲。

噫 噎に同じ。

ハク、ホク。北角切 覺

曝 ハウ、ボウ。薄報切 號

一怒る聲。
二杖を投げ放つ聲。○〔莊〕「擁レ杖而起―、然放レ杖而笑」。

曝 ハウ、ヘウ。披教切 效

聲

噍 ハウ、ボウ。薄報切 號

聲多し。かまびすし。さわがし。

噍 ハウ、ペウ。蒲交切 肴

咆に同じ。ほゆ。

噬 チ、ヂ。陳知切 支

緩慢なる語音。

噯 イウ、ウ。於求切 尤

一憂ひて辭未だ定まらざるさま。○〔說文〕「―語未レ定也」。
二なげく。〔歎〕。○〔韓愈〕「佇立久咿」。
三むせぶ。〔噯〕。

嚙 ガウ、ゲウ。五巧切 巧

飲咬に同じ。骨を齧む。かむ。

嚚 ギン、ゴン。語巾切 眞

一語聲。
二ものいふか。〔愚〕。○〔書〕「父頑母―」。

嚚 ガン、ゲン。牛閑切 刪

語聲。

嚼 セツ、セチ。昌悅切 屑

口正しからず、ゆがむ。

嚝 トウ、ヂ。大透切 宥

讀に作る。書を讀むよむ。

嚙 嚙に同じ。

コク。火沃切 沃　呼木切 屋

嚙 コク。密北切 職

一辛味舌を刺戟す。さす。ひりつく。○〔說文〕「食レ辛―也」。
二大いに吸る。すする。○〔玉篇〕「伊尹曰、酸而不レ―」。

嚙 ビ、ミ。密二切 眞　莫佩切 隊　ボク、モク。密北切 職

―床は、いつはり、詐言、又、あざむき。〔歇問〕、又、わるがしこし。〔狡獪〕。○〔揚雄〕「江・湘之間、凡小兒多レ詐而獪或謂二之―床一」。

嚙 ボク、モク。密北切 職

自得せざる貌にいふ字。○〔史〕「子曉―――兮、生之無レ故」。

嚝 クワウ。虎横切 庚

鼓鐘の聲。

嚝 シュ、ス。變遇切 遇

犬を使ふ聲。

十六書

嚥 エン。於甸切 霰

咽に同じ。のみくだす。のむ。○〔譚子化書〕「閑二珍羞之名一、則妄有レ所レ―」。

嚦 レキ、リヤク。郎狄切 錫

聲。

嚨 ハウ、ヘウ。披教切 效

大いなる聲。おほごゑ。

嚧 ロ。落胡切 虞

一豬を呼ぶ聲。　二笑ふ貌にいふ字。

嚨 ロウ、ル。盧紅切 東

のど。のどぶえ。〔喉〕。○〔後漢〕「吏買レ馬、君買レ車、請爲二諸君一鼓二―一切一」。

嚨 ロウ、ル。盧紅切 東

大いなる聲。おほごゑ。

嚩 ハク、バク。符擭切 麥

梵語の「バク」又は「バク」の音にあて用ふる字。

嚪 タン。徒覽切 感　徒濫切 闞

喫。啗に同じ。くらふ。くらはす。○〔史〕「今三趙―レ秦以二伐レ齊之利一」。

嚇 キヨ、コ。休居切 魚

なく。〔驚〕。

嚆 嚆に同じ。

嚬 シン。初觀切 眞

ほどこす。ほどこして、施。○〔隋煬帝〕「第子一日蕃―」。

嚬 ヒン、ビン。符眞切 眞

憂へて眉を蹙む。愁へて顰を蹙む。ふかむ。ひそむ。○〔通鑑〕「明主愛二―一笑」。

〔詩疏〕ひそみを開く。憂ひを去る。○〔論衡〕「嚬・中語益不レ―」。
〔小疏〕すこしくふかむ。○〔詩經〕「―蹙嚬嚬」。
〔毛詩〕前に同じ。○〔玉篇〕「敬笑貌」。
〔孟子〕君上の人ひそめば國家まもりて其れに倣ひひそめをいふ、上に何るに切りいふ。○〔史〕「―之蹙頞焉」。
〔上疏〕ひそみの色に勝れて可憐なるにいふ。主に美人にいふ。○〔呂覽〕「玉顏嚬眉巧笑―」。

嚷 クワイ、エ。結回切 灰

よぶ。〔呼〕。

嚭 ヒ。匹鄙切 紙

おほいなり。〔大〕。

嚮 キヤウ、カウ。許亮切 漾　向に同じ。

一むかふ。〔對〕。○〔書〕「不レ可二―一亂一」。
二さきに。〔嚮〕。○〔漢〕「―使丞相・不三先聞二取吏言一、何見二勞・勉之有一」。
三まど。〔牖〕。○〔淮〕「四・方皆道之門・戶―也」。
四うく。〔享〕。○〔史〕「已」「其利一者、爲レ三嚮に同じ、ひびき。○〔易〕「其受レ命也如レ―」。
五饗に同じ、ちそう。○〔漢〕「上・帝嘉レ〔新語〕已れが思ひ通りに物事の進捗せんとを思ひはかふ。○〔莊〕「子・孟・有レ―」。
六饗に同じ、ちそう。○〔漢〕「上・帝嘉レ〔新語〕已れが思ひ通りに物事の進捗せんとを思ひはかふ。○〔莊〕「子・孟・有レ―」。
〔前漢〕向きるよ。○〔陸機〕「彼―、之・有・嚮・惟・者也」。

鄉 キヤウ、カウ。許兩切 養

兩つの階きだはし。

十七書

嚶 キ。虛宜切 支

一口聲。くちぶえ。
二歎息して發する聲。驚愕して發する聲。あゝ。○〔李白〕「嚶嚶―危乎高哉」。

嚶 キ。香義切 寘

こゑ。〔聲〕。

嚵 セン、子廉切 鹽　ソン。切 豔　セン、子豔切 豔

廉ならず。むさぼる。

嚳 タウ、ドウ。大到切 號　本〔數〕に作る。

年齡九十の者。一說に、年齡七十の者、さしより。

嚶 ケン。居件切 銑

どもる。又、どもり。〔吃〕。

嚶 ケイ、キヤウ。詰定切 敬

長き聲。

嚲 タ。丁可切 哿　本〔靡〕に作る。

一ひろし。〔廣〕。　二あつし。〔厚〕。
三垂れ下がる貌にいふ字。たる。さがる。○〔李參〕「柳―驚嬌花復殷」。

嚳 コク。苦沃切 沃

急ぎて告ぐ。つぐ。

嚴 ラン。落干切 寒

音語雜亂にして解くべからざるにいふ字。もつれ。わからず。

嚵 ラン。魯旱切 旱

讒に同じ。誣ひて言ふ。まふ。

嚵 嚵に同じ。

嚴 ゲン、ゴン。魚枚切 灰

一威ありて長憚すべきこと。嚴儼正しく整ひたること。總べて、他をしてかろんしく思はしめざる勢あることにいふ字。おごそか。○〔禮〕「師―然後道尊」。
二おごそかなり。いかめし。○〔漢〕「日・磾長八尺二寸、容貌甚―」。〔歸論〕「罰―峻刑」。
三きびし。
〔い〕殘酷なり。からし。〔苛〕。○〔道德指〕「―ゆるからず急なり」。
〔ろ〕ゆるからず急なり。○〔史〕「督―甚―貴益」。
〔は〕規律太だ正し。○〔後漢〕「匿而〔に〕にげし。〔烈〕。つよし。〔毅〕。はなはだし。〔甚〕。○〔李白〕「始知殺氣―」。
四たふとし。〔尊〕。○〔禮〕「收族放宗―廟」。
五いましむ。
〔い〕おごそかにす。いかめしくすきびしくす。○〔禮〕「申―號令」。
〔ろ〕敵に對して備を設く。○〔管〕「何故夜―」。
六つゝしむ。つゝしみ。〔敬〕。○〔書〕「日―祇敬六德」。
七憚る。尊ぶ。○〔史〕「―重之」。
〔孟子〕「不足以爲發位」。
〔中庸〕いましむ。○〔禮〕「孝秋之月―――明令」。
〔外傳〕つゝしみおそれかなる。○〔漢〕「子也孔人―――」。
〔前漢〕「有二敬事一」。
〔前漢〕嚴厲にしてきびしきこと。○〔後漢〕「――烏少・嚴密」。
〔管子〕たゝくおそれかなる。○〔漢〕「――若前に同じ。○〔學衡〕「頃・嚴――」。
〔管子〕天子の宮殿を指していふ語。○〔蘇軾〕「入奏――」。「出・學・方面」。
〔孟子〕正しくおそれかなる。○〔宋〕「夢・嚴――」。
〔方言〕前に同じ。○〔管子〕「――紙――」。
〔孟子〕前に同じ。○〔管子〕「――般――」。
〔孟子〕きびしくいましむる。おもに數・伊の改成に用ふ。○〔禮〕「京・師――」。
〔荀子〕おそれかなる。○〔王僧孺〕「百・――」。「――編」下。
〔韓愈〕つよくしてきびしきこと。○〔管子〕「――」。
〔孟子〕おそれかなる。○〔禮〕「――法度――」。
〔管子〕きびしくして犯すべからざること。○〔禮〕「王・師・部・伍――」。「――缺有・間・色」。
〔管子〕正しくつゝしむこと。○〔賈山・至言〕「――敬・若・子・不・可見其――」。
〔國語〕「――之色」「――敬之容」。
〔國語〕「――之色」「――敬之容」。
〔管子〕「――之色」「――敬之容」。
〔國語〕「――之色」「――敬之容」。
〔國語〕「――之色」「――敬之容」。
〔國語

嚾 クヮン。呼玩切 [嚾]
喚に同じ、よぶわめく。○〔禮〕「呻—者九竅而胎生」。

嚾 タン。吐玩切 [嚾]
めす（召）、よぶ（呼）。

嚾 クヮン。呼官切 [麥]
喜喊の聲にいふ字、やかましく、かまびすし。○〔荀〕「世俗之溺、猶聳儛—！—然不知其所已非也」。

囋 カク、ヲク。胡白切 [陌]
ほこる（誇）。

囀 テン。知戀切 [霰]
㊀聲の轉すること、てうし、さらべ。○〔顏延之〕「聽三逸、節之嘶—」。
㊁鳥鳴くさへづる、なく。○〔庾信〕「新年鳥聲千囀—」。
〔謝〕而—。
〔博物〕鶯をよろかにさへづる。○付長明〕「鶯—囀」。
〔百物〕鳥度もさへづる。○〔貫注〕「—…鳴聲」。
〔懷物〕さびしゆにさへづる。○〔陶〕「鳴鶯—」。
〔續物〕こゑが如き聲してさへづる。○〔佛說〕「—聲風語」。
〔急物〕聲せはしゆにさへづる。○〔蘇〕「黃鸝—」。
〔神物〕た（なるしらべ。○〔元稹〕「百囀—…而一首四」。

囁 セフ。之涉切 [葉]
子。而涉切
口に節なし、語りて已まず、口動く、私に屬る、かたる、うごく、かまびすし、さゝやく。○〔史〕「乃效二女兒咕—耳語」。

囂 ケウ。許嬌切 [蕭]
㊀聲多し、言繁し、言聲囂ふべし、かまびすし、さわがし、わづらはし。○〔左〕「湫隘—塵」。
㊁おほし、衆多。○〔淮〕「真レ—二大心」。
〔重語〕（ハ）かまびすし。○〔禮〕「嚣—…」。
（ホ）自尊して勢ひを敵にはいふ語。○〔荀〕「人知之本—…人不知本—」。
（ヘ）喜ふる敵にはいふ語。○〔莊〕「天下何其—也」。
〔同語〕かまびすしやかなし。○〔呻〕「聞—…」。
〔讀語〕前に同じ。○〔韓〕「聞—…」。
〔續語〕前に同じ。○〔柳宗元〕「蛙鼓—…」。
〔續語〕前に同じ。○〔柳〕「—…」。
〔紛語〕前に同じ。○〔朱熹〕「自此—…」。
〔讀語〕煩囂甲國の。○〔同〕「標—…」。
〔新語〕其外あがりてかまびすし。○〔禮〕「—…」。
〔復語〕わづらはし。○〔杜牧〕「愚懷—…」。
〔常語〕世の中のかまびすしきん。○〔荀〕「—…」。
〔常語〕物事の上べのみを喜ぶるも。○〔韓〕「—…」。

囂 ガウ、ゴウ。牛刀切 [豪]
㊀前條に同じ、かまびすし、おほし。○〔詩〕「讒口—…」。
㊁山の凹地。○〔梁宣帝〕「神—茁々」。
㊂鳥の名。○〔山海經〕「梁渠之山有レ鳥、狀如二夸父一、四翼一、自犬尾、名曰レ—」。
㊃獸の名。○〔山海經〕「雞次之山有レ獸、狀如レ禺、長臂善投、名曰レ—」。

囃 ヨウ、ユ。於容切 [冬]
鳥の聲。

囃 サフ、ソフ。倉雜切 [合]
舞を助くる聲、はやし。

十九畫

囑 テン。丑展切 [獮] テツ、敕列切 [屑]
笑ふ貌にいふ字、わらふ。○〔莊〕「—然而笑」。

囈 ゲイ。倪制切 [霽]
睡中の語、戲笑の語、たはごと、れごと。○〔列〕「眠中囈—…呻呼」。

囉 ラフ、ロフ。盧盍切 [合]
骨を碎む聲にいふ字。

囉 ラ。魯何切 [歌]
歌謠の調を助くる聲、又、ゆるやかにして單純ならざる調ある聲、又、小兒の語のもつるゝ聲。○〔王褒〕「行鏗鏘以鮮—」。

囉 ラ。利遮切 [麻]
—戀は、多言。

囉 ラ。則可切 [哿]

囉 ラ。耶佐切 [箇]
こゑ（聲）。

囉 ラ。郎可切 [哿]
うたふ、又、うた（歌）。

囉 ウン、チン。禹慍切 [問]
鳥鳴くさへづる。

囊 ダウ、ナウ。奴當切 [唐]
㊀底を縫ぢ口を殺けて物を藏め納るゝに用ふる具、紙、革、巾などにて作るふくろ。○〔詩〕「于レ橐于レ—」。
㊁轉して、物を藏め納るゝものに借りいふ字。○〔晉〕「且吾投老扣二—底智」、足二以勉之」。
㊂ふくろに藏め納る、ふくろにす、又、つゝむ。○〔孫戴〕「編レ棟沓利、徑—レ沙塞二市門一」。○〔莊〕「乃始鬻巹偷—而亂二天下一」。
㊃選に同じ、はらふ。○〔莊〕「乃始鬻巹偷—而亂二天下一」。
〔囊語〕このふくろ、ふくろ。○〔綽〕「故曾藏玉、ふくろをかたむく、有るものを出だすに いよ。○〔曾〕「—相付」。
〔囊語〕ふくろを結ぶといふ上の如きあるにいふ語。○〔後漢〕「或見二袋之佐—…ゆ」。
〔囊語〕くすりのふくろ。○〔同〕「以其所二藥—」
〔囊語〕藏のふくろといふ上の如きあるにいふ語。○〔同〕「大子家說曰—…」。
〔囊語〕香のいれあるもの。○〔同〕「所持—…」。
〔囊語〕めしあくろといふ上の如き乳なる人物を嘗た食事して生活するたげにて何の効能なきものをいふ語。○〔金樓子〕「袋書酒囊—…」。
〔囊語〕つゝ好ち。○〔蘇德輝詩〕「—…陸海」。
〔囊語〕わしろにて作りたる袋。○〔南方草木狀〕「交趾人以—…酒」。
〔囊語〕つるしたる袋。○〔一說〕「彭如—…」。
〔囊語〕藥花の別名。
〔囊語〕沙糖を袋に入れるにしたるたる大いなるふくろ。○〔宋史〕「—…砂糖半斤」。
〔囊語〕はなたれの巾もてしつも、たるふくろ、書籍を入るゝに用ふるもの。○〔同〕「錄—…書書、謂以—…」。
〔囊語〕にしきのふくろにてしつらへたるふくろ。○〔五〕「—」。
〔囊語〕くゝりぶくろ。○〔陸龜蒙〕「采藥書花、作—」。
〔囊語〕作りたる酒を入るゝふくろ。○〔陸龜蒙〕「古鎗—…酒句也」。
〔囊語〕「飲書付—…」。
〔囊語〕衣嚢に付けたるふくろ、かくし。○〔宋史石〕
〔囊語〕うきふくろ、水に浮ぶの助けに用ふるもの。○〔同書〕「城塹—…し、木、可、不、宜也」。
〔方言語〕いろ〳〵のものをえる、手提ふくろ。○〔同書〕「秦宰王後嚢作—…」。
〔嚢語〕人身のも。○〔同書〕「—…」。
〔嚢語〕「—…」。
〔嚢語〕「—…」。
〔嚢語

囝 月に同じ、唐の則天武后の作。

回 クワイ、ヱ。戶恢切 灰 俗に、回に作る。

一めぐる。

（い）まどかに動く、わなりに移轉す。○〔淮〕「日—而月問。

（ろ）一處を往復す、立ちまはる。徘徊す。○〔史〕「余低—留之不能去」。

（は）其れから其れへと互り行く。○〔沈佺期〕「仙槎何處—」。

（に）取り捲く、圍む。○〔李嶠〕「合浦夜光—」。

（ほ）曲折す。○〔孟浩然〕「尋幽石徑—」。

（へ）故に戻る、かへる。○〔楊維楨〕「將軍泰山凱—」。

（と）後へ向く。○〔杜牧〕「兩行紅粉—」。

一めぐらしむ、まはす、めぐらす、又、かへす。○〔屈平〕「三朕車以復路」。

二正理に違ふと、邪曲なりと、よこしまと、又、たがふ、ひがむ。○〔詩〕「求ル福不ル—」。

（ち）伸びす、かどむ、〔屈〕。○〔後漢〕「可ヲ加」。軟、怒ニ申宥ル—」。

（り）そとのかこひ、まはり、めぐり。○〔盧山記略〕「周—垂三十五百里」。

（ぬ）同一の事柄をくりかへすこと、たびたび、度數。○〔孟郊〕「一日踏ル青一百—」。

（る）聲にいふ字。○〔關尹子〕「人之善ル琴者有ニ怨心一、則聲—」。

（を）明かなる貌にいふ字。○〔張衡〕「欲—其揚ル靈」。

〔文選〕　とゝしまなること。○〔名〕「其—」。〔大戰論〕「前代同じ。○〔孟〕「若若說—」。〔西京賦〕「—」。〔孟〕「ゆきつもどりつ。○〔孟〕「—」。

〔後漢〕　いくたび。○〔杜牧〕「—往觀南陵—」。〔禮記〕　度々行き、かへること。○〔名〕「—」。〔周禮〕「—」。〔史〕「—川谷之間」。〔史〕「—」。〔周禮〕「四山—」。〔孟〕「—」。〔孟〕「—」。〔孟〕「

〔項部〕前に同じ。○〔編韻部〕「心」直項切。

〔項部〕前に同じ。○〔編韻部〕「心」直項切。

〔項部〕いやしきこと。○〔國〕「以賢則君有」—之

〔項部〕ちつくしてかたし。○〔後漢〕「皆貧」—。

〔項部〕一つにかたまりて他に隨せぬこと。○〔後漢〕

「—」所「惑」。

〔項部〕ふかくしてかたきこと。○〔後漢〕「陰陽等自

然」—」、「不復敢」「問」。

〔項部〕いやしくして聰慧を知らぬこと。○〔國語〕「夫

惟官人之」—」「号」。

〔項部〕未久にかたし。○〔論語〕「慎」、「終」如「始」、可以

—」。

〔項部〕すぐれてかたし。○〔宋〕「詩」「—」「慎」。

〔項部〕惜めてかたし。○〔論〕「—」「慎」。

〔項部〕忘のあつくしてかたきこと。○〔晉書〕「後乃

「敢」「—」。

〔項部〕玉の如く堅きこと。○〔論語〕「如」—之」、「如」

「磨之」「磨」。

〔項部〕愚昧にして深に通ぜざること。○〔晉書〕「之」「未

「—」。

四畫

囿 チウ、ウ。烏孔切 **置**

囿き穴。

囷 チツ、陟栗切 **質** テツ、丁結切 **屑** チヽ。切

下に入る、おちいる。

囿 イウ、ウ。于救切 **宥** 于九切 **有**

囿 イウ、ウ。于救切 **宥** 于九切 **有**

❶外國に溝垣の設けある苑、古は禽獸を放ち畜ふ場所とす、その。○〔孟〕「文・王之」—。

❷かき、さきり、垣籬。○〔禮〕「正・月祭」—」。

❸ばたよ、かこひ、園圃。○〔通鑑外紀〕「侯」「山・川・土・地之勢」、「財・度」「爲」「九」—」。

「州」「國」「之九」—」。

囚 シウ、シヤウ。七情切 **侵** 倉經切 **青**

❶とらへ、とりこ。❷とらへ、とりこ。❸とらへ、とりこ。

〔囚部〕獄に同じ。○〔國〕「以賢則君有」—」之

〔囚部〕ものいはぬこと

なで五十九年間。○（王禹偁）「一…一都城」。

（判書）たちならぶ。○（呂）「一…一」。

（書）四方に敬を受くる地勢の地。○（管）「讓正方」。

（四方）「乃一…」。

（四面）かたよりあるくに、まなかなに。○（荀）「聘」。

（報聞）くにの恩沢に対くいて力を盡くすこと。○（管）「昂」。

（報）「昂」。「仰」。「仰」。

（海）うみは近きくに、又、うみの中にある島々に。

○（孫）「一…」。

（兄弟）ちちの弟きくに。○（呂）「親」。

（千乘）大諸侯の封土。○（呂）「寇」。

（四戰）四方に敵を受けたるかたに。○（史）「一…之一」。

（四戰）四方に敵を受けたるかたに。○（史）「一…之一」。

（趙）「一…之一」。

（禦）「一…之一」。

（四海）四方に山河を以て敵国の境をよさ

てあるくに。○（史）「海一…之一」。

（父母）「一…之一」。

（上樹）敵国時代の宋の国の上官。○（呂）「宋」。

（冠帶）韓国正しきくに。○（呂）「蠻方外之地」。

（父母）「父母」。

（冠帶）正しき人。

（月氏）形勢要害の地。○（呂）「荆州北陸」。

（月氏）「月氏」。

（利國）南海、東陸海、西隴巴蜀、此一…之一」。

（管子）「東方有一…之一」。

（孫子）「孫子」。

（孫子）「孫子」。

（孫子）「孫子

圜 セン、淳浴 先 セン・切 セン、要兗 銑 セン・切
樽に同じ、樽を載する車。

十二畫

圓 クワイ、エ。胡隊切 隊
かど、門闕。

圝 セン。須緣切 先
面圓し、まるがほ。

十三畫

圞 エキ、ヤク。羊益切 陌
同り行くにいふ字、ゆく、めぐる。○〔逸周書〕「―…升レ雲半有半無」。

圜 エン、ウン。王權切 先
圓に同じ。○〔周〕「規レ之以貶二其一也」。

圜 クワン、ゲン。戶關切 刪
めぐる、〔繞〕、かこむ〔圍〕。○〔賈誼〕「天下―視而起」。

十四畫

圞 古文の獄の字。

十六畫

圞 キン、クン。俱倫切 眞 苦殞切 軫
クン、コン。丘粉切 吻
つかぬ〔束〕。

圞 コン。苦本切 阮
成就す、なる。

十九畫

圞 ラン、落官切 寒
圓に同じ。○〔孟郊〕「意比二小圞一」。

土部

土 ト、ツ。逢戶切 麌
一つち。
（い）地球の水もて蔽はれざる部分、即ち、陸。○〔書〕「咨禹汝平二水一」。
（ろ）陸の植物の生ひ出で、又、耕種すべき部分、〔或は、物自生すれば土といひ、耕種すれば壤といふと、區別しての說あれども土は、彼此の總稱にいふと多し〕。○〔易傳〕「百穀草木麗二乎一」。
（は）前項の部分を構成して草木其の他種々の物を生ト出だすもの、〔岩石・鑛物など分かつ〕。○〔後漢〕「其山有二丹一」。
（に）五行〔支那古昔の學說にて、萬物の原素となす五ツのもの、即ち、水、火、土、金、水の一にして其のうちにて主となり、又、中となるもの、故に五行を人倫に配すれば土は、君の官にあたり、時氣に配すれば夏の中にあたり、五音に配すれば宮となり、五星に配しては塡星にあたり、十干にては戊己にあたる。○〔春秋繁露〕「―者五行之主也」。
（ほ）又、支那古昔の學說にて、萬物の生出し、又、歸著する所となすもの。○〔莊〕「百昌皆生二於―一而反二乎―一」。
一山地に對して、平地。○〔周〕「―國用二人節一」。○〔國〕「晉之啓―、亦「不レ宜乎」」。
二邦國、又、領地。○〔國〕「晉之啓―、亦「不レ宜乎」」。○〔歐陽詹〕「致二民樂一」、而安二其志一也」。○〔後漢〕「安レ―重レ居」。
三居處。○〔後漢〕「久在二絕域一、年老思レ―」。
四故鄉、ふるさと。○〔後漢〕「久在二絕域一、年老思レ―」。
五事業、わざ。○〔皇極經世〕「天子以二九州一爲レ―、仲尼以二萬世一爲レ―」。
六なる〔居〕。○〔詩〕「自二沮漆一」。
七ほかる〔度〕。○〔周〕「以致レ日、以レ―地」。
八地を守護する神、つちのかみ。○〔蜀仲舒〕「諸侯祭レ―」。
九八音の一、つちを燒きてこしらへたる樂器。○〔周〕「金石―革」。
十壁に同じ、棺の穴の周りをふさぐ磚。○〔禮〕「下―嬪一周」。
十一桑の木の植物の根の白き皮。○〔詩〕「徹彼桑―」。
十二〔徹〕、彼桑―。○〔周〕「―…」。
〔説文〕「―…」。
〔説文〕「―…」。
〔説文

㊀低き處、底。又、下位。ふも、（天に對して。○易〔始登于天〕後入于—。
㊁預め供へ設くるもの。まうけ。○〔金圖經〕「其門十二、各有二標名二墨書紡—」。
㊂支那古昔の學說にて萬物の依りて生ひ出づる根原。天と共に。○〔管〕「者萬物之本原、諸生之根、氣也。」
㊃つちな主宰する神。○〔漢〕尊二天敬レ—。
㊄たゞ。〔但〕。○〔漢〕「四、曹—忍之。」
㊅又、語に添へ用ふる無意味の字。○〔王建〕「忽—下レ階帶解」

〔塲地〕場のある場りあなこと。〔自出〕。〔自出〕。〔自出〕

〔説文〕動かなゝの貶取するを防ぎしてとゞまりあつたまゝ。○〔陸倕墓〕勇動――。
〔説文〕他人の岸高なりといふ山の名。○〔呂覽〕往過孟子、所水之上、來登孟子――之丘。

坍 タン、トン。他酣切 覃 ―鈍又は、―に作る。

一水、岸を打つにいふ字。うつ。
二崩れたる岸きし。

坒 ヒ、ビ。毘至切 寘

坒に同じ。本、比に作る。ならぶ。○左思「工・賈斷―」。

坎 カン、コン。苦感切 感

一土地の凹みてうつろになりたる處、あな（穴）。○〔儀〕「既夕掘―」。
二險難なり、さがし、けはし、又、其の事、其の處。○〔易〕「習―重險也」。
三穴に落つ、おちいる、又、險難に會ふなやむ。○〔黃侃〕「抑人之自―其命也」。
四穴に入らしむ、あなにす、おとしいる。埋む。○〔唐〕「函使―閉―」。
五易の卦の名。☵☵坎上下。○〔易〕「習―有孚維心亨」。
六方角の名、正北。○〔易〕「―者水也、正北方之卦也」。
七前項の例より水の義にいふ。○〔蘇轍〕「得―浮・槎・樵―有―命」。
八物を擊つ聲。○〔詩〕「其擊―鼓―其擊―缶」。
九力を用ふる聲。○〔詩〕「―伐檀―」。
十はかる（絃）。○〔爾註〕「―卦主法律、所三以銓二貴輕重一」。
十一壺に似たる小きさかづきの名。○〔爾〕「小―桑謂之―」。
十二星の名。○〔星經〕「九―九星、在二牛星南一」。
〔玉篇〕坎、陷也。○〔説文〕「―、陷也」。

坎 カン、コン。苦紺切 勘

けはしき岸きし。

坏 ハイ、ヘイ。枚切 灰 通して阿、又、坯に作る。

一一つ重なりたる山、又、なか（草）。○〔爾〕「山上更有二一山一、重巢者名―」。
二素だ燒かざる瓦、瓦の素たち。○後漢「―冶一陶、革生得レ理」。
三土をもて壁の隙を封す、ふさぐ、とづ。○〔禮〕「孟・冬使三有司一二城・郭一」。
四屋後にある牆壁。○〔揚雄〕「故士或自盛以レ窶、或壑レ―而亡」。
〔説文〕瓦未燒者。○〔廣韻〕「―、瓦器」。
〔説文〕瓦器未燒者。○〔周文遺〕「―廟、若―

坷 カ。口我切 圖 口箇切 圖
㊀平かならず、さがし、けはし。○〔蘇軾〕「雖二豈覺一山徑一二。」
㊁さがしきに會ふ、なやむ。○〔蘇軾〕「空室自困一一。」
〔我〕さがし又、なやむ。○〔揚雄〕「禮樂崩壞一一。」
〔自困〕前に同じ。○〔論衡〕「困一一。」

垈 フン。於問切 圖
又垈に作る。はらふのぞく、掃除。

坑 ケツ、ケチ。胡決切 屑
㊀空しくして深き貌にいふ字、むなし、ふかし。㊁あな、〔穴〕。㊂ふさぐ、又、ふさがる、〔塞〕。

坡 ハツ、ボチ。蒲撥切 月 ハチ、ボチ。北末切 曷 又墢に作る。
土を鋤く、土を發こす、すく、又、なさむ、〔治〕。○〔國〕「王耕一一。」

坻 チ、ヂ。直尼切 支
㊀ふまま。
〔い〕小さき洲。○〔詩〕「宛在二水中一一。」
〔ろ〕纏べて、水中に在る高き地にいふ字。○〔左〕「有二酒如一淮有二肉如一一。」
㊁波の打ちぎは、水と陸の際、なぎさ、みぎは、又、船を繫ぐ處。○〔王粲〕「滯暮末レ安一一。」
〔蘇軾〕岩石なるなぎさ。○〔揚雄〕「一一之尾」。
〔蘇軾〕なぎさ。○〔蘇軾〕「正與林黨四一一。」

坻 シ。常氏切 紙
㊀とゞまる、〔止〕。○〔左〕「官宿二其業一、其物乃至若二泯棄之一一物乃一一伏。」
㊁小高き處、つか。○〔王粲〕「墜者若レ雨、墮者若レ一一。」
〔左傳〕をおを云ふ。○〔國語〕「晉語一一一。」
〔四〕「晉語之語」月名。

坻 テイ、タイ。都禮切 齊
さか、〔坂〕。○〔上林賦〕「下二磧一一歷之一一。」
〔張揖〕さか。○〔西京賦〕「坻一一帶二西成一一。」

坼 タク、チヤク。耻格切 陌 擇、拆、脈に同じ。
㊀さく、〔裂〕。○〔漢〕「日南地一長百一餘里。」
㊁ひらく、〔開〕。○〔易〕「雷雨作、而百一果一一。」
〔蘇軾〕はなれさく。○〔宋〕「李璧西狩碑、開道一一。」
〔蘇軾〕ひらく。○〔蘇軾〕「雷雨作、而百一果一一。」
〔蘇軾〕ひらく。○〔蘇軾〕「雷雨作、而百一果一一。」
〔蘇軾〕なちいりわる。○〔白居易〕「土鼓一一谷枯川竭。」
〔古詩〕古賢、盤の中を鏡きて其のさが形に似るてうちなれよ。○〔蘇軾〕「卜人一一。」
〔蘇軾〕〔い〕〔紅軾〕に同じ。
〔ろ〕又、田地なども畠にてさけたるさまの占ひに用ひたる龜の甲のさけ方に似たるにいふ。○〔詩〕「草田中作一一兆一一。」
〔紅軾〕やぶれさく。○〔社牧〕「板蔚似一一。」
〔紅軾〕花ひらく。○〔白居易〕「鶴者一初一一。」
〔紅軾〕やけ割る。○〔梅堯臣〕「天津橋自歌一一。」

坼 タク、チヤク。敕格切 陌 擇、拆、脈に同じ。
積みてある處ちり。

坩 チヨ、ド。丈呂切 語
けはしきさま、〔峻岸〕。

坍 レイ、リヤウ。郎丁切 青
㊀水晶石の別名、白石英。○〔司馬相如〕「雌黃白一一。」
㊁竹木を綴ちて水に浮べ運ぶもの、いかだ、〔筏〕。

坪 フ、ホ。符遇切 遇 附に通ず。
ます、〔益〕。

坪 コ、ク。荒胡切 虞
㊀かまへ、くるわ、ちり、〔埒〕。
㊁わづらはし。○〔淮〕「贏一一有無之〔精〕。」

垓 チ、ヂ。直几切 紙
雉に同じ、かき、障屏。○〔太玄經〕「宗廟中有二黃一一金策一二。」

垂 ス井、ズキ。是爲切 支
㊀たる。
〔い〕上より下に垂るゝ、さがる。○〔柳宗元〕「連山倒一一萬象在レ下。」
〔ろ〕さがりてあらしむ、さぐ。○〔詩〕「於竹帛二一レ帶而厲。」
〔は〕後世に布く。○〔後漢〕「一一功名。」
〔に〕陸に同じ、ほとり。
〔い〕堂上の階に近き處。○〔書〕「一一人冕執鋭立二于東一一。」
〔ろ〕他國に接する境土、國のはて。○〔漢〕「四方實服三一一晏然。」
㊂將に及ばんとすなん〳〵とす、ちかし、ほとんど、〔殆〕。○〔後漢〕「自在二漢川一一三十年二。」
〔蘇軾〕眉のはて。○〔本草〕「一一眉毛眼。」
〔低軾〕ひくくたる。○〔白〕「白鹿吟雲苦一一。」
〔蘇軾〕高山の如き者の四隅に垂をつけて土芥なを垂して掃よもの、者。○〔漢〕「天下大水、高倉鉄一一一一義長先。」
〔下垂〕下へさがる、さがる。○〔蘇軾〕「夢扶垂

垂 ス井、ズキ。殊爲切 寘
前條の㊂の解に同じ。

型 ケイ、キヤウ。乎經切 青 又型に作る。
かた。
〔い〕金類の器を鑄て造る具、土を以て造りたるもの、いかた、〔鑄式〕。○〔淮〕「金錫不二消鎔一一則不流レ一一。」
〔ろ〕轉ずて、模範、のり、てほんの意にもいふ。○〔朱熹〕「鄭鍾前頭翠作レ屏、晚來相對鬱一一。」

垢 フ、ホ。防無切 虞
㊀水晶石の別名、白石英。○〔司馬相如〕「雌黃白一一。」
㊁竹木を綴ちて水に浮べ運ぶもの、いかだ、〔筏〕。

垢 フ、ホ。符遇切 遇 附に通ず。
ます、〔益〕。

垣 コ、ク。荒胡切 虞
㊀かまへ、くるわ、ちり、〔埒〕。
㊁わづらはし。○〔淮〕「贏一一有無之〔精〕。」

垓 チ、ヂ。直几切 紙
雉に同じ、かき、障屏。○〔太玄經〕「宗廟中有二黃一一金策一二。」

垂 ス井、ズキ。是爲切 支
㊀たる。
〔い〕上より下に垂るゝ、さがる。○〔柳宗元〕「連山倒一一萬象在レ下。」
〔ろ〕さがりてあらしむ、さぐ。○〔詩〕「於竹帛二一レ帶而厲。」
〔は〕後世に布く。○〔後漢〕「一一功名。」
〔に〕陸に同じ、ほとり。
〔い〕堂上の階に近き處。○〔書〕「一一人冕執鋭立二于東一一。」
〔ろ〕他國に接する境土、國のはて。○〔漢〕「四方實服三一一晏然。」
㊂將に及ばんとすなん〳〵とす、ちかし、ほとんど、〔殆〕。○〔後漢〕「自在二漢川一一三十年二。」
〔蘇軾〕眉のはて。○〔本草〕「一一眉毛眼。」
〔低軾〕ひくくたる。○〔白〕「白鹿吟雲苦一一。」
〔蘇軾〕高山の如き者の四隅に垂をつけて土芥なを垂して掃よもの、者。○〔漢〕「天下大水、高倉鉄一一一一義長先。」
〔下垂〕下へさがる、さがる。○〔蘇軾〕「夢扶垂

㊃さかひ、〔界〕。○〔歐陽修〕「井邑畨一田一一。」
㊄まもり、〔守〕。○〔揚雄〕「重二垠累一一。」
㊅數の名、京の千倍、又、支那にては京の十倍なもいふ。○〔屬俗通〕「十億曰一兆一一、十兆曰一京一一、十京曰一一。」
〔八紘〕八方の國のはて。○〔王安石〕「書成不得一一論、但此宮禮傳一一一。」

垓 カイ。古諧切 佳
重れ殷けたる階段、かさなり、きだだん。○〔史〕「太乙壇三一一。」
〔蘇軾〕高く成（作れる壇。○〔李商隱〕「太付祝甸壇牲一一一。」
〔蘇軾〕たん。○〔王安石〕「白草摩崖路一一一。」

垂 イン。伊眞切 眞 シユ、ジユ。時注切 遇 トウ、ヅ。徒候切 宥
埋、埋、壁に同じ、ふさぐ、〔塞〕。

垍 テウ、デウ。治少切 篠 兆に通じ作る。
堆の本字。

垗 テウ、デウ。治少切 篠 兆に通じ作る。
㊀死者を葬りたる地のさかひ。○〔孝〕「卜二其宅一一而安三厝之一一。」
㊁時を殷けて祭る。○〔周〕「一三五帝于四一郊一一。」

垘 フク、房六切 屋 ホク、鼻墨切 職
土ふさがる、〔塞〕、又、くづる、〔崩〕、一說に、ながる、〔流〕。○〔史〕「川塞谿一一。」

垗 クヨウ。古黃切 陽
陽に同じ、陽、又は、暘にも作れり、ちまた、みち。

垠 ギン、ゴン。疑巾切 眞 疑斤切 文
㊀物事の界限、さかひ、かぎり。○〔楚辭〕「逆絶二一乎寒門一一。」
㊁きし、ほとり、〔岸〕。○〔歐陽修〕「有レ石露出寒溪一一。」
㊂かぎりなく殷く、かぎる。○〔宋〕「國祚何一一。」
〔九辯〕天地のはて、又、數も返ず歲の機にもいふ。
○〔書〕「九夫之惡日一一一。」
〔天問〕天のはて、又、前條の後段に同じ。○〔社牧〕「若夢南雲使、尋礼到一一一。」
〔八紘〕八方のはて、又、前々條の後段に同じ。○〔社牧〕「傳山動一一一。」

垠 コン。古恨切 願
土の起こりて跡あるにいふ字、岩など。

垡 バツ、ボチ。房越切 月 墢、耕に作る。又、坡に作る。
耕して土をおこす、たがへす、又、耕しおこしたる土。○〔韓愈〕「子期拜レ恩後謝レ病老二耕一一。」

垢 コウ、ク。舉后切 厚
㊀あか。
〔い〕皮膚に付著せるけがれ。○〔史〕「浴不二必江海一一、要二之去レ一一。」
〔ろ〕塵埃、ちり。○〔陸贄〕「至清無レ一一。」
〔は〕恥辱、はぢ。○〔左〕「國君含レ一一天之道也。」
〔に〕不德なること、又、惡念。○〔王僧孺〕「大招二離一一之實、廣集二塵一一眞之侶一一。」
〔ほ〕不淨なるもの、よごれもの、又、生地を截ひかくすもの。○〔韓〕「不レ洗一一而察レ雖知。」
㊁あか物に付く、よごる、けがる、あかつく。○〔禮〕「面一一、櫛二潘請レ願。」
㊂あか物に付かす、あかづかす、よごす、けがす。○〔傳燈錄〕「如何是淨土、曰誰一一汝。」
〔有題〕あかけがれて。○〔後漢〕「孝沐房は塵一去」
〔抒題〕前に同じ。○〔王粲〕「一一一浪鮮。」
〔抒題〕〔い〕〔ろ〕あか、けがれ、ちり。○〔白〕「眞山之玉、一一一不二拭習也。」

垢 コウ、ク。丘候切 宥
垢に同じ。○〔爾〕「一一謂之垢一一。」

垢 コウ、ク。居竹切 屋
耦に同じ、小さき丘。○〔揚雄〕「兎人呼二眞一一城中一日レ一一。」

垢 ヤウ。余章切 陽
土の精、又、其の化けたるもの、名。○〔易說〕「泰山失二金雞一、四嶽失二玉一一一。」
〔蘇洵〕土の精のばけもの。○〔記〕「以五所變、土之怪則一一也。」

垣 ギン、ゴン。疑巾切 眞 疑斤切 文
㊀物事の界限、さかひ、かぎり。○〔楚辭〕「逆絶二一乎寒門一一。」
㊁きし、ほとり、〔岸〕。○〔歐陽修〕「有レ石露出寒溪一一。」
㊂かぎりなく殷く、かぎる。○〔宋〕「國祚何一一。」
〔九辯〕天地のはて、又、數も返ず歲の機にもいふ。
○〔書〕「九夫之惡日一一一。」
〔天問〕天のはて、又、前條の後段に同じ。○〔社牧〕「若夢南雲使、尋礼到一一一。」
〔八紘〕八方のはて、又、前々條の後段に同じ。○〔社牧〕「傳山動一一一。」

垣 コウ、ク。丘候切 宥
垢に同じ。○〔爾〕「一一謂之垢一一。」

垢 コウ、ク。居竹切 屋
耦に同じ、小さき丘。○〔揚雄〕「兎人呼二眞一一城中一日レ一一。」

垣 ヤウ。余章切 陽
土の精、又、其の化けたるもの、名。○〔易說〕「泰山失二金雞一、四嶽失二玉一一一。」
〔蘇洵〕土の精のばけもの。○〔記〕「以五所變、土之怪則一一也。」

垣 エン、ヤン。雨元切 元 クヨウ。胡官切 寒
㊀かき。
〔い〕やしきにはなどすべて區劃したる地に設けあるふきり、かき、〔其のひくきもの、○〔左〕「子產壞二其館一一而館二車馬一一焉。」
〔ろ〕接けおほひとなるもの。○〔詩〕「大師維一一。」
㊁上中下ある星の名。○〔史〕「上一一太微宮一一十一星。」
〔蘇軾〕今あれたるかき。○〔詩〕「樂歌一一、以謀。」
〔蘇軾〕前に同じ。○〔左〕「子有一一、置自陽之。」
〔蘇軾〕宮の名。○〔山海經〕「鳴水之山、其木多一一之玉。」
〔蘇軾〕かきを問ず。○〔史〕「鳴、故、鳴鶴一一、地。」
〔蘇軾〕〔い〕〔ろ〕あか、けがれ、ちり。○〔白〕「眞山之玉、一一一不二拭習也。」

〔門部〕かど、又、かきは家の周りにある故に、部にて、手近なる意に借り云上聞。○〔図〕〔火青之部〕部。〔説文〕…—近在事者。〔説文〕…—近。〔説文〕…—大。〔説文〕…—小。〔説文〕…—高。〔説文〕…—卑。〔説文〕…—高。〔説文〕…—卑。〔説文〕…—高。〔説文〕…—卑

埸 堤に同ト。

域 ヨク、井キ。越逼切 職

㊀土地の經界、さかひ、かぎり、（物事にもいふ。）○〔周〕「土三其地、而制二其一一」。

㊁土地の極端にて、きはし、（物事にもいふ。）○〔宋〕「遣使二地一一」。

㊂土地、又くに、（邦。）○〔晉〕「疾一一既實、國・吳亦平」。

㊃場所。○〔淮〕「至德之世、甘二瞑于溷一一、淵之一一」。

㊄さかひを設く、かぎりとなす、さかひす、かぎる、ふきりとなす。○〔詩〕「畯一一彼四海一一」。

〔畯〕東土耳切 耶坦、今の支那所謂省。○〔國〕〔事業始末〕一一。

〔菴〕さかひ。○〔國〕「九州之一一」。

〔畛〕（い）かぎり、さかひ、はて、まわり。○〔論語〕「寄二命於孤幼分一一」。

（ろ）ふかさ、かぎる又、はつ。○〔荀〕「於々乎者、西方之制、則其所一一」。

〔疆〕疆所。○〔國〕「晉公幕之地、謂二其一一」。

〔埸〕かぎり。○〔國〕「國不二能其一一」。

〔堊〕宇宙間の輪、又、郭内。○〔江海〕「一一之始末」。

〔墻〕古ぎちも、垣、又、郭墻の地ぎり。○〔郭〕「一一」。

〔封〕國の界、又くに。○〔史〕「呼二諸侯各守其一一」。

〔畛〕遠く隔たりたる國。○〔國〕「州郡禁吏、民有可二論罰相一一者」。

〔目〕京のはて、或は、境目。○〔國〕「西駅月、給二京讃一一」。

〔畿〕「王一一」。

〔月〕西のはて、又、境目。○〔神〕「一一來賓、日・月・星・辰」。

〔埒〕河れのなき場所、御苑、馬場殿の淨土。○〔枕〕「九生已來、馬・陀一一一矣」。

〔疆〕邑里の境。○〔論〕「一一不可以墻隔」。

〔番〕邊郡の土地。○〔詩〕「王一一、不可以墻隔」。

〔番〕邊郡の土地。○〔詩〕「王一一、不可以墻隔」。

〔埸〕萬邦に同じ。○〔書〕「一一一」。

〔塍〕まづかなる處、又、壑。○〔李・郎玉〕「秘・蛟・掩・白月・雲・夜來一一一」。

〔牛・馬・域〕牛馬の居る處、（いやしみていふ。）○〔國〕「長・鈴平野一一之一」。

〔邦〕國内。○〔論〕「且在一一一之中矣」。

〔土〕國内を云ふ。○〔史〕「實及二牛・馬一、邑・昭一一」。

〔鄉〕窟室の如き若しくは居處。○〔國〕「使居一一」。

〔異〕外國を云ふ。○〔後漢〕「立功一一一以取二制實一」。

〔埜〕前に同じ。○〔詩〕「百・穀・時・雨、雨・雪以・潤一一」。

〔野〕前に同じ。○〔國〕「孫州一一一、百・姓多・饒」。

〔埜〕前に同じ。○〔史〕「夕・陽・水・色・心・略一一一」。

〔墟〕土地の區・聚。○〔晉〕「例二山・南一・西・考一一」。

〔墅〕墓所をいふ。○〔晉〕「夏・侯・嘉一一一・朝・使・耳」。

〔區〕土地の區・處、又、國内を云ふ。○〔晉〕「即・教・治・手・宮・城・樂・營・殿・手一一」。

塚 チョク、トク。丑玉切 沃

けものゝありく道。

埠 ホ、ブ。薄故切 遇

船の出入する所、ふなば、はとば、又、貨物を籠め積みて、商人の舟を泊す者に販ぐ所。

淤 淤に同ト。

埘 チ、ウ。於五切 麌 鴟又は、鳩・鴟に作る。

小さき土手、（小障）、一說に、小さきまろ、（庫城）。

埘 チ、ウ。烏故切 遇

原野に人家のあつまりたる處、むら。

塊 ケン、居轉切 銑

つかの土、（塚土）。

塊 ケン、古僊切 霰

塔 ケン、驅圓切 元

まろきかき、（圍・牆）、又、まがれるかき、（曲・牆）、又、まろくまがれる貌にいふ字。○〔揚雄〕「登降・洲・嵸・單一一垣兮」。

埤 サイ、セ。蘇對切 隊

粘ちざる土、かれつち。

埤 ソツ、ソチ。蘇骨切 月

土くづれ落つ。

埤 ヒ、ビ。頻彌切 支

㊀つく、（附）、ます、（增）、あつくす、（厚）、おぎなふ、（補）。○〔詩〕「政事一一一益我二。」

㊁低き牆、かき。○〔杜甫〕「掖・垣竹一一」。

埤 ヒ、ビ。部比切 紙

㊀百畝の田をいふ。

㊁下くして濕りけのある地。○〔國〕「松・柏不レ生一一」。

埤 ヘイ、ハイ。匹計切 霽

まろのついぢ、（女牆）、陣・墻・俾に同ト。

埘 セイ、シヤウ。七盈切 庚

㊀青くさびたる土。

㊁埘に同ト。

埡 ヨウ、鄭管切 旱

小さきさかづき、（盞）、（椀）に同ト。

埧 ク、グ。忌遇切 遇

埃 リン。縷尹切 軫

なかのつち、（壚土）。

埃 ロン。盧困切 願

おとしあな。

埇 サウ、ジヤウ。側章切 東

地を理む又、たがへす、（耕）。

埳 コウ、ク。苦紅切 庚

ひつぎ又、ひむろ、（藏）。

埔 チヨウ、チュ。丑勇切 腫

安からざる貌に用ふる字、やすからず、（一埔）。

堺 埠に同ト。

堦 タフ、ドフ。託合切 合

㊀物の落つる聲。

㊁累なる土。

埭 タイ、侍戴切 隊 一通ト下て隊に同ト。

ダイ。侍戴切 隊

土を以て河水を堰ぎたる處、ゐせき、（堰、即ち、官より出張して舟船の往來の稅を收むる爲めに設けたる所、其の兩岸に轉軸を樹て過ぐる舟の尾に繩を繫け、或は、人或は、牛もて軸を推し之を轉いて前む。○〔晉中興書〕「以二牛車一一牽レ、取二其稅一」。

〔堰〕舟の通行段を限るゐせき。○〔國〕「孔・堰一一」。

〔岸〕海船の繫ぎ場と河岸のとめ場、轉じて、角つぎ。○〔論語〕「海・岸・堰一一」。

埭 タン、トン、吐濫切 勘

ひらたくして長き地。

埮 タン、ドン。徒甘切 覃

かめの屬、もたひ、俗に壜に作る。

埯 エン。衣檢切 琰

㊀土もて物を覆ふ、おほふ。

㊁坑合ふの袋、あな。

埯 アン、オン。鄔感切 感

小さき坑。

埰 サイ。倉代切 隊

領分の土地、ちぎやう、（采地）。

埰 サイ。此密切 質

つか、（塚）。○〔揚雄〕「家或・謂二之一一」。

埸 チヤウ。仲良切 陽

㊀場に同ト、神をまつるに設けたる道。

㊁耕さざる田、又、一說に、穀を治むる田。

埸 チヤウ。知亮切 漾

沙の墳起せる貌にいふ字、うごもつ。

埱 シユク、ソク。昌六切 屋

㊀氣の土より發するにいふ字、むしのぼる。

㊁始に同ト、はとめ、はトむ、はトまる。

埲 ホウ、ブ。補孔切 董

塵の起つ貌にいふ字、ほこりたつ。

埣 坎に同ト。○〔莊〕「一一井之蛙」。

ショク、ジキ。丞職切 質力切 職

埴 ホウ、ブ。滿口切 厚

つゝみ、（堤）、又、小さき阜。○〔國〕「趙・簡・子使二尹・鄭爲二晉陽一、日、必盈二其量一一」。

埴 ハイ、薄亥切 賄 ホク、墨職切 職

かさなる、かさぬ、（重）、又、そむく、（暗）。○〔莊〕「而後乃今一レ風」。

基 キ。居之切 支

㊀もとゐ。

（い）物事の根據、物事の起始、おこり、よりどころ、ねもと、はじめ、もと。○〔詩〕「溫・々恭人、維德之一一」。

（ろ）事業、わざ。○〔推〕「建以爲レ一一」。

（は）建造物の下敷、だたい。○〔詩〕「自レ堂徂レ一」。

㊁もとゐとなす、もとゐす、もとづく、又、ばかる、〔經〕。○〔詩〕「夙夜一レ命」。

㊂はじまる、はじむ、又、まうく、設。○〔國〕「一レ德十五而始平、一レ國十五其不レ濟乎」。

㊃田を耕すに用ふる具、すき。○〔孟〕「雖有二鈍一一、不レ如二待時一」。

〔基〕農を維持する根本。○〔左〕「仲尼謂二子產一、政・是行・也、是以謂一一一矣」。

〔綱基〕さいはひの起こるもと。○〔詩〕「恭・敬・神・祇、一〔大基〕大いなるもとゐ、又、帝王の都城。○〔國〕「帝下詳・實・存・失・廢・興之效、以定一一一」。

〔秋基〕前に同じ。○〔王・褒〕「秋・興・賦」。

〔國基〕「體・天・地・以一一一」。

〔國基〕はじめてもとゐを開く、又、はじめ設く。○〔史〕「至二于・太王、一一一王・績」。

〔身基〕我が身の世に立つもとゐ。○〔左〕「國・身之・幹・枝・歌一一之一也」。

〔弘基〕大いなるもとゐ。○〔史〕「新・野・臨之・平・秦、王者之一一也」。

〔樹基〕もとゐを結こす。○〔史〕「先・帝一一一・作・神、百・度・構・制・垂・世・時・神、共・廣・建・樹」。

（乾基）帝王の都城。○（世）城ニ依ル…ニ…事ニ成ル志ニ。
（門基）家のもとる。○（附）「此兒必得」…ニ…。
（舊基）有ル古土臺。○（魏）「願ハ願ハ…ニ宮室似ル…石ニ住ル所ニ。
（經基）わたかまり立つ。○（水經）「菑九嶷山…ニ…もとる。○（晉書殷浩）「大敵惟我世有」…初…武劍…ニ…。
（元基）「立木、…ニ…先代ニ。○（字書）「…」。
（劍基）もとるをはじむ、又、はじむ。○（字書）「…」。

壂　ジュン、　之尹切　彫
壂に同じ。

埻　ジュン、ジュン。朱潤切　圜
ゆみのまと、（射的）。

埻　ジュン、ジュン。朱潤切　圜
かさねたるつち、（壘土）。

埵　タ、ダ。徒臥切　圖
あづち、（射場）。

埵　タイ、テ。都回切　灰
土を塗りて覆ふところのもの。

埼　キ、ゲ。渠宜切　支　渠爺切
圖　或は碕崎隑に作る。
きしのくま、又、さき、（岸頭）。○（司馬相如）「觸ニ礒ニ石ニ激ニ…ニ堆ニ」。

埽　サウ、ソウ。蘇老切　晧　先制切　號
㊀はらふ。
（い）帚もて地を拭ふ。○（周）「掌レ…ニ」
（ろ）汙穢のものを去る、のぞく、（除）。○（禮）疾ニ病内ニ外皆ニ…。
（は）盜賊を退治し、小邪を追ひまりぞくるなどにもいふ字。○（後漢）「電ニ…群雄ニ」。

（壁）壁合。○（金縢）「若…」。
（壁）前に同じ。（以來無勢）。
（壁）北堂の壁に同じ。○（周禮）「…」。
（壁）壁堂の壁に同じ。○（毛詩）「…」。
（壁）壁の壁に同じ。○（毛詩）「…」。
（壁）壁のつかさの居る室。○（管）「…」。
（壁）壁の壁に同じ。○（管）「…」。

堊　ゲイ、研計切　霽　吾禮切　醫
箭眼を開きて城下を窺ひ見る所を設けたる城上のひめがき、（女牆）。○（王維）「城烏埠…曉宮井轆轤聲」。

堅　ケン。經天切　先
㊀かたし。
（い）破れかたし、動かしかたし、變じかたし。○（管）「聖君設ニ度量ニ、置ニ權法ニ、如ニ天地之ニ」。
（ろ）充實してあり。○（呂氏春秋）「其殺不レ…」。
（は）つよし、（強）、たけし、（悍）。○（陳帳道）「其人悍…恃ニ氣尚レ力」。
㊁かきた所、又、かたきもの。○（羅鐵論）「消レ…釋ニ石」。
㊂かたくなる、かたまる、又、かたむ。
（戰）「三ニ晉相親相…」。
㊃ひさし、（久）、ながし、（長）。○（舊唐）「僧宗誠曰、敬服ニ誠辭ニ永…茂レ業」。
（攻堅）かたきものを取り拔く、又、つよき敵をせむ。○（管）「…」。
（堅）硬くかつ、（たる）、又、きたひつよき敵なり。○（管）「…」。
（堅）堅をきるといふに…。○（國）「…」。
（堅）堅をきるといふに…。○（國）「…」。
（堅）堅をきるといふに…。○（國）「…」。
（堅）堅をきるといふに…。○（國）「…」。
（堅）堅をきるといふに…。○（國）「…」。
（堅）堅をきるといふに…。○（國）「…」。

堆　タイ、都回切　灰　一に碓に作る。
㊀盛りあがりて高し、積もりて高し、つづだかし。○（劉向）「陵魁…以蔽レ視分。
㊁うづだかき處、なか、（阜）。○（秦州記）「有ニ土…、高五丈、生ニ細竹ニ」。
㊂おく、（倉）。○（戰）「鑊期…レ琴」。

（堅）堅固。○（禮）「…」。
（堅）堅固。○（禮）「…」。
（堅）堅固。○（禮）「…」。

堞 サイ、セ。仕懈切 霽
俗の柴の字。又、棄の本字、砦に同じ。とりで。又、まがき。（藩落）。

堙 イン。伊眞切 眞 堙に通ず。
❶堅に同じ。ふさぐ。ふさがる。（塞）。○（左）晏子、弱城二東陽一、而遂圍レ萊、寅、甲一レ之、環レ城傳二于堞一。
❷土を積みて築きたる山。つちやま。○（公羊）「子反乘レ一而窺二宋城一。（註）城に登るに設けたるもの。土を積み次に高く積みて城傳上。○（孟）「攻城之技、修二車械一、具二器械一、三月而後成」。○（左）「以二攻城之技一、修二車械一、具二器械一、三月而後成」。○（左）「以手推壁」。

堈 コン、月昆 元 クヲン、胡關 刪 ゴン。切 ゲン。切
つち（土）。

堀 ヒヨク、ヒキ。拍逼切 職
つちくれ（由）。

堩 ト、ヅ。動五切 麌
うづむ又、うづまる。（埋）。ふさぐ。又、ふさがる（塞）。

堝 クヲ。古禾切 歌
金銀を熔かすに用ふる壺、るつぼ。（坩堝）。

堞 テフ、逢協 葉 ヂフ。切 葉 堞に作る。
城の上のものみのへい、ひめがき。（女牆）。又、ひめがきを設くきづく。○（左）「盧蒲嫳攻二崔氏一、崔氏一入二于宮一而守レ之」。（杜預）。

城 井。於歸切 微
きれたるつゝみ。（決塘）。

埵 シフ 測入切 緝
重なりたる土（累土）。

則 ショク、シキ。察色切 職
さへぎる。（遮）。ふさぐ。（塞）。○（正法念經）「一一滿充一徧」。

塞 テン、デン。柱兗切 銑
耕して土を卷き合はすこと。耕合。

堠 コウ、胡遘切 宥 或は、候に作る。
❶里程を誌せる標。いちりづか。みちのつか。古昔支那の制は壇ある封土にて五里に一つ、十里に二つありきといふ。○（韓愈）「堆堠傍一、一鯨復一一」。
❷敵の動靜を探らんとて設けたる土堡。ものみ。○（漢）「遠二斥一一未一警」。
❸封土。つか。○（舊唐）「立石一一」。（李德裕）（小）宿場に置く物見。○（後漢）「猶一一修二障塞一」。（ろ）宿驛と一風づかを、時として夜風に火を上る。○（韓）「實毛一帶詩一一狂」。
（土堠）一里毎に置く。○（風）「帶側一一里道」。
（石堠）石にて造るつか。○（舊唐）「立石一一」。

堡 ハウ、博抱切 皓
❶つゝみ。さて。（隄）。
❷土石を高く積みて敵を拒ぐに設けたる處。とりで。ことろ。○（唐）「拔二連城一」。
（屯堡）とりで。○（後）「金下一一」。
（城堡）前に同じ。○（後）「蘇秦說一一」。「地圖」。
（塞堡）のろしの用意をなしあるとりで。○（後）「要一一」。
（營堡）障壁に同じ。○（史）「今河北、並置一一」。
（戍堡）前に同じ。○（後）「城外築一一」。

堡 ハウ、ホウ。博抱切 皓 保に作るも、或は、堡に作る。
❶こだかき岡（小隴）。
❷かはらけ（瓦器）。
❸すやきのつぼ。瓦倉。○（周註）「五一一之藥合二黃一一」。

塋 ヂ、ム。微夫切 虞
前條の❸に同じ。

堦 階に同じ。

堦 タ。都果切 哿
うごく（動）。一說に、垂るゝ貌にいふ字。たる。

墮 セン、チン。而宣切 先
❶堵に同じ。河のほとりの地。かはばた。又、城の旁の地。一說に、城下の田。
❷廟の外と垣の内との間のあき地。は。○（漢）「竈鍾穿二太一上皇廟一一垣」。

墮 ダ、ナ。乃臥切 箇
沙まじりの地。いさご。沙土。

墮 ダン、ナン。奴亂切 翰
水のほとり。かはばた。

堨 アツ、アチ。阿葛切 曷
❶壁のすきま。
❷土を築きて水を遮ぐもの。つゝみ。ぬせき。○（魏）「劉馥治二吳塘堨一一、以溉二稻田一」。

堨 ケツ、ダチ。巨列切 屑
前條の❷の解に同じ。○（唐）「堰一一爲レ寇毀」。

（藩堡）藩中にて分置せるのろしを打ち上ぐる設めに設けたるものなるか。○（後）「蘇秦一一」。
（樓堡）みちのつか。○（天中記）「一一、子兵曹」。
（鎮堡）鎮所に立てたる長城の類。○（何承天）「築一一」。
（長堡）上鎮立一一、「社」、「曾鎮」。
（墨堡）みちのつか。○（王智）「入山野、曲學者、鎮一一」。
（兵堡）ものみ。○（後日）「城上多一一」。

堤 シ、ヅ。常支切 支
地の界に土を盛り上げてある處、つゝみ。うね。て。

堤 テイ、タイ。都黎切 齊
物のすわりよき爲に下底に工夫を施したるところ。○（淮）「瓶甌有レ一一」。

堤 テイ、タイ。典禮切 霽 隄に通ず用ふ。
土を築きて水を遮ぐむる處。つゝみ。どて。

塍 ホウ、ム。莫浮切 尤
畦。畝。物見のやぐら。ひめがき。○（史）「數一一抬等池、修一一起」。
（陣塍）城上のひめがき。○（後）「一一、引一一」。
（城塍）ひめがき。○（史）「官吏皆無一一」。「修以一一、環城」。
（高塍）高きまたのひめがき。○（淵四郡）「空一一」。
（舟塍）白楊りの類。○（梁簡文帝）「千江含一一」。

城 井。於歸切 微
きれたるつゝみ。（決塘）。

埴 シフ 測入切 緝
重なりたる土（累土）。

則 ショク、シキ。察色切 職
さへぎる。（遮）。ふさぐ。（塞）。○（正法念經）「一一滿充一徧」。

塞 テン、デン。柱兗切 銑
耕して土を卷き合はすこと。耕合。

堠 コウ、胡遘切 宥 或は、候に作り、通じて候に作る。
❶里程を誌せる標。いちりづか。みちのつか。古昔支那の制は壇ある封土にて五里に一つ、十里に二つありきといふ。○（韓愈）「堆堠傍一、一鯨復一一」。
❷敵の動靜を探らんとて設けたる土堡。ものみ。○（漢）「遠二斥一一未一警」。
❸封土。つか。○（舊唐）「立石一一」。（李德裕）（小）宿場に置く物見。○（後漢）「猶一一修二障塞一」。（ろ）宿驛と一風づかを、時として夜風に火を上る。○（韓）「實毛一帶詩一一狂」。
（土堠）一里毎に置く。○（風）「帶側一一里道」。
（石堠）石にて造るつか。○（舊唐）「立石一一」。

堩 ホウ。博抱切 皓
❶つゝみ。さて。（隄）。
❷土石を高く積みて敵を拒ぐに設けたる處。とりで。ことろ。○（唐）「拔二連城一」。
（屯堡）とりで。○（後）「金下一一」。
（城堡）前に同じ。○（後）「蘇秦說一一」。「地圖一一」。「所一一」。
（塞堡）のろしの用意をなしあるとりで。○（後）「要一一」。
（營堡）障壁に同じ。○（史）「今河北、並置一一」。
（戍堡）前に同じ。○（後）「城外築一一」。

塍 ホウ、ム。莫浮切 尤
畦。畝。物見のやぐら。ひめがき。○（史）「數一一抬等池、修一一起」。
（陣塍）城上のひめがき。○（後）「蘇秦一一」。
（城塍）ひめがき。○（史）「官吏皆無一一」。「修以一一、環城」。
（高塍）高きまたのひめがき。○（淵四郡）「空一一」。
（舟塍）白楊りの類。○（梁簡文帝）「千江含一一」。

堤 シ、ヅ。常支切 支
地の界に土を盛り上げてある處、つゝみ。うね。て。

堤 テイ、タイ。都黎切 齊
物のすわりよき爲に下底に工夫を施したるところ。○（淮）「瓶甌有レ一一」。

堤 テイ、タイ。典禮切 霽 隄に通ず用ふ。
土を築きて水を遮ぐむる處。つゝみ。どて。

塍 ホウ、ム。莫浮切 尤

（樓塍）藩中にて分置せるのろしを打ち上ぐる設めに設けたるものなるか。○（後）「蘇秦一一」。
（樓塍）みちのつか。○（天中記）「一一、子兵曹」。
（鎮塍）鎮所に立てたる長城の類。○（何承天）「築一一」。
（長塍）上鎮立一一、「社」、「曾鎮」。
（墨塍）みちのつか。○（王智）「入山野、曲學者、鎮一一」。
（兵塍）ものみ。○（後日）「城上多一一」。

堪 シン、ソン。楚錦切 寢
つち（土）。一說に清く澄まざる貌にいふ字。

塾 ソウ、祖叢 東 サウ、ソウ。切 ス 切 江
うう。（種）。一說に、其の中に內る。又、曰はく耕さずしてうう。

猩 俗の壓の字。

塕 ヨ。容朱切 虞
つか（塚）。○（揚雄）「秦嘗之閒冢謂二之一一」。

塊 クヲウ、ヲウ。胡光切 陽
室の四方に壁なきもの。あひどの。○（博雅）「堂一一合殿也」。
❷隍と通ず用ふ。城下の池、ほり。○（子夏易傳）「城復二于一一」。

塹 ガク。逆各切 藥
鍔に作る。さし、きりぎし、がけ（崖岸）。

堯 ゲウ。倪幺切 蕭
たかし（高）。又、とほし（遠）。○（白虎通）「一一猶一一也、嶢嶢至高貌」。
（高堯）堯帝の聖德を稱ども、猶家の治安なるとはいふ語。○（後）「高堯朝」。
（堯舜）堯帝の聖德を身に受け傳るなり。○（後）「「孫」君也」。
（天堯）堯帝を崇めて讃ひし語。○（後）「一故一之」。
（造堯）帝堯の道をのべ、ほくとも。○（後）「「一一」、「一一」、「一一」、

聖 シ。疾之切 支
古文の塞の字。解六畫に詳かなり。

媨 ヒ、ミ。晏悲切 支
かこひの土手、かき、壇垣。

場 チヤウ、ヂヤウ。切韻 直長 ㊀ 順は場と甘別なり、或は順に作る。俗字は場に作れり。

〔百場〕 仏を華祀するところ。○〔孝場〕駐蹕。
〔教場〕 教地に同じ。○〔兵〕兵事少隊入。
〔戎場〕 前に同じ。○〔北〕仰征身祝。
〔陣場〕 陣屋に同じ。○〔北〕千鼠詩牧地、今之是也。
〔馬場〕 ばば。○〔北〕千鼠詩牧地、今之是也。
〔怒場〕 前に同じ。○〔蘇宜帝〕牧馬恣。
〔道場〕 沙門道士などの祈をする處。○〔白居易〕「砂田雪下」。
〔豊場〕 業なとの及り合不地。○〔宋〕江山沙田。
〔考場〕 宋時代の驛を書習するところ。○〔宋〕「驛」。
〔射場〕 射術を習ふ處。○〔論語〕「周圍百步」。
〔名場〕 所利よきところ。○〔附記〕「傳早場」。
〔獄場〕 賣買を盛習するところ。○〔食〕「復蘇德宜」。
〔軍場〕 士を登用する試驗場。○〔玉篇〕「即鎮」。
〔鈴場〕 文學者の仲間。○〔汪藻〕「昔追隨」。
〔無鈴場〕 自然の現象を云ふ。○〔玉篇〕「悟」。
〔術場〕 文學を研究するところ。○〔延篇〕「學」。
〔遊場〕 釋氏の法華を聞きて説くる處。○〔海豊篇〕「丹霞天然禪師路」。
〔場〕 シヤウ、ジヤウ。尸羊切 陽
つか、(埒)一に日はく、うきづか、(浮墣)。○〔揚雄〕「蛇、蟒、狐、鼠之場謂之垣」。

堵 ト、ツ。董五切 腫
㊀宅舍の垣垣、かき。○〔韓詩外傳〕「原憲居室蓬戶之室」。茨以蓬蒿。
㊁鐘磬などを懸くる物の名。○〔周禮〕「凡編鐘編磬各十六枚、半、懸」之在二、鐘、謂二之一」。

堵 ジヤ、時遮切 麻 ツ。東徒切 虞
城門の塞又、うてな。

堵 タ、ダ。徒禾切 歌 至又竅に作る。
いんぢうち、(飛博戲)。○〔梅堯臣〕「輕浮賭勝各飛レ」。

培 アン、オン。烏感切 感
穴の中の埋めかくす處。○〔管〕「麋一所以使二貧民一也」。

墜 サウ。慈郎切 陽
域に同ト、又、墜に作る。

墜 サウ。慈郎切 陽
墜に同ト、なさむ、(收藏)。

堸 フウ、ゾ。符風切 東
蟲の巣(蟲室)。

墮 チヨウ、チユ。竹用切 宋

堺 界に同じ。

畤 野に同じ。

逮 シン。資辛切 眞
うるほふ(潤)。

圃 古文の疊の字。

十畫

墜 シユン。須閏切 震
峻嶽に同じ、たかしけはし。

墜 チ、ヂ。直利切 寘
くだる、又、おぼる、(墜)。

堽 岡に同ト。

堵 セキ、ジヤク。秦昔切 陌 前歷切 錫
山の脊の岡、又、やせつち、(薄土)。○〔抱朴子二〕「處」則勞勞則不レ學」。

澤 リヨウ、鮪勇切 腫 良用切 宋
リユ。蒙弄切 送
ぬる、又、どろ、(塗)。

塊 クワイ、ケ。苦潰切 隊 苦會切 泰
㊀土壙の凝結したるもの、つちのかたまり、つちくれ、(塊)。○〔左二〕「晉

いけのつゝみ、池塘、又、くろ、土堤。

堺 界に同じ。

畤 野に同じ。

逮 シン。資辛切 眞
うるほふ(潤)。

圃 古文の疊の字。

十畫

墜 シユン。須閏切 震
峻嶽に同じ、たかしけはし。

墜 チ、ヂ。直利切 寘
くだる、又、おぼる、(墜)。

堽 岡に同ト。

堵 セキ、ジヤク。秦昔切 陌 前歷切 錫
山の脊の岡、又、やせつち、(薄土)。○〔抱朴子二〕「處」則勞勞則不レ學」。

澤 リヨウ、鮪勇切 腫 良用切 宋
リユ。蒙弄切 送
ぬる、又、どろ、(塗)。

塊 クワイ、ケ。苦潰切 隊 苦會切 泰
㊀土壙の凝結したるもの、つちのかたまり、つちくれ、(塊)。○〔左二〕「晉

公子軍耳出亡過ル衛、乞二食於野人一。野人與之二。○〔宋〕「鄭家巷婦產」肉一三二。
㊁われ、(我)。○〔楚辭〕「一獨守二此無澤一兮」。
㊂ひとり、(孤)。○〔隨機〕「一孤立而特」。
峙、非二常音之所レ縛」。
〔土塊〕 ちくれ。○〔論衡〕「去之百鼠不レ見」。
〔塊〕 土の土地。
〔塊〕 右者父母の祝の中には男子は中門の外、女子室中門の内に祝を傳へてとを聞とつちくれを祝とするの義あるなり。○〔論〕「凡與居傳度、孫一教」。
〔塊〕 ちくれ。○〔禮記〕「故以形骸、我以生」。
〔大塊〕 ちくれを日に合ふ者を云ふ。○〔莊〕「一載我以形骸、我以生」。
〔

（に）條理。○（晉）斯皆冥二踐義一―。
㊀ぬる。
（い）擦りつく、なする。○（揚雄）「木摩而不レ彫、牆―而不レ畫」。
（ろ）抹す、すりけすけす。○（李義山）「―二改清廟生二民詩一」。
（は）あなをとづ、ふさぐ（杜、塞）。○（書）「惟其―壁茨」。
（に）あら壁を修飾す、かざる。○（穀梁）「―臺榭不レ―」。
（ほ）けがす、汚す。○（莊）「爽齊日、周以二吾身一、不レ如三避之以潔二吾行一」。
（へ）上に重ぬ、あつくす（厚）。○（禮）「殷二―龍楠一以椁」。
㊁ぬられたる如くになる、ふさがる、けがる、まみる。○（漢）「肝腦―レ地」。
㊂あつき絕にいふ字、重れり、あつし。○（楚辭）「白露紛以―」。

（難）は一方りとせざるも、難味なるる。○（史）「太史公自序」「―大事不―」。
（重）重疊、重疊に五がくも、重疊に五がくて四上聞。○（玉篇）「重若疊也」。
（鎮）白がねを鎮り飾る。○（吳越）「長劍皆玉具、鎮以象之」。
（重）初貴恩。○（禮）「―一以象之」。
（土）泥に同じ。○（禮）「―一、醫師石」。
（塡）仰仗の鎮。○（禮）「―子以四」。
天狗呼吸、四子四―。
（鎮）ぬる。○（史）「其本所住郡縣、乃以石―之、曾西不―」。
（鎮）ちり、又、ちり。○（論）「假中國、改蠻夷者不―」。
（柴）さかゆる地位。○（真誥）「――足輔」。
（名）詩判を原る地位。○（宋高）「―一定何郡」。
（重）樹のひらきみち。○（蜀都賦）「重力敷之―」。
（重）以ゐる在方。○（禮）「其文雖宮出手

（一）塗　ひとすち。○（史）「民忍來使、勢非一―」。
（二）塗　よたみち。○（禮）「惟邪正―」。
（三）塗　こゝろの持ちかた。○（禮）「―一揆」。
（四）塗　四方の方向。○（禮）「―一從」。
（五）塗　（い）路の上かた。○（禮）「以―」。
（ろ）路の事業にかかる地位。○（禮）「―一業」。
（は）世の中の仕方。○（李白）「―一多聞」。
（に）たびち。○（陸時雍）「我是―一都絕處」。
（ほ）ひろ〳〵したるみち、とはきみち。○（韓愈）「―一聞說」。
（へ）就塗　分かれみち、不分明なる條理。○（孔穎達）「就塗出立」。○（禮）「出立」。
（と）塗　高く餅かりたるみち、鑑より檢に耳したる梁鹿の如きもの、硯。○（沈約）「―一看梁鹿」。
（ち）塗　ちまた。○（蘇秦）「西人東觀―」。
（り）塗　泥の中に陷入る鑑陸の城邑にあるる。○（柳宗元）「―一、蓬蒿、梁、若蘭蘭」。
（ぬ）塗　（い）ちり。○（社甫）「塗蘭梁」。
（る）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（を）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（わ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（か）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（よ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（た）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（れ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（そ）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（つ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（ね）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（な）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（ら）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（む）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（う）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（ゐ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（の）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（お）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（く）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（や）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（ま）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（け）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（ふ）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（こ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（え）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（て）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（あ）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（さ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（き）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（ゆ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（め）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（み）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（し）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（ゑ）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（ひ）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（も）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（せ）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（す）塗　（い）ぬかしき地位、嘲し皇城鑑。○（左）「使蔡子聯、在―一、矣、武之績也」。
（ん）塗　（い）貴ぶなき物の義に借りいふ鑑。○（陶仲文）「―一、軒轅」。
（禮）「―一、軒轅」。
（塗）　ト、ヅ。徒故切　遇
みち（途）。○（張衡）「雲師鑑以交集兮、凍雨沛其灑―」。
（塗）　タ、テ。直加切　麻　除駕切　禡
かざる又、かざり（飾）。
（塗）　ト、ヅ。動五切　麌
水びたりの地、濕地、又、どろみち、泥路。○（史）「問二流天下一、還二復其所一、上至二莽天下一、沸泥―」。
（塗）　濕氣を防がんため、地に敷たるものを和して敷たるもの。○（禮）「石赤―」。

（ろ）みたす、滿、うづむ、鬱、おぎなふ（補）。○（晉）「腹、旁有二孔一、常以レ絮―レ之」。
（は）防ぎ支ふ、通さず、行はしめず、絕ち止むせく、又、へだつ（隔）。○（漢）「河決可レ―」。
（に）ふさがる　㊀の義に同じ。
（ほ）閉づ、滿つ、又、通られず、行はれず、せかる、又、へだいる、ふさがる、まきらる、ふさがり、さゝはり。○（莊）「去二德之累一、趨二道之一」。
㊁國土山川の險阻なる處、かため、要害、即ち、隣國との通路のふさがる義、一說に、城郭壕壍なもいふ。○（史）「秦四―之國、披レ山帶渭」。
㊂逆の惡しきこと、海命。○（北）「鑒二久滯、小官、深體二通一、無二救々之望一、儒者以レ是尙レ遲」。
㊃月の辛の星宿にあること。○（爾）「月在レ庚曰レ竈、在レ辛曰レ―」。
㊄安んぜざる絕にいふ字。○（揚雄）「迹々屑々不レ安也、秦晉或謂二之一―」。
（難）さゝへふさぐ、さゝせりふさがる。○（禮）「―難、難、難、無有―」。
（難）とゞまりふさがる又、とゞこほる。○（禮）「天地不通―」。
（貴）おがび目のつくるも。○（禮）「今王已出晉」。
（森）おがびふさぐ、又、おがびふさがる。○（禮）「卓榮罷ゝ、貴嶽―」。
（徳）とゞこほりふさがる。○（禮）「―之敎」。
（塞）ふさぐ、又、ふさがる。○（禮）「復二穀生之術」。
（塞）ふさぐみたす、又、ふさがる、みつ。○（禮）「智說既民、―、仁義」。
（塞）きびしくふさぐ。○（禮）「狂―、―開其、「―」。
（塞）「智說既民、―、仁義」。
（塞）ふさぐ。○（禮）「―開其、「―」。
（塞）ふさぐ。○（禮）「―開其、「―」。
（塞）ふさぐ。○（禮）「―開其、「―

塊 クワイ、エ。胡對切 【隊】
地の形のめぐりまがれるにいふ字、まがる。

壅 チフ、ザフ。直立切 【緝】
ます（益）、一説に、下り入る貌にいふ字、おちいる。

十一畫

場 場に同じ。

墋 堋に同じ。

塵 チン、ヂン。直珍切 【眞】
❶ちり。
（い）粉末塵滓の飛散せるもの、ほこり、ごみ、あくた。○後漢「甄中生—范史雲」。
（ろ）汗穢せるもの、汚らはしきもの、けがれ。○「首楞經」「有言句盡屬法之—」。
（は）遺業の義に借りいふ字。○後漢「二方承則八、慈繼—」。
（に）「宋」四「表辭—」。
❷塵にまみる、汙染す、けがる、又、けがれにそましむ、けがす。○「詩」「無」將—大車」「藍自—兮」。
❸ひさし（久）。○後漢「允—遺而難」。
【字義】（い）繁華なる地のかおれしく且つ法度えげくちりたつ世にいふ語。○（ろ）「軍旅—」、「不」可以居」。
（ろ）けがらはしくものごとはしきもの。○「風俗通」「俗」如「華地處」於此」—」。
【熟語】（い）ちりを見防ぐ、人間の什物により防ぐちり。○「荀」「—」「卻」「塵」。
（ろ）石崩の煙事より長者を必驚するえ、又、阿り事よるえ以も借りいふ語。○「後」「石崇與王愷共—」。

【塊】「塊」に同じ。

塼 セン。朱遄切 【霰】
甎に同じ、はら（燒塼）。○「風俗通」「甃聚—修」井也」。
【熟語】「甃」を以て井を築く井、いどぎ。○「詩」「—其所有事」於時雍也」。

堞 ヂヤウ、サウ。楚兩切 【養】
地の高くしてあたりの開けてある處。

塾 シユク、ジユク。神六切 【屋】
（い）門の側の堂、いへ。○「儀」「具」「饌」「于西—」。
（ろ）學術を修むる堂にて弟子を寄宿せしむる部屋、轉じて、修學する處、學舎。○「禮」「古之教者黨有」庠家有—」。
【熟語】學校に同じ。○「後漢」「謝承序」「設」—」。
「賢」、「設」者之字形誤、殺。
【義塾】公益のために設けたる學校。○「蘇軾」「月」
「蘇先生實墓誌」「於府城之郭、皇坊、「塾」—」以
來後進」。
【學塾】村里にある學校。○「任昉」「—」「鉛」「學塾」
之士」。
【鄉塾】前に同じ。○「任昉」「鄉校—」「此」「鄉」「塾」。
【黨塾】前に同じ。○「任昉」「鄉校—」「此」「鄉」「塾」。

墅 ロウ、郎口切 【有】
通じて「婁」に作る。
小さき阜、又、ありづか。○「揚雄」「小家謂」之—」。

墀 チ、ヂ。陳知切 【支】
「遲」に同じ。
石を敷きたる庭、には、昔支那にては階上に設けたりき。○「漢」「願登」文石之殿、陟」赤—之塗」。
【熟語】丹砂もて塗りとぬたる庭。○「西京賦」「青瑣」「—」「卻」「朝」。
【玉篇】庭をもてくろく塗りたる庭。○「西都賦」

（玉篇）玉石をもて塗みたるには。○「西都賦」「彤庭」「—」「上椒殿」。
【熟語】前に同じ。○「玉篇」「砌」「階下石」。
（金篇）金石をもて飾りたる庭。○「後漢」「明太子」「世」。
【熟語】のきもの庭。○「荀」「善心」「承」「—」「而」「明」
「篇」前には「—」、「後」「宮」「—」「而」「明」
有「—」之名、了無「盛德之實」。
（説篇）鹽鹵、防ぐ爲めにたらがしを飾（塗りたる庭。○「後漢」「明太子」「殿」「—」。

墁 バン、マン。莫半切 【翰】
牆に同じ。
牆壁を塗り飾る、ぬる、又、ぬりたる壁。

墂 ヘウ。卑遙切 【蕭】
土を高く盛り立てゝ目ぢるしとなす塚、まるしのつか。

墩 ハイ、ヘ。薄賣切 【卦】
小さき陵、ごとて。

境 ケイ、キヤウ。臺影切 【梗】
「竟」に通じ作る。
さかひ。
（い）物の相接はる處、かぎり。○「國」「外臣之言不—越」。
（ろ）事の分かるゝ際、きは。○「孟郊」「常言一粒粟、不墮」死生—」。
（は）場所、又、「十」。○「陶弘景」「雖三跡混」教途」而心標」逸—」。
【熟語】國ざかひ。○「世說」「謝入」「—」。
【佳境】人間のなかば、世の中。○「魏書」「結」「廬在」「—」「無車馬喧」。
【殊境】此の方のさかひにあらざるもの。○「晉」
【異境】前に同じ。○「史」「蜀州北部記」「—」「」
【勝境】風景のよき處。○「晉」「—」「名山多」「所」
「尊」「隱」。
【異境】となり、並びつゝまで居るところ、となりく
に。○「晉」「張」「—」「所」「傳」。

墳 ヘウ、ヒウ。鳥候切 【尤】
あつまりたるすな（聚沙）。

塹 セン。七豔切 【豔】
「塹」又は、「壍」に作る。
❶城を遶れる水、ほり（濠）、あな（坑）。○「唐」「巨」—長壕」。
❷ほりを設く、あなを穿つ、ほる。○「史」「—」山埋」山千八百里」。
【熟語】前に同じ。○「後漢」「作」「—」「秋」「水」「塹」
「塹」。
【堂塹】殺をはり。○「水經」「註」「四」「尚」「—」「」。
【濠塹】殺をはり。○「水經」「註」「—」「三」「重」。
【後塹】前に同じ。○「位」「拾」「註」「數」「樹」「—」「」。
【郭塹】城の外に在るはり。○「水經」「註」「夏」「淮」「條」
「—」「」。
【殺塹】荒廢したるはり。○「賈」「忠」「傳」「歌」「—」「」。
【復塹】二重に廻らしたるはり。○「李商隱」「長安
「—」「風雨夜」「」。

堰 ヤウ、オ。烏候切 【尤】
❶城を遶れる水、ほり（濠）、あな（坑）。○「唐」「巨」—長壕」。
❷ほりを設く、あなを穿つ、ほる。○「史」「—」山埋」山千八百里」。
【天聖】天然に出來たる巖窟のはり。○「後」「長江
「—」「右來」「限」「隔」「南北」」。
【堰塞】せきにみづをはる、又、堰せるの外にめぐらしたるはり。○「名」「李」「離」「人」「後」「至」「守」「之」「—」「西」「—」「之」。
【堰】前に同じ。○「後」「作」「—」「秋」「水」「堰」「堰」。
【堰】殺をはり。○「水經」「註」「四」「尚」「—」「」。
【後堰】前に同じ。○「位」「拾」「註」「數」「樹」「—」「」。
【郭堰】城の外に在るはり。○「水經」「註」「夏」「淮」「條」「—」「」。
【殺堰】荒廢したるはり。○「賈」「忠」「傳」「歌」「—」「」。
【復堰】二重に廻らしたるはり。○「李商隱」「長安
「—」「風雨夜」「」。

塹 テン、デン。徒年切 【先】
前の❶の解に同じ。○「易林」「大車多」「—」小人傷」賢」。

墊 ロ、ル。龍五切 【麌】
齒に同じ、西方の鹹地。

堿 ケウ。計堯切 【蕭】
地に伏して卵を生む、うむ。

墜 エイ、アイ。烏奚切 【齊】於計切 【霽】
ちり、ほこり（塵埃）。

堰 オウ、ウ。於口切 【有】
すなのうづだかくなりたる處、（沙堆）、一説にはか（墓）。

堰 オウ、オ。烏候切 【尤】
あつまりたるすな（聚沙）。

塹 セン。七豔切 【豔】
「塹」又は、「壍」に作る。
❶城を遶れる水、ほり（濠）、あな（坑）。○「唐」「巨」—長壕」。
❷ほりを設く、あなを穿つ、ほる。○「史」「—」山埋」山千八百里」。
【天聖】天然に出來たる巖窟のはり。○「後」「長江
「—」「右來」「限」「隔」「南北」」。
【堰塞】せきにみづをはる、又、堰せるの外にめぐらしたるはり。○「名」「李」「離」「人」「後」「至」「守」「之」「—」「西」「—」「之」。
【堰】前に同じ。○「後」「作」「—」「秋」「水」「堰」「堰」。
【堰】殺をはり。○「水經」「註」「四」「尚」「—」「」。
【後堰】前に同じ。○「位」「拾」「註」「數」「樹」「—」「」。
【郭堰】城の外に在るはり。○「水經」「註」「夏」「淮」「條」「—」「」。
【殺堰】荒廢したるはり。○「賈」「忠」「傳」「歌」「—」「」。
【復堰】二重に廻らしたるはり。○「李商隱」「長安
「—」「風雨夜」「」。

塵 テン、デン。徒年切 【先】
前の❶の解に同じ。○「易林」「大車多」「—」小人傷」賢」。

墊 ロ、ル。龍五切 【麌】
齒に同じ、西方の鹹地。

堿 ケウ。計堯切 【蕭】
地に伏して卵を生む、うむ。

墜 エイ、アイ。烏奚切 【齊】於計切 【霽】
ちり、ほこり（塵埃）。

堰 オウ、ウ。於口切 【有】
すなのうづだかくなりたる處、（沙堆）、一説にはか（墓）。

墩 ハイ、ヘ。薄賣切 【卦】
小さき陵、ごとて。

境 ケイ、キヤウ。臺影切 【梗】
「竟」に通じ作る。
さかひ。
（い）物の相接はる處、かぎり。○「國」「外臣之言不—越」。
（ろ）事の分かるゝ際、きは。○「孟郊」「常言一粒粟、不墮」死生—」。
（は）場所、又、「十」。○「陶弘景」「雖三跡混」教途」而心標」逸—」。
【熟語】國ざかひ。○「世說」「謝入」「—」。
【佳境】人間のなかば、世の中。○「魏書」「結」「廬在」「—」「無車馬喧」。
【殊境】此の方のさかひにあらざるもの。○「晉」
【異境】前に同じ。○「史」「蜀州北部記」「—」「」。
【勝境】風景のよき處。○「晉」「—」「名山多」「所」「尊」「隱」。
【異境】となり、並びつゝまで居るところ、となりく
に。○「晉」「張」「—」「所」「傳」。

墩 ハイ、ヘ。薄賣切 【卦】
小さき陵、ごとて。

境 ケイ、キヤウ。臺影切 【梗】
「竟」に通じ作る。
さかひ。
（い）物の相接はる處、かぎり。○「國」「外臣之言不—越」。
（ろ）事の分かるゝ際、きは。○「孟郊」「常言一粒粟、不墮」死生—」。
（は）場所、又、「十」。○「陶弘景」「雖三跡混」教途」而心標」逸—」。
【熟語】國ざかひ。○「世說」「謝入」「—」。
【佳境】人間のなかば、世の中。○「魏書」「結」「廬在」「—」「無車馬喧」。
【殊境】此の方のさかひにあらざるもの。○「晉」
【異境】前に同じ。○「史」「蜀州北部記」「—」「」。
【勝境】風景のよき處。○「晉」「—」「名山多」「所」「尊」「隱」。
【異境】となり、並びつゝまで居るところ、となりく
に。○「晉」「張」「—」「所」「傳」。

墹 ヤウ、サウ。楚兩切 【養】
地の高くしてあたりの開けてある處。

塾 シユク、ジユク。神六切 【屋】
（い）門の側の堂、いへ。○「儀」「具」「饌」「于西—」。
（ろ）學術を修むる堂にて弟子を寄宿せしむる部屋、轉じて、修學する處、學舎。○「禮」「古之教者黨有」庠家有—」。
【熟語】學校に同じ。○「後漢」「謝承序」「設」—」。
「賢」、「設」者之字形誤、殺。
【義塾】公益のために設けたる學校。○「蘇軾」「月」
「蘇先生實墓誌」「於府城之郭、皇坊、「塾」—」以
來後進」。
【學塾】村里にある學校。○「任昉」「—」「鉛」「學塾」
之士」。
【鄉塾】前に同じ。○「任昉」「鄉校—」「此」「鄉」「塾」。
【黨塾】前に同じ。○「任昉」「鄉校—」「此」「鄉」「塾」。

墅 ロウ、郎口切 【有】
「婁」に通じ作る。
小さき阜、又、ありづか。○「揚雄」「小家謂」之—」。

墀 チ、ヂ。陳知切 【支】
「遲」に同じ。
石を敷きたる庭、には、昔支那にては階上に設けたりき。○「漢」「願登」文石之殿、陟」赤—之塗」。
【熟語】丹砂もて塗りとぬたる庭。○「西京賦」「青瑣」「—」「卻」「朝」。
【玉篇】庭をもてくろく塗りたる庭。○「西都賦」

（玉篇）玉石をもて塗みたるには。○「西都賦」「彤庭」「—」「上椒殿」。
【熟語】前に同じ。○「玉篇」「砌」「階下石」。
（金篇）金石をもて飾りたる庭。○「後漢」「明太子」「世」。
【熟語】のきもの庭。○「荀」「善心」「承」「—」「而」「明」
「篇」前には「—」、「後」「宮」「—」「」。
（説篇）鹽鹵、防ぐ爲めにたらがしを飾（塗りたる庭。○「後漢」「明太子」「殿」「—」「」。

墁 バン、マン。莫半切 【翰】
牆に同じ。
牆壁を塗り飾る、ぬる、又、ぬりたる壁。

墂 ヘウ。卑遙切 【蕭】
土を高く盛り立てゝ目ぢるしとなす塚、まるしのつか。

墩 ハイ、ヘ。薄賣切 【卦】
小さき陵、ごとて。

境 ケイ、キヤウ。臺影切 【梗】
「竟」に通じ作る。
さかひ。
（い）物の相接はる處、かぎり。○「國」「外臣之言不—越」。
（ろ）事の分かるゝ際、きは。○「孟郊」「常言一粒粟、不墮」死生—」。
（は）場所、又、「十」。○「陶弘景」「雖三跡混」教途」而心標」逸—」。
【熟語】國ざかひ。○「世說」「謝入」「—」。
【佳境】人間のなかば、世の中。○「魏書」「結」「廬在」「—」「無車馬喧」。
【殊境】此の方のさかひにあらざるもの。○「晉」
【異境】前に同じ。○「史」「蜀州北部記」「—」「」。
【勝境】風景のよき處。○「晉」「—」「名山多」「所」「尊」「隱」。
【異境】となり、並びつゝまで居るところ、となりく
に。○「晉」「張」「—」「所」「傳」。

城 ショク、シキ。七則切 【職】
きれめ、きだた限。○「三輔黃圖」「未央
前、殿左—右平」。

堿 チヤウ。知亮切 【漾】
沙のうづこもち起これる貌にいふ字、おこる。

野 ショ、ソ。承與切 【語】
田畝の中に收穫の用に供ふる爲めに設けある廬、轉じて、なかや、まもやしき（別館）。○「晉」「於三土山」營」「—」。
【別墅】あるやしき。○「晉」「園」「李」「墅」「—」「」。
【家墅】前に同じ。○「晉」「殺伏」「得」「見」「弟」「墅」「—」「」。
【郊墅】別墅、野。
【草墅】くさ茅のなかば。○「晉」「園」「殺」「導」「傳」「長」
「野」「身」「於」「—」「」。
【遊墅】人里を離れたるところ。○「王」「墅」「承」「愛」「時」
「—」「野」「者」「與」「山」「樂」「」。
【荒墅】あれたる處。○「唐」「草」「墅」「—」「」。
【陵墅】靜かなるところ。○「唐」「陵」「墅」「坂」「迫」「郭」「—」「」。

墅 ヤ。以者切 【馬】
みや、このそさの地、はら（郊外）。○「沈約」「山陰柳」「家女」「薄」「宵」「出」「三」「田」「—」「」。

塿 フン、ホン。方問切 【問】
「婁」に作る。
はらふ（掃除）。

堵 テツ、デチ。徒結切 【屑】
たくはふ（貯）、又、さゝむ（止）。○「漢」「宮」「南」「賣」「—」「財」「役」「賤」。

堵 テイ、タイ。特計切 【霽】
❶陰翳をなす貌にいふ字、おほふ、かさす。○「楚辭」「擧」「覽」「旌」「之」「翳」「—」。

㊀高き貌にいふ字、たかし。○〔張衡〕「直—・霓以高居」。

墟 鰒、又は、嘑と同ト。

墇 シャウ。諸良切 陽 之亮切 漾

ふさぐ、ふさがる〔壅塞〕又、〔だつ〕。

堽 ラ。盧戈切 歌

草にて製し土を盛るに用ふる具、もッこ。

墈 カン、コン。苦緘切 覃

けはしき岸きし、險岸〔又、俗に土の突き立ちて居るものをいふ。

墉 ヨウ、餘封切 冬 一庸と通ト、又、墻牆に作る。

㊀城の垣、かき、壘壁、かべ、又、小さき城。○〔詩〕「以伐二崇—一」。

㊁單にかき、牆。○〔書〕「若レ作二室家一、既勤二垣—一」。惟其塗塈茨。

㊂みぞ、溝。○〔禮〕「祭二水—一」。

㊃仙人の居處。○〔武帝內傳〕「我—宮玉女王子登也」。

〔天部〕天然自然にできたる邪圓なる塊。○十洲〔記〕「風海山有二—一塊」。

〔長部〕ながき塊。○〔李光〕「—一草離開國不」。

〔周部〕さはりの塊。○〔張觀〕「—一無二障礙」。

〔鬼部〕やまれたる塊。○〔李石〕「—一寒流鳴」。

〔金部〕よるるかね。○〔司馬彪〕「材—塊樹」。

墊 テン。都念切 豔

㊀困苦す、おぼる、〔溺〕、墮落す、くだる、〔下〕。○〔書〕「下—民昏—」。

㊁うるほふ、〔潤〕。○〔後漢〕「郭太行過雨巾一角—、時人乃放折二巾角一以爲二林宗巾一」。

㊂ほる〔掘〕。○〔莊〕「厠レ足而—レ之致二田入二汙莽一」。

㊃けがる、〔穢〕。○〔富弼〕「民被二—一、凡住而下曰レ墊、屋而下曰レ—」。

㊄下の部、また。○〔揚雄〕「墮—下也、

〔部部〕うれひ。○〔後漢〕「人無二宿儲一、下生—」。

〔穢部〕破れ落つ。○〔郭山碑陰〕「子城一角—」。

〔雨部〕うるほふ。○〔元稹〕「洲沓—一」。

墊 テフ、デフ。徒協切 葉

前條の㊃に同ト。

墋 シン、ソン。楚錦切 寢

㊀すなち、いさご〔沙土〕。○〔沈約〕「寧方割二于下土一、蹶重氣二于上—」。

㊁まドりにごりて清く澄まざる貌に、いふ字。○〔陸機〕「茫々宇宙上—下、黷」。

墁 セキ、シャク。之石切 陌

シャク、サク。之若切 藥

垢に同ト、土を築きて土臺と爲すもの、もとゐ〔基址〕。

堅 キ、ギ。奇寄切 寘 ゲ。許既切 未

㊀仰ぎ塗る、又、ぬる。○〔書〕「惟其塗—茨」。

㊁とる〔取〕。○〔詩〕「頃筐—之」。

㊂いこふ〔息〕。○〔詩〕「民之攸—」。

墈 墈に同ト。

墈 クワク。光護切 藥

墾 シヤウ、サウ。此兩切 養

もとゐ〔基〕。

墹 キン、ゴン。渠斤切 文

葦に同ト。

墹 キン、ゴン。渠客切 寘

㊀ぬる、塗、又、ふさぐ〔塞〕。○〔詩〕「塞レ向—レ戶」。

㊁うづむ〔瘞埋〕。○〔詩〕「行有二死人一、尚或—レ之」。

㊂溝のほとりの道。○〔同註〕「陸阜陵、

墳 テキ、チヤク。丁歷切 錫

㊀きざはし〔階段〕。

㊁的に通ず、まと〔射的〕。

墳 シヤウ。尸羊切 陽

新に耕す土、かへしつち、一畝に、滴の誤字ともあり。

墓 ボ、ム。莫故切 遇 蒙晡切 模

人の屍を葬る處、はか、つか、盛り土なきもの〔墓域〕。○〔國〕「古不レ修レ、又易レ—非レ古也」。

〔封墓〕はかの封樹したるを飾ひるまど。○〔書〕「酒誥」「—其子四、—一地—于—」。

〔墓墓〕父母、又は、長有の墓を思慕して其のはかの傍に廬を作りて住む、喪、安那城での禮。

〔地墓〕墓域の傍に在りて離れも訪はむはか。○〔地〕「孔子與、喪子貢—二年—上、凡六年。」

〔墓墓〕はかの傍に在りて民、西民哀。

〔丘墓〕はか。○〔禮〕「亦何面目復上父母之—」。

〔表墓〕死人の無聞に埋滅せんとを惜へて其の人の名などを記し表はす。○〔後漢〕「劉宮—謝達之—」。

〔墓墓〕はかをこしらふ。○〔禮〕「唯終有許諾之」。

〔墓墓〕はかばかに其の人の名、又は、號などを表記す。

○〔禮〕「身沒之後—、吾—、日陳飲酒往聲者之神墓」。

墓 サイ、セ。徂回切 灰

なか、〔丘〕、又、土の聚まりてうづだかくなれる貌にいふ字、たかし、うづだかし、又、其の處、なか、〔丘〕。

壞 コン。古困切 願

つち、〔土〕。

壞 リウ、ル。力敕切 宥

飯を盛る瓦器、かはらけ。○〔韓〕「蔬餐飯二土—」。

墜 ツ、ヂ。直類切 寘 シュツ、直律切 質

㊀おつ。

〔い〕下に至る、下りて地に著く。○〔列〕「天積—氣爾何憂レ—」。

〔ろ〕衰ふ、減す、亡失す、うす。○〔薛宣〕「終念二家聲一—」。

㊁上より下に遣る、下して地に致す、衰減せしむ、亡失せしむ、うしなふ、おとす。○〔書〕「乃其—命」。

〔墜墜〕ころがる。○〔家語〕「人調高崖、何以知—一之患」。

〔墜墜〕墜にたひてころがる。○〔臣〕「晉之—車張祝不死、其神必也」。

〔失墜〕おとす、おつ、うす、うしなふ。○〔後漢〕「臣下率—、無所—一」。

〔墜墜〕おつ。○〔孝德〕「雷鳴—一」。

〔墜墜〕おつ。○〔呂〕「月星—一、見華海—」。

〔墜墜〕おとす。○〔呂〕「中夜—一、復起—」。

〔墜墜〕おつ。○〔呂〕「中夜—一、復起—」。

〔墜墜〕かたかなひおつ。○〔韓〕「傳—時雷霆擊—」。

〔墜墜〕ゆたかに下る。○〔韓〕「化厚物成、甘露—」。

〔墜墜〕やまれおつ。○〔韓〕「雷雨條—一、朝夕復生」。

〔墜墜〕やまれおつ。○〔韓〕「—師—一」。

〔墜墜〕くつがへり落つ。○〔莊〕「雖天地—一」。

本性不動之道。

〔墜墜〕ゆるびおつ。○〔況〕「況子、文武之道—」。

〔墜墜〕おつ。○〔易林〕「李梅—し心息煩憤」。

〔墜墜〕前に同ト。○〔易林〕「傳敗—一」。

〔墜墜〕くづれおつ。○〔論衡〕「—一子城谷之間、我」。

〔墜墜〕前に同ト。○〔抱朴子〕「—一於智者之」。

〔墜墜〕前に同ト。○〔抱朴子〕「玄武之教、時時—」。

〔墜墜〕つまづきおつ。○〔劉禹錫〕「登明坡而不—」。

〔墜墜〕「—清旗于大—也」。

〔墜墜〕墜んにおつ。○〔王褒〕「詔—一而弗敢」。

〔墜墜〕ひるがへりおつ。○〔白居易〕「現炎凡日後、

歲々復—一」。

〔墜墜〕世に出でられざるにいふ語。○〔王褒〕「自來

世ろふ。○〔徐陵〕「宇宙—一、顧道得以」。

〔墜墜〕前に同ト。○〔徐陵〕「桑蓬填胸、宗社」。

「殺—一」。

〔墜墜〕消え失せること。○〔陳場帝〕「明典常幾、常

恐れて無所ならず。○〔陸機〕「才輕—一而

不敢騁」。

〔墜墜〕かたよりおつ。○〔白居易〕「塔墜多—一」。

〔墜墜〕みだれて本體を失ふ。○〔御覽〕「顧紀之—」。

「全—」。

〔墜墜〕やまれ落つ。○〔呂〕「—無復

〔墜墜〕主ブみおつ。○〔呂〕「高失之事—一」。

墜 カウ、ケウ。丘交切 肴 同ト。

やせたる地、瘠土、又、やせたる田、〔薄田〕。○〔淮〕「舜耕歷山、田者爭處二—墝一、以肪饒一相讓」。

墝 カウ、ケウ。口教切 效

地の垣ならざるにいふ、ひたちならず。

墟 折に同ト、一に墟に作る。

增 ソウ。杏勝切 蒸 子孕列 徑

㊀ます〔益〕。

〔い〕數加はる、多くなる、重なる。○〔詩〕「如二川之方至一、以莫レ不レ—」。

〔ろ〕數を加ふ、多くなす、重ぬ。○〔漢〕「廣二諸祀壇場珪幣一」。

㊁加はりて、多くなりて、重なりて、ます。○〔史〕「歲—變」。

㊂少なからず、おほし〔衆〕。○〔詩〕「燕徒—一」。「—宮參差」。

㊃層と通ず、重なれる家屋。○〔揚雄〕「曾と通ず。

〔加增〕ます。○〔後〕「不可故以—一」。

〔重增〕ます。○〔後〕「中秋—一非可趨走」。

〔修增〕修理をくはへ。○〔後〕「鎮—一而舞」。

〔益增〕ます。○〔曾鞏〕「江南春風信—一」。

增 ソウ。子鄧切 徑

前條の㊀に同ト。

壕 レウ。力照切 嘯 憐蕭切 蕭

まはりの垣、又、まはりの垣を設く、めぐらす。○〔班固西都賦〕「—以周垣」。

墟 キヨ、コ。去魚切 魚

㊀古昔は其の處に物ありて今は廢れたる地、ふるきあと、あと〔古跡〕。○〔張望〕「荒—人迹稀」。

㊁大いなる丘、おか。○〔洞簫賦〕「原夫蕭幹之所レ生兮、于二江南之丘一」。

㊂大いなる窠、たに。○〔木華海賦〕「南淩二朱崖一、北灑二天—一」。

㊃あきなひのまちもの、聚まる處、市場、まち、いち。○〔南部新書〕「端州以南三日一市、謂之趂—一」。

〔墟墟〕よるき城跡。○〔朝寇〕「夢殘禪寺—一」。

〔墟墟〕神社佛閣などの在る聲き高地。○〔古詩〕「北上邙山上、顧—一」。

〔村墟〕村里なる上。○〔梅堯臣〕「竹間鳴—水、

〔墟墟〕見—一」。

〔墟墟〕さびしきあと。○〔李商〕「亂後路—一」。

〔墟墟〕山々なか。○〔韓愈〕「時秋禮前鑒、新故人、

〔墟墟〕—一」。

〔墟墟〕よるきあと。○〔延壽〕「徒說—墟于」。

〔墟墟〕前に同ト。○〔白居易〕「夜花風—一」。

墟 ノク、ホク。四角切 覺

坏に同ト、つちくれ、塊。○〔楚詩〕「楚靈王出、亡消人嘯枕之以レ—」。

墳 塊に同ト。

墳 トウ、ツ。親勳切 圓

ありづか、〔封塚〕。

墮 タン。土緩切 旱

噴嘩、又、嘩嘩に同ト、禽獸の踐み通ふ道。

墦 ヘン、蒲寬切 元 ハン、符飯切 願 ハン。普于切 麌 ヘン。切 寒

一に墟に作る。

つか、はか、〔家〕。○〔孟〕「東郭—間之祭者」。

墝 墝に同ト。

墨 ボク、モク。莫北切 職

㊀すみ。

〔い〕水に摩りて黑き汁を出だし書畫なかくに用ふる具、油煙を膠汁にて固めて作る。○〔李密〕「古有二李廷珪一爲二第一一、張遇一次レ之、兗州陳朝一又次レ之」。

〔ろ〕前項のものを磨りおろして出だしたる汁。○〔圖畫見聞誌〕「每レ醉揮二于縉紳紈紵一、堵之上一」。

〔は〕前項の汁を物に點ずたる痕、筆跡。○〔唐〕「詔書數函苦大宗手」。「若レ鳥」。

〔に〕黑き色。○〔蘇軾〕「布彩淬—手

（注）黒き色を帯ぶる塵埃（油煙など）。○（家語）「有二埃一墮二甑中一」。

（八）工匠の黒き線を作るに用ふる具、すみなは。○（古樂府）「大匠持二斧繩鋸一」、（齊）「兩端」。

（ま）轉ト、て、曲れるを直すもの、即ち、法則などに借りいふ字。○（晉）「正色立朝、舉レ繩引レ一、朱・紫有分」。

（二）すみ色となる、くろむ、又、すみ色なり、くろし。○（法書要錄）「臨レ池學レ書、池水盡レ一」。

（三）あきらかならず、くらし（闇昧）。○（荀）「一以爲レ明」。

（四）默と通ず、聲無し、ものいはなり。○（史）「武王諤々以昌殷紂一一以亡」。

（五）不潔なると、汚れたると、けがれ。○（左）「貪以敗官爲レ一」。

（六）五刑の一、入れずみ。○（周）「一一鞭」。

（七）ものさしの名、五尺の長さ。○（國）「不レ過二一丈尋常之間一」。

（八）氣色の下ると、へりくだる。○（左）「肉食者無レ一」。

（九）墨翟、又は其の學派。○（漢）「抑三楊孔一一、流二連釋老一」。

（墨）きはめてくろき、又、面色の艶消えたるくろみたるにいふ語。○（呂）「飲到而一一」。

（墨）すみなは、又、規則の義にもいふ語。○（後）「鐘之宇正圓也、謂一一之宇曲直也」。

（墨）いれずみ。○（史）「使得一一以論」。

（墨）文字。○（史）「白刃在殺、白刃在一一、殺者殺也」。

（墨）白刃を殺、白刃とは、刃、物の相異するものに借りいふ語。○（後漢）「朱紫共色、一一雜糅」。

（墨）（後漢）「紫綬」に同じ。○（宋）「特紫綬手一一、故者」。

（墨）（後漢）「玉璽

壓 テン、デン。堂練切 [illegible]
殿堂の稱、との、一說に、殿堂の基礎、もとゐ。

壞 環に同じ、めぐる。

堞 諜に同じ。

堰 匯に同じ。〔史〕「出レ乃レ免」。
ヨウ、於用切 困 委勇切 圃

壅 ❶閉塞す、梗塞す、とづ、せく、ふさぐ、ふさがる。〔中論〕「賢者歸レ我、猶ヲ決レ導滯水一注中之大壑上」。
❷草木の根に土を被ひてやしなふ、つちかふ。〔培〕。〔宋〕「灌漑培—」。
〔禮記〕つちをふるがる。〔書〕「——疑」。
〔論語〕五ひ抱ひてふさぐ。〔書〕「日可存、輔—」。
〔後漢〕ふるがる。〔書〕「動白華—」。
〔禮記〕とどこほりふるがる、又、とどこたらず。〔書〕「動—」。
〔論語〕なほひふるがる、みはにふるがる、又、うもれて世に出られず、ふひたげて世に出でしめず。〔東方朔〕「懷—抱—而自說、食不飽、見計—」。
〔管子〕みたひふさがる。〔孟子〕「—塞如、讀有志則」。
〔論語〕みづみち。〔後漢書〕「—塞如、讀有志則」。

壅 擁に同じ。

撼 坎・轗に同じ。

壇 タン、ダン。唐干切 寒
❶土をもりて高く築き上を平坦にしたる場。祭祀・會見・盟誓又は將相を拜する時などすべて特殊の事に設くるものに、〔左〕「舍不レ爲レ」。

壇 タン、ダン。他案切 翰
—曼は、ゆるくしてひろき貌にいふ語。〔司馬相如〕「案衍—曼」。

壇 タン、ダン。儻旱切 旱
諸侯を其の封地より遠ひて祭壇なき僻地におくこと。〔周〕「暴レ內凌レ外則—之」。

❶なかには、中庭。〔淮註〕「楚人謂二中庭一曰レ—」。
❷特称の場所。〔杜牧〕「誰登李杜—」。
〔書經〕天を祭るには。〔詩〕「藩柴—」。
〔石壇〕石たゝみのには。〔詩〕「紅花綠—」。
〔圓壇〕まろき形の壇。〔禮〕「設祭位爲—」。
〔郊壇〕天を祭るには。〔孟子〕「設—出」。
〔社壇〕たまのには、國人の居處。〔左〕「參取—」。
〔仙壇〕仙人のをるには。〔元結〕「其上有—」。
〔祠壇〕祭りのには。〔史〕「祖—」。
〔宮壇〕前に同じ。〔漢〕「集—」。
〔郊壇〕郊數を修行る壇。〔書〕「立—」。
〔柴壇〕柴薪を焚きて天を祭るには。〔史〕「以—」。
〔玉壇〕玉壇牲幣祼鬯物、登—」。
〔天壇〕天を祭るには。
〔圖は北京城內にあるもの。〔書〕「郊—」。
〔北京城內にあるもの。〔書〕「郊—」。
〔圖之壇天〕
〔壇州郡〕「今—」。
〔壇〕ちか。ひをなすには。〔壇州郡〕「今—」。
〔壇〕ちか。ひをなすには。〔壇州郡〕「今—」。
〔石壇〕ひかし作られたるには。〔左〕「—」。
〔兄壇〕須設せるには。〔孝經〕「帝—」。
〔壇場〕友人會同のに、轉じて、友人集會の場所。〔北戸錄〕「越人每相交、作壇場以白犬牙爲」。
〔祭壇〕大臣大祭を拜する壇を行ふには。〔書〕「四登—」。

壇 墠に同じ。〔史〕「出レ乃レ免」。

墠 堀の本字。

堀 坎—は、志を得ざる貌にいふ語。〔楚辭〕「坎—兮貧士」。

塹 壍に同じ。

壍 チン。敕立切 緝
❶下入す、おちいる、くだる。
❷土を累ぬ、かさぬ。❸ます、〔益〕。

堅 テン、デン。直禁切 霽
❶ひくし、〔塹〕。
❷田實る、みのる。〔賈思勰〕「秋田—實」。

壎 ケン、クヮン。況袁切 元
クン。許云切 文 一に塤に作る。
樂器の名、土を燒きて造る、上尖り底平く、中空なり、六孔又は八孔ありて、形ば稱錘に似る、其の聲叫ぶが如し。〔詩〕「伯氏吹レ—」。
（圖之壎）

壎 キン、クン。吁運切 問
はち、〔壎〕。

壇 タン、ダン。徒干切 寒
ふさぐ、おほふ、おほはる、〔蔽〕。

壞 ラン、ロン。慮感切 感
坎—は、志を得ざる貌にいふ語。〔楚辭〕「坎—兮貧士」。

堀 堀の本字。

塹 壍に同じ。

壍 チン。敕立切 緝
❶下入す、おちいる、くだる。
❷土を累ぬ、かさぬ。❸ます、〔益〕。

堅 テン、デン。直禁切 霽
❶ひくし、〔塹〕。
❷田實る、みのる。〔賈思勰〕「秋田—實」。

壎 ケン、クヮン。況袁切 元
クン。許云切 文 一に塤に作る。

壎 キン、クン。吁運切 問
はち、〔壎〕

神の名。○風俗通「上古有三神・荼鬱・—兄弟二人」。

壙 クワウ。苦晃切 [蠠]

❶あな。
（い墓の穴。○禮「弔於葬者必執引若從レ柩及レ—皆執レ紼」。
（ろ地の空洞なる處。○孟「猶二水之就レ下・獸之走ヒ—」。
❷原野の空しくひろき貌にいふ字。
○（賈誼）「天下——、一人有レ之」。
（讀史）つかあな。○（封、篆）穴・圓——中—也。
（賈誼）おはらもてなつら（たるあな。○（孫綽）「第地帝・自啟——」。

壙 クワウ。苦謗切 [蠠]

壙に同じ、むなし。○（漢）「五・世—・僚」。

壑 テキ、ダヤク。亭歷切 [蠅]

ひめがき（堞。

墺 ヤン、メン。民堅切 [光]

地を平かにす、ならす。

十六畫

壚 ロ、ル。落胡切 [虞] ロ。凌如切 [魚]

❶色黑くして剛き土、くろつち、あらつち。○（書）「豫州下土墳—」。
❷酒家の酒を賣れる處、昔は其の狀を壺の如くす。○（史）「令二文・君當ヒ—」。
❸爐に同じ、ろ。○（陸游）「茶—烟起知二高興一」。
（賈誼）黃泉のこと、地の底・又・土とみな。○（後漢）「天子下——之下」。
（廣韻）つかつ・ひ・又・さけを貯る器。○（杜牧）「酒——」。
（賈誼）頭うる處。○（元稹）「——高併小衆青」。
（賈誼）赤色の頭の鳥。○（皮日休）「——高雅尺」。
（玉篇）酒つぼの酒のこれてなきもの。○（陸龜）「華——人世青——」。

壞 ケワイ、（エ）古怪切 [卦]

やぶる。
（い碎きくづす、やぶる、こはす（毀）。○（國）「天之所レ友不可レ—」。
（ろ碎けくづる、こはる。○（史）「上蔡之郡—」。
（後漢）くづれやぶる。○（後漢）「家貧——」。
（敢韻）前に同じ。○（後漢）「若衣——、一其相國」。
（祝韻）前に同じ。○（後）「今蘇——」、「相國以自後」。
（祭韻）やぶる。○（後）「衣裳——、有二罰之一」。
（祭韻）くされやぶる。○（後）「軍旅樂器在庫、蟲——」。
（後韻）うちくづす。○（後）「飲——十二之部」。
（祈韻）をれやぶる。○（後）「七・蘇部者——」。
（祖韻）やぶれくづる。○（後）「國天大廟、子必——」。
（霽韻）きれくづる。○（後）「有・部部——、者」。
（荒韻）あれくづる。○（管）「歌——而長」。
（銳韻）さけやぶる。○（王）「坐・管長塩蓋——」。
（祭韻）すき間を生じはる。○（左）「廢之——」。
（祭韻）つひやぶる。○（後）「衣・——」。
（祭韻）上るやぶる。○（後）「衣・——」。
（霽韻）はやみやぶる。○（後）「大・——」。
（霽韻）はやみやぶる。○（後）「有所・飲——」。
（霽韻）うちやぶる。○（後）「家・——」。
（打韻）

壞 クワイ、（エ）古怪切 [卦]

櫃に同じ、のき。○（楚辭）「曲・屋步——」。

壘 埒に同じ。

壞 以道切 [支] 夷隹切 [隹] 以水切 [紙] 欲鬼切 [尾] 以醉切 [寘]

土にて築きたるちり、ど（土埒）、一に、壇のまはりに築きたる低き垣。○（周）「封・人掌レ設二王之社——」。

壞 クワイ。（エ）胡罪切 [隨]

癒に同じ、はれもの、又、木のこぶ。○（詩）「譬・彼——木」、疾用無レ枝」。

壞 ケワイ、（エ）胡罪切 [隨]

❶つか、ばか（家）。○（梁）「但懸二劍空——」、有レ恨如・何」。
❷田の中の高き處、うねくろ（畔）。○（史）「耦・耕之——上」。
（位韻）をか。○（銳韻）「——」。
（隊韻）土をあつくもりたるつか。○（管）「高墳——」。
（隊韻）たかきをか。○（管）「乃坐——、待之」。
（隊韻）たかきつか。○（孫德）「——」、「待・大——」。
（隊韻）くづれたるつか。○（後韻）「——」。
（隊韻）おなじばたけのうね。○（孫正見）「——」。
（隊韻）はたけのうね。○（李白）「——」。
（隊韻）先人のはか。○（孫軌）「——」。

壟 壘の本字。

古文の叡の字。

壓 レキ、リヤク。郎擊切 [錫]

あな（坑）。

十七畫

壞 キ、ケ。盧宜切 [支]

❶やぶる、こはす、そこなふ（毀）。
❷壞の譌字。

壞 ジヤウ、ニヤウ。汝陽切 [陽]

❶とち。
（い天地、大塊ちきうち、つち。○（管）「不レ意天——之間、乃有二王郎一」。
（ろ陸地の耕種すべきところの稱。特に其のすでに耕種してあるところの稱。○（史）「膏——沃・野千里」。
（は耕種すべき地を組成せるもの、つち（岩石などに對していふ）特に其の柔くして塊なきもの。○（書）「厥・土惟——」。
（に國土。○（東哲）「九——茫々」。
（ほ場所、ところ。○（程晉）「誠・神・明之奧——、乃尤・物所處」。
❷廣に通じ用ふ。こゆ（厖）。○（雜陽上吳王書）「——子王」、梁」。
❸讓に通じ、ゆたかなり、富足。○（列）「一年而給二年而足三年大——」。
❹やぶる、そこなふ（壞）。○（穀梁）「日食レ之何也吐者外——食者內——」。
❺入り亂るゝ貌にいふ字。○（史）「天下——、皆爲レ利往」。
❻數の名。○（風俗通）「京生レ垓々生」。
（土韻）つち。○（後漢）「——番」。
（黃韻）黃色なるつち。○（後）「厥土惟——」。
（黃韻）ありつか、又、魚の穴。○（管）「去——、寸利・水」。
（養韻）肥えたるつち。○（後）「——蘇」。
（養韻）けがれたるつち。○（後）「以蘇——」。
（養韻）肥えたる土地。○（管）「所・種穀之有——」。
（宋韻）黃緑之間の色。
（宋韻）天地。○（孫）「名詩——」。
（宋韻）くるみづち。○（左）「由有——」。
（宋韻）おわかたるつち。○（後）「食——」、「下食——」。
（宋韻）
（宋韻）（い）こえたるつち。○（管）「——以——」。
（宋韻）（ろ）とゆるえ。○（孟子）「——」。
（宋韻）こえたるつち。○（孟子）「——」。
（宋韻）

（宋韻）地下、地獄。○（管）「不・今・聲・宜懷・懷——」。
（宋韻）かれつち。○（管）「聲・原・寄野・成・蘇——」。
（宋韻）水氣なくやけたる土地。○（後）「蘇・部——」。
（宋韻）彩飾の地。○（結實・王）「陝・西・開——」。
（宋韻）敵軍の場處。○（管・周）「後・漢之間・鑑・蘇——」。
（沙韻）すなはち。○（管）「——」。
（真韻）眞實といふに同じ。○（管）「——」。
（真韻）一年かゝに物を植ゑる地。○（管）「——」。
（問韻）ゆゝの都市。
（公韻）官有地。○（管）「——」。
（黃韻）ひとつかみの土。○（梅林）「——門・陳・孫——」。
（陽韻）小石ある所。○（茶經）「中・有生——」。
（陽韻）野菜のはたけ。○（常陽）「——」。
（陽韻）ひろ地。○（白居易）「宜・都・枚子——」。
（陽韻）沖・擂なる土。○（續・後）「——」。
（陽韻）支那・古昔の游戲、木・材にて形ものを作り、其の一を地上に立てて、他の一を投ひゆつるもの。○（史）「——而歌・于路」。
（陽韻）
（陽韻）
（陽韻）

〔士〕官職に宮める人。○〔國〕「學者好」—一。
〔博士〕學者の位階。○〔史〕「—…七十人前論」學。
〔學士〕（ハ）學問に從事するものにて學者といふ比前に。○〔史〕「天下之—…」解然鄉風矣。
（ロ）官位。○〔孟〕「—…之職、本以文學官」
〔士官〕官職にいさめるさまひと。○〔史〕「食夫鄭」
〔士人〕「—…」「故—」。
「〔孟〕「—…」乃見。
〔士師〕獄官のさまよりなるさまひと。○〔史〕「學世」
〔天士〕天道を知れる者。○〔史〕「故—」「—」「我」
以大賢」。
「有—…」「不能」用。
〔賢士〕賢能にすぐれたるさまひと。○〔史〕「鄭」
〔智士〕智略のすぐれて強き者。○〔史〕「重義」「—」
「—」「—」「—」

壼　コン。苦本切　阮
宮中を往來する道。閨道。○〔詩〕「室家之一」。
〔宮壼〕宮中のみちといふより轉じて宮中を稱するに用ふる語。○〔後〕——中無不聞。
〔中壼〕宮中のこと。○〔後〕——始始——、行天下。

壽　シウ、ジュ。承呪切　宥　是西切　霽
❶ひさし（久）。
（い）物の存在長しながし。○〔莊〕「樗社樹散木也、爲舟則沉、爲棺槨則速腐、是不材之木、無所可用、故能若是之一」。
（ろ）人の生存ながし。いのちながし。○〔莊〕「使三聖人一——、使三聖人富一、使三聖人多一男子一」。
❷いのちながき者。長生者。○〔詩〕「三——作レ朋」。
❸ことぶき。
（い）いのちながきこと、ながいき、長生、長命、又、いのちながき幸福あること。○〔漢〕「心有二魏舜之志一、則體有二松喬之一」。
（ろ）品物を送り酒盃を進めなどして好意を表はすこと。○〔史〕「戰國仲子奉二黃金百鎰一、前爲二春申君一壽」。
❸生存の間、年齡、とし、よはひ。○〔莊〕「無爲則衆衆、衆者憂患不能處年——長矣」。
❹いのちながかれとれがふ、いはふ、ことほぐ。○〔國〕「夫盈而不、僞慼而不貳者、臣能自——也、不知其它」。
❺星の名。○〔爾〕「——、星角、九也」。

壽　シウ、ジュ。承呪切　宥　是西切　霽
〔壽考〕いのちながし。○〔詩〕「——無疆」。
〔三壽〕三種の壽稱。○〔詩〕「——作朋」。
〔仁壽〕仁道ありていのちながきこと。○〔後〕「——民——」。
〔長壽〕いのちながし、又、生命を長く保つこと。○〔後漢〕「服之者——、——之者國師」。
〔休壽〕福ある壽。○〔後〕「——少論匹」。
〔壽色〕國公社稷——少論匹」。
〔壽考〕ながいき。○〔後漢〕「致——之福」。
〔壽命〕前に同じ。○〔後漢〕「——之福」。
〔壽祺〕前に同じ。○〔後〕「其間父子——、相與——、前期——、人——、北——」。
〔壽考〕前に同じ。○〔史〕「其間父子——、相與——、前期——、人——、北——」。
〔壽考〕前に同じ。○〔後〕「——、相與——、前期——、人——、北——」。
〔高壽〕前に同じ。○〔史〕「其間父子——、相與——、前期——、人——、北——」。
〔壽考〕木の名。竹に似て高く長し。○〔後〕「

〔ロ〕意思に對して行爲。威儀。○〔國〕「敬以直レ内、義以方レ—」。

〔ハ〕妻妾に對して臣僕。○〔國〕「好レ内女死レ之、好レ—士死レ之」。

〔ヘ〕私事に對しておほやけ事。○〔禮〕「男不レ言内、女不レ言レ—」。

〔ト〕女系の親、母妻などの血縁。○〔詩疏〕「實是齊之—甥」。

〔チ〕婦室に對しておもて座敷。○〔禮〕「男子居レ—」。

〔リ〕はづれたるもの、はづれたる處、とりのけ、はづれ。○〔管〕「天覆而無レ—也」。

❶そとに置く、よそにとりなす、ほかにす、そらす、はづす、又、まりぞく。〔庶〕「うとんず」〔疏〕。○〔易〕「内三君子二而—二小人」。

❷そとに出づ、よそに移る、そる、はづる。○〔呂覽〕「食汙之利—衆」。

〔方外〕〔ハ〕範圍のほか、又、外國。○〔禮〕「疏給—郊」。

〔ろ〕世のほか、又、世のほかに身を隱く者、世をすて人。○〔莊〕「游—之一者也」。

〔風外〕あきみのそと、轉じて、出征軍のこと。○〔史〕「以内事人制之、—以—時宜制之」。

〔度外〕きまりのほか、さはづれ。○〔後漢〕「當」「意」「論」二字給—一耳」。

〔望外〕くにのほか、えびすなど。○〔管〕「—一厚」。

〔意外〕きまりの人數のほかの者。○〔禮〕「志時已有—一」。

〔化外〕ほかのくに。○〔後〕「學制論」、無出—」。

〔職外〕すみなはのほか、御ち、規則のほか。○〔管〕「不牧之民—之一也」。

〔段外〕うとんじまりそく。○〔後漢書〕「「—」。

〔思外〕環きところ。○〔詩〕「君子在—」。

〔天外〕天のそと、數も測きところ、又、數も高き處の喩ばいと用。○〔宋史〕「長樂宮」「—」。

外　クヮツ、クヮチ。五活切　匂

前條の❶と❷とに同ト。○〔黃庭經〕「洞視得見無二内一—」。

夘　エン、チン。於阮切　阮

臥しまろぶ貌にいふ字、まろぶ。

夗　エン、チン。烏勉切　銑

すこころくの采、籌。

夘　古文の外の字。

二畫

夙　シュク、ソク。息六切　屋

❶はやし、早。

〔い〕晩からず、後れず。○〔家語〕「味爽—興」。

〔ろ〕ふるし、舊。○〔歐陽修〕「庶少慎—其一志」。

❷早朝につとに。○〔詩〕「—興夜寐」。

❸早朝、あした。○〔書〕「—夜惟寅」。

❹早朝より敬むつゝしむ、早朝より業に就きつゝしみて怠らざる義。○〔詩〕「載震載—」。

〔孫外〕日敬と早朝とを、即ち終日敬みて業に就くこと。○〔孫〕「敬業」「敬」「業」「敬」「業」「敬」「

（襄王夢）下に引く例上帝樂と安寧すること。○（神女賦）「楚—！」「羅袂玉、環佩干雲、夢之間、使王獨高唐之夢、其夜玉寢、果—與、神女遇、其狀如何。」（鄭州夢）鄭州といふ國の夢のゆめ。○（郭子）、客、夢中ひ語を飲みて問答するも。○（杜牧）「十年一覺—！」

（巫山夢）楚人と枕席を同じくするも、故郷は宋玉の賦上り出でたり。○（高唐賦）「昔者、先王嘗遊高唐、怠而晝寢、夢見一婦人、曰、妾巫山之女也、爲高唐之客、聞君游高唐、願薦枕席、王因幸之、去而辭曰、妾在巫山之陽高丘之岸、且朝爲行雨、朝朝暮暮、陽臺之下、旦朝視之如其言、故立廟、號曰朝雲。」（楊柳夢）（魏文帝）「わづかの時間、天、實貴のはかなきものもひとり、夢中夢より出づ。」○（異聞錄）「洛下、夢者曰、魏安釐王、夢南柯郡、使入次中、見槐、曰、汝安能、其王曰、吾南柯郡政事不理、願卿爲守西之、夢至郡凡二十載、使治郡、建樹、因尚主、有後下六、郡無朝廷、可、驚一覺、有一大槐、方王也、又夢二穴、百上、南柯、郡城所守之郡也。

夢　ボウ、モウ。彌登切　蒸

ゆめ。○（詩）「甘—與レ子同ビ—」。

寅　イン。爽眞切　軫　寅に通ト作る

㊀つゝしむ、（敬）、おそる（惕）。○（易）「夕惕若—」。

㊁推駁す、牽引す、とりもつ、ひきあゞ、ひくゝすゝむ、又、繰連す、附繰す、よりすがる、よる、つらなる、又、てづる、つて、ひき。○（宋穆修會遇詩）「介立傍無レ援陰、排密有レ—」。

㊂さほし、（適）、又、さほき處。○（推）「九州之外、仍有二八—一」。

●一に喪に作る、誤に結ひたるもの。○（易）「列二其—一」。

㊃おほいなり（大）。○（揚雄）「岑—大也」。

寅　イ。延知切　支

前條の㊀と㊂とに同ト。

夤　テウ。丁聊切　蕭

㊀おほいなり（大）。㊁おほし（多）。

夥　クワ、胡果切　哿　カイ、懷枴切　蟹　ケ。切

物事の盛なるにいふ字、おびたゞしし、おほし。○（唐）「晉地狹而人—」。

（晉書）「えひくおびたゞし、海山なり。」○（魏）「他物—！—」。

（禮記）「前代同じ。」○（荀）「民、物—！—」。

（晉書）「此代同じ。」○（後漢）「—！—路於互鹿」。

媒　俗の夥の字。

十二畫

媧　俗の夥の字。

大　部

大　タイ、ダイ。徒蓋切　泰

㊀おほきなり、おほきし、おほいなり、（小の對）。

（㊁）ひろし、ゆたかなり。○（易）「—哉乾元萬物資始」。

（㊂）おほし、すくなからず。○（漢）「匈奴必以レ吾爲二—單之誘一」。

（㊃）ほなはだし、はげし。○（史）「—風起分雲飛揚」。

（㊄）ながし、ひさし。○（莊）「小年不レ及二—年一」。

（㊅）極束なし、度なし。○（史）「劉季固多二—言一、少二成事一」。

（㊆）系統上に一級を加へたり。○（史）「李少君見二九十餘老人、曾事二其—父、其遊射處上、一座甚驚」。

（㊇）高し、すぐれたり。○（戰）「無レ—二小而國族—彌多」。

（㊈）強勢なり、さかんなり。○（左）「國—重要なり、主なり。○（王僧）「說者情之華、服者心之文、巖巖盛—、禮衣、冠冕レ—」。

（㊉）至らざるなしあまれし。○（荀）「夫是之謂二—化至一」。

（㊊）容易ならず、常ならず。○（史）「項氏世々將、家有名二于楚一、今欲擧二—事一、將非二其人一不可」。

（㊋）密ならず、あらし。○（莊）「衣二—市而補レ之」。

（㊌）釋し、寬めり。○（孟）「戰二—人」。

（㊍）傲慢なり、おごれり。○（孫楚）「荀以二容一爲レ名」。

（㊎）年長けたり。○（沈千運）「年—自疎隔」。

（㊏）立派なり、逞し。○（唐）「骨利幹唐—瀚海北、產良馬、筋骸壯、—日中馳三數百里」。

（㊐）概略なり、あらまし。○（魏略）「三人務二于精熟、亮獨觀二其—略一」。

（㊑）樞へて歎稱、贊美に用ふる辭。○（韓愈）「—唐受レ命有三天下一」。

（㊒）ふさし。

（い）唇ばれり國ひ長し。○（杜甫）「仙—李盤根—」。

（ろ）脣えたり、ふくれたり。○（唐）「腹合、おほきさ、ふとさ、面積、容量、層圍ひ。○（宋）「吾面不レ遇二樣子一」。

（は）極致、原初、きはみ、つめ、はじめ、おこり、もと。○（荀）「衆者合而成レ文、以齊一一」。

（に）他なおほきなりと爲す、たふとぶ、おもんず。○（荀）「三齊信一而輕二貨財一」。

（ほ）みづからおほきなりと爲す、たかぶる、おごる、すぐ。○（禮傳）「不二自盈一」。

（へ）おほきに、（おほいに）、あまれく、おほくはなくしく、ながく、すぐれて、さかんに、おもに。○（穆天子傳）「—奏二齊樂一」。

（と）中間の曲、からざる弓の名。○（周）「唐弓—弓」。

（ち）厚く、おほいなり。○（禮）「曉神祇以—事本—！—」。

（り）さかんにおほいなり。○（禮）「樂—聞—！—」。

（ぬ）束のおほいなるも。○（左）「束大必焚！—」。

（る）ゆるやかにおほいなるも。○（禮）「—好、（る）たかおほいなるも。○（後漢）「子產井田駐耳、面—！—」。

（を）酒盃のおほきなおほいさ。○（史）「長命酒卮！—」。

（わ）春生のも。○（史）「要略日、考—！—巡、試卮酒春宴」。

（か）長く、おほいなるも、又、たけなるも。○（論文）「長大」。

（よ）長く、おほいなるも、又、たけなるも。○（論文）「長大」。

（た）ひろひろおほいなれど、又、ひろがりたり。○（論文）「偏大」。

（れ）ひろくしておほいなり。○（禮）「大、妙、讀！—」。

（そ）ひろくおほいなる。○（禮）「—！—」。

（つ）ひろくおほいなり。○（論語）「恕偏、光攻、語量！—」。

（ね）たかくおほいなるも。○（史）「位不長！—」。

（な）こえて、とし。○（禮）「位不長！—」。

（ら）たかくおほいなるも。○（史）「以！—」。

（む）長大なり。○（禮）「—」。

（う）ひろくおほいなるも。○（史）「！—」。

（ゐ）ひろくおほいなるも。○（論語）「恕偏、光攻、語量！—」。

（の）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（お）ひろくおほいなるも。○（史）「！—」。

（く）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（や）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（ま）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（け）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（ふ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（こ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（え）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（て）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（あ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（さ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（き）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（ゆ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（め）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（み）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（し）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（ゑ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（ひ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（も）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（せ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（す）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（ん）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（ゐ）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（の）ひろくおほいなるも。○（禮）「—」。

（お）ひろくおほいなるも。○（禮）「

㊀はなはだし、甚。○〔歐陽修〕春雨其多已—。
㊁さほる、〔通〕。○〔陸贄〕除—其醜、常
㊂度合にては正しきもの極點に至るも、つめ、又順序にては、最初なるも、おこり、はじまり。○〔易傳〕易有二—極—。

夫　フ。　風無切　虞

㊀一人前の男子の通稱、をのこ、をとこ。○〔書〕無レ求備於一—。
㊁妻と配合せる男、をっと、つま、せこ、をびと、良人。○〔易〕夫—婦々。
㊂賦役、又、賦役に出づるをのこ。○〔後漢〕諸懶・姙者、賜二胎養穀一、人三斛復二其—。
㊃發語の辭。下文に說くところを汎く指してその端を開くときに用ふる字、それ。○〔史〕—學者載籍極博。
㊄ある物事を指し示すに用ふる字、かの、かれ。○〔左〕楚人謂二虎子一乳之麋—也。
㊅語の末に附加して感歎の意を表はすときに用ふる字、かな、か。○〔史〕「於戲悲—」。
㊆復に同じ、また。○〔文選〕獲三我所レ
㊇漢時代の尺度の名、六萬尺の長さ。○〔漢〕六、尺爲レ步、步百爲レ畝、々百爲レ—。
〔詩〕「華人傳費。
〔荘夫〕無はぐれたるをとこ。○〔國〕—…之夫、
〔鳳夫〕萬人といふ意同に、多數の人をいふ。○〔史〕「…—之役、可以戰敵。
〔荘夫〕男子といふ意同に。○〔名〕所以謂女子。
〔詩〕「…—。
〔凡夫〕身分卑き男。○〔國〕「…—不可擧志。
〔武夫〕〔小〕軍人又は武士。○〔國〕「…—。
〔武夫〕〔小〕軍人又は武士。○〔國〕「…—。
〔…〕玉に次ぐ美石。○〔史〕「…—。

〔…〕下男、ふもべ。○〔社〕「…—。
〔…〕すぐれて賢き男。○〔社〕「…—。
〔…〕物を賣る男、あきうど。○〔…〕「…—。
〔…〕車馬をあつかふ者。○〔…〕「…—。
〔…〕あらき毛織の布の衣を着したいやしき者。○〔…〕「…—。
〔…〕心正しからぬ者。○〔…〕「…—。
〔…〕「…—。
〔…〕心おそたる者。○〔…〕「…—。
〔…〕心いやしき者。〔…〕心の狹く行の輕き者。○〔…〕「…—。
〔…〕「…—。
〔…〕「…—。

（字典）長くたれひかかるもの。○（神鼎）一藩・地立之一…一。（音義）とばきをびす。○（左）一…一之序。

夸 クワ、ケ。枯瓜切 麻

一おほいなり、（大）。○（吳都賦）「邑屋隆—」。
二體の柔きにいふ。やはらかなり。○（詩）「無レ爲二—毗」。

夸 クワ、ケ。苦瓦切 馬

一跨に同じ、またがる。○（漢）「—レ州兼鄴」。「銀・黃—二鄉・里」。
二自ら大いにす、ほこる。○（楊僕）「懷二—

夸 ク、コ。匈于切 虞

一おごる（奢）。○（隋）「知二恣—之非」。「し」。
二美しき貌にいふ字、うつくし、みめよ

夸 ク、コ。區遇切 遇

たかし、（高）。○（左思）「横・塘倉・下・邑・屋隆—」。「長・于延・閣飛・虞外・五」。

夸 クワ、ケ。苦禾切 歌

馬の額の一の解に同じ。○（陸機）「或、招レ世而自—」。

奔 奉に同じ。

四畫

奈 ケン、ゴン。魚吻切 吻

おほいなり（大）、たかし（高）。○元包經傳「觀二其辭一則—然而不レ及」。

奄 シュン、常倫切 諄

おほいなり（大）。

夾 カフ、ケフ。訖洽切 洽

一左右より持つ、旁より扶く、はさむ、たすく。○（左）「—二軸成・王」。
二ちかし、ちかづく（近）。○（書）「懷爲レ—」。「日以飛」。
三かぬ（兼）。○（呂覽）「晉授二五・龍一、—レ—、乃能行」。
（夾）兼家の經文。○（呂覽）「鄒忌・宗於・鄒中、設二論自明一、手鼓—一」。
（鼓夾）巧みに言說して論破し易からざること。○（宗元）「鄒如—一」。
（挾夾）さしはさみ扶助すること。○（周）「常兩史—、乃能行」。

夾 ケフ。吉協切 葉

一かたはら（傍）。
二なさこだて（俠）。
三つか（把）。○（周・註）「壺謂二卻—」。
四狹に同じ、せばし。○（後漢）「東沃沮其地東・西—南北長」。「弓」。
五中間の屈曲せざる弓の名。○（周）「—」。

夾 セン。失冉切 琰 セキ、シャク。施隻切 陌

夾の字の旁に从ふとは別なり。

物を盜み取る、とる。

奄 ハ、ヘ。披巴切 麻

おほいなり（大）。

奈 ライ、レイ。力改切 賄

小船のかち。

五畫

奈 ヲ、エ。烏瓜切 麻

おほいなり（大）。

奄 サ、ヒ。仕下切 馬 奉に通ず。作る。

ほこる、おごる（奢大）。

奈 テイ、タイ。都分切 齊

典禮切 霽 丁計切 霽

おほいなり（大）。

奄 エン。衣檢切 琰

一上より被ひて餘りあり、あまる、おほふ。○（詩）「—二有四・方」。
二一面におほひて、おほいに、又、遮べて、一時に、ことごとく、たちまち、（忽）、にはかに（遽）。○（書）「—旬二萬姓」。

奄 エン。衣炎切 鹽

觀ると久し、留まると久し、ひさし。○（詩）「—觀二鋈・錡・戈」。

奄 エン。於豔切 豔

精氣閉ち藏まる、ふさがる。○（李密）「氣息—」。

奔 ハウ、ヘウ。披教切 效

一起こし釀す、おほいなり（大）。○（揚雄）「以二大・官・冒レ人曰レ—」。
二敵陣に投げ掛くる石、なげいし、（礮石）。又、其の石の崩るゝ聲。○（韓愈）「投—鬬碎驚」。

卒 デフ、チフ。尼輒切 葉

一人を驚かすに使用するもの。
二錐を犯すと止まず、盜むと止まず、やまず。
三大いなる聲、おほこゑ。

奔 ヒツ、ヒチ。房密切 質 フツ、ホチ。分物切 物 一に獻奏に作る。

拂彈に通ず用ふ、おほきなり（大）。

獻 奔に同じ。

奈 ケン、クワン。求阮切 阮

甚だ大いなり、おほいなり。

奐 カウ、コウ。古老切 皓 セキ、シャク。施隻切 陌

大いに白き光澤つや。

奐 古文の澤の字。

うるほひ、つや（光潤）。

奈 シヤ、ジヤ。才邪切 麻

一大いなる口の貌にいふ字、おほぐち。
二大いなる貌にいふ字、又、ふとし。

奈 ハン、バン。薄旱切 旱

並び行く、又、其のもの、とも（侶）。

奇 キ。渠羈切 支

一異物。○（國）「—生」怪。
二くすし。
（いゝなみ〳〵のものならず、すぐれたり。○（三國）「太・祖喜持二彩繫日黃・鬚兒寬大—也」。
（ろ）つねに差へり、ことなり。○（周）「—服・怪民不レ入レ宮」。
（は）つねに存せず、めづらし。○（禮）「天・林多レ寶天・族多レ—」。

（禮）めづらしきを求む。○文心雕龍「新・奇之（禮）心の中にめづらしき才能をいたく。○（韓愈）「尤—」。
（奇）いたくめづらしきこと。○（韓愈）「勢到・飛・仙（奇）すぐれたること。○（韓愈）「富必有—」。「—」。
（奇）すぐれて大いなること。○（蘇・陽修）「次公才（奇）すぐれて大いなること。○（蘇・軾）「少小・勝—」。
（奇）めづらし。○（高・啓）「吐・餐實—」。
（奇）前記同じ。○（王・令）「綱・中少—」。

奇 イ。隣綺切 紙

倚と通ず、よる。○（漢）「輪・困難—」。

奇 アイ、エ。倚懈切 蟹

一に奇に作る。

奇 アイ、エ。倚懈切 蟹

一に奇に作る。

奉 ホウ、ブ。父勇切 腫

奈に同じ。

奉 ホウ、ブ。父勇切 腫

一うく、承。
（い）慎しくのせ持つ。○（禮）「長者與レ之提・携則兩手—二長・者之手」。
（ろ）うけつぐつぐ。○（白居易）「陸・下荷能勤二敎・令・撫レ之推・誠信—レ之則三・年化成五・年理定」。
（は）仰せを受く、うけたまはる。○（公羊）「注以下所二銜・一之國事上」。
三さゝぐ。
（い）一の（い）に同じ。「執レ之」。「心推・」。
（ろ）上に獻くいたゞく。○（晉）「傾」。
（は）上に獻ずたてまつる。○（陸游）「敢—二君子宴」。
四厚長に事ふ、つかまつる、はぐくむ。

（禮）よくつかふる。○（禮）「祭祀・少—」。
（禮）敬・礼・敬也。
（奉）おそれつかふ。○（史）「官・官・用・命、尤所—」。
（奉）前記同じ。○（程・愈）「—一・歸・旨」。
（侯・諫・絡）祿のてあて。○（史）「今・有・無—一之」。
（紀・島）すぐれたること。○（韓愈）「富・必有—」。
（奉）前記同じ。○（程・愈）「—一・歸・旨」。
（侯・諫・絡）祿のてあて。○（史）「今・有・無—一之」。
（紀・島）之人、而樂・與之比、皆命・日・奉・台」。

奉 ホウ、ブ。房用切 宋

前條の（い）さゝと（ろ）さゝに同じ。○（史）「高・祖以レ吏・繇・咸・陽二、吏皆送二—錢三、何獨以レ五」。

奔 カイ、ケ。許戒切 卦 シ、淺氏切 紙 一に奔に作る。

嗜して殘する大いなる聲。

奔 ケツ、奚結切 屑

一に奔に作る。

頭の形まがりて正しからざるをにいふ字、まがる、れ、ゝく、一說に見識なし、みさなし。○（賈誼）「—貽亡レ節」。

奔 レツ、レチ。力結切 屑

前條の上段に同じ、一說に、節目多し、ふしくおほし。

奔 ヘイ、ベ。扶畦切 齊

頭を傾けて態を作る。

奔 キ、ギ。渠羈切 支

かへりみる（顧）。

六畫

奔 クワン、胡官切 寒 カン、河干切 寒 エン、チン。雨阮切 阮 ケン、コン。火遠切 阮

（紀・島）めづらしきを求む。○文心雕龍「新・奇之（紀・島）新・奇之

㊀おごる。奢。㊁おほいなり。大。
㊂大いなる口の貌にいふ字。

奎　ケイ、ケ。傾畦切　齊

㊀二輔の間。
㊁星の宿り、二十八宿の一つにて西方の十六星をいふ、二輔に象りたるもの。○〔禮〕中春日在レ季夏一旦中。

奎　キ。苦委切　紙

蹉に同じ、足を擧げて行く貌にいふ字。ゆく。〔奎蹄〕。

奏　ソウ、ス。則候切　宣

㊀すゝむ。進。
（い）君王に白す、上言す。○〔書〕敷奏。
（ろ）上に差し出だす、君に致す。○〔詩〕以レ言。
（は）むかふへ遣る、上位へ推す。○〔莊〕一レ力驕然。
（に）君王の許に至る、上へ行く、向かふへ出ず。○〔梁〕眉矣風浪一善一擧止、每一趨一。高・祖甚悅焉。
㊁君王に上る書。○〔史〕上不レ冠望二見齋一。帳中一使入可二其一。
㊂樂の端を更むるも、調の更はるも。○〔周〕九一乃終、謂二之九一成一。
㊃音樂を爲す、かなづ。○〔梁〕晚・年頗好音樂、有二妓妾十數人一、竝無二敎・服姿容一、每有客、常懸レ簾一レ之。
㊄國の類、ふだ、文字を記し鄙ふるに用ふるもの、又、其の文案。○〔晉法〕〔召二王公一以二一・尺一、以下以二一・尺版一〕。

〔奔水部〕　詩歌の文詞、題花の版書より相國の名を奏するに至る。○〔孝卷〕〔版籍・名臣傳〕、〔義版一一一〕。
〔奏金部〕　初めて國を奏す。○〔水經・註〕〔韓山碑〕、光武、有一一一一。
〔奏行部〕　前に同じ。○〔孟〕〔常思一一一一〕、斷〔奏議部〕　奏く結びつきて離れざる文は。○〔白居易〕〔奏狀一一一一〕、〔奉來書南嶽〕。

契　セツ、ケイ。列切　屑

㊀禹に同じ、別に、セチ切。
㊁楔に作る。

契　ケツ、ケチ。苦結切　屑

㊀擊に同じ、勤め苦しむ、くるしむ。○〔詩〕死一生一闊。
㊁面晤せざるとひさし、とほしいうと。〔疎闊〕。○〔後漢〕行路急卒、非レ陳二一闊一之所上。
㊂鍥に通じ用ふ、きざむ、〔刻〕。○〔呂覽〕「一レ舟求レ劍」。
㊃たつ、〔絕〕、又、かく、〔缺〕。○〔司馬相如〕「陛下謙讓而弗レ發一三一神之獸一」。

契　キツ、コチ。欺訖切　物

國の名、一丹、〔丹の熟字參照〕。

契　カツ、ケチ。苦黠切　屑

たばむる、又、たばむれ、〔戲〕。

夐　カイ、ケイ。丘袁切　灰

おほきなる貌にいふ字、おほいなり、〔大〕。

夐　タ、テ。陟加切　麻

㊀はる、〔張〕、又、ひらく、〔開〕。○〔莊〕「神農關ー戶畫夐、姻衢廿一戶而入」。

奔　ホン。迪昆切　元

㊀はしる。
（い）疾く行く、馳せ赴く、勢はやく場所を轉ず。○〔詩〕「鹿斯之一維足伎一々」。
（ろ）逃れ去る、免れ至る、にぐ。○〔左〕「既合而來一」。
（は）禮を備へずに嫁す、みだりに嫁娶す。○〔周〕仲春之日令會二男女一一者不禁。謂レ不二逆六禮備一、非二淫奔一也。
㊁はしらしむ、はしらす、又、ふりそゝぐ、おふ、〔逐〕。○〔殺梁〕是以一父也。
〔詩〕ながれはしる。○〔殺梁〕是以一父也。
〔襄巻〕おさへてはしる。○〔孟〕「飲馬一一」。
〔綠巻〕とくはしる。○〔孟〕「一一走在側」。
〔荀巻〕かみなりの如く馳奔はしる。○〔孟〕「水逝車一一」。
〔羊巻〕はしの類おが如くにとくはしる。○〔鮮〕「一一鮮一一」。
〔宋巻〕ひゆきたる。○〔左〕「晉侯客召、犯奔公子」。
〔孟巻〕たばかりてにゆはしる。○〔晉〕「子貢奔一一」。
〔孟巻〕のがれはしる。○〔晉〕「帝以數十騎一一」。

奔　フン、ホン。方問切　問

覆敗すくつがへる、やぶるにぐ。○〔李陵〕「斬ー將搴旗、追ー逐一北」。

奔　ホン。補問切　願

㊀はる、〔張〕、又、ひらく、〔開〕。○〔莊〕「神農關ー戶畫夐、姻衢廿一戶而入」。

奔　ジャ。詩車切　麻　タ、テ。陟駕切　禡　シ。敝余切　紙

侈に同じ、おごる。○〔張衡〕「有二遇虛公子一、心一體侈」。

奔　ホン。迪昆切　元　に作る。古文付載

奕　エキ、ヤク。羊益切　陌

㊀おほきなり、〔大〕。○〔詩〕「一一梁山、維禹甸之」。
㊁うつくし、美。○〔詩〕「新廟一一」。
㊂さかんなり、盛。○〔詩〕「四牡一一」。
㊃光りかがやく貌にいふ字、かがやく、ひかる。○〔北齊〕「瑯邪眼光一一、數步射人」。
㊄次序、ついで。○〔詩〕「萬舞有レ一一」。
㊅容姿をつざる、又、かたちづくる。○〔揭雄〕「奕・傑容也、自二關以西、凡美容謂二之一一、或謂二之傑一」。
七うれふ、憂。○〔詩〕「氷見二君子一一憂心一一」。
八かさぬ、重。○〔國〕「一一世載レ德」。
九碁を圍むこと。○〔孟〕「奕・秋通國之善一者也」。

〔奕奕〕水神の名。○〔論衡名〕「某江之一一」。
〔賈奕〕佛家の所謂四梵天の一。
〔張奕〕はやきこと。○〔後漢〕「張衡一一」。
〔張奕〕まとやかに、してうつくし。○〔何承天〕「十七一一紙鳶」。
〔晉奕〕うつくし。○〔何晉奕〕「晉一一一而不一」。
〔福奕〕光りかがやく貌にいふ語。○〔爾引〕「奕・輝」。
〔孟奕〕一一一乎千載」。
〔孟奕〕前に同じ。○〔李商隱〕「一一百歲亦史」。
〔奕奕〕すぐれて美と貌にいふ語。○〔孟〕「一一登乎淡泊」。

奕　タウ、トウ。他皓切　皓

養に同じ、長くして大きしながし。

奕　タウ、トウ。叨號切　號

奕　コン、ゴン。胡本切　阮

大いに束ぬ、ばたぬ、つかぬ、一說には、巢の鳴字。

奘　サウ、ゾウ。徂朗切　漾　才浪切　宕

さかんなり、〔壯〕、おほきし、〔大〕。○〔揚雄〕「秦晉之間人之大謂二之一一」。

奄　ケイ、ガイ。弘雞切　齊

㊀めしつかひのもの、けらい、こもの、まもべ。○〔國〕「酒一人一三一百人。」
㊁いづくんぞ、なにぞ、なにすれぞ、又、なに。
（い）疑ひて問ふときに用ふる字。○〔孟〕「子一不レ去也」。
（ろ）反語になすときに用ふる字。○〔陶潛〕「樂二天天命一復一疑」。

〔奄奄〕氣にいりの下部。○〔孟〕「趙簡子使二董安一一一一。」
〔小奄〕年少のものを。○〔國〕「童一一一取、曾古」。
〔孟奄〕〔國〕上の別名。○〔國〕「一一取」。
〔老奄奄〕年老いたるものを。○〔孟〕「一一一一官朝且暮」。
〔韓奄〕鼠の名。生まれて七日立たぬ前に母をとらえ。○〔國〕「鼠一一」。

〔奔水部〕　詩歌の文詞、題花の版書より相國の名を奏するに至る。○〔孝卷〕〔版籍・名臣傳〕、〔義版一一一〕。
〔奔金部〕　初めて國を奏す。○〔水經・註〕〔韓山碑〕、光武、有一一一一。
〔奔行部〕　前に同じ。○〔孟〕〔常思一一一一〕、斷。
〔奔議部〕　奏く結びつきて離れざる文は。○〔白居易〕〔奏狀一一一一〕、〔奉來書南嶽〕。

奔　ホン。補袞切　阮

㊀すべて物の重なるにいふ字、かさなる。「志二河一一木內地」。
㊁塊の曲がりたる處、くま。○〔明一統〕〔說苑〕車を轢ぐる車軸にして時機と骨肉をさるにいふ語。

奔　ホン。補問切　願

奔　ホン。補袞切　阮

蓋鏡の四隅に鏡をつけ物を盛りて擔ふもの、あとか、ふご。○〔晉〕少以レ織一爲レ業。

㊅勝に通じ用ふ、皮膚の分かれめ、すぢ、肉理。○〔體〕〔載レ體進レ一〕。
㊆轢湊に通じ用ふ、あつまる。○〔漢〕「帝帥二群臣一、橫二大河一、一一汾陰一」。

〔奔奔〕商の世に遵へる音樂、節ち、殷の世なり。○〔周〕〔樂師掌一一一一〕。
〔奔奔〕君王に上る書。○〔國〕「好觀讓故事及傳宜一一一」。
〔奔奔〕音樂のよしの調べなる。○〔禮〕「文・樂一一、行合行者」。
〔奔奔〕孟一一、國都を去らで言上す。○〔國〕「百官各省費一一、國・有・所一一」。
〔奔奔〕前に同じ。○〔史〕「未・嘗聞者、亦皆一一」。
〔奔奔〕まうし上ぐ。○〔國〕「臣個位宰相、大事一一一一」。
〔奔奔〕君王の上書。○〔國〕「帝曰、陳・一一」。
〔奔奔〕他人の罪を擔ひて言上する。○〔國〕「以ー元成實不明一一一之」。
〔奔奔〕まうしたてあらはれざるとなるからさまに言上するもの。○〔國〕「軍事・系・其・相・國一一一之」。
〔奔奔〕音樂の遊戲を設けるものに上りて上言するもの。○〔後漢〕「國」。
〔奔奔〕表奏。○〔後漢〕「文・史・能一一一、方・略・論」。
〔奔奔〕前に同じ。○〔國〕「國・中・事・伸一一一」。
〔奔奔〕言上する。○〔後漢〕「事・忠・所一一一」。
〔奔奔〕前に同じ。○〔史〕「時・之一一、不レ敢・建議」。
〔奔奔〕都をたてまつて言上す。○〔國〕「多・所一一一」。
〔奔奔〕前に同じ。○〔史〕「時・之一一、不レ敢・建議」。
〔奔奔〕音樂の調べ、まうせ。○〔國〕「使・尊・命・歌・歌」。
〔奔奔〕正しかる白青樂のまうせ。○〔史〕「一一、民」。
〔奔奔〕君王の問ひをうけて答へをなす。○〔宋〕「大一一其・名」。
〔奔奔〕上書に封を爲して差出すこと。○〔國〕「一一」。
〔奔奔〕「先・殺・其・書」。
〔奔奔〕酸をひくかなづ。○〔國〕「常・歌一一一、可・分」。
〔奔奔〕まうし上ぐ。○〔宋〕「音・樂・納・自一一一」。
〔奔奔〕前に同じ。○〔宋〕「一一一・顧・行・事」。
〔奔奔〕前に同じ。○〔宋〕「一一一・顧・隨」。
〔奔奔〕前に同じ。○〔後漢〕「國・中・事・伸一一一」。
〔奔奔〕明かにまうして上奏す。○〔常・樂〕「在・京・師」。
〔奔奔〕「國・樂一一一」。
〔奔奔〕「國五一一一、以下以二一・尺版一」。

奔　ケイ、カイ。詩計切　霽

㊀ちぎる、又、ちぎり。
（い）事を約束す、むすぶ、又、とりきめ。○〔韓詩外傳〕「約一一盟誓」。
（ろ）契はりな結ぶ、又、まじはり、ちなみ。○〔搜神記〕「君是生人、我鬼也、共レ君宿一、此會可二三宵一」。
㊁あはすあふ、合。○〔蜀〕「故應レ際而生、與レ神合一一」。
㊂ちぎりたる符なるしに、其の事を記しあるものを兩分して互に其の半片づゝを持ち若しちぎりたる事を果さんと求むるときは互に、持てる其の半片を合はせて其の誤りなきを證するもの、總べて一つのちぎりたる事のまゝるしのものにいふ字、又、たゞわりふ。○〔賓傳〕「百官有二司主一券一一」。○〔詩〕「一一一歸獸」。
㊃うれふ、憂、くるしむ、苦。○〔詩〕
㊄古昔、うちなびの龜の甲を灼くに用ふる具、又、其の具を使用す、やく。○〔詩〕「爰一一我龜一」。○〔周〕「馬不二一一」。
㊅おそる、おづ、怯。○〔周〕「馬不二一一」。

〔奔奔〕文字をなしたる手形。○〔易〕「一一一以治一一」。
〔奔奔〕公所のてがた。○〔周〕「一一一一以治一一」。
〔奔奔〕祭者は南分して左右の祭となす、右契は先祖を祭する祝文を書くして人に授するもの。○〔周〕「獻一一者執一一一」。
〔左奔〕わりふのひたりのかたわれ、己れの所に留まる人執一一一、而不一一一子人」。
〔右奔〕天運の會合するはいふ語。○〔論・語〕「舉合一一一一」。
〔奔奔〕わりふ上てがた。○〔宋〕「宋一一一之一一、金」。
〔奔奔〕前に同じ。○〔宋〕「必・後・自・仙・之一一一」。
〔奔奔〕おなじ、又、あふ。○〔國〕「千一一一」。
〔奔奔〕かなじ、又、あふ、又、ちぎる。○〔國〕「一一一」。
〔奔奔〕聖主、「聖」、「カ」一一。
〔奔奔〕物ちぎりくに合ふ。○〔宋〕「自・古・君・臣一一」。
〔奔奔〕一之氣、後直・此・臣。
〔奔奔〕同じく合ふこと。○〔宋〕「九・龍・雲・休、天・人一」。
〔奔奔〕音樂の調べ。○〔北〕「一一一一、詩・歌」。
〔奔奔〕ちぎり。○〔宋〕「一一一、詩・行・事」。
〔奔奔〕かなひ合ふ。○〔國〕「祭・歌・樂・殿・無・不一一」。
〔奔奔〕「子・用一一一」。
〔奔奔〕たゞ以て作りたる手形。○〔國〕「古・世・召・本」。
〔奔奔〕わりふ。○〔孟〕「國・使・刻・丹・宮・宮・鼎・銘・爲・持一一一一」。
〔奔奔〕ちぎり。○〔宋〕「國」。
〔奔奔〕てがたちぎり。○〔樂・寶・鑑・銘〕「如・古・之一一也」。
〔奔奔〕交はり。○〔國〕「國・語一一一一」。
〔奔奔〕後からぬちぎり。○〔宋・國〕「國・人・有一一一」。
〔奔奔〕交・通・に・同じ。○〔社・國〕「人・生一一一・事・平・少一」。

九畫

斐 ヒ。數尾切 尾 父沸切 未
おほいなり〈大〉。

胥 テウ。丁聊切 蕭
㊀おほいなり〈大〉。㊁おほし〈多〉。

雇 シュン、スン。私問切 震
ス井。息遣切 支 音に通じ用ふ。
鳥の兩翼を相繋つて、ばたつき〈鼓翼〉。

彧 ヨク、井キ。越逼切 職
力の大いなる貌にいふ字、つよし。

彧 キヨク、ケキ。忽域切 職
㊀けた〈方〉。㊁おほいなり〈大〉。

奏 奏に同じ。

奏 ケン。吉典切 銑
㊀小さく束ぬ、つかぬ。
㊁奉の字に同じ。

奄 奄の本字。

執 執に同じ。

奎 ケイ、ケ。苦圭切 齊 [説文、奎、從大圭、圭、宜、説。]
星の宿り、今、奎に通じ作る。

九畫

奠 テン、デン。堂練切 霰
㊀さだむ〈定〉。
〔い〕別かつ、つきむ。〔周〕「辨二其錯一。」

〔ろ〕安んず、移さず、〔書〕「二獸攸居。」
㊁おく。
〔い〕地にすう、置く。〔禮〕「レ之而
〔ろ〕神を祭りて酒醴を其の靈前に据う、物を神前に供ふ、たてまつる、さしぐ、つらぬ〈陳〉、すゝむ〈薦〉。〔禮〕「朝—日出、夕—逮レ日。」
㊂別かる、決まる、安まる、さだまる、又、さゝまる〈停〉。〔劉基〕「王業丘山—。」
㊃神を祭る、まつる、まつり、又、其の供〈物〉。〔舊唐〕「陳二誠菲—一。」
〔環〕土地より生ひ出でたる祭りの供〈もの〉野菜など。〔禮〕「設—一。」
〔釋〕孔子の祭祀。〔禮〕「親—一于中堂。」
〔釋〕神を祭ること、又、其の供〈物〉。〔禮〕「可以即神、詩—之事乎。」
〔川〕かはに生ひたる供〈もの、食料〉。〔禮〕「修祀官、牢牲—一。」
〔神〕祖なるまつり、又、其の供〈物〉。〔後漢〕「設—致—一。」
〔祭〕野菜のそなへもの、又、我が未なる祭り。〔禮〕「祭—之。」
〔祭〕まつり。〔礼〕「—一無主。」
〔祭〕たてまつる、さゝぐ。〔禮〕「—一—一、神、祭前。」
〔祭〕前に同じ。〔綱宗元〕「了立—一眼、防神を尊して祭る。」
〔祭〕おく、又、さだまる、さだむ。〔晉〕「西海始—一。」

奠 テイ、ヂヤウ。徒徑切 徑
前條の㊁と㊂とに同じ。〔周〕「小—吏掌二邦國之志一。」「繫世〈辨二昭穆一〉。」

奠 テイ、ヂヤウ。唐丁切 青
さゝまる。〔周〕「行—一水一擊、折以三拳伍一。」

奠 テイ、ヂヤウ。徒徑切 徑
前條の㊁と㊂とに同じ。〔周〕「小—吏掌二邦國之志一。」「繫世〈辨二昭穆一〉。」

奠 テイ、ヂヤウ。唐丁切 青
さゝまる。〔周〕「行—一水一擊、折以三拳伍一。」

奠 チヤク、タク。陟略切 藥

奠 カウ、ゴウ。凝到切 號
㊀傲に通じ用ふ、おごる、あなどる〈慢〉。
㊁つよくして健き貌にいふ字、つよし、たけし。〔韓愈〕「横空盤—硬語妥貼力排レ—。」

鰍 鰍に同じ。〔張九齡〕「每二一官一、以不次用レ之。」

奢 シヤ、ジヤ。詩車切 麻
㊀おごる、
〔い〕分に過ぐ、度に超ゆ、又、ほる〈張〉、まさる〈勝〉、又、自らまされりとなすほこる。〔史〕「臣見二其所持者奢、而所レ欲者上。」
〔ろ〕分に過ぎたる生活をなす、度に超えてはでやかにかざる。〔漢〕「自吉至崇、世名二清廉、而皆好二車馬衣服、其自奉養極爲一鮮明、天下服其廉、而怪其一。」
㊂あり餘るゆたか。〔張鷟〕「貴財亦豐—一。」
〔阿奢〕めのどをつと編髮。〔張協〕「妾被貴阿奢、來、長眉對如畫、蓮步凌波、微、自、遊、華、后、—一不。」
〔奢侈〕西晉に人を稱する時に用ふる語。〔宋子雜說〕「王導以明、只與二殷人通一生、「管仲奢二十許人、坐一時、國不及西僧、徐謂僧曰、「奢乎」。」
〔奢侈〕貴族の間に流行を張りあはること。〔江邊〕「百、良、奢、以—一。」
〔奢侈〕なまめかしい容姿を作りて衣服をかざること。〔八世紀〕「昭儀正—一。」
〔奢侈〕おごりはなやかなること。〔後漢書〕「—一、不、清、儉、可、以、教、天、下、之、人、不、可、—一。」

奢 シヤ、ジヤ。詩車切 麻
㊀おごる、
〔い〕分に過ぐ、度に超ゆ、又、ほる〈張〉、まさる〈勝〉、又、自らまされりとなすほこる。〔史〕「臣見二其所持者奢、而所レ欲者上。」
〔ろ〕分に過ぎたる生活をなす、度に超えてはでやかにかざる。〔漢〕「自吉至崇、世名二清廉、而皆好二車馬衣服、其自奉養極爲一鮮明、天下服其廉、而怪其一。」
㊂あり餘るゆたか。〔張鷟〕「貴財亦豐—一。」
〔阿奢〕めのどをつと編髮。〔張協〕「妾被貴阿奢、來、長眉對如畫、蓮步凌波、微、自、遊、華、后、—一不。」
〔奢侈〕西晉に人を稱する時に用ふる語。〔宋子雜說〕「王導以明、只與二殷人通一生、「管仲奢二十許人、坐一時、國不及西僧、徐謂僧曰、「奢乎」。」
〔奢侈〕貴族の間に流行を張りあはること。〔江邊〕「百、良、奢、以—一。」
〔奢侈〕なまめかしい容姿を作りて衣服をかざること。〔八世紀〕「昭儀正—一。」
〔奢侈〕おごりはなやかなること。〔後漢書〕「—一、不、清、儉、可、以、教、天、下、之、人、不、可、—一。」

獒 ゴウ。五刀切 豪
獒に同じ。〔張九齡〕「每二一官一、以不次用レ之

〔古形〕所有となす、うばふ。○〔新約別傳〕—…—
事風先人田地。
〔説形〕もれうす。○〔觀叔〕〔説〕—…—無入
聞。
〔説形〕罪を責めて官位をはぐ。○〔元稹〕—…
〔計形〕罪を責り出たし官位をはぐ。○〔韓愈〕
「引」森—…。
〔説形〕とりあげをなす。○〔史〕〔甲下〕士敦貴客。

奪 ケツ、クワチ。丘月切 月

うばふ。○〔白居易〕「何此巴峽中、桐花
開十月、草木堅彊所レ物、稟固難レ
—」。

奮 井ン、紆倫切 眞

水の深くひろ〳〵、さしたる貌にいふ
字。ふかし、ひろし。○〔左思〕「泓澄
—瀚」。

奚 チツ、直質切 質 テツ、徒結切 屑

おほいなり、〔大〕、さかんなり、〔盛〕。

奬 シヤウ、子兩切 養 ショウ、切 南 奬に同じ。

一すゝむ。
〔い〕推選す、とり持つ。○〔南〕「好—
人才」。
〔ろ〕いざなふ、はげます、みちびく、
勸。○〔唐〕「尊」「尚師儒」、發揚
二よしとなす、美、ほむ、褒。○〔宋〕
「賜御書—嘉—」。
三たすく、助、なす、成。○〔隋〕「建樹
藩屏、奬—王室」。

〔恩形〕あはれみたすく。○〔史〕「觀骨相、授書玉璽、
勸勸舟、以奬——」。
〔陸形〕おしすゝむ、取り持つ。○〔陸意〕「平、皆奬
—」。
〔孝形〕たすけとびたすく。○〔唐〕「國、奬密敵、—」。

〔奮形〕はげまる。○〔史〕「今車字軍、奮宜即—」。
〔推形〕人を取り立つ。○〔北〕「—、後魏、以名
〔栄形〕人材ををしみて取り立つ。○〔史〕「李勢—」。
〔栄形〕—士類、不能以意。
〔栄形〕あかめ世ぶる。○〔史〕「今學官、列學
能、以赤—之意」。
〔説形〕人を引ひは扶ける。○〔顏氏〕「晉書、傅咸
加—」。
〔説形〕あはれみたすく。○〔後漢文帝〕「切德—
—」。
〔説形〕拔きんでたすく。○〔呂覽〕「未雖、年、都
〔説形〕拔きんでたすく、むる。○〔李密〕「蜀漢、久、敢
善—」。
〔説形〕拔きんでたすく。○〔呂覽〕「未雖、年、都
〔説形〕前に同じ。○〔元稹〕「陛下、樂臣、無疑—」。
〔説形〕—雖、
〔説形〕見なれたるたすけ。○〔徐陵〕「遂、樂—」。
〔説形〕私の事情に拘はらせておぼやけに取り用
ふ。○〔白居易〕「官加—」。「—權在宦侍」。

奪 セキ、施隻切 ケキ、キヤク。切 迄逆 陌

カク。黑各切 麥 古文には、奭に作れり。

一赤き貌にいふ字、一説に、盛んなり。
二〔詩〕「路車有レ—」。
三いかる、〔怒〕。○〔漢〕「嬰謝レ病、高遂
説レ嬰曰、有レ如三兩—宮—二將—軍、則
妻子無レ類矣」。

奮 フン、ホン。方問切 問

一ふるふ。

奮 ライ、レ。魚猥切 賄

おほいなり、〔大〕。

奮 クワツ、クワチ。呼括切 曷

一空しくして大いなり、おほいなり。
二目の動く貌にいふ字、うごく。○〔元
包經〕「豐、睛之—」。

奮 クワン。呼官切 寒

はゝむ、又、かはる。○〔揚雄〕「始也、化
也」。

奭 ヒ、ビ。平秘切 寘

一肚大なり、おほいなり、さかんなり。
二ゼまる、〔迫〕。
三いかる、〔怒〕、又、酒に醉はずしていか
る。○〔詩〕「內—于中國、覃及—鬼、
方」。

〔説形〕はゝしきる。○〔韓愈〕「聚氣——、隨鯨
氣」。
〔説形〕うらみ怒る。○〔元稹〕「上下隔絕、人神—
—」。

奮 ライ、レ。魚猥切 賄

〔説形〕あらそひ、そむく。○〔史〕「—、武武軍
伐、功利——」。

歲 クワツ、クワチ。呼括切 曷

一空しくして大いなり、おほいなり。
二目の動く貌にいふ字、うごく。○〔元
包經〕「豐、睛之—」。

奮 クワン。呼官切 寒

はゝむ、又、かはる。○〔揚雄〕「始也、化
也」。

奭 ヒ、ビ。平秘切 寘

一肚大なり、おほいなり、さかんなり。
二ゼまる、〔迫〕。
三いかる、〔怒〕、又、酒に醉はずしていか
る。○〔詩〕「內—于中國、覃及—鬼、
方」。

〔説形〕はゝしきる。○〔韓愈〕「聚氣——、隨鯨
氣」。
〔説形〕うらみ怒る。○〔元稹〕「上下隔絕、人神—
—」。

奮 ライ、レ。魚猥切 賄

おほいなり、〔大〕。

女部

女 ヂヨ、ニヨ。尼呂切 語

一男に配し子を孕みて產む機能を備
ふる人類、なんな、なみなめ。○〔易〕
「坤、道成レ—」。
二未だ人に嫁がざるなみな、むすめ。
○〔禮〕「歸レ之家三夜不レ息、燭、愚」。
三相離レ也。
四汝に同じ、なんぢ。○〔孝〕「—知レ之

（い）翼を鼓す、はたゝきす、又、とぶ、
飛び上がる。○〔詩〕「不レ能——
飛」。
（ろ）震動す、うごく、うごかす。○〔易〕
「雷出地—」。
（は）發作す、おこる、おこす。○〔書〕
「能—レ庸」。
（に）發揚す、あぐ、あがる。○〔書〕「—」
王德之光」。
（ほ）振拂す、はらふ。○〔禮〕「右—上」。
（へ）競爭す、きそふ。○〔荀〕「民心—
而不レ可レ說也」。
（と）起立す、たつ。○〔唐〕「左史江融
有美名、興指、融興、徐敬業、
同謀、斬三于市、尸—而行、刑者
歎レ之三仆三作」。
（ち）振矜す、おごる。○〔荀〕「—」於
胃華—」。
（り）勇む、勵む、決心す、又、はげます。
○〔漢〕「小時家貧、自—應レ募」。
（ぬ）さかんなり、つよし、又、さかんに
す、つよくす。○〔論衡〕「意—而鋒
縱、故文見而質露也」。
（る）振掉す、ふる。○〔王珪〕「手—三
尺劍」。
（を）憤激す、いかる。○〔史〕「項羽怒三
秦砥二項、梁軍—」。

〔雷形〕かみなりの轟くこと、かみなりの如くにひゞ
きよること。○〔李德裕〕「大、雷—」。〔京雜記注〕。
〔説形〕感じうごく、おこる。○〔史〕「陳平、奮不
—」。
〔説形〕質なくしてうはべのみを飾る。○〔後〕「—」
之學不レ能。
〔説形〕氣力。○〔李德裕〕「—士卒、競。
〔説形〕よろこびのうごく、多人數のさわがしくあるに
いふ語。○〔史〕「使一矢、奮之三軍—」。
〔説形〕つゝしみ、怠みて、行を改む。○〔論意〕「改名
自—」。
〔説形〕かたちがる。○〔文心雕龍〕「風骨、—」。

（ろ）後世にては、多く賤役の男子に
いふ。○〔南〕「耕當レ問レ—、織當
問レ婦」。
二澤の名。○〔水經註〕「四、面有レ水曰レ
「雍、不流曰レ」。
〔金奴〕官にて召し使ふ女の稱。○〔元稹〕「力士
傳呼處—」。
〔説形〕編髮。○〔天寶遺事〕「中宗以種木刻婦
子、號、皇姨、公曰—」。
〔説形〕長かなるさま。○〔王安石〕「醉、長歌、史
如—」。
〔説形〕國の弱小動の故中より諸侯始を稱していふ。
○〔後漢書〕「帝、令、奴、隱之三軍—」。
〔説形〕もてべ。○〔陸游〕「詩、稱、國、風、騷、—」。
〔竹形〕たけのかたのこと。○〔史〕「—、竹矢、人、といひ、又、青奴
ともいふ。○〔王褒〕「—、買、日、說、時、髮、冬、夜、月」。
〔説形〕つよきさま。○〔後漢〕「蘇、狗、主、每、—、
—、傳、曰、不、敢、解、鞍、主、前」。
〔説形〕根株の稱。○〔後漢書、馬援傳〕「得、千
頃—」。
〔説形〕ゆたんぽ、あんか、足を暖める器。
〔説形〕—かはなどの別名。
〔説形〕〔説〕雜服の別名。

奴 ド、ヌ。奴故切 遇

己れを謙り、又は、他を賤しみ呼ぶ時に
用ふる語。○〔後漢〕「帝笑曰、狂—
故態也」。

奴 テイ、チヤウ。當經切 靖

一女の名。
二面の平かなるにいふ字、たひらか、
〔説形〕〔説〕灯。

奴 テン。他典切 銑

かほよき貌にいふ字、かほよし、〔好〕。

奴 テイ、チヤウ。都挺切 迥

自ら持する貌にいふ字、たもつ。

奸 セン。蒼先切 先

女の字あざなで一に、好の誤字。

好 カン。古案切 寒

一非禮の事を爲す、おかす、〔犯〕、みだる、
〔亂〕、又、たはる、〔淫〕。○〔漢〕「使三神人
各處二其所一而不二相—一」。
二干と通ず用ふ、もとむ。○〔史〕「尙以二
漁釣一—レ周」。
三堅とも說めるときあり、かたし。○
〔史〕「寒墓不レ和、賊氣相—、同レ義、異
節其時使レ然」。

好 カン、ケン。居顏切 刪

わたくし、わたくしす、〔私〕、又、いつはる、いつはり。〔偽〕。

她 古文の姐の字。

妊 キヤ、ケ。已有切 有 一に、妖に作る。

一女の字〔あざな〕。
二やもめの貞節を守りて、他に移らざ
るにいふ字。

妖 ダン、チン。奴還切 刪 女恩切 寒

說しく說ふ、又、うつたふ。

妊 タ、丑嗟切 麻

なよめ、〔少女〕。

妊 ト、ツ。都故切 遇 タ、テ。陟餘切 魚

うつくしきなみな、〔美女〕、さしわかき
なみな、〔少女〕、又、かほよし、みめよ
しうつくし。○〔禄愈〕「閑愛著、農盤、
歸弄小女—」。
〔玉篇〕玉の如くに美しきなみな。○〔陸龜蒙〕「青、
蹈成留興、待女盤玉—」。

〔朋好〕前に同じ。○〔顔延之〕―――雪裏寒。
〔親好〕さたしみ。○〔北〕「盛相」―――。
〔親好〕となりどのよしみ。○〔北〕「初婚」―――。
〔親好〕災害をなかかるゝも。○〔周〕「近」―之―。
〔親好〕ねぶかにしてよし。○〔北〕「華山在」―――其
不―――。
〔美好〕容色のうつくしきも。○〔王安石〕「有樹」―
―如―人。
〔美好〕前に同じ。○〔北〕「雖」―年十三、左右言。
〔嬉好〕閑くしてよし。○〔韓〕「靜宮之夜寒」―――。
〔嬉好〕たわやかにしてよし。○〔北〕「時帝微服使、
來」―――天下―――。
〔嬉好〕こまやかにしてよし。○〔北〕「制作」―――し
風雨夜聞。
〔嬉好〕はでやかにしてよし。○〔北〕「不」―其―――。
〔嬉好〕ちさやかにして美し。○〔晉〕「經語」―――。
「梢正」―――。
〔嬉好〕「梢」―――。
〔嬉好〕「梢」―――。
〔嬉好〕「梢

妒 ト、ツ。都故切 遇 | 妬に同じ。

れたむ。

（い）羨みてたくむ、にくしと思ふ。○

（列）「群高者人―レ之」。

（ろ）特に其の男女の間の痴情にかゝ

れるものにいふ字。○「詩註」「以レ色日レ―、以レ行日レ怨」。

〔廣韻〕ねたむ。○〔史〕「令嬢能曉、必―ニ吾功」。

〔韻會〕たかぶりて人をねたむ。○〔通〕「趙氏姉妹

―ニ」。

〔增韻〕前に同じ。○〔劉野王〕「鄙思他人不―！」

〔韻會〕ちなめかしくしてねたみ心あり。○〔後漢

〔公主〕―ニ」。

妓 キ、ギ。巨綺切 紙

音曲歌舞をもて宴席の興を助くる女。あそびめ、うたひめ、まひひめ、わざなぎ、又、其の技。女樂。○

〔柳宗元〕「音―能傳二宮中聲一」。

〔樂府〕軍樂のうちに樂くうたひめ。○〔韻言〕「會

―ニ人間紅袖一也」。

〔宮詞〕容色のうるはしく歌舞の技藝をもてみやつか

へする女子。○〔宋〕「舞元獻―ニ百餘」。

〔韻會〕女樂、又、うたひめ。○〔晉書〕「家有奇妓

―ニ」。

〔廣韻〕前に同じ。○〔韻〕「伎―倆」―與天子等」。

〔宮詞〕前に同じ。○〔徐陵〕「翠玉―ニ自輕紫」。

〔歌詞〕前に同じ。○〔孟浩然〕「―ニ森沖靄」。

〔舞詞〕前に同じ。○〔白居易〕「花低―ニ

―ニ」。

〔住詞〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「―ニ如鶴」。

〔終詞〕たゝなる女樂又、其れをなすうたひめ。○

〔七發〕「才人―ニ」。

妓 キ、ギ。居宜切 支

女のすがた。

妧 カウ、キヤウ。客庚切 庚

美しき女、又、うつくし。

妧 カウ、ガウ。案剛切 巧

○女の字（あざな）。

○伉に同じ、女の性質急しくしてれ

けたるにいふ字もとる。

妖 エウ。伊嬈切 篠

○巧みに笑ふ、うつくしくして媚を含

む、なまめく、又、なまめくらし、なま

めかしたをやなり。○〔梁簡文帝〕

「繁華妖色燕趙艷妍―」。

○常ならず、不思議なり、あやし。〔呉〕。

○〔鶴唐〕「案有二風・災、而語涉二妖―ニ」。

○あやしきこと、わざはひ、もののけ、ば

けもの。○〔左〕「人棄レ常則―興」。

〔妖祇〕つゝ、か、又、うつくし。○〔許元〕「形々

―ニ」。

〔禍妖〕めでたきをるしと謂のたるしと。○〔紀六〕

―ニ星氣有二靜・動占一」。

〔祥妖〕わざはひ。○〔徐鍇〕「江左―ニ」。

〔災妖〕前に同じ。○〔左〕「鳳凰―ニ」。〔呉〕「禍

―ニ」。

〔禍妖〕かこつけてあやしきこと多說くに上聲。○

〔富妖〕わざはひ。○〔晉語〕「―ニ」。〔呉〕生。

妗 セン。慮占切 豏 | 鑒に同じ。

善く笑ふ貌にいふ字、わらふ。

妗 ケン。許檢切 豏 | カン、虛咸切 咸 | ケン。切 豏

○うつくし、美。

○女の輕薄なる貌にいふ字、かるく

ふうつくし。

妗 キン、ゴン。巨禁切 沁

ふうつくし、勇母、俗の育。

妙 ベウ、メウ。彌笑切 嘯

○精微なること、勝れたること、巧みなる

こと、神なること、物事の太だ善美なる

こと、不可思議なること、たへなること、又、

たへなる技術、たへなる道理。○〔老〕

「玄之又玄、衆―之門」。

○年長けすぐわかし、弱少。○〔杜甫〕「明

公獨―年」。

○ほそくしてみめよし、うつくし、かよ

わし、又、たをやか、まなやか、〔妙麗〕。

○〔漢〕「―麗善舞」。

〔富妙〕すぐれていみきこと。○〔北〕「常奇麗」。

〔數妙〕極めてことはかくたへなること。○〔晉〕「―

〔英妙〕すぐれたる少年。○〔西晉〕「經鼓山・東之

―ニ」。

〔秘妙〕もう〳〵のたへなる自然のことわり。○〔老〕

「玄之又玄、―之門」。

〔至妙〕極めて微く精數なることわり。○〔孟浩然〕

「離遍―ニ理」。

〔微妙〕前に同じ。○〔老〕「非常數―ニ多所」。

〔玄妙〕前に同じ。○〔北史〕「―ニ秘論」。

〔眞妙〕極めて精數なる理。○〔馬融〕「官職―

―ニ」。

〔妙〕「九年西―ニ」。

〔大妙〕道の理微せる處、又、いみじく靜妙なること。○

〔至妙〕前に同じ。○〔七發〕「論―理代之―ニ」。

〔奇妙〕前に同じ。○〔呂覽〕「探居錄」「殺鼠―ニ」。

〔神妙〕前に同じ。○〔後〕「夫學故―ニ、非浮論

〔絕妙〕極めたへなること。○〔北史〕「當時以爲―

―ニ」。

〔秘妙〕前に同じ。○〔陶潛〕「神力既―ニ」。

〔巧妙〕いたく上手なること。○〔李白〕「百工―

〔奇妙〕すぐれたること。○〔後〕「其術―ニ」。

〔通妙〕よしと、又、北の術。○〔新語〕「武者有二奇―

―ニ」。

〔童妙〕こまし。○〔朝夫人〕「年四―ニ」。〔宋〕「四

〔莊妙〕みたをかにしてすぐれたること。○〔水經〕「莊

「東都西城以―ニ」。

〔微妙〕うるはしくたへなること。○〔水經〕「莊

―ニ、如婦人好女」。

〔妙〕「―ニ」。

〔妙〕かくそたへなること。○〔長笛賦〕「歌氣―

―ニ、有二餘音」。

妝 シヤウ、サウ。側羊切 陽

物を添へて見えをつくろふ、けしやう

をなす、衣服を著かざる、修飾す、よそほふ、か

ざる、又、つくり、けしやう、かざり、よ

そほひ。○〔開元天寶遺事〕「紀嬪施二

紫鮫手兩・線、雜二淚―ニ」。

〔紅妝〕べにもてあかきいろやうによそほふこと。○

〔妝奩記〕「―ニ卓直」。

〔妝奩〕けしやう。○〔晉〕「晉於鏡上―ニ」。

〔嚴妝〕我國のけしやうにてくわをかびたること。○〔晉〕

「婦人―ニ書眉」。

〔新妝〕今なしたるけしやう。○〔徐陵〕「朱唇四新

〔晚妝〕朝はやくするけしやう。○〔北史〕「早朱

―ニ」。

〔晚妝〕手がきよそほひ。○〔後漢文帝〕「―ニ時

〔晚妝〕たゞしくすぐれたること。○〔晉陽春秋〕「美容

婦人―ニ親愛」。

〔靜妝〕すぐれたること。○〔晉叢語〕「―ニ殊絕」。

〔淨妝〕清らかにしてうつくしきこと。○〔元稹〕「―

―ニ花枝靜・整持之姿」。

〔秋妝〕なまめかしくしてうつくし。○〔韓偓〕「―

娥 サフ、ソフ。悉合切 合

○女の字（あざな）。○かたち（容）。

妥 エウ。伊嬈切 篠

○女の字（あざな）。

妥 ダ。吐火切 哿 | 別に、綏、致に作る。

○やすし、又、やすんず、安。○〔詩〕「以

―ニ以侑」。

○隨に通ず用ふ、おつ。○〔杜甫〕「花―

蝶捫蝶」。

〔安妥〕やすし。○〔史〕「湖廣江浙亦靜―ニ」。

〔平妥〕やすし。○〔韓愈〕「軍法統―ニ」。

〔穩妥〕やすし。○〔李白〕「終光―ニ水如天」。

妥 ボウ、フ。敷容切 冬 | 或は蜂に作る。

凡そ物の好くして輕きにいふ字、かろ

し。○〔揚雄〕「凡好而輕者趙魏燕

代之間曰レ―」。

妥 クワン。五換切 翰

好き貌にいふ字、よし、かほよし。

妨 ハウ。敷房切 陽

さまたげをなす、障りをなす、そこな

ふ（害）、さまだく（礙）又、ふやまず、さ

またげ。○〔國〕「將―ニ於國家」。

妣 タツ、常割切 曷 | タン。得案切 旰 | タチ。切

―已は、殷の討王の起。○〔國〕「殷辛

伐二有蘇氏一、有蘇以二―已女一焉」。

○俗の嬰の字。

妲 タツ、常割切 曷 | タン。得案切 旰 | タチ。切

兄弟の妻、あひよめ、娘婿。○〔廣雅〕「兄・

弟之妻相呼曰二―娌一」。

妲 ロク。廬谷切 屋 | トク、徒沃切 沃

テキ、チヤク。亭歷切 錫 | チウ、ヂユ。陳留切 尤

靜かならずうごく（動）。○〔揚雄〕「人

不レ靜曰レ―、賀、秦曰レ騫、齊、宋曰レ

―」。

妲 チウ、チユ。丑鳩切 尤

心動く、むなさわぎす。○〔詩〕「憂心且

―」。

妲 チヤク、タク。陟略切 藥

まづか、靜、又、婦人の貌にいふ字、又、

なみな。

妲 セウ。之遙切 蕭

女の字（あざな）。

妖 ヨウ。於堯切 元 | 紆願切 願

○婉と煥さに通ず用ふ、たをやかすな

ほ。

○獸の名。○〔山海經〕「戶山有レ獸狀

如レ鼈而魚目名曰レ―」。

妍 ケン。五堅切 先

嫺に同じ。

妍 トウ、ツ。他口切 宥

好き貌にいふ字、よし、かほよし。

妊 ヂン。如林切 侵

胚に同じ。

妊 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

卵に同じ。

妊 ダフ、ノフ。諾答切 合

めとる、娶、一に物を聚む、又、小兒の

肥えたる貌にいふ字、こゆ。○〔韓愈〕

「巴―鹽收二鹽一」。

妊 ダン、ノン。奴甘切 覃

とる、取、又、いる、入。

妊 キン、コン。許斤切 文

女の字（あざな）。

妣 ヒ。補履切 紙

失せたる母を呼ぶ稱、なきはゝ、されど

古は、生きたるときに別か

ちなく何れにも呼びなせり。○〔禮〕

「生曰二父・母一、死曰二考・―ニ」。

〔等差〕此の世なきを父と母と。○〔禮〕「父兼かゝ宮、

〔祖祭〕「―ニ子正祭」。

〔祖祭〕此の世なきを祖父と祖母と。○〔禮〕「四

〔祖祭〕「―ニ」。

妣 ヒ。補履切 紙

古文の好の字。

妝 ヂン。委遵切 阮

前に同じ。

妊 アン、エン。於諫切 諫

晏に同じ、やすし。

妊 ダフ、ノフ。諾答切 合

めとる、娶、一に物を聚む、又、小兒の

肥えたる貌にいふ字、こゆ。○〔韓愈〕

「巴―鹽收二鹽一」。

妊 ダン、ノン。奴甘切 覃

とる、取、又、いる、入。

妊 キン、コン。許斤切 文

女の字（あざな）。

好 ヨウ。雲居切 篠

女の美稱、うつくしきをみな、嬉―は、

漢の時代の位高き一女官の名。○

〔史〕「褚先生曰、雖―秩比二列侯一」。

妁 キン。規倫切 眞

女の始めての妝ひ、よそほふ。

妥 ダ。吐火切 哿 | 別に、綏、致に作る。

○やすし、又、やすんず、安。○〔詩〕「以

―ニ以侑」。

○隨に通ず用ふ、おつ。○〔杜甫〕「花―

蝶捫蝶」。

〔安妥〕やすし。○〔史〕「湖廣江浙亦靜―ニ」。

〔平妥〕やすし。○〔韓愈〕「軍法統―ニ」。

〔穩妥〕やすし。○〔李白〕「終光―ニ水如天」。

娃 ボウ、フ。敷容切 冬 | 或は蜂に作る。

凡そ物の好くして輕きにいふ字、かろ

し。○〔揚雄〕「凡好而輕者趙魏燕

代之間曰レ―」。

妧 クワン。五換切 翰

好き貌にいふ字、よし、かほよし。

妨 ハウ。敷房切 陽

さまたげをなす、障りをなす、そこな

ふ（害）、さまだく（礙）又、ふやまず、さ

またげ。○〔國〕「將―ニ於國家」。

妣 タツ、常割切 曷 | タン。得案切 旰 | タチ。切

―已は、殷の討王の起。○〔國〕「殷辛

伐二有蘇氏一、有蘇以二―已女一焉」。

○俗の嬰の字。

妲 タツ、常割切 曷 | タン。得案切 旰 | タチ。切

兄弟の妻、あひよめ、娘婿。○〔廣雅〕「兄・

弟之妻相呼曰二―娌一」。

妲 ロク。廬谷切 屋 | トク、徒沃切 沃

テキ、チヤク。亭歷切 錫 | チウ、ヂユ。陳留切 尤

靜かならずうごく（動）。○〔揚雄〕「人

不レ靜曰レ―、賀、秦曰レ騫、齊、宋曰レ

―」。

妲 チウ、チユ。丑鳩切 尤

心動く、むなさわぎす。○〔詩〕「憂心且

―」。

妲 チヤク、タク。陟略切 藥

まづか、靜、又、婦人の貌にいふ字、又、

なみな。

妲 セウ。之遙切 蕭

女の字（あざな）。

妖 ヨウ。於堯切 元 | 紆願切 願

○婉と煥さに通ず用ふ、たをやかすな

ほ。

○獸の名。○〔山海經〕「戶山有レ獸狀

如レ鼈而魚目名曰レ―」。

妍 ケン。五堅切 先

嫺に同じ。

妍 トウ、ツ。他口切 宥

好き貌にいふ字、よし、かほよし。

妊 ヂン。如林切 侵

胚に同じ。

妊 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

卵に同じ。

妊 ダフ、ノフ。諾答切 合

めとる、娶、一に物を聚む、又、小兒の

肥えたる貌にいふ字、こゆ。○〔韓愈〕

「巴―鹽收二鹽一」。

妊 ダン、ノン。奴甘切 覃

とる、取、又、いる、入。

妊 キン、コン。許斤切 文

女の字（あざな）。

妣 ヒ。補履切 紙

失せたる母を呼ぶ稱、なきはゝ、されど

古は、生きたるときに別か

ちなく何れにも呼びなせり。○〔禮〕

「生曰二父・母一、死曰二考・―ニ」。

〔等差〕此の世なきを父と母と。○〔禮〕「父兼かゝ宮、

〔祖祭〕「―ニ子正祭」。

〔祖祭〕此の世なきを祖父と祖母と。○〔禮〕「四

〔祖祭〕「―ニ」。

妣 ヒ。補履切 紙

古文の好の字。

妝 ヂン。委遵切 阮

前に同じ。

妊 アン、エン。於諫切 諫

晏に同じ、やすし。

妊 ダフ、ノフ。諾答切 合

めとる、娶、一に物を聚む、又、小兒の

肥えたる貌にいふ字、こゆ。○〔韓愈〕

「巴―鹽收二鹽一」。

妊 ダン、ノン。奴甘切 覃

とる、取、又、いる、入。

妊 キン、コン。許斤切 文

女の字（あざな）。

妣 ヒ。補履切 紙

失せたる母を呼ぶ稱、なきはゝ、されど

古は、生きたるときに別か

ちなく何れにも呼びなせり。○〔禮〕

「生曰二父・母一、死曰二考・―ニ」。

〔等差〕此の世なきを父と母と。○〔禮〕「父兼かゝ宮、

〔祖祭〕「―ニ子正祭」。

〔祖祭〕此の世なきを祖父と祖母と。○〔禮〕「四

〔祖祭〕「―ニ」。

妣 ヒ。補履切 紙

古文の好の字。

妝 ヂン。委遵切 阮

前に同じ。

妊 アン、エン。於諫切 諫

晏に同じ、やすし。

妊 ダフ、ノフ。諾答切 合

めとる、娶、一に物を聚む、又、小兒の

肥えたる貌にいふ字、こゆ。○〔韓愈〕

「巴―鹽收二鹽一」。

妊 ダン、ノン。奴甘切 覃

とる、取、又、いる、入。

妊 キン、コン。許斤切 文

女の字（あざな）。

妣 ヒ。補履切 紙

失せたる母を呼ぶ稱、なきはゝ、されど

古は、生きたるときに別か

ちなく何れにも呼びなせり。○〔禮〕

「生曰二父・母一、死曰二考・―ニ」。

〔等差〕此の世なきを父と母と。○〔禮〕「父兼かゝ宮、

〔祖祭〕「―ニ子正祭」。

〔祖祭〕此の世なきを祖父と祖母と。○〔禮〕「四

〔祖祭〕「―ニ」。

妙 ベウ、メウ。彌笑切 嘯

○精微なること、勝れたること、巧みなる

こと、神なること、物事の太だ善美なる

こと、不可思議なること、たへなること、又、

たへなる技術、たへなる道理。○〔老〕

「玄之又玄、衆―之門」。

○年長けすぐわかし、弱少。○〔杜甫〕「明

公獨―年」。

○ほそくしてみめよし、うつくし、かよ

わし、又、たをやか、まなやか、〔妙麗〕。

○〔漢〕「―麗善舞」。

〔富妙〕すぐれていみきこと。○〔北〕「常奇麗」。

〔數妙〕極めてことはかくたへなること。○〔晉〕「―

〔英妙〕すぐれたる少年。○〔西晉〕「經鼓山・東之

―ニ」。

〔秘妙〕もう〳〵のたへなる自然のことわり。○〔老〕

「玄之又玄、―之門」。

〔至妙〕極めて微く精數なることわり。○〔孟浩然〕

「離遍―ニ理」。

〔微妙〕前に同じ。○〔老〕「非常數―ニ多所」。

〔玄妙〕前に同じ。○〔北史〕「―ニ秘論」。

〔眞妙〕極めて精數なる理。○〔馬融〕「官職―

―ニ」。

〔妙〕「九年西―ニ」。

〔大妙〕道の理微せる處、又、いみじく靜妙なること。○

〔至妙〕前に同じ。○〔七發〕「論―理代之―ニ」。

〔奇妙〕前に同じ。○〔呂覽〕「探居錄」「殺鼠―ニ」。

〔神妙〕前に同じ。○〔後〕「夫學故―ニ、非浮論

〔絕妙〕極めたへなること。○〔北史〕「當時以爲―

―ニ」。

〔秘妙〕前に同じ。○〔陶潛〕「神力既―ニ」。

〔巧妙〕いたく上手なること。○〔李白〕「百工―

〔奇妙〕すぐれたること。○〔後〕「其術―ニ」。

〔通妙〕よしと、又、北の術。○〔新語〕「武者有二奇―

―ニ」。

〔童妙〕こまし。○〔朝夫人〕「年四―ニ」。〔宋〕「四

〔莊妙〕みたをかにしてすぐれたること。○〔水經〕「莊

「東都西城以―ニ」。

〔微妙〕うるはしくたへなること。○〔水經〕「莊

―ニ、如婦人好女」。

〔妙〕「―ニ」。

〔妙〕かくそたへなること。○〔長笛賦〕「歌氣―

―ニ、有二餘音」。

妝 シヤウ、サウ。側羊切 陽

物を添へて見えをつくろふ、けしやう

をなす、衣服を著かざる、修飾す、よそほふ、か

ざる、又、つくり、けしやう、かざり、よ

そほひ。○〔開元天寶遺事〕「紀嬪施二

紫鮫手兩・線、雜二淚―ニ」。

〔紅妝〕べにもてあかきいろやうによそほふこと。○

〔妝奩記〕「―ニ卓直」。

〔妝奩〕けしやう。○〔晉〕「晉於鏡上―ニ」。

〔嚴妝〕我國のけしやうにてくわをかびたること。○〔晉〕

「婦人―ニ書眉」。

〔新妝〕今なしたるけしやう。○〔徐陵〕「朱唇四新

〔晚妝〕朝はやくするけしやう。○〔北史〕「早朱

―ニ」。

〔晚妝〕手がきよそほひ。○〔後漢文帝〕「―ニ時

妖 エウ。伊嬈切 篠

○女の字（あざな）。○かたち（容）。

妥 ダ。吐火切 哿 | 別に、綏、致に作る。

○やすし、又、やすんず、安。○〔詩〕「以

―ニ以侑」。

○隨に通ず用ふ、おつ。○〔杜甫〕「花―

蝶捫蝶」。

〔安妥〕やすし。○〔史〕「湖廣江浙亦靜―ニ」。

〔平妥〕やすし。○〔韓愈〕「軍法統―ニ」。

〔穩妥〕やすし。○〔李白〕「終光―ニ水如天」。

妥 ボウ、フ。敷容切 冬 | 或は蜂に作る。

凡そ物の好くして輕きにいふ字、かろ

し。○〔揚雄〕「凡好而輕者趙魏燕

代之間曰レ―」。

妥 クワン。五換切 翰

好き貌にいふ字、よし、かほよし。

妨 ハウ。敷房切 陽

さまたげをなす、障りをなす、そこな

ふ（害）、さまだく（礙）又、ふやまず、さ

またげ。○〔國〕「將―ニ於國家」。

妣 タツ、常割切 曷 | タン。得案切 旰 | タチ。切

―已は、殷の討王の起。○〔國〕「殷辛

伐二有蘇氏一、有蘇以二―已女一焉」。

○俗の嬰の字。

妲 タツ、常割切 曷 | タン。得案切 旰 | タチ。切

兄弟の妻、あひよめ、娘婿。○〔廣雅〕「兄・

弟之妻相呼曰二―娌一」。

妲 ロク。廬谷切 屋 | トク、徒沃切 沃

テキ、チヤク。亭歷切 錫 | チウ、ヂユ。陳留切 尤

靜かならずうごく（動）。○〔揚雄〕「人

不レ靜曰レ―、賀、秦曰レ騫、齊、宋曰レ

―」。

妲 チウ、チユ。丑鳩切 尤

心動く、むなさわぎす。○〔詩〕「憂心且

―」。

妲 チヤク、タク。陟略切 藥

まづか、靜、又、婦人の貌にいふ字、又、

なみな。

妲 セウ。之遙切 蕭

女の字（あざな）。

妖 ヨウ。於堯切 元 | 紆願切 願

○婉と煥さに通ず用ふ、たをやかすな

ほ。

○獸の名。○〔山海經〕「戶山有レ獸狀

如レ鼈而魚目名曰レ―」。

妍 ケン。五堅切 先

嫺に同じ。

妍 トウ、ツ。他口切 宥

好き貌にいふ字、よし、かほよし。

妊 ヂン。如林切 侵

胚に同じ。

妊 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

卵に同じ。

妊 ダフ、ノフ。諾答切 合

めとる、娶、一に物を聚む、又、小兒の

肥えたる貌にいふ字、こゆ。○〔韓愈〕

「巴―鹽收二鹽一」。

妊 ダン、ノン。奴甘切 覃

とる、取、又、いる、入。

妊 キン、コン。許斤切 文

女の字（あざな）。

妣 ヒ。補履切 紙

失せたる母を呼ぶ稱、なきはゝ、されど

古は、生きたるときに別か

ちなく何れにも呼びなせり。○〔禮〕

「生曰二父・母一、死曰二考・―ニ」。

〔等差〕此の世なきを父と母と。○〔禮〕「父兼かゝ宮、

〔祖祭〕「―ニ子正祭」。

〔祖祭〕此の世なきを祖父と祖母と。○〔禮〕「四

〔祖祭〕「―ニ」。

妣 ヒ。補履切 紙

古文の好の字。

妝 ヂン。委遵切 阮

前に同じ。

妊 アン、エン。於諫切 諫

晏に同じ、やすし。

妊 ダフ、ノフ。諾答切 合

めとる、娶、一に物を聚む、又、小兒の

肥えたる貌にいふ字、こゆ。○〔韓愈〕

「巴―鹽收二鹽一」。

妊 ダン、ノン。奴甘切 覃

とる、取、又、いる、入。

妊 キン、コン。許斤切 文

女の字（あざな）。

妣 ヒ。補履切 紙

失せたる母を呼ぶ稱、なきはゝ、されど

古は、生きたるときに別か

ちなく何れにも呼びなせり。○〔禮〕

「生曰二父・母一、死曰二考・―ニ」。

〔等差〕此の世なきを父と母と。○〔禮〕「父兼かゝ宮、

〔祖祭〕「―ニ子正祭」。

〔祖祭〕此の世なきを祖父と祖母と。○〔禮〕「四

〔祖祭〕「―ニ」。

【妹】バツ、マチ。莫曷切 曷
―嬉は、夏の桀王の后、妹嬉に通じ作る。

【妻】セイ、サイ。千西切 齊 シ。千奢切 支
夫に配合せる女。ようばう、つま。○〔詩〕士如歸―、逝二泳未飛一。

【妹】バツ、マチ。莫曷切 曷
―嬉は、夏の桀王の后、妹嬉に通じ作る。

【妻】セイ、サイ。千西切 齊 シ。千奢切 支
夫に配合せる女。ようばう、つま。○〔詩〕士如歸―、逝二泳未飛一。

【妣】ヒ、ビ。毗至切 寘 ビツ、毗必切 質
女の容儀あるにいふ字、かたちよし。

【妣】ヒ、ビ。毗至切 寘 ビツ、毗必切 質
女の容儀あるにいふ字、かたちよし。

【妲】ダツ、タン。當割切 曷
妲の字、古は姐に作れり

（鼠姑）（蝦蟆たんの異名。○本草）牡丹一名—。「宮長成」。（金部姑）矣の名。○（左）公以—…—財（前

姛 シ。新慈切 支

女の字（あざな）。

姑 カ、ケ。去伽切 歌

前に同上。

姒 シ、ジ。象諸切 紙 古文には姒に作れり。

一あによめ、（兄嫁、弟の妻より兄の妻を呼ぶ稱。○（爾）「稚婦謂二長婦一」—。

二あねの姉。○（國）女子同出、先生爲レ—。後生爲レ妹。

（女姒）女王の兄弟の妻。○（詩）「—…嗣」。（家姒）周の幽王のきさき。○（詩）「—…國之」。

姓 セイ、シヤウ。息正切 敬

一一の祖先より分かれ出でつゞき來たりたる系統の稱號。子々孫々に相傳へて用ふかばねうぢ。家名。○（左）天子建レ德因レ生賜レ—。

二一系統に屬する者。家族、やから。○（詩）「振振公—」。

三うまれ子。○（左）庚宗之婦人獻淫雉。問二其—一。對曰、晉子長矣、能

（ろ）其の（い）天が下の民の稱。たゞ、主に農民にいふ。○（國）「申北—…—、徐—北」。（百姓）（い）天が下の民の稱。たゞ、主に農民にいふ。○（國）「申北—…—、徐—北」。（ろ）ろ〳〵のつかさ、百官。○（詩）「百辟—…—、諸侯王言」。

（百姓）（い）前のに同じ。○（後）「—…—、諸侯」。（ろ）前のに同じ。○（國）「益稷、徳其上、德之士、以興百姓」。

（姓氏）同族と稱ぶ。又、同じきやから。○（後）「王日帝之百姓—…—」。

（姓氏）皇祖考もの。○（詩）「殷、殷」。同姓皇父之實、異姓王實之親。—…—親王無親有。「—」。

（同姓）祖先を同じうせるもの。○（詩）「不如—我！」。（異姓）前に同じ。○（左）「—…—離子親」。（六姓）勢力のあるやから。○（國）「蔡姓皆及上—」。

（諸姓）世間に知れわたりたるいへ。○（後漢）「世以存姓—…—」。（姓姓）前に同じ。○（後）「益州—…—豪姓」。

姊 シ、メウ。莫飽切 巧 一に妹に作る。

よし、好。

委 イ。郎段切 紙

一ゆだね、又、まかす（任）。

（い）代はりて行はしむ、主となりて處置せしむ。つく（國）。○（左）「—二之常秩」。

（ろ）其のまゝになる、其の成り行きに就くまたがふ（隨）。○（國）「—二重罪」。

二おく。

（い）つむ（積）。○（唐）「詔書雲—」。

（ろ）すつ（棄）。○（孟）「—而去之」。

三細かく分くること、つまびらか、つぶさ。○（史）「—瑣握齷」。

四する（未）。○（禮）「或原也、或—也」。

（墟委）みちかさなる。○（蘇軾）「即寄日—…—」。（信委）經はせまかす。○（北）「毎日—…—之」。（任委）まかす。○（他）「及手一見—…—長」。

伊委。

（殺委）前に同じ。○（舊唐）「探見—…—」。（堆委）周の時代の諸侯。○（左）「弁兵—…—」。（殺委）みたれつゝ。○（後）「夢光—…—」。（注委）氣を付けてまかす。○（元）「將向不負談—…—」。

委 イ。於僞切 寘

一官府に貯蓄しあるかこひ米及び薪、藁などの總名。本草に備ふるもの、其て積に對し量の少なきにいふ。○（周）「掌國之—…積」。

二食物をつみおく官府の名、卽ち、倉庫などをつかさどる官府。○（孟）「孔子嘗爲二—吏」。

委 イ。墨危切 支

癖容自得の貌にいふ字、ゆったりとしておちつけり。○（詩）「—…蛇—蛇」。

妤 ユ。餘昭切 遇

俗の孕の字。

妻 シ。郎移切 支

一小き婦人。

二婦人の媚びざる貌にいふ字、こびす。

妻 シ。淺氏切 紙

一まふ、又、まひ、舞。

二婦人の貌にいふ字。

妒 ゲン。語寒切 旱

一つみそろふ、さゝのふ（積齊）。「よし。

二容の好き貌にいふ字、みめよし、かほよし。

妊 ハウ、ヒヤウ。匹耕切 庚

いそぐ、又、にはかなり（急）。

妻 キ、ケ。居希切 微

男子の男子に淫するも、男色、かたまし。○（正韻）「—一律有二—姦罪條」。

妊 ニン。如甚切 寢

妊に同上、はらむ。○（後漢）「以三貴人有レ—」。

妊 ニン。如甚切 寢

妊 ニン。如甚切 寢

妊 ニン。如甚切 寢

㊀兄弟の生みたるむすめ、めひ。○〔春秋〕「―其從レ姑」。
㊁兄弟の生みたる子、なひ。○〔聞見錄〕「宋眞宗過レ洛、幸二呂蒙正第一、問諸子孰可用、對曰、臣諸子皆豚犬、有二―寡簡一宰相才也」。
㊂妻の兄弟の子にもいふ。○〔唐二仁傳〕「謹諫二武后一曰、姑―與二母―、子―孰親」。

姪 チツ、ヂ、直一切 質
㊀前條の㊀と㊁と㊂とに同じ。
㊁蠱に通ず。ふ、とし。○〔漢郭究碑〕「―壽―士女」。

娥 媒に同じ。

姪 シン、止忍切 軫
つゝしむ、又、つゝしみ（慎）。

姬 キ、居之切 支
周室の姓。○〔戰文〕「黃帝居二―水一、以レ―爲レ氏、周人嗣二其姓一」。

姬 イ、盈之切 支
㊀王妃の別稱、きさき。○〔詩〕「葛不二―龍一、王―之車」。
㊁女子の美稱、ひめ。○〔詩〕「彼美淑―」。
㊂媵妾の總稱、そばめ。○〔史〕「使人抵二昭王幸一求レ解」。
〔註〕美しくなまめきたるひめ。〔孫子〕「―驚似花爭發」。
〔註〕愛妾のも。○〔史〕「以王之―二人、各帥一同也。○〔史〕「秦穆君使人抵昭王―」。
〔註〕前に同じ。○〔史〕「秦穆君使人抵昭王―」。
〔註〕女子の官名。○〔戰〕「明年秦給三年假―」。
〔註〕うつくしきひめ。○〔史〕「食飲甘美好―」。

姿 ケン、許欠切 豔
好き貌にいふ字、みめよし、うつくし。
〔註〕うたひめ。○〔史〕「李姬寵幸、妙妙、―」。
〔註〕女官有二人。
〔註〕うつくしきひめ。○〔高唐賦〕「其少進也、新新若―」。
〔論衡〕「自西至所息」。

姮 コウ、ゴウ、胡登切 蒸
女の字（あざな）。

姚 クヨウ、姑黃切 陽
㊀女の字（あざな）。
㊁顏色の妍麗なるにいふ字、うつくし、あでやか。

姁 シュン、須倫切 眞
くるふ、ものくるはし（狂）。

姁 ケン、ゲン、發緝切 廢

姁 キン、規倫切 眞
㊀前條の解に同じ。
㊁よそほひを作す、かたちづくる。
優り劣りなくひさしく適ふ、男と女と相應す、かなふ、ならぶ、ひとし。

姱 クヨ、ケ、枯瓜切 麻
夸に通ず。用ふ、美行あり、容色すぐれたりよしとうるはし。○〔屈平〕「紛獨有二此―節一」。
〔註〕かはよき貌にいふ語。○〔大招〕「宋玉唐勒、皆―以一只」。

姱 ク、コ、匈于切 虞
㊀前條に同じ。㊁おごる（奢）。

姱 コ、ク、後五切 麌

姦 アン、エン、於諫切 諫
㊀性質端良ならず、あし、かたまし、（姦）。

姹 ベイ、ミヤウ、莫過切 箇
よし（好）。

姳 レツ、レチ、力薛切 屑
うつくし（美）。

姤 ジ、ニ、仍吏切 寘
女の號。

姵 ハイ、蒲蓋切 泰
ハイ、蒲昧切 隊
女の名。

姶 アフ、過合切 盍 ―古文は「媼」に作る。
㊀うつくし、かほよし（美好）。
㊁女の姓、又、其の名。

姶 アフ、エフ、乙洽切 洽
女のたくみ（巧）。

姷 イウ、ウ、于救切 宥
たゞふ、ならぶ、あはす（耦）。

姌 ケイ、ギヤウ、戶經切 青
女の身の長け高き貌にいふ字、たかし。

妍 ゲン、倪堅切 先
㊀うるはし（麗）、なまめかし（媚）、うつくし（美好）。○〔韓愈〕「爭―而取レ憐」。
㊁事を精しくしてあやまりなきやうにす、物に附著したる汙染を去る、鋭からしむ、とぐ、みがく（研）。○〔吳越春秋〕「―三營、種之術」。
〔註〕春の花の咲きたるが如くにうるはし。○〔右傳〕「星―如一一」。
〔註〕花の咲きたるが如くにうるはし。○〔右傳〕「星―如一一」。
〔註〕そなはれて目の色うゝかなるにいふ語。○〔註〕「星―如一一」。
〔註〕ふつゝりとしたるうつくし。○〔晉和嶠傳〕「―約一一」。
〔註〕物事のとゞみがかれてあるにいふ語。○〔論語〕「不加―古、士爲一一」。
〔註〕うつくし、はなやかなり、又、北の有美人。○〔註〕「不加―一一」。
〔註〕うるはし。○〔陶潛〕「筆止一一」。
〔註〕つや、かがしてうつくし。○〔顧野王〕「―鮮」。
〔註〕はなそしてうつくし。○〔魏〕「衛一一婦自如美婦人」。
〔註〕みにくきようつくしきと。○〔法華經〕「―不雜論」。
〔註〕網ゆるし。○〔論語〕「―不雜論」。

妍 シン、所臻切 臻 セイ、小禮切 齊 サイ、切 齊
ソン、鎖本切 阮 セン、蘇典切 銑
國の名。

姓 セン、蘇前切 先
姍に同じ、行く貌にいふ字、ゆく。○〔司馬相如〕「嫣―微翦」。

姻 イン、伊眞切 眞
㊀夫婦となりて人倫上のちなみを生ずるとゝよめ取り、むこさり、又、其のちなみを結びたる者、緣者、又、壻の家族、よめの家族、緣家。○〔後漢〕「時軍令與二貴術一結レ、必受二不饒之名一」。
㊁因緣ちなみ。○〔蘇軾〕「結二夢南柯一」。
㊂夫婦のちなみを結ぶ、ちなむ、とつぐ。○〔謝莊〕「王姬下―」。
〔註〕夫婦のちなみを結ぶこと。○〔史〕「直之以―」。
〔註〕已れよりは故家の人の夫婦のちなみを結びたるも、其の家、又、已がおかし管て夫婦のちなみを結びたるも、又、其の家。○〔註〕「不忍―」。
〔註〕むとの家族、又、よめの家族。○〔史〕「士弘月到―」。
〔註〕前に同じ、又、一家親戚。○〔史〕「夫聞蘇秦―」。
〔註〕王室と夫婦のちなみを結びたる家族。○〔史〕「門閥―」。
〔註〕前に同じ。○〔史〕「嗣續―」。
〔註〕前に同じ。○〔史〕「不可任軍―」。
〔註〕夫婦のちなみより親戚となるも、又、其の家族。○〔史〕「―骨肉」。
〔註〕前に同じ。○〔史〕「王家―」。
〔註〕前に同じ。○〔宋史〕「王家早―」。

姻 フウ、フ、方九切 有 ハイ、
鋪來切 灰 ハウ、ヘウ、班交切 肴
㊀色めく貌にいふ字、うつくし、よし。
㊁なみなのの、り（女儀）。

姼 シ、ジ、是支切 支 承紙切 紙
㊀おゝ、（父母）。○〔揚雄〕「南楚謂二父一―考一」。
㊁うつくし、みめよし、又、其の者、美女。
㊂かろ〳〵しくしくしてうすき貌にいふ字、かろし、輕薄。

姼 タ、典可切 哿
前條の㊀に同じ。

姼 テイ、ダイ、田黎切 齊
媞に同じ、やすし（安）、又、うつくし、か
ほよし（美好）。○〔漢〕「―――公、主、乃女二爲孫一」。

妸 キ、ギ、巨綺切 紙
㊀岐に同じ。㊁小さき婦人。

妃 キ、過委切 ギ、五季切 紙
姿のふなよくしてあゆむさまのふづ〳〵としたるにいふ字、ふなやかゝ、たおやか、又、よし（好）。○〔宋玉〕「既―二體於幽靜」。

姪 セン、ゼン、遺緣切 先
女の字（あざな）。

姿 シ、卽夷切 支
すがたなな。
（い）性質、たち。○〔史〕「天―善爲レ容、不レ能レ通二禮經一」。
（ろ）形貌、かたち。○〔後漢〕「體貌魁梧、有二異一―」。
（は）趣味、おもむき。○〔陸龜蒙〕「自然鏡―野一―」。
〔註〕めづらしきすがた。○〔曾鞏〕「―――鏡」。
〔註〕帝王の容を稱していふ語。○〔詩〕「―――」。
〔註〕うつくしきすがた。○〔莊子〕「―――」。
〔註〕つや、かなるすがた。○〔史〕「―――有二不」。
〔註〕待女、婢には敬、愛。
〔註〕高尚なるすがた。○〔後漢〕「人以狐龍章―」。
〔註〕すぐれたるすがた。○〔史〕「大山―――」。
〔註〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「好情生―」。
〔註〕よきすがた。○〔史〕「―――外貌」。
〔註〕前に同じ。○〔高唐〕「―――只合在陽臺」。
〔註〕すぐれてつよきかたち。○〔傅休奕〕「―――風姿」。
〔註〕長生、陰氣發生。
〔註〕佳氣なきすがた。○〔宋書〕「―――卿―出」。

姿 シ、資四切 寘
すがたなを飾る、かたちづくる、又、こぶ、（媚）。○〔韓愈〕「義之俗書媿二―媚一」。

娥 シウ、シユ、息弓切 東
人の姓。

威 ヰ、於非切 微
㊀尊嚴なり、長擇すべし、たけし、おごそか。○〔易〕「―如之吉」。
㊁禮貌、容儀。○〔禮〕「取其―」。
㊂勢力、又、權柄。○〔周〕「馭其―」。
㊃長る、憚る。○〔詩〕「死喪之―」。
㊄長憚の念を起こさしむ、服從せしむ、おどす。○〔易〕「弧矢之利以―二天下一」。
〔註〕法則をとり行ふ勢力。○〔孫逸〕「―式微」。
〔註〕おもゝしくして憚るべきこと。○〔論〕「君子不―則不―」。
〔註〕所行をもておそす。○〔史〕「三國志三國志―」。
〔註〕くしびしておそるべき勢力。○〔後漢〕「―」。
〔註〕くにのおそるべき勢力。○〔後漢〕「宜二朝一―」。
〔註〕（天）天帝の勢力。（地）天帝の勢力。○〔詩〕「喪―之一、子」。
〔註〕神佛之。
〔註〕（ろ）天子の勢力。○〔論〕「今日可謂仰仰有―」。
〔註〕（は）天然に備はりたる威光。○〔論〕「有象秋」「寫日、
〔註〕思慮をたゞかきとのこと。○〔論〕「論今天子雄―」。
〔註〕おだいなる勢力。○〔論〕「威有―」。
〔註〕みいつ、御を、天、天、又は、御體などのたゞとくおそるべき勢力。○〔論〕「―直指、勢陵」。
〔註〕雷、
〔註〕きびしき威光。○〔論〕「非敬則―」。
〔註〕さむるのはゆしきこと。○〔宋書〕「勢威」。
〔註〕雷雨の「―」。
〔註〕長風のはゆしきこと。○〔鍾高傳〕「威自無―」。

娃 ワ、ヒヤウ、彼耕切 庚
美しき貌にいふ字、うつくし。○〔杜甫〕「―不嫁惜―」。

娃 ケン、ゲン、胡典切 銑
女の字（あざな）。
㊀ほかるばかり（量）。
㊁女の容貌の花の葉の垂るゝが如くに美好なるにいふ字、うつくし、うるはし。

娃 アイ、於佳切 佳 ア、烏瓜切 麻
㊀容色美なり、うつくし、みめよし、ほよし、又、其のなみな、美女。○〔揚雄〕「―質二嬪一之珍麗」。
㊁深く凹みて圓き目の貌にいふ字、ゑくぼ、くぼみめ。
〔註〕花咲く頃に美人にいふ語。○〔白居易〕「―舞―力」。
〔註〕さて人中の美人。○〔詩〕「白雪―」。
〔註〕「―不勝嬌」。
〔註〕ゑくぼのみめよきすがた。○〔後漢〕「―」。

娃 シ、シ、疾二切 寘 本嫉に作る。
れたむ、それむ（妬）。

七畫

娀 ケフ、苦協切 ケフ、卽協切 葉
㊀志を得たり、こゝろよし。
㊁いこふ、やすむ（息）。

娘 リヨ、ロ、雨舉切 語
醜き貌にいふ字、みにくし。

娉 ヘイ、ヒヤウ、匹正切 敬
聘に同じ、とぶ（問）、めす、（召）、めとる、（娶）。○〔左思〕「―江妻二而興レ馳遊」。

娉 ハウ、ヒヤウ、彼耕切 庚
美しき貌にいふ字、うつくし。○〔杜甫〕「―不嫁惜―」。

娟 ケン、ゲン、胡典切 銑
女の字（あざな）。

娟 サウ、セウ。所交切 [蕭]
最も年長けたる姉、おほあね、孟姉。

娟 サウ、セウ。所教切 [効]
シヤク、サク。七約切 [藥]
人に侵辱せらる、をかさる、あなどらる。

娵 キウ、ク。渠尤切 [尤]
㊀女の字、(あざな)。㊁たぐひ(匹)。

娵 テフ、陟涉切 [葉]
女の善からざる貌にいふ字、あし。

娌 リ。良已切 [紙]
夫の兄弟の妻の互に呼びあふにいふ字、あひよめ(妯)。

娵 セイ、ジヤウ。時征切 [庚]
女の名。

娵 セイ、ジヤウ。時正切 [敬]
身の長けたかく好き貌にいふ字、又、うつくし(美)。

娸 クツ、ケチ。許列切 [屑]
一に嫩に作る、よろこぶ(喜)こいちよし(嫩)。

娸 嫈に同ト、あによめ。○(鄙炎)
(加三供養一)謝レ一。

娑 サ。素何切 [歌]
㊀舞ふ。○(詩)子仲之子、婆二其下一。

娑 サ。蘇可切 [哿]
走る貌にいふ字はやし。○(三輔黃圖)
(駿一馬迅疾貌、借爲二宮名一)。

娑 姿に同ト。

娑 本、姿に作る。

娒 侮に同ト、あなどる。○(漢)上
所レ不レ能致者四人、皆以三上慢二一
士、放逸二匿山中一)。

娓 ビ、ミ。旻悲切 [支] 明祕切
(國) 武斐切 キ。謂尾切 [尾]
㊀ふたがふ(順)。㊁うつくし、よし(美)。

娖 サン。昔按切 [諫]
(粲に通ト作る。)
うつくし、(美)又三たりのうつくしき
女、三美人。○(詩)「今夕何夕、見二此
一者一」。

娘 トウ、ヂ。丁候切 [宥]
貴語のおだやかならざる貌にいふ字、
いつはる。

娖 サク、ソク。測角切 [覺]
(一纖に、
一に作る。)
つゝしむ(謹)。○(史)「一一一庠謹備レ
具而已」。

娖 ショク、ソク。又足切 [沃]
さしのぶ(嬪)。○(梅堯臣)「廚架整一
齊(戰牙)」。

娗 テイ、ヂヤウ。徒鼎切 [迥]
㊀女の外出したる病容にいふ字、一説
に、女の陰部の病。
㊁身の長けたかくして好き貌にいふ
字、みめよし、うつくし。
㊂あなどる(慢)。

娗 テイ、ヂヤウ。唐丁切 [青]
かたちづくる(容)。

娗 テン、デン。他典切 [銑]
㊀開ちけ通はざる貌にいふ字、ふさが
る。○(列)「瓜一蹉(委)」。
㊁欺き慢る語、あなどる。
㊂倨くして劣る、おとる。

娘 ヂヤウ、ニヤウ。女良切 [陽]
(孃に通ト用ふ。)
㊀年わかきをみな、むすめ、少女。○(唐)
「高祖女柴紹妻、高祖起レ兵、主與レ
紹得二數百人一以應レ帝、定二草師一、
號二一子軍一」。
㊁むすめの名に加へ用ふる字。○(唐)
「爵之知婢婢、一奚且善歌」。
㊂母の稱、(通俗語)。○(白居易)「兒
別(鄰一一夫別レ妻」。

(娟)　あねむすめ。(神異)　つぎのむすめ。○(晉
慶二帝天嘉寧元二女、一一一一一一(靜一長手村
野、西坊有二墓塚一)。
(娟)　女の姿のこと、又、男の姿をいふともあり。○
(月令廣義)「孝定日一一一」。
(夫)　(少)婦人の品行よからぬ者を罵る語。○
(晉書)「有人問二婦人之無行者一、本曰一一一一
(ろ)者の稱の俗略。○(韓昌黎)「前人詩曰一一
一」。
(花)　あそびめ、遊女。○(韓昌黎)「唱詩曰一一
(嬪)　みめよきむすめ。○(李賀)「東家一一來、
鬱鬱」。
(容衣)　(鮑)　(鮑)　(鮑

〔楊慢〕やもめ。○〔楊倞〕「紀綱」—之說。
〔嬪婦〕宮中につかふる婦人。○〔元稹〕「故嬪不御」
—。
〔宮婦〕前に同じ。○〔白居易〕「—」—。
〔嬪婦〕すぐれてめとる女。○〔李山甫〕「千陌—」
—。
〔姮娥〕世姮といふ者不死の藥を竊みて月に奔りぬ
といふ故事より月の異名に用ふるとあり、又、嫦の字
に—は誤に作る。○〔李商隱〕「—」—。
〔宮姮〕天女のこと。○〔韓愈〕「蛾今—」—。
〔宮姮〕前に同じ。○〔孟郊〕「—」—。
〔宮姮〕前に同じ。○〔白居易〕「—」—。
〔宮姮〕前に同じ。○〔李賀〕「—」—。
〔宮姮〕前に同じ。○〔李賀〕「—」—。
〔宮姮〕前に同じ。○〔沈佳期〕「天上—」—。

娠 嬪に同じ。

娩 タイ、テ。他外切 泰
❶舒かにして遲き貌にいふ字、ゆるやか、おもむろ、のびやか。
❷よろこぶ。〔喜〕。

娗 バン、マン。母版切 潸
自ら高ぶりて人を下げしむ、あなどる、〔傲慢〕。

娗 カン、ゲン。下晏切 諫
あなどる。〔侮〕。

娬 ホ、フ。滂模切 虞
女の字、〔あざな〕。

娩 ベン、マン。無遠切 阮
ふたがふ、〔順〕、ごぶ、〔貌〕。○〔禮〕「女子十年不出嫁教三婉—聽從」。
〔禮記〕今するかに、ふたがふこと。○〔李白〕「—」—。

娩 ベン、メン、文運切 問 メン。切 霰
美婦。

娵 ソウ、ス。此苟切 有
うつくしきかみな、〔美女〕。

娶 シュ、ス。七句切 遇
女を迎へて妻となす、めとる。○〔胡安定〕「—レ婦須不若二吾家一則事二舅姑一必難」。
〔外娶〕とつ國の人をめとる。○〔漢、陳〕「右晉大夫不—」。
〔博娶〕聘れ貌れの區別をせずにめとる。○〔後漢〕「—」
〔後娶〕夫婦のかためをすること。○〔史〕「好自娶妻
「不自—」。
〔重娶〕已れの心一つにてめとる。○〔白虎通〕「男
女如何なる事情のあるにか、はたらめとる
と。○〔禮博物志〕「衛公好鶴、女有二國色一、而嬖
其妻、以鶴隨之、女至鶴、鶴有二雄夫一、—之、
乃與色、果使二衛公女至一」。○〔史〕「太嶋始娶
—」。
〔嫁娶〕よめいりとよめとること。○〔史〕「太嶋始娶
—」。

娶 ル。龍珠切 虞
❶女の字、〔あざな〕。❷うまる、〔生〕。

娵 ゴ、グ。訛胡切 虞
うつくし、又、うつくしき人、美女。

娵 ギヨ、ゴ。牛居切 魚 ゴ、五故切 遇
をみな、〔女〕。

娟 エン。以然切 先
❶女の字、〔あざな〕。
❷美しくして好き貌にいふ字、うつくし、みめよし、かほよし。

娭 キ。設其切 支
❶婦人の賤稱。
❷たはむる、〔戲〕。○〔漢〕「群臣—康其中」。
〔後漢〕たのしみたはむる。○〔漢安世房中歌〕「御
來—」。
〔漢書〕たはけるこ貌にいふ語。○〔元結〕「平化之
—」。

娭 アイ、エイ。於開切 灰
ふもなんな、〔蟑〕。

娘 嬢に同じ。

女部 八畫

娣 妖の木字。

婚 タフ、トフ。他合切 合
俛伏す、ふす、うつぶす。

娵 シュ、ス。子于切 虞
饗詔にて、魚の稅、うみ。○〔郝隆〕「—
隔屋二清池一」。
〔郝隆〕（ゴ）酒盃の免人の名。（ス）みにくし、醜惡。

娵 シウ、ス。當尤切 尤
女の名。

娵 ソウ、ス。此苟切 有
うつくしきかみな、〔美女〕。

娶 シュ、ス。七句切 遇
女を迎へて妻となす、めとる。○〔胡安定〕「—レ婦須不若二吾家一則事二舅姑一必難」。
〔外娶〕とつ國の人をめとる。○〔漢、陳〕「右晉大夫不—」。
〔博娶〕聘れ貌れの區別をせずにめとる。○〔後漢〕「—」
〔後娶〕夫婦のかためをすること。○〔史〕「好自娶妻
「不自—」。
〔重娶〕已れの心一つにてめとる。○〔白虎通〕「男
女如何なる事情のあるにか、はたらめとる
と。○〔博物志〕「衛公好鶴、女有二國色一、而嬖
其妻、以鶴隨之、女至鶴、鶴有二雄夫一、—之、
乃與色、果使二衛公女至一」。○〔史〕「太嶋始娶
—」。
〔嫁娶〕よめいりとよめとること。○〔史〕「太嶋始娶
—」。

娼 ハウ、ヒヤウ。普耕切 庚
へイ、ビヤウ。滂丁切 青
除くべきと、即ち跟男と女と私に情を通ずるにいふ、漢の律にては已が妻の使へる婢に通ずると、又、誓戒のときに女と交はると。

娼 ツ井、タイ。竹恩切 支
事相屬ぐ、かさなる、〔累〕。

娼 ス井、サイ。樹僞切 ツ井、ダイ。驢僞切 寘
女の字、〔あざな〕。

娸 ヒン、ヒン。於閑切 刪
女の字、〔あざな〕。

娸 キヤウ、カウ。丘仰切 養
女の字、〔あざな〕。

婆 ハ、バ。蒲波切 歌
❶ばば。
（い）年老いたる母、又、ふうとめ、〔よめ
よりいふ語〕。○〔魏、寇卽傳〕「—レ固長
育恒呼二固夫婦一爲二耶—」。
（ろ）年老いたる女。○〔侯鯖錄〕「東坡
在二昌化一、貧二大・飄一、行歌二田畝
間一、綾・婦年七十、曰、內翰昔日
富貴一、場春夢、坡然之里人因
呼爲二春夢—」。

婆 ル。龍珠切 虞
❶ひく、〔曳〕。○〔詩〕「子有二衣裳一弗レ曳
弗レ—」。
❷鏤刻の貌にいふ字、又、其のきざみ方のはっきりとしたる貌にいふ字、ちりばむ。○〔何晏〕「綠以二藻井一、編以二綵疏一、紅葩翳蹀丹綺離—」。
❸分別なし、おろかなり、〔愚〕、くらし、〔昧〕。○〔蘇氏演義〕「時人以爲無分別者爲二婆—不辨」。

婁 ロウ、ル。期口切 有
壞に同じ、ちひさきみち、〔小阜〕。○〔左〕
〔部—無松・柏〕。

婁 ロウ、ル。期口切 有
俗の婁の字。

婢 ソウ、ス。徂宗切 冬
女の字、〔あざな〕。

婢 ホウ、ブ。蒲口切 有
婦人の肥えたる貌にいふ字、一說に、不才なる貌、おろかなる貌にいふ字。〔—婢〕。

婢 キク、コク。居六切 屋
女の名。

婆 ハ、バ。蒲波切 歌
❶ばば。
（い）年老いたる母、又、ふうとめ、〔よめ
よりいふ語〕。○〔魏、寇卽傳〕「—レ固長
育恒呼二固夫婦一爲二耶—」。
（ろ）年老いたる女。○〔侯鯖錄〕「東坡
在二昌化一、貧二大・飄一、行歌二田畝
間一、綾・婦年七十、曰、內翰昔日
富貴一、場春夢、坡然之里人因
呼爲二春夢—」。

婆 ル。龍珠切 虞
❶婆に同じ、〔其の條參照〕。○〔玉篇〕「老松婆」〔雪白婆—〕。
〔阿婆〕は、。○〔朝野僉載〕「其浪翻—」。
〔公婆〕ようと、ようとめ。○〔劉一方俗稱舅姑
曰—」。
〔黃婆〕蛛の網の說、蛛のよく他の網を奪ふといふ
○〔李時珍〕「—居中補二厚方二」。〔好傳・蛛方便
吹噓般兒例轉〕。○〔宋錄記〕「—」。
〔鼓婆〕琵琶のこと。○〔樹雄記〕「梅摩上馬傳—」。
〔琴婆〕浮圖、たとへそとは。○〔釋氏要覽〕「浮屠
梵語—」。
〔鉢婆〕足をあた、むる具、湯たんぽ。○〔資治通鑑
〔菩婆〕長壽の天神、轉じて醫道の神。○〔宋〕「
—咸通三年—」。
〔鼓婆〕梵語の木綿。
〔羅婆〕十たび草する間。○〔後菊珠林〕「六十刹那
爲一瞬、十瞬爲一彈—」。
〔苦婆〕はや。○〔維摩詰〕「—」。
〔鉢婆〕〔婆〕からなし。○〔後菊珠林〕「摩色羯羅
如—」。
〔苦婆〕〔婆〕つのむし、一名に容嫌子と稱す。○〔本
草〕「草蔚一名—」。
〔草蔚婆〕〔婆〕もぐさの異名。○〔本草〕「艾一名
—」。

婆 サイ。此宰切 咸 倉代切 隊
女の字、〔あざな〕。

婉 ヤン。鄭嘗切 阮 エン、迂絹切 霰 チン。切
❶婆に同じ、〔其の條參照〕。
（い）和ぎまたがふと、すなほ、溫和。○〔管子〕「貞—有二志節一」。
（ろ）意義をあらはに言ひ表はさずして、露骨に言說せざること。○〔左〕「春秋之稱—而辨」。
❷わかし、〔少〕、うつくし、〔美〕、又、少婦、美人。○〔詩〕「—分樂分」。
❸飛び動く貌にいふ字、うごく。○〔文選〕「〔象與—於四清—」。
〔敕婆〕文明官話の直訳の略くしてすなはなるこ
いふ語。○〔史〕「左氏之—」。
〔鄙婆〕俚俗にしてすなはなるも。○〔韓詩外傳〕
「—」。
〔鼎婆〕うつくし。○〔宣和書譜〕「工、詩入物、摩
詰—」。
〔阿婆〕美人。○〔後漢書〕「—」。
〔清婆〕之聚、無手奉瑜。
〔清婆〕目清く口秀でうつくし。○〔白〕「時俗
增咒—」。
〔無婆〕（い）やすらかにしてまとやかなるも。○〔韓
「—」。
（ろ）之求。
（ろ）うつくし、又、美人。○〔西京賦〕「鈿・玉色・蟲
〔華婆〕はなやかにしてうつくし、又、はなやかにして
まとやかなり。○〔後〕「後、又—」。〔華時彩有二
者一〕。
〔華婆〕やはらかにしてすなはなり。○〔北〕「行性
かなよ。○〔晉記〕「金石—」。
「—」。
〔宜婆〕やすらきてまとやかなり。○〔會稽後賢傳〕
〔鄭婆〕（い）飛びうさく貌にいふ字。○〔雜問〕「蓋八
鑑之—」。
（ろ）すなはち。○〔玉篇〕「—」。
〔鄭婆〕まとやかにしてうつくし。○〔後漢〕「引車
〔鄭婆〕うつくし。○〔玉篇〕「—」。

婉 ヤン。鄭嘗切 阮 エン、迂絹切 霰 チン。切
❶またがふ、〔順〕。
（い）通らはすかなふ。○〔左〕「婚禮而
「—」。
前條の❶に同じ。

そしり。○〔漢〕「安・昌貫・殖朱・靈作レ
—」。
〔詩〕そしる。○〔漢〕「漢・敕・本作・誠—レ—」。

嫐 ケン、ゲン。胡田切 先 一に嫢に作る。
そしる、守りあり、まもる。

嫐 タツ、テチ。丁滑切 黠
❶さし、疾、たけし、悍。
❷好き貌にいふ字、よし、みめよし、かほよし、「ほよし」。

嫐 ツ井、タイ。聊謙切 支
前條の❶に同じ。

嫐 トウ、ツ。都籠切 東
國の名。

嫐 トウ、ツ。多貫切 翰
女の字、〔あざな〕。

娼 パン、モン。毋敢切 感
俗の倡の字。

娼 ハン、ロン。盧感切 感
鄉の名。

嫋 ヨウ、ロク。力玉切 沃
好き貌にいふ字、かほよし、みめよし、よし。

嫁 ロク。盧谷切 屋
またがふ、つく、〔隨從〕。

嫁 ヨウ、ロク。力玉切 沃
綠と祿とに同じ。

娃 ガイ、ゲイ。五戒切 卦
たのしむ、よろこぶ、〔喜悅〕。

娃 ガイ、ゲ。宮佳切 佳
みにくし、〔醜〕。

娶 ア。於何切 歌
決せず、きまらず、さだまらず。○〔韓愈〕
「旺肯感激徒嫋—」。

娶 ア。鳥可切 哿
ふなやか、たをやか、〔嫋〕。○〔洛神賦〕
〔李咨—嫋〕。

婀 前條に同じ。

婁 ル。龍主切 麌
牛を繫ぐ、つなぐ、又、つながる、〔維〕。○
〔左〕「牛馬維—」。
〔維繫〕身心を使役しつかれたるにいふ語。○〔莊
〔郭璞〕身心を使役しつかれたるにいふ語。○〔莊
—」。

婁 リヨ、ロ。良據切 御
度に同じ、たびく、ふばく。○〔漢〕
〔上方鏡〕「功業一舉三賢良」。

婁 ル井。倫爲切 支
梵—は四羌の地の名。

婁 ロウ、ル。洛侯切 尤
❶二十八宿の一、たゝみ。○〔禮〕「日在二
❷婁女一晉—中」。
❸縷に同じ、ゐのこ。○〔左〕「既定爾
——」。
❹獸の名。○〔韓詩外傳〕「北方有レ獸名
曰—、更食而更視」。

婁 ル。龍珠切 虞
❶婆に同じ、〔其の條參照〕。○〔玉篇〕「老松婆」〔雪白婆—〕。
〔阿婆〕は、。○〔朝野僉載〕「其浪翻—」。
〔公婆〕ようと、ようとめ。○〔劉一方俗稱舅姑
曰—」。
〔黃婆〕蛛の網の說、蛛のよく他の網を奪ふといふ
○〔李時珍〕「—居中補二厚方二」。〔好傳・蛛方便
吹噓般兒例轉〕。○〔宋錄記〕「—」。
〔鼓婆〕琵琶のこと。○〔樹雄記〕「梅摩上馬傳—」。
〔琴婆〕浮圖、たとへそとは。○〔釋氏要覽〕「浮屠
梵語—」。
〔鉢婆〕足をあた、むる具、湯たんぽ。○〔資治通鑑
〔菩婆〕長壽の天神、轉じて醫道の神。○〔宋〕「
—咸通三年—」。
〔鼓婆〕梵語の木綿。
〔羅婆〕十たび草する間。○〔後菊珠林〕「六十刹那
爲一瞬、十瞬爲一彈—」。
〔苦婆〕はや。○〔維摩詰〕「—」。
〔鉢婆〕〔婆〕からなし。○〔後菊珠林〕「摩色羯羅
如—」。
〔苦婆〕〔婆〕つのむし、一名に容嫌子と稱す。○〔本
草〕「草蔚一名—」。
〔草蔚婆〕〔婆〕もぐさの異名。○〔本草〕「艾一名
—」。

婆 サイ。此宰切 咸 倉代切 隊
女の字、〔あざな〕。

婉 ヤン。鄭嘗切 阮 エン、迂絹切 霰 チン。切
❶またがふ、〔順〕。
（い）通らはすかなふ。○〔左〕「婚禮而
「—」。
前條の❶に同じ。

嬈 カウ、ケウ。盧交切 豪
女の心俊慧なり、さかし、ささし。

娘 ドウ、ヌ。乃后切 有
㊀女の肥えたる貌にいふ字、こゆ、ふと
㊁ちいち（孔）。

嫂 シウク。殊六切 屋
後宮の女官の稱。

婦 キ。去倚切 紙
かほよし、みめよし、よし、（好）。

雄 キ。許維切 支
㊀すがた、姿。㊁みにくし（醜）。

雄 キ。香季切 ヒ。必至切 寘
前條の㊁に同ト。

雄 キ。虎葵切 紙
婆に同ト、百ら纉なる貌にいふ字、ほし
いまゝ。

媒 ヲ。烏果切 哿 ―別には、倮
に作る。
㊀身弱くして好き貌にいふ字、たをや
かなり、又、うつくし、美。○古樂
府「珠佩―、蹇戲三金闕」。
㊁側近く事ふる女子、こしもと、侍女。

嬡 スキ。鄙隹切 支 ―愛に通ト
美しき貌にいふ字、うつくし。

嬡 ヲ。鄙果切 哿
婦に同ト、たをやかなり、うつくし。○
（列）「公孫穆好レ色、擇二稚・齒一、嬡
者」。

嫋 タン。徒甘切 覃
女の字（あざな）。

製 ケイ、カイ。許爵切 霽
㊀あし、兒。㊁ほしいまゝ（恣）。

斐 ヒ。芳非切 微
往き來する貌にいふ字、ゆきかふ。○
「揚雄」「昔仲・尼之去レ魯兮、―・―遲
々而周・邁」。
（孔叢）神の名。○（左思）「綿―・―、郊神歌」。

婢 婁に通ト用ふ。

婕 セフ。即葉切 葉
美しき貌にいふ字、うつくし。

嫌 テン。他兼切 添
女の字（あざな）。

嫌 テン。デン。他點切 添
女の醜惡なる貌にいふ字、はづかし、お
もはゆし。

娣 ゲイ、カイ。研奚切 齊
㊀人始めて生まれいづ、うまる、又、あ
かごみどりごゝ赤子、嬰兒。
㊁婦人の惡き貌にいふ字、あし、みにく
し。

娓 ゲイ、カイ。吾禮切 齊
媚媚の貌にいふ字、こぶなまめく（媚）
―「一說に、疑ひて決せず、さだまらず、まよふ。

嫌 ケン、ゲン。巨員切 平
嫌嫌に同ト、よし、みめよし、（好）、かほ
よし。

姮 ケン。古堅切 霰
眷に同ト。○（史）「談二諸呂一―扇二」。

姮 エン。於劍切 豏
㊀まこつ（誤聲）㊁ふもをんな、婦。

姮 エン。衣廉切 豏
女の貌にいふ字。

婚 コン。呼昆切 元 ―昏に通ト
作る。
男と女とうちなみ結びて夫婦となる
と、むこ、とり、よめいり。○易「求三
―婦」。
（遠姻）夫婦となりたるにより親族となるも。○
（親姻）「大時出嫁―、―婦家」。
（貴姻）よめいりする婦男の家より女の家（宜を親
よるも。○（史）「山東士人娶二門閥」、婚姻必多
取資閥之」。
（陸姻）姻戚高女の婦き者と夫婦となるも。○
（注）「―、―婦・姻」。
（死姻）生前に夫婦となりたるもして死亡せる男女を合
葬するも。○（晉書）「即位後、有王陶書、評悲亡女、
―合葬」。
（宜姻）夫婦のいひなづけ。○（魯）「駢四五歲、婚
嫁―」。
（結姻）婚儀をおすびなす。○（後漢）「―之際、
「有二賓客」」。

婚 コン。胡誤切 遇 ―ゴ。後五切 麌
戀惜す、なしむ、またふ。

婠 ワン。一丸切 寒
品性好し、よし。

婠 クワン、クヲン。古玩切 翰
アツ、エチ。烏八切 ゲチ。乎刮切 黠
好き貌にいふ字、みめよし、かほよし、
よし。

婆 テン。丑廉切 豏 ―センシ。詩廉切 豏
喜び笑ふ貌にいふ字、わらふ、（鈴）。

婇 ライ。郎才切 灰
女の字（あざな）。

婇 ライ。落蓋切 泰
好き貌にいふ字、かほよし、よし。

婢 ヒ、ビ。部弭切 紙
人にめしつかはるゝいやしき女子、な
んなまもべ、こしもと、ばしため、又、
女子の己れをいやしめていふ稱。
○（前二）「稱賤問し奴婢賞」同」。

婕 テン。當練切 霰
女の字（あざな）。

婷 ケイ、ギヤウ。胡頂切 迥 ―悌に
同ト。
たがふ、もとる（很）。○（屈平）「鯀―直
以亡レ身」。

婷 カウ、ギヤウ。下耿切 梗 ―一に婚
に作る。
さいはひ（倖）、一說に、またしも（親）。

婟 コ、ウ。胡誤切 遇 ―ゴ。後五切 麌
戀惜す、なしむ、またふ。

婠 ワン。一丸切 寒
品性好し、よし。

婠 クワン、クヲン。古玩切 翰
アツ、エチ。烏八切 ゲチ。乎刮切 黠
好き貌にいふ字、みめよし、かほよし、
よし。

婆 テン。丑廉切 豏 ―センシ。詩廉切 豏
喜び笑ふ貌にいふ字、わらふ、（鈴）。

婇 ライ。郎才切 灰
女の字（あざな）。

婇 ライ。落蓋切 泰
好き貌にいふ字、かほよし、よし。

婢 ヒ、ビ。部弭切 紙
人にめしつかはるゝいやしき女子、な
んなまもべ、こしもと、ばしため、又、
女子の己れをいやしめていふ稱。
○（前二）「稱賤問し奴婢賞」同」。

（客婢）賓客ありて客に婢はれてはしためとなりたる
女。○（漢）「客婢設入錦―」以觀女劇」。
（鬼婢）小さき鬼。
（仙婢）（仙）蘭仙花の別名、金蘭花。
（侍婢）附屬ひの女。○（顧氏家訓）「不如―」
之指揮」。
（奴婢）男女のこもべ。○（魏）「命官調―、各一」。
（侍婢）こしもとの女。○（魏）「陵―、數十」。
（乳婢）前妻同ヒ。○（北）「準后―、―也」。
（乳婢）乳母のこ。○（魏）「調―、―一人、數一百
石、準絲即十匹」。
（義婢）食物を貴たきするはしため。○（荀氏大）「―
人先レ嫁三一月、教以二―德―言
―容―功」。

婢 ゲン。魚變切 霰
㊀前條に同ト。
㊁鮮明なるこ、あざやか（―・鏡）。

媊 キヤク、カク。迄約切 藥
解悟せざる貌にいふ字、くらし、おろか
（―所）。

婪 ラン、ロン。盧含切 覃
むさぼる、（貪）。○（韓愈）「章執、誼性
貪―、貪―、貪賊」。

婪 ラン、ロン。盧感切 感
謹まず、みだりなり。

媌 コン。公渾切 元
女の字（あざな）。

媌 コン。戶袞切 阮
おほふ、（蓋）。○（通鑑）「人々以二荷葉一
裹レ飯、―以二鴨・肉數・臠」。

媚 セキ、シヤク。先的切 錫
女の名。

媚 イン。餘針切 侵
たのしむ、（逸）、たはむる、（戲）又、淫に通
ト用ふ。○（家語）「作二―聲」。

姬 ア。依嫁切 禡
己れと同ト、其の家の壻たる者、即ち、
己が妻の姉妹の夫、あひむこ、壻ト、
親戚、みうちの義。○（唐）「宰相楊
國・忠支―、所在橫・奢」。

媛 ガン。魚肝切 翰
兎の子。

媛 ガン。芳萬切 願
前條の㊁と㊂と㊃とに同ト。

媜 セイ、シヤウ。績嶺切 梗 ―杳盈切 庚
前條の㊁と㊂と㊃とに同ト。

媜 セイ、シヤウ。疾郢切 梗
前條の㊁と㊂と㊃とに同ト。

媜 セイ、シヤウ。疾政切 敬
㊀女たをし（貞）。
㊁疎しみて立つ、たつ。
㊂才あり品あり、けだかし、すぐれた
り。
㊃すこやかなる貌にいふ字、つよし、
㊄纖弱の貌にいふ字、かよわし、よわ
し、たをやか。○（張衡）「舒―眇―之
纖腰」。

媜 セイ、シヤウ。疾郢切 梗
㊀たみなの（容容の容態したるにいふ
字、とゝのふ。

媄 ゲン。魚變切 霰
㊀前條に同ト。
㊁鮮明なるこ、あざやか（―・鏡）。

媊 キヤク、カク。迄約切 藥
解悟せざる貌にいふ字、くらし、おろか
（―所）。

婪 ラン、ロン。盧含切 覃
むさぼる、（貪）。○（韓愈）「章執、誼性
貪―、貪―、貪賊」。

婪 ラン、ロン。盧感切 感
謹まず、みだりなり。

媌 コン。公渾切 元
女の字（あざな）。

媌 コン。戶袞切 阮
おほふ、（蓋）。○（通鑑）「人々以二荷葉一
裹レ飯、―以二鴨・肉數・臠」。

媚 セキ、シヤク。先的切 錫
女の名。

媚 イン。餘針切 侵
たのしむ、（逸）、たはむる、（戲）又、淫に通
ト用ふ。○（家語）「作二―聲」。

姬 ア。依嫁切 禡
己れと同ト、其の家の壻たる者、即ち、
己が妻の姉妹の夫、あひむこ、壻ト、
親戚、みうちの義。○（唐）「宰相楊
國・忠支―、所在橫・奢」。

（細記）あひむこ、又、みうち。○（聽）項々―、則無―時仕。
（飛記）前に同じ。○（後漢）「鬼人―、使―地天」
（綱記）綱組みしてみうちとなる。○（書）「欲尚―、―、」。
（宗記）一家みうち。○（書）「―、―宜まず」。

娃 リク、ロク。力竹切 屋
女の字（あざな）。

嫵 テン。多珍切 銑
女の名。

婧 セキ、シャク。思積切 陌
女の字（あざな）。

九畫

婷 姪又は嫦に同ト、美好なる貌にいふ字、うつくし、みめよし。○杜甫「書年不レ嫁憐―嫦―」。

婸 ダウ、ダク。徒朗切 巧 ―刷に、婥に作る。
一ほしいまゝ、放。
二みだりなり、又、あそびたはぶる、（淫）。
三われ（我）。○（漢）「奇子人自稱曰レ―」。
（阿嬌）われ。○（漢書）「巴漢之人、自呼――」。

婐 ヤウ 余章切 陽
女の字（あざな）。

婐 シウ、ジュ。即就切 宥
一醜き老嫗の貌にいふ字、みにくし。
二婥に同ト、よし。

敵 シュク、ソク。七六切 屋
前條の二に同ト。

嫂 エウ。烏皎切 篠
弱き貌にいふ字、よわし、かよわし。

嫂 ブ、ム。亡遇切 遇
蘇はず、さかふ。

嫂 ボウ、ムム。迷浮切 尤 ボク、モク。莫木切 屋
美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

嫋 ダン、ナン。奴紺切 勘
一美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。
二小しく肥ゆ、こゆ。

嫂 サウ、ソウ。蘇老切 皓
兄の妻の稱、あによめ。○（後漢）「接敬コ事寡―、不レ冠不レ入レ廬」。
（丘嫂）あにより、長嫂に同じ。○（國）「時々嫂取事無―、―食」。

婼 ジャク、昌約切 藥 ジャク。切 藥 ニャク。切 麻
順はず、さかふ。

婼 ジ、ニ。如萬切 支
一羌は國の名。

嫵 テン。追萬切 願
配耦、つれあひ、抱―。

嫵 ベン、メン。亡辨切 銑
娩に同ト。

婚 婚に同ト。

婽 カ、ケ。吉馬切 馬
好き貌にいふ字、よし、みめよし、かほよし。

媿 ダイ、エ。烏回切 灰
女の字（あざな）。

媿 ダイ、エ。鄙賄切 賄
かほよし、うつくし、（一綏）。

媮 ユ。羊朱切 虞 ―愉に通ト用ふ。
一まゝにまかす、ほしいまゝにふ。（靡）。○（宋）「大・臣推・詭・小・臣荷―」。
二うすし、（薄）。○（左）「晉未レ可―也」。
三ぬすむ、（偷）。○（扁平）「膳レ從レ俗富・貴以―生乎」。
四愉に通ト用ふ、たのしむ（樂）。○（呂氏春秋）「齊威王鼓レ瑟・騶忌子曰、擢而深・醇而―者政令也」。

媮 トウ、託侯切 尤 ―愉に通じ用ふ。
一前條の一に同ト。○（賈山至言）「―合取レ容」。
二前條の二に同ト。○（國）「―レ居幸」。
三巧黠なり、かしこし、わるがしこし。○（左）「齊・君之諂―」。

婿 壻に同ト。

媧 ケ、ゲ。元俱切 虞 （語口切 有）
ギョウ、ゴウ。魚容切 冬
女の字（あざな）。

媧 ケ、ゲ。元具切 遇
女の男を娶むにいふ字、れたむ、それむ。

媞 井。於非切 微
一美しく盛なる貌にいふ字、立派なり、うつくし。
二悅ばざる貌にいふ字、よろこばず。

媞 井。羽鬼切 尾
前條の一に同ト。

媞 テイ、ダイ。田黎切 齊
女の字（あざな）。

媞 テイ、ダイ。丁計切 霽
一閨室の神の名、かはやのかみ。
二女の貌にいふ字、たをやか。

嬰 エイ。餘制切 セイ。征例切 霽
婦人胎を病む、みごもりやむ。

媃 ジウ、ニュ。而由切 尤
一女の名。
二女の媚ぶる貌にいふ字、なまめく、こ―ぶ。

媄 ビ、ミ。無鄙切 紙
色好し、よし、かほよし、うつくし。

嬈 ダウ、ノウ。乃老切 皓
惱嬈・惱に通ト作る、恨痛する所あり、うらむ、いたむ、なやむ、わづらふ。

嫄 ドン、ノン。奴困切 願
嬾に同ト、少くして好き貌にいふ字、わかし、かほよし、よわし。

嫄 セン、チン。乳寒切 銑
好き貌にいふ字、よし、みめよし、うつくし。

嫺 キ。吁章切 （コン、吾昆切 元）
女の字（あざな）。

媛 チク。烏谷切 屋
かほよし、よし（好）。

媛 アク、オク。乙角切 覺
前條に同ト、一說に、かたちづくる、かたち（容）。

嫺 セン、ゼン。才先切 先 子淺切 銑
シ、ジ。津私切 支
女―は星の名。○（星經）「太白上公妻女―」。

嬉 シュン、スン。樞倫切 眞
一女の字（あざな）。
二女の美なるにいふ字、うつくし。

媌 ハウ、メウ。莫交切 肴 莫飽切 巧
眉敎切 （ボク、モク。謨沐切 屋 ―嫵に同ト。）
一目の裏好し、めもとよし、美好なり、みめよし、うるはし。○（列）「娥―靡・曼者」。
二うかれめ、あそびめ、妓女。○（方言）「註―國・人謂―妓女―爲レ―」。

媌 セイ、シャウ。所景切 梗
（ちらす、へる（減）、）

嬪 婦に同ト。

嬪 タン。多官切 寒
女の字（あざな）。

媒 バイ、マイ。莫杯切 灰
一なかだち。
（い）男と女との間に立ちて嫁娶の約をとりもつ者。○（禮）「男・女無レ―不レ交」。
（ろ）兩者の間をとりもちて關係ある生ぜしむる者、介者。○（韓愈）「以二石・生爲レ―」。
（は）ある物事を誘致する物事の稱。（鳥のをとりなどにもいふ。）○（文中子）「見・春而喜者佞之―也」。
二酒の醉もと。○（漢）「―二驥其短」。
（眞德）よきなかだち。○（詩）「匪我思・期、子無―」。
（閑居）ひまのなかだち。○（林逋）「一丘松竹是―」。
（睡餘）ねむけのなかだち。○（殷敬）「書・卷繼閑作―」。
（懷古）ものゝきなかだち。○（陸游）「多病作―」。
（行路）なかうど。○（聽）「男・女非有―、不」相知名」。

媒 ハイ、マイ。莫佩切 隊
一くらし（昧）。○（莊）「―、晦・々、無心而不レ可レ興謀」。
二むさぼる（貪）。

媒 ボウ、モウ。彌登切 蒸
前條の一に同ト。

媔 ベン、メン。彌兗切 先
目の美しき貌にいふ字、めもとうつくし、うるはし。○（楚辭）「青・色直眉美・目―只」。

媔 ベン、メン。彌兗切 銑
れたむ（所）。

媓 クワウ、ワウ。胡光切 陽
はゝ（母）。○（揚雄）「南・楚母謂二之―一」。

媿 コク、ク。乞得切 職
老女の卑賤なる者。

媠 ケイ、カイ。堅奚切 齊
女の字（あざな）。

媠 エン。衣檢切 琰
女の思ふ心あるやう見ゆるにいふ字、ほたふ。

媠 アン、オン。烏含切 覃
決ぜず、さだまらず。○（韓愈）「旺・肯驚激徒―壓」。

媠 アン、オン。烏合切 合
女の字（あざな）。

媖 エイ、ヤウ。於驚切 庚 ―英に通ト作る。
女の美稱。

媗 ケン、クワン。許元切 元
火遠切 阮 セン、セン。荷緣切 先
女の字（あざな）。

嬖 カン、ゲン。下斬切 豏
健かなる貌にいふ字、すこやか、つよし。

嬉 カイ、ケイ。居謂切 往
女の字（あざな）。

嫩 井。於非切 微
美しき女の貌にいふ字、うつくし、かほよし、みめよし、たをやか。

媚 ビ、ミ。明秘切 寘
一こぶ。
（い）他を悅ばす、他の意向を迎ふ、他に追從す、へつらふ（諂）。○（後漢）「多用二佞―」。
（ろ）艷を帶ぶ、うつくしき色を含む、みめよき姿を爲す、なまめく、いろめく。○（宣和畫譜）「喜爲二古衣・冠一、多作二貧・野不―之狀」。
二親しみ從ふ、ほたがふ（順）、いつくしむ（愛）。○（詩）「―茲一人」。
三悅ぶ可し、愛す可し、あいらし、うつくし、みめよし。○（吳）「自恨二疏・節骨・體不レ―」。

㊀魅に通ト用ふ。○〔列〕「鬼―不レ能レ欺」。

〔説文〕こゝ。○〔急〕「――」取と欲。
〔玉篇〕あひるも又なまめく。○〔急篇〕「部冶―」。
〔廣韻〕こゝ。○〔楚辭〕「卓―」以自娛。
〔孔傳〕狐のよく人を惑はすより人の巧みにこび媚を惑はすに比す。○〔荀〕「故―他孫臣事齊」「―以服天下」。
〔玉篇〕またしみいつくしむ。○〔國〕「以求―」。
〔玉篇〕いれたたしむ。○〔後漢〕「以求―」。
〔字彙〕なれたたしむ。○〔後漢〕「諸歌大雅以求―」。
「酒」水。
〔廣韻〕前に同じ。○〔杜〕「―山曲徐以水」。
〔說文〕こびへつらふ。○〔杜〕「―山百仞」。
〔廣韻〕前に同じ。○〔後漢〕「諸山百仞」。
〔曲禮〕媚が鬼を祀ひてしるも。○〔史〕「以」。
王女右、神宗敵北平餘慕間」。
〔玉篇〕前に同じ。○〔後〕「以」。
〔廣韻〕前に同じ。○〔後〕「自」。
〔玉篇〕うつくしなまめく。○〔列仙傳〕「春景」。
「軍力」。
〔廣韻〕あざやかにしてうつくし。○〔後漢書〕「―」。
〔廣韻〕前に同じ。○〔劉歆傳〕「卿水」。
〔玉篇〕やはらかにしてなまめく。○〔宜和畫譜〕「後非」。
〔玉篇〕前に同じ。○〔宜和畫譜〕「後非」。
〔廣韻〕うつくしなまめく。○〔王僧〕「嬰」。
〔廣韻〕前に同じ。○〔晉書〕「耳存」。

媛 エン。雨元切 元

〔玉篇〕前に同じ。○〔張協〕「花明―」。
〔廣韻〕うたひめ。○〔沈約〕「鄭曲數―」。
奉引の貌にいふ字、ひく。○〔楚辭〕「心嫜―而傷懷兮」。

媄 コウ、ク。胡溝切 尤

女の字（あざな）。

媄 ヘン、ベン。房連切 先

美しき貌にいふ字、うつくし。

嫋 ソウ、ス。祖叢切 東

女の字（あざな）。

媜 テイ、チヤウ。知盈切 庚

女の字（あざな）。

嬉 アン、ガン。烏含切 覃

女の志淨からざるにいふ字、汚れたり、きたなし、俗に物の淨からざるにいふ語。「―嬾」。

嬃 シウ、シユ。雌由切 尤

女の字（あざな）。

媞 テイ、田黎切 齊 シ。常支切 支

㊀うつくし、〔美好〕。○〔東方朔〕「四・施―」而不レ得レ見」。
㊁やすし、〔安〕。○〔張九齡〕「相顧幸―」。

媞 シ、ジ。承紙切 紙

㊀つまびらかなり、諦。㊁妍黠なり、かしこし、わるがしこし。㊂江淮の間の語にて、はゝ〔母〕。

媞 テイ、ダイ。待禮切 霽

はまうど草の子、かうぶし。○〔夏小正〕「―也者其實也」。

媞 ダイ、得懈切 霽 タ。陟嫁切 禡

あなどる、〔侮〕。○〔揚雄〕「蛟―欺蟆」。

嫳 クワイ、ケ。空媧切 佳

美しき貌にいふ字、うつくし〔跨―〕。

媟 セツ、セチ。私列切 屑

古は〔褻〕、〔誓〕、〔淺〕も通ト用ひたり。
憚らず、あなどる、〔慢〕、あなどりて交はるなる、〔狎〕、なれて禮を亂る、けがす、〔瀆〕、又、あなどりを受くけがる。○〔班固〕「應龍〔酒〕於漢・汗」、魚〔褻〕レ」。

〔玉篇〕さかもりをして醉れ惑はざるを、禮にかゝはらぬさかもり。○〔左〕「宮―」。
〔玉篇〕まとはる。○〔晉〕「宋名人、臣、―」。
〔廣韻〕なれたはれる。○〔晉〕「善有―之貴、
〔淮南〕「上賜」。
〔淮南〕みだりにしてけがらはしきこと。○〔史〕「各誅
市井―」。
〔廣韻〕たはれはけがらせ。○〔晉〕「―」。
〔廣韻〕あなどる。○〔晉〕「―」。
〔玉篇〕いやしくけがる。○〔後漢書〕「庁今―」。
〔玉篇〕「―」。

媟 タ。吐火切 ダ、ナ。努果切 哿

ダ、ダ。徒臥切 箇

媚 ヒ、ミ。母鄙切 紙

美に同ト、よし、うつくし、又、其のもの、美女、少女。○〔周・韓・人軸有三・理一者、以爲レ―也」。

嫩 ヒ、ミ。母鄙切 紙

女の貌にいふ字。

嫩 ヒ、ミ。母鄙切 紙

女の貌、ふり。

媲 ヘイ、ヒ。匹計切 霽 ヒ。匹賜切 寘

あふ（配）。

媲 ヘイ、ハイ。邊迷切 齊

小き貌にいふ字、ちひさし、〔蒙―〕。

媲 ヒ、ビ。頻脂切 支

女の字（あざな）。

嫠 キタ、モク。莫木切 屋

美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

媳 セキ、シヤク。思積切 屋 息に通ト作る。

子の婦、よめ。

嫺 シウ、シユ。測救切 宥

㊀好き貌にいふ字、よし、みめよし。
㊁像に同ト、はらむ。

嬉 キク、ギク。許竹切 チク。敕六切 屋

なまめく、こぶ、〔卿〕。

嫵 エウ。餘招切 蕭

㊀背を曲げて行く貌にいふ字、かゞま。
㊁たはむる、〔戲〕。「りゆく。
㊂美好なり、うつくし。

嫷 ベイ、メイ。彌計切 霽

はゝ、〔母〕、〔奚〕の俗言。

嫐 イ。於避切 寘 ス井、時制切 霽

悅ばず、いかる、ふづくむ。

嫐 エフ。益涉切 葉

女の態、ふり。

嫇 ヘイ、ヒ。匹計切 霽 ヒ。匹賜切 寘

あふ（配）。

嫇 ヘイ、ハイ。邊迷切 齊

小き貌にいふ字、ちひさし、〔蒙―〕。

嫇 ヒ、ビ。頻脂切 支

女の字（あざな）。

嫠 キタ、モク。莫木切 屋

美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

嫠 セキ、シヤク。思積切 屋 息に通ト作る。

子の婦、よめ。

嫁 エン、チン。于元切 元

女の名。

媦 ヨウ。以證切 徑 月に從ふ、月は從ふにあらず。

㊀おくる。
〔い嫁する女子に從ひ行かしむ、〔古昔支那にて、王侯の女の嫁するときは、其の同姓の諸侯より女子をまたがへ行かしむる禮制なりき〕。
○〔左〕「以」秦穆・姬」。
〔ろ重れて一媵を酌む。○〔儀〕「主・人」」媵子實」。
〔は〕みおくる、〔送〕。○〔楚辭〕「―寄也」。
〔に〕よす、〔寄〕。○〔揚雄〕「―寄也」。
㊁嫁に從ひ來たりたる女、こしもと、侍女、又、そばめ、側室。○〔韓〕「從・衣レ女之一七十人一至レ晉」。
〔や〕そばめ。○〔後漢〕「今―」。「後」。
〔廣韻〕前に同じ。○〔後漢〕「今・中宮博・―」。
〔廣韻〕前に同じ。○〔後漢〕「今・中宮博・―」。
〔玉篇〕前に同じ。○〔北〕「當一幸―」。
〔後漢〕「室養―」。
〔後漢〕「室養―」。
〔後漢〕「愛愛の―」。○〔鮑照〕「命・樓門・以留―」。

嫁 ヨウ。以證切 徑

女の名。

嫄 フク、ボク。房六切 屋

女の字（あざな）。

嫄 テツ、テチ。他結切 屑

食り食ふ、むさぼる。

嫄 ダイ、ナイ。乃帶切 泰

女の名。

婿 シク、ソク。子六切 屋

かほよし、よし、〔好〕。

嫄 イウ、ウ。以九切 有

みにくし、〔醜〕。

嫄 ケイ、研計切 デイ。ガイ。女世切 霽

ふつけうば、うば、〔婆〕。

嫄 ス。仕于切 虞

㊀やもめ（〔寡婦〕）。○〔清河王誄〕「惠・子―」。
㊁女の名。

嫄 スウ、シユ。借尤切 尤

前條の㊁に同ト。

嫄 シユ、ス。逸遇切 遇

㊀性に用ふる字。
㊁妊娠するとはらむ。

嫄 シウ、シユ。雌由切 尤

女の字（あざな）。

嫄 ヘン、ベン。房連切 先

美しき貌にいふ字、うつくし。

嫄 ソウ、ス。祖叢切 東

女の字（あざな）。

嫄 テイ、チヤウ。知盈切 庚

女の字（あざな）。

嫄 アン、ガン。烏含切 覃

女の志淨からざるにいふ字、汚れたり、きたなし、俗に物の淨からざるにいふ語。「―嬾」。

嫄 シウ、シユ。雌由切 尤

女の字（あざな）。

嫄 テイ、田黎切 齊 シ。常支切 支

㊀うつくし、〔美好〕。○〔東方朔〕「四・施―」而不レ得レ見」。
㊁やすし、〔安〕。○〔張九齡〕「相顧幸―」。

嫄 シ、ジ。承紙切 紙

㊀つまびらかなり、諦。㊁妍黠なり、かしこし、わるがしこし。㊂江淮の間の語にて、はゝ〔母〕。

嫄 テイ、ダイ。待禮切 霽

はまうど草の子、かうぶし。○〔夏小正〕「―也者其實也」。

嫄 タイ、得懈切 霽 タ。陟嫁切 禡

あなどる、〔侮〕。○〔揚雄〕「蛟―欺蟆」。

嫄 クワイ、ケ。空媧切 佳

美しき貌にいふ字、うつくし〔跨―〕。

嫄 セツ、セチ。私列切 屑

古は〔褻〕、〔誓〕、〔淺〕も通ト用ひたり。
憚らず、あなどる、〔慢〕、あなどりて交はるなる、〔狎〕、なれて禮を亂る、けがす、〔瀆〕、又、あなどりを受くけがる。○〔班固〕「應龍〔酒〕於漢・汗」、魚〔褻〕レ」。

〔玉篇〕さかもりをして醉れ惑はざるを、禮にかゝはらぬさかもり。○〔左〕「宮―」。
〔玉篇〕まとはる。○〔晉〕「宋名人、臣、―」。
〔廣韻〕なれたはれる。○〔晉〕「善有―之貴、
〔淮南〕「上賜」。
〔淮南〕みだりにしてけがらはしきこと。○〔史〕「各誅
市井―」。
〔廣韻〕たはれはけがらせ。○〔晉〕「―」。
〔廣韻〕あなどる。○〔晉〕「―」。
〔玉篇〕いやしくけがる。○〔後漢書〕「庁今―」。
〔玉篇〕「―」。

嫄 タ。吐火切 ダ、ナ。努果切 哿

ダ、ダ。徒臥切 箇

嫄 ヒ、ミ。母鄙切 紙

美に同ト、よし、うつくし、又、其のもの、美女、少女。○〔周・韓・人軸有三・理一者、以爲レ―也」。

嫄 ヒ、ミ。母鄙切 紙

女の貌にいふ字。

嫄 ヒ、ミ。母鄙切 紙

女の貌、ふり。

嫄 ヘイ、ヒ。匹計切 霽 ヒ。匹賜切 寘

あふ（配）。

嫄 ヘイ、ハイ。邊迷切 齊

小き貌にいふ字、ちひさし、〔蒙―〕。

嫄 ヒ、ビ。頻脂切 支

女の字（あざな）。

嫄 キタ、モク。莫木切 屋

美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

嫄 セキ、シヤク。思積切 屋 息に通ト作る。

子の婦、よめ。

嫄 シ。赤之切 支 黃に作る。

みにくし、〔醜〕、みだりなり、〔淫〕、おろかなり、〔癡〕、おとる、〔劣〕。○〔陸機〕「研・―好・惡」。

嫄 ショウ、ニク。而蜀切 沃

おこたる、〔懈怠〕。

嫄 ショウ、ニユ。如容切 冬

美しき貌にいふ字、うつくし、〔妍―〕。

嫄 ヨウ、ニク。而蜀切 沃

おこたる、〔懈怠〕。

嫄 シ。赤之切 支 黃に作る。

みにくし、〔醜〕、みだりなり、〔淫〕、おろかなり、〔癡〕、おとる、〔劣〕。○〔陸機〕「研・―好・惡」。

嫄 ヨウ、ユ。於容切 冬

女の貌にいふ字。

嫄 リウ、ル。功求切 尤

女の字（あざな）。

嫄 ヨウ、ユ。於容切 冬

女の貌にいふ字。

嫄 ヒ、ミ。母鄙切 紙

美に同ト、よし、うつくし、又、其のもの、美女、少女。○〔周・韓・人軸有三・理一者、以爲レ―也」。

嫄 ハン、バン。薄官切 寒

㊀往き來する貌にいふ字、ゆき、かよ。
㊁婆に同ト、うば、ばゝ、老媼。
㊂おごる、〔奢〕。

嫄 ハン、バン。薄半切 翰

前條の㊁に同ト。

嫄 セツ、セチ。先結切 屑

小き貌にいふ字、ちひさし、又、さゝやか、〔瑣〕。

嫄 シ。霧夷切 支

なんなみこ、女巫。

嫄 コウ、ク。古送切 送

女の字（あざな）。

嫄 アウ、オウ。烏晧切 皓

老いたる女の稱ばゝ。○〔漢〕「高・祖常從三王―武・負一貫」酒、此兩・家・常折レ券棄レ責」。○〔史〕「―之愛・燕・后・寶」。
㊁母の別稱。○〔史〕「―之愛・燕・后・寶」。
㊂土地の神。○〔漢〕「―神菁・鑿」。

〔集韻〕老男と老女との稱、又、父と母との稱。○〔公〕〔乳母〕うば、乳母。○〔宋〕〔母主〕有ー…ー…。〔書經〕をッとなき老女。○〔史〕〔有ー…ー…〕雷一子以不孝告。〔詩經〕いつくしみある母。○〔梅堯臣〕〔梅詩〕「ー…ー…」。〔魏書〕あやしき術を爲す老女みこ。○〔他〕〔師巫

嫊 滅に同ト。
たつつく、ほろぶ。○〔老〕〔五・色使〕人目盲聾ー…ー…。

媽 ボ、モ。莫補切 麌
一はゝ、〔母〕。二めうま〔牝馬〕。

媐 タイ、デ。直皆切 佳
嬋嬋の貌にいふ字、こぶなまめく、〔娃〕ー…。

嫺 テン。知演切 銑
好き貌にいふ字、よし、かほよし、みめよし、〔ー…虹〕。

媼 オン。烏痕切 元
女の字、〔あざな〕。

婉 エン、チン。於眞切、元 紆順切、願
一やすし、〔宴ー…〕。二うつくしゝ〔ー…總〕。

媾 コウ、ク。古候切 宥
一かれてよりの姻戚とかされて嫁娶なをすも、かさなるえんぐみ、又、かさなるえんぐみの親戚、みうち。○〔國〕〔今將ー…婚ー…以從〕樂。
二寵愛す、親しむ、いつくしむ、またしと、いつくしみ。○〔詩〕〔彼其之子、不レ遂ー其ー…〕。
三交合す、男性と女性とさぐりなをす。○〔李白〕〔交ー…隣〕〔精・魄〕。
四和睦すると、怨敵の關係を止むると、よしみ、媾和。○〔史〕〔不レ如ヤ發ニ重ー使〕〔爲ヤ〕。

媾 エキ、ヤク。伊昔切 陌
女の字、〔あざな〕。

媿 キ。基位切 寘 ―醜の字、古は―に作れり。
愧に同ト、はづ、はづかしむ、はぢらふ、はぢはづかしめ。○〔漢〕〔世不レ知レ―故森・軒・浸・長〕。
〔小雅〕さゝやかなる女。○〔蜀・冠子〕〔扶ニ杖子〕
〔冠雅〕はなはだしきはなし。○〔後漢〕〔蔡・邕・待・詔・朝〕、豈不ー…ー…。
〔悲雅〕なげき歎ずること。○〔後漢〕〔天下今・皆・難・無〕

嫁 カ、ケ。古訝切 禡
女の字、〔あざな〕。

嫁 シン、ジン。慈鄰切 眞
一適きて人の妻となる、さつぐ。○〔禮〕〔女子二十而ー…〕。
二ゆく〔往〕。○〔列〕〔列・子・居〕〔郭・圃〕四十年、無識者、將レ―于衛〕。
三惡しき事を他に推し他をして其の難を受けしむ。○〔史〕〔是欲レ―〕〔嘲於趙〕也〕。

嫂 サウ、ソウ。蘇・老切 皓 ―嫁に同ト。
兄の妻、あによめ。○〔史〕〔臣聞平居〕家時、盜ニ其ー…〕。
〔丘雅〕長き年長けたるあによめ。○〔禮〕〔呼ニ・ヶ・興・寶・宗〕〔嫂・叔・其ー…ー…〕食。
〔家語〕己が家のあによめ。○〔禮〕〔ー…ー…〕〔嫂・叔〕。
〔幕雅〕あにたる兄のつま。○〔史〕〔舉・宗・給〕〔事〕

嫇 シン。之人切 眞
女の字、〔あざな〕。

嬉 妙に同ト、或は、俗字ならんともいふ。

嫄 ゲン、ゲウン。墨・袁 元 ギン。魚・倫 切 眞
周の祖先、棄の母の字。○〔詩〕〔赫・々・姜ー…〕。

嫉 サ。咨邪切 麻
女の字、〔あざな〕。

嫉 サ。想可切 哿
女の貌にいふ字、みめよし。

嫆 ヨウ、ユ。餘封切 冬
女の字、〔あざな〕。

嫇 ベイ、ミヤウ。莫經切 青
小心の態にいふ字、おぼこゝろ、うちは氣。

嫇 ベウ、ミヤウ。謨・耕切 庚
周の祖先、棄の母の字。○〔詩〕〔赫・々・姜ー…〕。

嫂 サウ、ソウ。蘇・老切 皓 ―嫁に同ト。
兄の妻、あによめ。○〔史〕〔臣聞平居〕家時、盜ニ其ー…〕。
〔丘雅〕長き年長けたるあによめ。○〔禮〕〔呼ニ・ヶ・興・寶・宗〕〔嫂・叔・其ー…ー…〕食。
〔家語〕己が家のあによめ。○〔禮〕〔ー…ー…〕〔嫂・叔〕。
〔幕雅〕あにたる兄のつま。○〔史〕〔舉・宗・給〕〔事〕

嫇 シン。之人切 眞
女の字、〔あざな〕。

嬉 妙に同ト、或は、俗字ならんともいふ。

嫄 ゲン、ゲウン。墨・袁 元 ギン。魚・倫 切 眞
周の祖先、棄の母の字。○〔詩〕〔赫・々・姜ー…〕。

嫉 サ。咨邪切 麻
女の字、〔あざな〕。

嫉 サ。想可切 哿
女の貌にいふ字、みめよし。

嫆 ヨウ、ユ。餘封切 冬
女の字、〔あざな〕。

嫇 ベイ、ミヤウ。莫經切 青
小心の態にいふ字、おぼこゝろ、うちは氣。

嫇 ベウ、ミヤウ。謨・耕切 庚
一婁ーは、こむすめ、幼嬪。○〔韓愈〕〔彩・伴・孤・婁ー…〕。
二明淨の貌にいふ字、あきらか、又、きよし。○〔王逸〕〔舊・芷・彭・兮・婁ー…〕。
三小人の貌にいふ字。

嫇 ベイ、ミヤウ。莫經切 迴
自から持つ、もつ、一說に、面の平かなる貌にいふ字、又、ひらがほ。

嫇 アウ、ヤウ。烏・皇切 庚
一青の韻の嫇に同ト。
二庚の韻の嫇の一に同ト。
三よし、みめよし、かほよし、〔好〕。
四下里の婦人の貌にいふ字、いやしゝみ〔にくし〔婁ー…〕〕。
五女の名。

嫈 エイ、ヤウ。娟・營切 庚 ケイ、キヤウ。
元・扃切 青 ヨウ、アウ。於・郎切 陽
一よし、〔好〕。二すがたふり、態。

嫈 ケイ、火・盤 エイ、ヤウ。切 耕 於・丁 切 青
一前條に同ト。
二婦人の清潔なる貌にいふ字、きよし、

嫈 エイ、ヤウ。榮・定切 徑
一嫈ーは國の名。

嫉 シツ、秦悉 質 シ。疾二 切 寘
又、姹に作る、疾に通ト作り、或は、候と癒とにも作るとあり。
他のすぐれたるを害とす、うらやみて憎む、うらむ、にくむ、それむ、れたむ、そこなふ、うらみ、にくみ、それみ、れたみ。○〔史〕〔無ー賢不・肖ニ、入レ朝〕

〔孫子雜〕孟の田にて國をなはそ孟を捨ておけば、ふかと人のうたがひ半樹の下にて冠を正せば手を返るにはあらぬかと人のあやしみとの譬〔よりともすればうたがひのやすく起こる義に信りいふ語〕。○〔書〕〔ー…ー…之ー何以戶曉〕。

嫋 ケイ、ガイ。胡計切 霽
一おづ、怯。二れたむ、妬。

嫌 ケン、ゲン。賢・兼切 鹽 ―或は、慊に作るとあり。
一きらふ
〔ろ〕心に平かならず、滿足せず、あきたらず、こゝろよからず。○〔唐丈夫意・氣相期勿ニ以小ー…介ヤ意〕。
〔ろ〕惡む、忌む、憚る、恨む、又、にくみ、うらみ。○〔管〕〔睚・眦之ー…〕〔瞋・加ー…〕刑殺〕。
〔は〕度外に置く、愛情隔たる、うさんす、疎〕又、情厚からず、うすし。○〔禮〕〔示ニ民不ニ一也〕。
〔に〕うたがふ、又、うたがひ、〔疑〕。○〔禮〕〔禮者、所ニ以定ニ親・疎ー決ヤ一ー疑也〕。
二區分定かならず、うたがひ起こり易し、まぎらはし。○〔禮〕〔禮不レ譯〕ー名〕。

〔韻會〕そしりにくまる。○〔後漢〕〔宿・夜・度・數ー…〕。
〔時雜〕さけきらふ。○〔公羊〕〔此其言・我・何ー…〕。
〔孫雜〕きらふ、うとんず。○〔後漢〕〔滿・至ー…〕。
〔公雜〕うらみにくむ。○〔後漢〕〔獄・吏・詩・口・謗〕。
〔後雜〕そねみきらふ。○〔史〕〔無ー所ー…〕〔不ニ忘ー…〕。
〔性雜〕にくみきらふ。○〔韻會〕〔高・內・頗・入・我ー…〕。
〔宋雜〕きらふ。○〔後〕〔豈可・爲・以ー…〕〔嫌・早〕。
〔書雜〕あたゝうらみ。○〔書〕〔臣・當・知・後・伸・本〕〔新ー…〕。
〔詩雜〕いつゝかなるきらひ。○〔何・承・天〕〔ー…ー…〕〔嫌〕。
〔孫雜〕すこしばかりなるきらひ。○〔後漢〕〔臣之〕〔嫌・疑・未・無〕ー…之ー…〕。

嫂 ケイ、ガイ。弦雞切 齊 ―奚に通ト作る。
なんなまもべ、〔女隸〕。○〔楊穀〕〔掃去千・迴・顧〕〔老ー…〕。

嬪 ヘウ。擦・沼切 篠
匹妙切 嘯 又、假に作る。
一かろし、〔輕〕。
二邪淫なり、みだりがはし。○〔漢・廣王望・鄉・歌〕〔背・尊・章ー…以忽〕。

嫖 ヘウ。卑遙切 蕭
女の字、〔あざな〕。

嫗 ウ、チ。衣・遇切 遇
一はゝ、〔母〕。○〔漢〕〔延・年兄・弟五・人皆大官、母・號・萬・石ー…〕。
二なみな、〔女〕。○〔南〕〔從ニ少ー…三・十・七・八ー…〕。
並著・絳・紫・羅・繡・袿・襦ー…年皆可ニ十・七・八ー…〕。
三年老いたる女、はゝ。○〔古樂府〕〔願得三・神・箇・爲ニ・翁ー…〕。
〔老雜〕はゝ。○〔史〕〔後人來至・蛇所、有ー…ー…、夜哭曰、吾子白帝子也、化爲・蛇、當ニ・今者・殺・吾子・斬之〕。
〔乳雜〕うば。○〔古今・對・話〕〔蘇・蕙・曾・節・歌〕〔歸ー…〕。
〔幼雜〕はゝ。○〔北〕〔父・老・及ー…〕〔曾・孟・相・學・道〕〔ー…ー…〕。
〔經雜〕なかうどばゝ、ゆいあん。○〔傳・名〕〔母・親・師〕。

嫗 ウ、委羽切 麌 ヨ、切語 語
あたゝむ、〔煦〕。○〔禮〕〔煦ニ―覆・育・萬・物ー…〕。

嫗 コウ、ク。盧・侯切 尤
人の名、又、山の名。

嫘 ルキ。力・道切 支 力・鶯切 灰
人の姓。

嫖 ヘウ。擦・沼切 篠
匹妙切 嘯 又、假に作る。
一かろし、〔輕〕。
二邪淫なり、みだりがはし。○〔漢・廣王望・鄉・歌〕〔背・尊・章ー…以忽〕。

嫖 ヘウ。卑遙切 蕭
女の字、〔あざな〕。

嫗 ウ、チ。衣・遇切 遇
一はゝ、〔母〕。○〔漢〕〔延・年兄・弟五・人皆大官、母・號・萬・石ー…〕。
二なみな、〔女〕。○〔南〕〔從ニ少ー…三・十・七・八ー…〕。
並著・絳・紫・羅・繡・袿・襦ー…年皆可ニ十・七・八ー…〕。
三年老いたる女、はゝ。○〔古樂府〕〔願得三・神・箇・爲ニ・翁ー…〕。
〔老雜〕はゝ。○〔史〕〔後人來至・蛇所、有ー…ー…、夜哭曰、吾子白帝子也、化爲・蛇、當ニ・今者・殺・吾子・斬之〕。
〔乳雜〕うば。○〔古今・對・話〕〔蘇・蕙・曾・節・歌〕〔歸ー…〕。
〔幼雜〕はゝ。○〔北〕〔父・老・及ー…〕〔曾・孟・相・學・道〕〔ー…ー…〕。
〔經雜〕なかうどばゝ、ゆいあん。○〔傳・名〕〔母・親・師〕。

嫗 ウ、委羽切 麌 ヨ、切語 語
あたゝむ、〔煦〕。○〔禮〕〔煦ニ―覆・育・萬・物ー…〕。

嫗 コウ、ク。盧・侯切 尤
人の名、又、山の名。

嫘 ルキ。力・道切 支 力・鶯切 灰
人の姓。

〔孟雜〕みづしめ。○〔史〕〔ー…ー…〕。

嫩 ケイ、ガイ。胡計切 霽
一おづ、怯。二れたむ、妬。

嫌 ケン、ゲン。賢・兼切 鹽 ―或は、慊に作るとあり。
一きらふ
〔ろ〕心に平かならず、滿足せず、あきたらず、こゝろよからず。○〔唐丈夫意・氣相期勿ニ以小ー…介ヤ意〕。
〔ろ〕惡む、忌む、憚る、恨む、又、にくみ、うらみ。○〔管〕〔睚・眦之ー…〕〔瞋・加ー…〕刑殺〕。
〔は〕度外に置く、愛情隔たる、うさんす、疎〕又、情厚からず、うすし。○〔禮〕〔示ニ民不ニ一也〕。
〔に〕うたがふ、又、うたがひ、〔疑〕。○〔禮〕〔禮者、所ニ以定ニ親・疎ー決ヤ一ー疑也〕。
二區分定かならず、うたがひ起こり易し、まぎらはし。○〔禮〕〔禮不レ譯〕ー名〕。

〔韻會〕そしりにくまる。○〔後漢〕〔宿・夜・度・數ー…〕。
〔時雜〕さけきらふ。○〔公羊〕〔此其言・我・何ー…〕。
〔孫雜〕きらふ、うとんず。○〔後漢〕〔滿・至ー…〕。
〔公雜〕うらみにくむ。○〔後漢〕〔獄・吏・詩・口・謗〕。
〔後雜〕そねみきらふ。○〔史〕〔無ー所ー…〕〔不ニ忘ー…〕。
〔性雜〕にくみきらふ。○〔韻會〕〔高・內・頗・入・我ー…〕。
〔宋雜〕きらふ。○〔後〕〔豈可・爲・以ー…〕〔嫌・早〕。
〔書雜〕あたゝうらみ。○〔書〕〔臣・當・知・後・伸・本〕〔新ー…〕。
〔詩雜〕いつゝかなるきらひ。○〔何・承・天〕〔ー…ー…〕〔嫌〕。
〔孫雜〕すこしばかりなるきらひ。○〔後漢〕〔臣之〕〔嫌・疑・未・無〕ー…之ー…〕。

嫂 ケイ、ガイ。弦雞切 齊 ―奚に通ト作る。
なんなまもべ、〔女隸〕。○〔楊穀〕〔掃去千・迴・顧〕〔老ー…〕。

嬪 ヘウ。擦・沼切 篠
匹妙切 嘯 又、假に作る。
一かろし、〔輕〕。
二邪淫なり、みだりがはし。○〔漢・廣王望・鄉・歌〕〔背・尊・章ー…以忽〕。

嫖 ヘウ。卑遙切 蕭
女の字、〔あざな〕。

嫗 ウ、チ。衣・遇切 遇
一はゝ、〔母〕。○〔漢〕〔延・年兄・弟五・人皆大官、母・號・萬・石ー…〕。
二なみな、〔女〕。○〔南〕〔從ニ少ー…三・十・七・八ー…〕。
並著・絳・紫・羅・繡・袿・襦ー…年皆可ニ十・七・八ー…〕。
三年老いたる女、はゝ。○〔古樂府〕〔願得三・神・箇・爲ニ・翁ー…〕。
〔老雜〕はゝ。○〔史〕〔後人來至・蛇所、有ー…ー…、夜哭曰、吾子白帝子也、化爲・蛇、當ニ・今者・殺・吾子・斬之〕。
〔乳雜〕うば。○〔古今・對・話〕〔蘇・蕙・曾・節・歌〕〔歸ー…〕。
〔幼雜〕はゝ。○〔北〕〔父・老・及ー…〕〔曾・孟・相・學・道〕〔ー…ー…〕。
〔經雜〕なかうどばゝ、ゆいあん。○〔傳・名〕〔母・親・師〕。

嫗 ウ、委羽切 麌 ヨ、切語 語
あたゝむ、〔煦〕。○〔禮〕〔煦ニ―覆・育・萬・物ー…〕。

嫗 コウ、ク。盧・侯切 尤
人の名、又、山の名。

嫘 ルキ。力・道切 支 力・鶯切 灰
人の姓。

嫘 ルキ。力・道切 支 力・鶯切 灰
人の姓、又、山の名。

嫗 コウ、ク。盧・侯切 尤
人の名、又、山の名。

嫗 ウ、委羽切 麌 ヨ、切語 語
あたゝむ、〔煦〕。○〔禮〕〔煦ニ―覆・育・萬・物ー…〕。

嫗 コウ、ク。盧・侯切 尤
人の名、又、山の名。

嫘 ルキ。力・道切 支 力・鶯切 灰
人の姓。

嫗 ウ、委羽切 麌 ヨ、切語 語
あたゝむ、〔煦〕。○〔禮〕〔煦ニ―覆・育・萬・物ー…〕。

嫗 コウ、ク。盧・侯切 尤
人の名、又、山の名。

嫘 ルキ。力・道切 支 力・鶯切 灰
人の姓。

嫙 セン、セン。似宣切 先 好き貌にいふ字、よし、かほよし、みめよし。

嫙 セン、セン。隨戀切 霰 うつくし、うるはし（美）。

嫚 メン、マン。謨晏切 諫 ベン、メン。彌箭切 霰 別には、嫚に作る。
一見下ぐ（易しとす、あなどる）、侮。○（漢）「上―下暴則除・氣勝」。
二不敬な加ふ、いやしめ辱かす、けがす（汚）。○（漢）「單于貪レ書―呂太后」。
（曾樞）あなどる。○（左）「其言―…―於身神」。
（曾樞）けがす。○（左）「正・德以輔之、使無―」。
（宜樞）おごたる。○（漢）「後宮―…―也」。
（宜樞）前に同じ。○（漢）「後宮―…―」。
（諸樞）そしり傷る。○（文心雕龍）「―…―嫉妒」。

嫺 トウ、ツ。他東切 東 女の字（あざな）。

嬰 エイ、煙奚切 齊 イ。於夷切 支
一生れたばちの小兒、みどりご（親）。「し」
二みどりごの擊。
三婦人の愚き貌にいふ字、みにくし、あ
四一說に、この、これ（是）。

嬰 エイ、壹計切 霽 嬰に同じ。
またがふすなほ（順從）。

嫜 サウ、ソウ。財勞切 豪 かほよ、みめよし、よし（好）。

嫜 シヤウ。諸良切 陽 章に通ト作り、或は偉に作るとあり。
夫の父母、ちうと、ちうとめ。○（杜甫）「妾身未二分・明一何以羽二姑―一」。
（兒樞）夫の兄の稱、小ちうと。

嬢 カウ、コウ。丘岡切 陽
一女の字（あざな）。二やすし、安。

嫺 シヨウ、シユ。常容切 冬 女の字（あざな）。

嫺 チヨウ、チユ。疑凶切 冬

嫺 ヂヨク、チキ。呢力切 職
一前條に同ト。
二慊に通ト用ふ、ものうし。

嫺 サン、ソン。七感切 感 倉含切 覃
なる、（狎）、ちかづく（近）。

嫌 サフ、ソフ。七合切 合 むさぼる（婪）。

嫌 シン、ソン。疏簪切 侵 たはる、すぢ（淫）。

嫠 リ。陵之切 支 夫なき婦女の獨身者、やもめ。○（左）「一也何害」。
（曾樞）前に同じ。○（本草綱目）「紅藍花」―…―。
（曾樞）年ともて妻なき者をもとなき女子とのみ。
○（綱鑑）「左」「婦人和以事―…―」。
（諸言樞）年老いたるやもめ。○（論語）「鰥寡之民、―…―之」。

嫡 テキ、チヤク。丁歷切 錫 適に通ト作る。
一正當の妻、ほんさい、むかひめ（そばめに對して）。○（釋名）「妊・娣曰レ媵々承二事―一也」。
二ほんさいの腹に生まれて家督をつぐもの、諸子のうちにて首位に立つ者、嗣子、よつぎ。○（晉）「食以崇レ明レ統」。
（曾樞）ほんさい又、よつぎ。○（禮）「適・結于室、子宅」。
（宜樞）前に同じ。○（傳）「仲子非二魯・事公―…―」。
（宜樞）長子にして正妻の生み し者。○（傳）「身居―…―」。
（宜樞）「適・天・命所・謂」。
○（北）「改吹無・相・稱、以・訓―…―」。「後」。
（宜樞）前に同じ。○（北）「明―…―之意見・手天」。

嫡 タク、ヂヤク、ヂキ。竹益切 麻 「きらか。
一つゝしむ（慎）。
二審諦なる貌にいふ字、つまびらか、あ

嫡 サ、セ。勗加切 麻 女の字（あざな）。

嫡 ショ、ソ。七慮切 御 一れたむ（所）。二なまめく（婚）。

嫡 シユ、ス。遵遇切 遇 前條の二に同ト。

嫠 シ。姉宜切 支
一盆ちたる妻の貌にいふ字、こゆさか
二ほそごし（細腰）。「んなり。

嫠 ケン、ゲン。胡典切 銑 前條の二に同ト。

嫠 キ、ギ。均規切 支 前條に同ト、一說に婦人の審かに諦かなる貌にいふ字、あきらか。

嫠 キ。規恵切 霽 よし（好）。

嬌 エン。於乾切 先
一美しき貌にいふ字、うつくし、又、巧みに笑ふ態にいふ字。○（宋玉）「―…―然一笑」。
二つらなる（連）。○（揚雄）「有・周・氏之

嬌 ケン。虛延切 先
一好き貌にいふ字、みめよし、かほよ
二たけたかし、ながし（長）。「し」。

嬌 エン。於嬰切 霰 前條に同ト、又、人の名。

嬿 キン、ゴン。渠吝切 震
一女の字（あざな）。「し、よし。
二好き貌にいふ字、かほよし、みめよ

嬶 ヒツ、ヒチ。卑吉切 質 はし、母。

嫥 セン。朱遄切 先
一もッぱら（專）。○（淮）「提二聚陰陽、
二愛すべし、あいらし、かはゆらし。

嫥 タン、ダン。徒官切 寒 よし、うつくし（嬾）。

嫦 姮に同ト。

嬪 サク、刺略セキ、ジヤク。七迹切 陌 ジヤク。
一さしのふ（齊）。
二つゝしむ（謹）。
三鮮かにして好き貌にいふ字、あざや
四よしうつくし（嫁―）。

嫫 カン。虛干切 寒 慣に通ト作る。
一老嫗の貌にいふ字。二いかる、怒。

嫫 セン、チン。忍善切 銑 つゝしむ、又、うやまふ（敬）。

嫩 嫩に同じ、わかし、よし、やはらか。○（杜甫）「紅入二桃花一―」。
（記樞）こえてやはらかなり。○（禮・民要術）「黍・去
（宜樞）やはらか。○（國語・晉語）「羊舌―…―」。
（宜樞）かろくしてやはらか。○（王逸）「草・有―…―」。
（宜樞）やはらかなる。○（史・屈原）「故・脆―…―」。

嫩 ロク。盧谷切 屋 女の字（あざな）。

嫪 ラウ、ロウ。郎到切 號 慕ひ思ふ、心を寄す、またふ、こふ、戀、かなしむ、惜。○（陸龜蒙）「偶往心已―」。
（諸樞）こひまたふ又、北の人、特にあるそびらの情郎。
（諸樞）思ひまたふ。○（韓愈）「感・物・傷―…―」。

嫪 ラウ、ロウ。魯刀切 豪 れたむ（所）。

嫜 シユク、ソク。所六切 屋 春人無稽なるにいふ字、淫樂に耽る、たのしむ、ふけり。

嫖 ヒウ、ヘウ。普蔑切 屋 ―ッ、ヘチ。
一怒らしめ易し、又、いかる。

嫖 ガン、ゴン。五感切 感
一怒りを含む、ふくむ、ふづくむ。
二知り難し、ふかし。

嫖 ボ、モ。莫胡切 虞 本樣に作る。
大いに醜し、みにくし。○（易林）「―母街レ嫁媒不レ得レ坐」。

嫠 嫫の本字。○（楚辭）「―母姣而自好」。

嫉 シヤ。之奢切 麻 ショ、ソ。商署切 御 女の字（あざな）。

嫁 フ、ブ。馮無切 虞 女の字（あざな）。

嫁 コ、ク。胡誤切 遇 美好なり、うつくし、みめよし、よほよし、よし。○（漢）「來―並綽奇麗」。
（諸樞）こえてうつくし。○（資治）「眉・容―…―」。
（宜樞）うつくし。○（梅堯臣）「妖・青・蛾・鬱出―…―」。
（諸樞）前に同じ。○（陳造）「其・容・紅・自・得―…―」。

嫁 コ、ク。胡誤切 遇 省きて、婿に作る。
一婦に同ト。○（張衡）「四・施之徒・容・修―…―」。
二ほこる、おごる。○（漢）「郎以―鄙」。

嫠 ガウ、ゴウ。五到切 號 敖と傲さに通ト用ふ。
あなどる（侮易）。

嫩 前條に同ト。

嫡 ガン、ゴン。五感切 感
一怒りを含む、ふくむ、ふづくむ。
二知り難し、ふかし。

嫡 カン、ゴン。戶感切 感
一豐麗の貌にいふ字、うるはし、うつくし。○（韓詩外傳）「碩・大且―」。

嫡 アン、オン。鄔感切 感 ケン、ゲン。魚檢切 琰
惡しき性あし。

嫡 アン、オン。烏含切 覃 嫌に通ト作る
情を含む、他を思ふ心あり、おもふ。

嫡 エン。於鹽切 豔 衣檢切 琰 よし、うつくし（美）。

嫡 アン、オン。烏含切 覃 嫌に通ト作る
俗の嫌の字。

嫡 サン、ザン。財甘切 覃 女の名。

嫡 セン、セン。七豔切 豔
美しき貌にいふ字、うつくし（嬰―）。

嫺 嫺の本字。○（甘氏星經）「太・白・上・公妻曰二女―一」。

嫩 古文の嬰の字。○（汲冢周書）「將寅而大―、及中王・子子治上」。

十二畫

嬰 ヘツ、ヘチ。普蔑切 屑
一怒らしめ易し、又、いかる。

嬰 セウ、ゼウ。慈焦切 蕭 嫶、嫶、嫶、

嫷 嫷の本字。○〔漢〕「然被」輕。之名。

嬉 セン、セン。旨善切 銑
好みて人の言語を枝格す、さゝふ、ことばとがめす、一說に、惡みて耻を與ふにくむ、はづかしむ〔新〕。

嫺 バウ、メウ。莫交切 肴
美好の貌にいふ字、かほよし、うるはしう、つくし。

嫺 カン、戶閑切 刪 ゲン、胡田切 先
一〔部〕しからざると、驚がしからざると、ものしづか、みやびやか、ものなやか、ものやかし。○〔司馬相如〕「妖冶—都」。
二閒に通ト作る、熟達す、ならふ、習。○〔史〕「風原—」「于辭令」。
〔後漢〕やはらぎて靜かなると。○〔書〕「準止—」。
〔後漢〕うつくしくして靜かなると。○〔後漢文帝〕「好。—雅雀之—」。

嫺 シ。相支切 支
前條に同ト。

嬛 ハイ、マイ。莫佳切 佳
わるがしこし、ざかし、黠。

嫽 レウ。落蕭切 蕭
一女の字（あざな）。
二相戲る、たはぶる。

嫽 レウ。力小切 篠 力吊切 嘯
一前條の二に同ト。
二好き貌、よし、みめよし、かほよし。
三女の名。

嫽 ラウ、ロウ。盧皓切 晧
蝨に通ト用ふ、ばと。
〔後々〕母方のばゝ、外祖母、〔北人の言〕。

嬪 レン。靈年切 先
女の字（あざな）。

嬿 クヮク、ケヮク。胡爹切 麻
一靜かにして好し、みやびやか、ものなやか、うつくしよし。○〔嵇康〕「明—晾惠」。
二矜りて自ら恃む貌にいふ字、おごる、ほこる。○〔左思〕「風俗以—傲」。
三驕する貌にいふ字、かゝばしる。○〔馬融〕「徹—霍奕」。
四懼に同ト、もとろ、又、かたくな。
〔後漢〕たをやかなる、又、驕せ行く。○〔韓文〕「旺—」。—于「嬿」。

嬌 キ。居爲切 支
水の名、人の姓、又、州の名。

嬌 キ。居爲切 寘
たけくしてわるがしこし、（嫌疾）。

嬢 トウ、ツウ。都聊切 蕭
美女の貌にいふ字、うつくし、みめよし。

嬈 ショク、シキ。賈力切 職
女の字（あざな）。

嬝 シュ、ス。錫歛切 支
一女の字（あざな）。
二姉、あね、（楚人の言）。○〔屈平〕「女—之嬋媛」。

嬢 サイ、セ。祖外切 泰
女の字（あざな）。

嬉 イツ、イチ。益悉切 質
婦人の貌にいふ字、かよわし、うつくし。

嬖 エツ、於月切 ケツ、ケヮツ。居月切 月 チツ、チヲ。
一前條に同ト。二こゆ（一納）。

嬪 サン、ソン。祖含切 覃
女の字（あざな）。

嬪 サン、ソン。七感切 感
嬪に同ト、むさぼる（婪）。

嬶 クヮ、ケ。胡化切 禡
一女の名。
二女の容の俊麗なるにいふ字、うるはしく、つゝしみあり、親族。○〔劉向〕「惟楚懷之—連」。
〔說文〕うるはしき貌にいふ字。○〔梁簡文帝〕「輕。令夢之—」。

嬌 ケウ。舉喬切 蕭 舉夭切 篠
一媚びを含む、みめよき態を作す、こぶなまめく、又、なまめき、見ゆ、なまめかし、うつくし（妖嬈）。○〔盧照鄰〕「黃鶯一々向花—」。
二なまめかしき婦人、妖妾。○〔費昶〕「金屋貯—時」。
三むすめ（女兒）。○〔齊耕錄〕「關中以兒女爲阿—」。
四女の名、又、あざなに用ふる字。○〔漢武故事〕「若得阿—」當以金屋貯之」。
〔後漢〕酒の異名。○〔雜耕錄〕「名酒曰—」。
〔後漢〕鍋ゆるゝと。○〔王昌齡〕「—轉」。
前に。

嬖 シ。脂利切 寘 シヲ。之入切 緝
嬖に同ト、いたる（至）。

嬖 タ、ダ。徒果切 哿
一惰に同ト、おこたる。
二鳥の名、こふのとり（鷦鷯）。

十三畫

嬭 アウ、オウ。於到切 號
れたむ（妒）。

嬮 セン。思廉切 鹽
とし、はやしすみやか（敏疾）。○〔司馬相如〕「—侵溥而高縱分」。

嬮 ギン、ゴン。牛錦切 寢
頭を仰ぐ、あぐ、あふぐ、あふむく。

嬮 ゲン。魚檢切 琰
とゝのふ（齊）。

嬉 アイ、烏外切 泰 ヲツ、烏括切 曷
女の色黑きにいふ字、いろくろし。○〔揚雄〕「—可惡也」。

嬈 ケウ。吉弔切 嘯
人の名。

嬉 イ。於記切 寘
女の字（あざな）。

嬪 ハン、芳萬切 願 ヘン、ボン。切 元 フ、ホ。芳遇切 遇
婦に同ト。

嬖 セキ、シヤク。施隻切 陌
女の名。

嬖 ヘイ、博計切 霽 ヒ。卑義切 寘
一寵愛す、いつくしむ。○〔拾遺記〕「漢武帝深—李夫人」。
二いつくしみを受くる者、心に適ひたる者、きに入り愛女、寵士など。○〔左〕「知罃之父成公之—也」。
三官の名。○〔左〕「使從——大夫」。
〔外傳〕男子の氣に入りたるもの。○〔左〕「飲—」。
〔外傳〕宮中にての氣に入りの者、即ち、寵愛をうけ、をる婦人。○〔左〕「—如夫人」「有六人」。
〔後漢〕君に へつらひ事（てその心に適ふもの。○〔妖經〕あやしき氣に入りの者、即ち、其の者上り災の生ずる義。○〔國〕「因遊—」。
〔韓傳〕いつくしむ、又、氣に入りの者。○〔拾遺記〕「宮人—」者。

嬪 ヘン、ボン。切 元
婦に同ト。○〔史〕「五年之間號令三—」。

嬪 タン。他干切 寒 多旱切 旱
一ゆるし（緩）。
二こしもと、はしため（婢）。

嬪 セン、セン。上演切 銑
善に同ト、よし。

嬪 嬪に通ト用ふ。○〔實誼〕「形氣轉—變化而—」。

嬪 ス井、ズ井。徐醉切 寘 又、緣に作る。
女の字（あざな）。

嬪 ショ、ソ。子呂切 語
人の姓。

嬪 本、贏に作る。

嬪 シヤウ、ザウ。在良切 陽
婦人の官の名、又、官中に仕ふる女子、官女。○〔梁簡文帝〕「麗姬與妖—」。
〔後漢〕女官の稱、又、官女の義に借りいふ。○〔左〕「以備—」。〔家人之匠也〕。
〔後漢〕前妃同ト。○〔杜牧〕「阿—」。
〔記〕前妃同ト。○〔杜〕「宮人—」。
〔毛傳〕古の婦人の名、轉じて婦人の義に借りいふ。○〔莊〕「—」。
○〔莊〕「—」。
○〔莊〕「—」。

嬪 シヤウ、ジヤウ。徐羊切 陽
女の字（あざな）。

嬪 ジン。徐心切 侵
女の名。

嬪 キフ、コフ。許及切 緝
女の性の淨きにいふ字、きよし、いさぎよし。

嬪 クヮイ、胡對切 隊 ケ。クヮイ、苦怪切 卦
女の字（あざな）。

嬪 セウ、子ウ。如招切 蕭
妍嫺の貌にいふ字、かほよし、みめよし、うつくし、又、こぶなまめく。○〔杜甫〕「佳人應出董嬪—」。
〔妖經〕うつくし、又、なまめく。○〔後漢〕「新—」。

嬪 デウ、子ウ。奴鳥切 篠
一戲れ弄ぶ、たはぶる、もてあそぶ、又、みだる（擾）。○〔徐陵〕「類—似阿嬪」。
二苛酷なり、からし、わづらはし。○〔漢〕「除—背解」。
〔青囊〕かゝし、わづらはし。○〔書〕「—」之眞」。
〔後漢〕たはけ、又、みだる。○〔殺血經〕「方邪山」。

嬪 エウ。伊鳥切 篠
美しき貌にいふ字、うつくし、又、やはし（柔）よわし（弱）。○〔王褒〕「—以樂々」。

嬪 セウ、子ウ。裏聊切 嘯
心欲せずして、はすず、又、わづらはし（煩）。

嬪 ケウ。火弔切 嘯 ダウ、女教切 效 子ウ。切
あはれみなし、いつくしまず、不仁。

嬪 ラン。盧玩切 翰
一成に「嬪」の切、又、亂に通じ作る。
二わづらはし（煩）。
三髮に同ト、ずなほ、ものたがふ（順）。

嬉 キ。許其切 支
一たのしむ（樂）、あそぶ（遊）、たはぶる、戲。○〔史〕「爲兒—戲常陳俎豆」。
二うつくし、うるはし（美）。○〔韓愈〕「—娥—華蕩漾」。
〔水經〕水底舟をうかべてたのしむ、舟あそび。○〔通鑑〕「日御西巡、—」。
〔後漢〕遊び樂しむ。○〔方言〕「汙、—」。
〔後漢〕愛し戲る。○〔歐陽修〕「東路詩」「—」。
〔後漢〕樂しみ遊ぶ。○〔蘇軾〕「鼻—相」。
〔後漢〕美人のよ。○〔後漢〕「者」「—之大無」。
〔後漢〕あそび戲る。○〔後漢〕「汴南客—」。
〔後漢〕戲るゝこと。○〔王安石〕「風戲中—相」。
〔後漢〕ゆゝり遊ぶ。○〔陳鼎〕「遊中可—」。

嬉 キ。記已切 紙
一前條の一に同ト。○〔百居易〕「潭濃九折池、繁回十餘里、四月芰荷發、越王日遊—」。
二姿と顏とそろひて美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。
三女の名。

嬉 ユ。羊朱切 虞
前條の一に同ト。○〔劉楨〕「素秋二七天、漢指レ隅民、賓祓禊國、子水—」。

嬋 セン、ゼン。市連切 先
一色めきたる態あるにいふ字、うつくし、うるはし、又、たをやか。○〔孟浩然〕「花—娟沃」「春泉」。
二絲連らなる、つゞく、つながる、又、つ

嬖 キ。許委切 紙
一にくむ。〔愚〕。二人の貌にいふ字。

嫌 レン。力鹽切 鹽
一女の字。〔あざな〕。二清くして美なり。うるはし。

嫌 レン。力冉切 琰
女の名。

嬛 嬛に同ト。惸に通ト用ふ。○〔詩〕「—一在疚」。

嬛 ケン。許緣切 先
うるはし。〔麗〕。○〔司馬相如〕「—靚・粧刻・飾便—・綽・紆」。

嬰 ケイ、カイ。苦計切 霽
カイ、ケイ。口賣切 卦 ||| 戇に同ト、又、戇に作る。かたし。〔難〕。

嬰 カイ、ケ。口璽切 紙
こゝろなやむ。〔意難〕。

嬰 キン、コン。許金切 侵
いつくしむ。〔愛〕。

嬰 アン、オン。烏含切 カン、ガン
呼談切 タン、ダン。徒南切 覃
むさぼる。〔貪婪〕。

嬲 ヨウ。以證切 徑
挙に同ト、ばらむ。○〔揚雄〕「沈其腹、奸レ—惑レ衆」。

嬲 ヨウ。余陵切 蒸
嬲に同ト、ばへ。

嬝 嬝に同ト。
嬝に同ト。○〔揚雄〕「—人衆多」。

嬪 バン、マン。莫晏切 諫
人の姓。

十四畫

嬪 ダウ、ニヤウ。尼耕切 庚
女の劣りたる貌にいふ字、みにくし。一説に、女の態の舒徐なるにいふ字、ものうし、ゆるやか、おそやか。

嬪 デイ、ニヤウ。奠丁切 青
女の字〔あざな〕。

嬪 バ、マ。忙果切 哿
—は、俗の母の稱にいふ語。

嬪 俗の嬪の字。

嬪 嬪に同ト。

嬪 テウ、デウ。徒了切 篠
一直くして好き貌にいふ字、なほし、よし。二みだる。〔繞〕。三往き來する貌にいふ字、ゆきかふ。四蠻人の歌、えびすうた。—歌。

嬪 テウ、デウ。徒弔切 嘯
不仁なり、いつくしみなし、あはれまず。〔—繞〕。

嬪 テウ。他彫切 テウ、田聊切 テウ。切 蕭
一往き來する貌にいふ字、ゆきかふ。二ほそこし。〔細腰〕。

嬪 タク、ドク。直角切 覺
テキ、チヤク。他歷切 錫
かほよし、よし、みめよし。〔好〕。

嬪 チウ、陳留切 尤 シウ、承呪切 有 ジウ。切
女の字〔あざな〕。

嬪 ジン。在認切 軫
前條に同ト。

嬪 シ、ジ。牆之切 支
一前條に同ト。二女の性の寛かにして順なるにいふ字、ひろし、すなほ、ふとやか。

嬪 ヨ。以諸切 魚 演女切 語
前條の一に同ト。

嬪 ショ、ジョ。常恕切 御
前條の一に同ト。

嬪 ヒン、ビン。毗眞切 眞
前條に同ト。

嬪 一夫に配する女、つま、よめ、妻。○〔顏延之〕「嬪彼幽閒女、作レ君子室」。二つまと爲る、夫に就くまたがふ、服。○〔書〕「三子—虞」。三女官の名、轉ト下て、君王の左右にはべる女官女。○〔禮〕「三夫人、九—」。四女子の美稱、ひめ。○〔遺讓草華賦〕「攜二四子之弱腕一兮、援二毛—之素肘」。

五數多き貌にいふ字、おほし。○〔漢〕「—然成レ行」。

〔音義〕女官又、女子の敬稱。○〔史〕「進—一位」。〔記〕「—比六宮」。〔注〕「—一婦」。〔注〕「—一婦」。〔注〕「—一婦

嬉 トク、ドク。徒谷切 屋
狎れて不法なすよき名をつぶす、けがす。○〔國〕「不二亦一」姓矣乎」

嬪 シツ、シチ。職日切 質
女の字（あざな）。

嫪 リウ、ル。力久切 有
やもめ（鰥婦）。

嫪 リウ、ル。力救切 宥
なまめかし（妖）。

嫪 リウ、ル。力求切 尤
うつくし（美）。

嬙 牆に同ト。

嬛 嬛の本字。

十六畫

嬡 エン。余廉切 鹽
女の字（あざな）。

嬢 クヮイ、エ。乎乖切 佳
安和なり、やすし、やはらぐ。

嬾 ラン。洛旱切 旱
懶に同ト、おこたる、又、おこたり易し、ものうし。○〔蘇軾〕「羊・火對二―一殘」。

嬸 セウ。先彫切 蕭
女の字（あざな）。

嬿 エン。伊甸切 霰 ト燕に通ト用ふ。
うつくし（美）。○〔四京賦〕「從二―・婉二」。〔歌題〕よろこびたのしむ。○〔易・繫〕「樂是―・―」。〔樂題〕さかえてたのしむ。○〔孟子〕「生無―」。

嬿 エン。於殄切 銑
安順なり、やすし、こゝろよし、またがふ、たのし。

嬿 エン。因連切 先
女の字（あざな）。

嬴 俗の蠃の字。

嬉 俗の嘗の字。

十七畫

嬶 シヤク、サウ。色莊切 陽 色壯切 漾
夫に死に分かれたる婦女、夫なきもの、やもめ。○〔淮二〕「童子不レ孤・婦人不レ―」。〔歌題〕夫に死に別かれたるやもめ。○〔韓愈〕「記・以註・羅隱「―・・水人之類」。〔新題〕やもめ。○〔王逸〕「寡二于―」。

嬈 バン。乎萬切 願
つれあひ（匹耦）。

嬰 レイ、リヤウ。耶丁切 青
女の字（あざな）。

嬰 ビ、ミ。武移切 支 ベイ、メイ。蘇批切 齊
はゝ（母）。齊人の語。〔荀子〕「はゝ、○〔易〕「孚實・母日―」。

嬰 セン。息淺切 銑
女の字（あざな）。

嬪 俗の嫁の字。

嬪 ケウ。居夭切 蕭 キ。矩鎖切 尾 キウ、ク。苦糺切 有 テン。兼忝切 琰
身を竦む貌にいふ字、つゝしむ、なのゝく、おそる。

嬪 コク、ク。訖得切 職
つかぬ（束）。

嬪 俗の擊の字。

嬪 ジヤウ、ナウ。汝陽切 陽
汝兩切 ダウ、ナウ。奴當切 蕩
一煩擾なり、わづらはし、みだる。二肥太さなる、こゆ。

嬪 嫋に同ト。○〔古樂府〕「不レ聞耶―哭レ子聲」。

嬾 嬾に同ト。

嬾 セン。息廉切 鹽
一纖に通ト用ふ、鋭くして細し、ほそ〻し、ほそし。○〔漢〕「至―至悉」。二よわし、かよわし、たなやか。○〔司馬相如〕「嬾嬾―弱」。三巧みに佞ふ、へつらふ、おもねる。○〔史〕「公所謂賢者皆可羞、車疵而前―、趨而言」。

十八畫

嬾 サウ、ソウ。疎江切 江
女の字（あざな）。

嬾 イ。移尒切 紙
一おろかにしてみぶり多し、愚鈍多態。二北方の神の名。○〔王逸〕「回・遽兮北逝」。二種―「兮宴飲」。

嬾 イ。以水切 キ。尹捶切 紙
クヮイ、胡卦切 キ、呼悲切 ギ 羽委切 エ。ス非。山垂切 キ、ギ。蹦規切 支
一前條に同ト。二すぐ（過）。

嬾 ダフ、ノフ。呢洽切 洽
美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

嬾 嬾に同ト。

嬾 ダ。權俱切 虞
蠻嗣の歌、えびすうた。

嬾 ナウ、ウ。烏侯切 尤
巴人の歌、いやしきうた。

嬾 セン。止兗切 銑
女の名。

嬾 嬾に同ト。

十九畫

嬾 サン。則旰切 寒
白くして好し、かほよし、よし。

嬾 ラ。良何切 歌
女の字（あざな）。

嬾 ヒ、ミ。文彼切 紙
前條に同ト。
〔後漢〕「漢の時代の女官の名。

孋 リ。鄭知切 支
國の名、又、人の名。

孋 レイ、ライ。郎計切 霽
うつくし（美）。

孌 レン。力兗切 銑 力眷切 霰 別に孌、孌に作る。
一美好の貌にいふ字、うつくし、みめよし、よし。○〔詩〕「婉分―分」。二またがふ、〔從順〕、またふ、〔蠱〕。○〔詩〕「思二―季女一逝分」。〔論語〕かはよし、みめよし。○〔晉〕「音伯瑜之―」。「―一分」。〔孟子〕前に同ト、又、美人。○〔陳傳良〕「初不二―」。

孌 ラン。盧丸切 寒 バン、誤讀 ヤマン。切 刪
女の字（あざな）。

孌 孌に同ト。○〔漢郭亮碑〕「於―我君」。

二十畫

孋 ゲン、ゴン。魚枚切 灰
女の字（あざな）。

孋 ゲン。魚檢切 琰
おこそか、〔莊〕、又、まづか〔鄭〕。

孋 カ、ケ。苦加切 麻
女の姿態を作るにいふ字、かたちづくる〔盤―〕。

孋 ショク、ソク。朱欲切 沃
一女の謹み順ふ貌にいふ字、つゝしむ、又、まさやか。二女の字（あざな）。

孋 サク、ソク。測角切 竹角 覺
前條に同ト、一說に、よし（善）。

孋 孋に同ト。○〔後漢〕「其惰―者恥不レ致」。

廿一畫

孋 孋に同ト。

孋 孋に同ト。

廿三畫

子 シ。即里切 紙

子部

一なゝとの間に生まれて其の種族血統を嗣ぎ息やす者、こども、こ〔人より外の動物にもいふ。○〔左〕「愛レ―教レ之以二義方一」。二植物の果實種核、みだれ。○〔後趙錄〕「大如二櫟一」。三本より分かれたる部分。○〔後漢〕「廣レ身藏レ―」。四年未だ長ぜざる者、こども、むすこ、むすめ。○〔莊〕「肌膚如二冰・雪一、淖・約如二處―」。五主に男兒の通稱、なとこ、なのこ。○〔詩〕「招々舟―」。六人の敬稱。○〔詩〕「君―好逑」。七五等の爵の第四位にあたれるもの。○〔春秋〕「公會二杞侯莒―」、盟二于曲池一」。八物の名稱に附加して用ふる字。○〔王建〕「來中遣却金釵―」。九十二支の第一位、辰の名、正北の方、又、昔時の時刻にて今の午後十二時の稱。○〔晉〕「太歲在レ―日三困・敦」。十こまかくくはしく。○〔杜甫〕「醉把二茱萸一―細看」。十一愛みて己がこの如くにす、ことす。○〔中庸〕「―庶民」。十二生まるゝ、たれとなる、みのる。○〔種樹書〕「冬花夏―」。

（兒子）天子の略子。○（巻）「有王無小―」。（潤子）こども。○（巻）「―…其間」。（赤子）生まれ出で、間もなき、あかご。○（巻）「若保―」。（小子）（△）こども。○（巻）「論敎―」。（女子）門人。○（論）「吾黨之―」。（世）「史記の小傳を著す官の稱。○（周）「―…下士二人」、史二人、徒八人。（軍子）木・麥の類に生ずれる種類、即ち、父の路を承け職で有。○（左）「太・子・奉・軍・紀・此・從之・軍・皇、以明夕・視・台・勝・者・也・自」。（丈子）本・麥・類の種・種を除きて他のこと、一に、前子ともいふ。○（論）「―…不レ敏」。（論子）（△）前に同ト。○（周）「―…稱・太・子」。（名）其の人とも知かの人。○（孟）「―…稱・君」。「―」。（無名子）無・名・自」。（野子）野・中のひとみ。○（李・賀）「野・東・歌・風・射」。（嬰子）前に同ト。○（管）「―…馬・白・明・珠」。（晉子）己が兄弟のこと。○（論）「兄・弟之子」―」。（後子）（△）世・俗以下の者の自稱、又、他人の自稱に用ふ。○（左）「―…稱・君」。（虎子）（△）おとゝの親・愛語。○（西京雜記）「陳・朝以玉鎖―…」。（△）ともがこと。○（論）「不入・虎穴、不得―」。（鑑子）公・卿・大・夫の子・弟。○（周）「以三・命・敎―」。「八人」。（才子）智・慧・多き人。○（左）「晉・高・陽・氏・有―」。（青子）卿・大・夫の・妻。○（左）「以・歌・與・語―」。（愛子）（△）疾に借りいふ語。○（論）「公・疾・疾・病・二―」。（△）たがひ、こさも、又、他を親しめていふ語。○（孟）「雨・國の・非・行を止めあらそふこと。○（孝）「父有―」。「則不・因・子・不・義」。（貴子）絲・綿を・巻（ざるの類）として他の屋へ遣はしおくこと。○（史）「莊・襄・王・爲・秦―」。「子・楚」。（風子）はくろう。○（史）「左・敎・有・七・十・二―」。（孝子）天子のみこと、又、神のみこと。○（玉篇）「樣・孝・神―」。（弱子）族に在る者。○（史）「―…恐・族・鄉」。（女子）前に同ト。○（史）「孝・惠・時・諸・侯―」。「侯・女」。（行子）前に同ト。○（史）「―…心・論・敎」。（廊子）人の敬稱。○（史）「韓・利・將・者・是・宋・義」、敬・稱―」。「―兒・宜」。（鑑子）鑑・そだちのこと。○（漢）「若・鑑―」。（軍子）酒・色に・耽るゝ・をのこ。○（古・詩）「會・當・凌・雲・顛」。（女子）女・子・稱―」。「―婦」。（紳子）をゝなを。○（周・禮）「―…鍼・門」。（孫子）子・なるをのこ。「江・賦」「軍人―」。（鼓・鈴子）桑・蚕・屋・る小さき蟲のこと、又、鈴・鐘の音より始・まれば・なる、ものの・はじめ・の・稱。○（周）「―…有子・弟・嘉・負之」。（子・金子）千・金の・貴・重・なる・紙のむすこ、又、鑄・て・財・西・家・のむすこ・にいふ・稱。○（史・記）「―…之―不・死・論・語・說」。（軍・陣子）什・器・のかぶ・ら・しきもの。○（後・漢）「・鑑・矢・十・之」。（田・舍子）るなかもの。○（晉）「・論・―…」。「例・晉」。（毛・錐子）錐・きり。○（五・代・史）「以・鐵・長・鎗・大・劍」、「―…」、「安・足・用・哉」。（登・城子）城の稱。○（神・異・經）「東・海・黃・國・毛・氏之

族、(說文)、(書)、(說)、(詩)、(禮)、(孟)、(左)、(周)、(易)、(論)、(中庸)、(大學)、(孝經)、(爾雅)、(國語)、(戰國策)、(史)、(漢)、(後漢)、(晉)、(宋)、(南齊)、(梁)、(陳)、(魏)、(北齊)、(周)、(隋)、(唐)、(五代)、(宋)、(遼)、(金)、(元)、(明)、(清)、(新)、(舊)、(通)、(鑑)、(通鑑)、(綱目)、(通鑑綱目)、(通鑑前編)、(通鑑外紀)、(通鑑目錄)、(通鑑考異)、(通鑑總類)、(通鑑地理通釋)、(通鑑地理通釋目錄)、(通鑑地理通釋考異)、(通鑑地理通釋考異目錄)、(通鑑地理通釋考異總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理)、(通鑑地理通釋考異地理目錄)、(通鑑地理通釋考異地理總類)、(通鑑地理通釋考異地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理地理

孝 カウ、ケウ。呼教切 效

㊀善く父母に事ふると、又、周の時代にては、人の階級に從ひて其の稱へを異にす。天子にては、なろ、(就)又、諸侯にては、はかる、(度)、卿、大夫にては、ほむ、(譽)、士にては、きはむ、(究)、庶人にては、やしなふ、(養)、さいふ。○〔孝〕「夫一者、德之本也。

㊁孝の道を行ふ人、善く父母に事ふる者。○〔漢〕「與ー廉攀ー」。

〔論語〕「ー子前文人」。○〔左〕「顧孝敬」。

〔孟子〕「ー子前文人」。○〔書〕「ー」。

〔孟子〕「ー子前文人」。○〔書〕「ー」。

〔孟子〕「ー子前文人」。○〔書〕「ー

〔明義〕今みてよわし。○〔比喩〕「子且隱」書部—。

〔意義〕信實なるかにしてこころよわし。○〔引用書〕「尚書傳」—。

孱 サン、セン。作閑切 刪

せばし、〔窄〕。

孱 サン、セン。士限切 潸

嶮に通ト用ふ。○〔蘇軾〕「攝し衣步二—顏」。

孱 ベイ、ミヤウ。眉病切 敏

初めて孕むばらむ。

孰 ケツ、傾雪切 屑 エツ、一決切 屋

かく〔鈌〕。

十畫

孳 ケイ、キヤウ。奏營切 庚

俗の髮の字、ひさり〔獨〕。

孵 ヒウ、フ。扶留切 尤

おほし〔多〕。

孺 シユ、ス。仄遇切 遇

本嫡に作る、ばらむ、みごもる、みもち、〔孕身〕。

孳 シ、ジ。子之切 支

❶殖えて數多くなる、ふげる。○〔論衡〕「田則有三種—速熟之穀」。

❷夜に同じ、つとむ。○〔孟〕「——爲レ善者」。

孳 シ、ジ。疾二切 寘

さかる、こをおもふ。○〔書〕「鳥獸—尾」。

敎 コウ、居候切 宥 ドウ、奴豆切 豆

❶乳を給す、ちのます、やしなふ。

❷知識なし、おろか、〔一聲〕。

脊 ギ。牛起切 紙

盛んなる貌にいふ字、又、衆多なる貌にいふ字、おほし、又、さかんなり。○〔杜甫〕「羅隱奠一以戢—」。

孵 フ。芳無切 虞

卵を子に化せしむ、かへす、又、卵子に化す、かへる。○〔陸績〕「自—而鼓」。

孵 フ。芳遇切 遇 或は〔浮〕に作る。

そだつ〔育〕。

十一畫

孷 リ。里之切 支 良志切 寘

❶一たびの產にて生まれたる兩兒、ふたご、雙生。○〔揚雄〕「陳、楚間、凡人[こ]學乳而雙產曰二—孑」。

❷一說に、孤に同じ、ひとり、又、みなし

學 カク、ガク。胡覺切 覺

❶まなぶ。

（い）他を標準として從ひなすまねて行ふ、ならふ。○〔許敬宗〕「レ擧齊柳繳」。

（ろ）教を受く、業を授かる、從ひて修む、ならひて稽く、又、知る、覺悟す、さとる。○〔中庸〕「博—レ之、審問レ之」。

〔博學〕文辭の學び。○〔劉勰〕「情、貴—、信、貴—」。

〔博士〕佛教の學問。○〔廿瀨〕「—一之外、學」。

〔學問〕前に同じ。○〔宋書〕「學ぶ所は性理—」。

〔學業〕孔關雎の二子が主として說ける性命理氣の學問。○〔管蘭渡抄〕「孔、曾、孟、氏、曰—」。

〔學〕心を明かにし理に達する佛家の學。○〔論衡〕「野老〔〕—高妙」。

〔學〕文字の學問。○〔ち〕書家の學び、又、文字の意を取り調ふる學問。○〔許北雜志〕「有、宋人、妙於書稱、求必曲明—」。

〔學〕禪觀を主とする學問。○〔論語集注〕「讀書—」。

〔學〕學問の餘暇なること。○〔論語〕「學問、餘暇—」。

〔同學〕同じき學びの徒にかたらひたる友。○〔北史〕「取矢—」。

〔學〕學問の發端をはかる。○〔禮記〕「—」。

〔學〕學問をつむ、學問探し。○〔禮記〕「以謂—之學、雖善、弗求之矣」。

〔後學〕後進の學生。○〔蘇軾〕「師生自是學行者、—」。

〔冬學〕農家にて十月の交に農閑を利用して子弟を學ばしめむること。○〔陸龜蒙〕「種蔬朱崖圃」。

〔放學〕毎日の課業を終へて學校を退き去ること。○〔陸龜蒙〕「食書早却還、家貧、恰似兒童—」。

〔四門學〕天子の宮門に設けたる學校、周の時には四方の郊に設けたりしが、後程のあらずして廢止せられ、又、周の時には國子學に歸したりしが、漢に至りて大學と同じく設くることになりぬ。○〔後漢〕「入—」。

〔中庸〕中庸、非子が主とせる法律の學、愛、刑名の學に同じ。○〔後漢〕「住學廣、好—之一」。

〔孟句〕一孟一句の出來たる說、當にのみ拘はりゐ、多費やして大綱に通ぜざる學問。○〔後漢〕「少治韓、理而不、孟」。

〔大乘〕佛教中の深理の部分を說きたる學問、又、眞に、佛教の學校。○〔周書〕「時力讀孟—」。

〔國子學〕天子の都城内に設けて貴族、及、俊秀の子弟を教育する學問、唐の時に始めて置かれたり。○

〔後漢〕「國入學、有所—」。

〔從學〕合從連衡の學問、師を師事、傳、師に從ひ始めたるにもとづきていふ。師をもて人を說伏し已れ

〔後學〕學問といふに同じ。○〔後漢〕「—、不、師、學問」。

〔博學〕學びの道に廣く通ずること。○〔後漢〕「—、不、詳、不、說、學問」。

〔博學〕學びの道に廣く通ずること。○〔後漢〕「—、以、一、大、異」。

〔後學〕學びの道にあかるくして名高き人。○〔後漢〕「—、之、後、裏、之、戒、後」。

〔學業〕學問をかさねる長き。○〔後漢〕「夫、子、—、し、業、日、知、其、所、亡」。

〔學問〕天文、算數、醫、陰陽、占、筮などの學び。○

〔學〕「嗣、少、好、—」。

〔學〕昔人の學問するに親りて共に學ぶこと、又、其の人。○〔後漢〕「昔人、學、者、陳、川、荀、以下、並、從、—」。

〔宋學〕宋熟なる學問。○〔後漢〕「臣、—、小、生、同、無、足、說」。

〔後學〕年長けて後の學問。○〔後漢〕「—、一、稱、伐、後、稱、有、功、之、數」。

〔家學〕已れが家に傳はり來たりし學問。○〔北史〕「式少、聞、家、學、以、博、聞、名」。

〔後學〕師として高尚ならざる學問。○〔北史〕「—、一、師、賢、復、加、連、山」。

〔後學〕學びの道に入る。○〔北史〕「有、—、し、始、聞、孝、經」。

〔文學〕高妙深遠なる學問、又、老子、莊子の學。○〔北史〕「能、言、名、理、以、—、一、知、名」。

〔學〕外面の學問。○〔北史〕「乞、面、—、一、以、教、書、倉、子、弟」。

〔學問〕真正ならぬ學問、又、其の時代の宗とすると比反する學問。○〔北史〕「皆、等、學、問、宗、有、師、吉、攻、之、者」。

〔家學〕ながの道によかむ。○〔北史〕「馬、齊、師、文、一、—、說、此、宗、仰」。

〔學問〕世とはたつとめまなぶ。○〔北史〕「說、父、官、五、年、—、一、」。

〔師學〕前に同じ。○〔後漢〕「人、少、好、學、則、思、專、長、則、意、廣、大、而、能、—、者、惟、余、昇、賞、伯、樂、耳」。

〔學〕道德を主とする學問、又、宋儒が說く所の理氣の學問。○〔宋史〕「—、心、朝、宋、儒、說」。

〔學問〕無なることをきわ〔知れる學問、又、其の人。○〔後漢〕「子、部、（十三畫—十六畫）

〔後學〕學問といふに同じ。○〔後漢〕「師、—、し、不、師、師、者」。

〔學〕學びの道に師傅の次しきもの。○〔後漢〕「又、以、—、、光、在、時、動」。

〔教學〕ろづくなる、又、學にあつる人。○〔蘇軾〕「—、一、部、部、師」。

〔學〕つた〔來たれる學びの道を受けつぐ。○〔後漢〕「—、一、不、絕」。

〔後學〕人たる道を教ふる學問。○〔後漢〕「由、是、—、「—、之、後、裏、之、戒、後」。

〔學〕學問をかさねる長き。○〔後漢〕「夫、子、—、し、業、日、知、其、所、亡」。

〔學〕天文、算數、醫、陰陽、占、筮などの學び。○

〔學〕「嗣、少、好、—」。

〔學〕昔人の學問するに親りて共に學ぶこと、又、其の人。○〔後漢〕「昔、人、學、者、陳、川、荀、以下、並、從、—」。

〔宋學〕宋熟なる學問。○〔後漢〕「臣、—、小、生、同、無、足、說」。

〔後學〕年長けて後の學問。○〔後漢〕「—、一、稱、伐、後、稱、有、功、之、數」。

〔家學〕已れが家に傳はり來たりし學問。○〔北史〕「式少、聞、家、學、以、博、聞、名」。

〔師學〕師として高尚ならざる學問。○〔北史〕「—、一、師、賢、復、加、連、山」。

〔後學〕學びの道に入る。○〔北史〕「有、—、し、始、聞、孝、經」。

〔文學〕高妙深遠なる學問、又、老子、莊子の學。○〔北史〕「能、言、名、理、以、—、一、知、名」。

〔學〕外面の學問。○〔北史〕「乞、面、—、一、以、教、書、倉、子、弟」。

〔學問〕真正ならぬ學問、又、其の時代の宗とすると比反する學問。○〔北史〕「皆、等、學、問、宗、有、師、吉、攻、之、者」。

〔家學〕ながの道によかむ。○〔北史〕「馬、齊、師、文、一、—、說、此、宗、仰」。

〔學〕世とはたつとめまなぶ。○〔北史〕「說、父、官、五、年、—、一、」。

〔師學〕前に同じ。○〔後漢〕「人、少、好、學、則、思、專、長、則、意、廣、大、而、能、—、者、惟、余、昇、賞、伯、樂、耳」。

〔學〕道德を主とする學問、又、宋儒が說く所の理氣の學問。○〔宋史〕「—、心、朝、宋、儒、說」。

〔學〕無なることをきわ〔知れる學問、又、其の人。○〔後漢〕「子、部、（十三畫—十六畫）

〔師學〕文辭の學び。○〔劉勰〕「情、貴、信、貴、—、一、」。

〔學〕佛教の學問。○〔廿瀨〕「—、一、之、外、學」。

〔學〕前に同じ。○〔宋史〕「學ぶ所は性理—」。

〔學〕孔關雎の二子が主として說ける性命理氣の學問。○〔管蘭渡抄〕「孔、曾、孟、氏、曰—」。

〔學〕心を明かにし理に達する佛家の學。○〔論語〕「野老〔〕—高妙」。

〔學〕文字の學問。○〔ち〕書家の學び、又、文字の意を取り調ふる學問。○〔許北雜志〕「有、宋、人、妙、於、書、稱、求、必、曲、明—」。

〔學〕禪觀を主とする學問。○〔論語集注〕「讀書—」。

〔學〕學問の餘暇なること。○〔論語〕「學問、餘暇—」。

〔同學〕同じき學びの徒にかたらひたる友。○〔北史〕「取矢—」。

〔學〕學問の發端をはかる。○〔禮記〕「—」。

〔學〕學問をつむ、學問探し。○〔禮記〕「以謂—之學、雖善、弗求之矣」。

〔後學〕後進の學生。○〔蘇軾〕「師生自是學行者、—」。

〔冬學〕農家にて十月の交に農閑を利用して子弟を學ばしめむること。○〔陸龜蒙〕「種蔬朱崖圃」。

〔放學〕毎日の課業を終へて學校を退き去ること。○〔陸龜蒙〕「食書早却還、家貧、恰似兒童—」。

〔四門學〕天子の宮門に設けたる學校、周の時には四方の郊に設けたりしが、後程のあらずして廢止せられ、又、周の時には國子學に歸したりしが、漢に至りて大學と同じく設くることになりぬ。○〔後漢〕「入—」。

〔中庸學〕中庸、非子が主とせる法律の學、愛、刑名の學に同じ。○〔後漢〕「住學廣、好—之一」。

〔孟句學〕一孟一句の出來たる說、當にのみ拘はりゐ、多費やして大綱に通ぜざる學問。○〔後漢〕「少治韓、理而不、孟」。

〔大乘學〕佛教中の深理の部分を說きたる學問、又、眞に、佛教の學校。○〔周書〕「時力讀孟—」。

〔國子學〕天子の都城内に設けて貴族、及、俊秀の子弟を教育する學問、唐の時に始めて置かれたり。○

〔後漢〕「國入學、有所—」。

〔從學〕合從連衡の學問、師を師事、傳、師に從ひ始めたるにもとづきていふ。師をもて人を說伏し已れ

の思ふ所を說はしむる學問。○〔北史〕「式少、聞、家、學、以、博、聞、名」。

〔老莊學〕老莊と莊周とが主とせる虛無淡泊の學問。○〔北史〕「好、詩、書、尤、善、—」。

〔程朱學〕宋の程顥程頤の兄弟と朱熹とが說ける性命理氣の學問。○〔北史〕「北方知有、—、之、一」。

〔儒西學〕儒宋、儒學が說ける學問、儒朱は自學を說き、儒學が說ける學問、儒朱は自學を說き、儒學、「前賢之傳、其、不、好、—、一、決、說」。

〔心學〕「心、之、心、不、是、—、之、一、不、是、—、之、一、」。

〔佛學〕學校に入る。○〔北史〕「—、說、—、有、不、從、說、」。

〔佛學〕僧侶

㊀將に懷れんとする貌にいふ字。○〔詩箋〕「言々猶二—一」〔將レ懷貌〕。

㊁妖害、わざはひ。○〔左〕「蘊レ利生」—」〔眞註〕助けなくしてひとりたちするものと為すもの。○〔論〕「蘊—蓄—」。

〔孟註〕衆腹の子。○〔説〕「蘊—積—今、蘊—」。

〔安註〕前註同じ。○〔説〕「大臣蘊—」。

〔孝註〕詩しき者の腹より生まれたる子。○〔管〕「師—」。

〔孟註〕前註同じ。○〔後漢〕「—」—紘謂無功之—」。

〔孟註〕身みを詩しき者。○〔管〕「參—蘊—」。

〔孟註〕國族中の血統詩しき者。○〔管〕「項王當不—」。

〔孟註〕中宗歌代、「—」—事亂。

〔孟註〕後世の臣。○〔荀〕「皆—」。

〔孟註〕前註同じ。○〔左〕「國—」—於—者—」。

十七畫

孽 俗の孽の字。

瓔 エイ、ヤウ。於盈切 庚

みどり、こ、孩。

廿二畫

變 サン、生患 鮮レン。力員切 先

㊀ふたご、〔雙生〕。㊁かはる、〔變〕。

宀部

宀 ベン、メン。武延切 先

交〈、覆ふ深き屋、おほふ。

二畫

宁 チヨ、ド。直呂切 語

㊀佇立す、たゝずむ。○〔禮註〕「入君視レ朝、所二—立一處」。

它 本、湯何切 歌 古文の他の字。

㊀門の内と屏の外との間、には。○〔論〕「—俟二我于—」。

〔眞註〕門内の位は。○〔郭註〕「—赤縄、而横折

穴 ジョウ、ニュ。而隴切 腫

㊀むだ、いたづら、あだ。

（い）必要の外なると、無能なると、不用なると、又、足りて餘分なると、あまり、〈剰〉。○〔杜牧〕「衆皆以爲二餘煩去之—」。

（ろ）無事なると、閑散なると、ひま。○〔周〕「藥人掌レ共二外内朝—」食者之食—」。

㊁入り亂る、まとる、〈雜〉、又、繁雜なり、いそがはし、〈忙〉。○〔金〕「天下之大、萬幾之衆、錢穀之—、非二九重所二能樂—」。

㊂定まりたる居處なし、流浪す、さまよふ。○〔後漢〕「流二—道路、朕甚愍レ之」。

〔浮註〕むだあだ、無益、不用。○〔説〕「—」。

〔衛註〕勢力のみどころ、〔無能〕。○〔史〕「客—」。

〔寒註〕地位いやしくしてひまなる。○〔白居〕「—」。

〔冗註〕入り亂れたる、又、いそがはしきこと。○〔王〕「—」。

〔冗註〕無能なること。○〔後漢〕「—」。

〔冗註〕其の實なくして不用なること。○〔後漢〕「—」。

〔閑註〕職務なきこと。○〔後漢〕「—」。

〔散註〕前註同じ。○〔王禹偁〕「—」。

〔散註〕無用なるものをまでも多くあること。○〔史〕「自—」。

〔散註〕ことさら邪術の人を亂れたること。○〔後漢〕「—」。

〔百事乃—〕。

〔説註〕亂雜にして不用なること。○〔後漢〕「—」。

宅 タク。場伯切 陌

㊀託居の處、ゐどころ、すまひ。○〔書〕「太保朝至于洛—」。

㊁地位。○〔書〕「克用三—」。

㊂住居を構ふ、ゐる、すまふ、又、地位を興ふ、おく。○〔書〕「使レ—」百揆—」。

㊃安らかならしむ、さだむ、〈定〉。○〔書〕「亦惟助レ王—二天命—」。

㊄死者を葬る處、墓穴、つかあな。○〔禮〕「大夫卜レ與二葬日—」。

〔田宅〕田地と家屋と。○〔史〕「王鎮惡傳」「—」。

〔熟宅〕たのしきすまひ。○〔書〕「安—」。

〔宿宅〕すまひ。○〔天台記〕「仙宿之所—」。

〔宿宅〕せばき家。○〔後漢〕「—」。

〔祭宅〕あばらや、又、これの家を謙遜に用ふる時。○〔史記〕「—」。

〔宅宅〕既清手帝說。○〔賈誼〕「—」。

〔宅宅〕いつものすまひ。○〔賈誼七國〕「生集學數、不居—」。

〔舊宅〕もとの家。○〔後漢〕「—」。

〔故宅〕前註同じ。○〔水經注〕「孔廟即夫子之—也」。

〔宅宅〕いへ、すまひ。○〔後漢〕「—」。

〔宅宅〕事家よりうきを思ふ。○〔説〕「—」。

〔大宅〕死者のためにあらかじめ造る墓。○〔後漢〕「—」。

〔大宅〕前註と同じ。○〔賈誼〕「—」。

〔大宅〕「—」—事家、事を始む。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕人を送る、餞別の席に送り出す時。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕未だ人の外に在るに代はりてつかさどる人。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕おりのつかさ。○〔史〕「陳別當長史、以—」。

〔宅宅〕おりのつかさ。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕くにの政務。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕ゐかひ、ばとり。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕いへ、又、のき。○〔管〕「—」。

〔宅宅〕人のゐる所、又、たち。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕「以—」。

〔宅宅〕（い）かきとのきと。○〔孔叢〕「—」。

〔宅宅〕（ろ）屋根。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕屋根ののき、かさなるもの。○〔後漢〕「—」。

〔宅宅〕前註同じ。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕かはらにて葺きたる屋根。○〔管〕「—」。

〔宅宅〕高大なる家なるものの、高くしきりたるもの。

〔宅宅〕くに、國土。○〔陳情表〕「—」。

〔宅宅〕度量品性規模。○〔陳情表〕「—」。

〔宅宅〕てら。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕よるべの生たてるやね、いおりを結ぶ。○〔説〕「—」。

〔宅宅〕「—」。

〔宅宅〕（は）保護す、たもつ。○〔周〕「獸人職、掌二田—則—」。

（に）滅掌す、つかさどる。○〔左〕「山林之木衡—」。

（ほ）防禦す、ふせぐ。○〔易〕「王—公設險、以—其國—」。

㊁まもり。

（い）職掌、責任、つとめ、やくめ。○〔周〕「—」。

（ろ）節操、主義、みさを、むね。○〔易〕「失二其—者其辭屈」。

（は）防備、警戒、そなへ、ふせぎ。○〔左〕「—」。

〔居宅〕とゝまりはもる。○〔史〕「—」。

〔朝宅〕かたくたもつ。○〔後漢〕「—」。

〔保宅〕古昔宋の國に農夫ありて、株に上れ死ぬるを觀しより、耕作をやめて株を守り再び兎を得んと欲みたる故事といふ。○〔説〕「—」。

〔居宅〕とゝまりはもる。○〔史〕「—」。

〔朝宅〕かたくたもつ。○〔後漢〕「—」。

〔保宅〕古昔宋の國に農夫ありて、株に上れ死ぬるを觀しより、耕作をやめて株を守り再び兎を得んと欲みたる故事といふ。○〔説〕「—」。

〔守宅〕すっぱんの異名。○〔後漢〕「—」。

〔守宅〕百大十朝時、猶ほ有二鎮則不二殺、謂一鎮。○〔説〕「—」。

〔守宅〕義務、したと。○〔禮〕「—」。

〔守宅〕成め、防ぐ。○〔左〕「—」。

〔守宅〕職に、職。○〔史〕「—」。

〔守宅〕とゝまりはもる。○〔後漢〕「—」。

〔守宅〕まもり、まもる。○〔後漢〕「—」。

〔守宅〕臣。○〔説〕「—」。

〔守宅〕「—」。

〔守宅〕「—」。

〔守宅

〔安々〕やすらか。○〔愛〕「紀朝次郎—」。
〔安心〕一に、心安に作る。たのしむ、又、満足す。○〔左〕「—…鄭寄不可知也」。
〔安定〕おちつきて今すらかなり。○〔史〕「時夏—」。
〔安居〕前に同じ。○〔後〕「因謙—」—之策」。
〔安石〕てがるくして心強とし。○〔王安石〕「下林殺、試看—」。
〔安坐〕たよりとしてあるゆえあらかな。○〔史〕「眞—」。
〔安平〕御幸せず、やすし。○〔名臣言行錄〕「西—書、見十二—字、即位年中、不書年號」。
〔安定〕あやふからぬ。○〔史〕「勢必—」。
〔安心〕たよりとし。○〔後漢〕「論・東夷所」—」。
〔安定〕ゆづりやすんぬ。○〔後〕「—」—百姓」。
〔安定〕かりそめに一時のやすきをねがはるる。○〔後漢〕「情存」—」。
〔安定〕前に同じ。○〔余考〕「年號何年且」—」。
〔安定〕なやさめやすんぬ。○〔後〕「石を見其要」—」之」。
〔安定〕ゆづか。○〔後〕「其位」—」。
〔安定〕かたより今すんぬるも。○〔論語〕「誤統不解立、王爲不」—」。
〔安定〕御かにしてやすんぬるなる。○〔孟子〕「時子」—」。
〔安定〕やすし。○〔後〕「第以」—」。
〔安定〕よろこばしよろこばす。○〔後〕「第以」—」。
〔安定〕やすし。○〔後〕「顧中」—」。
〔安定〕ゆづむ、又、ゆづまる。○〔史〕「—」—百姓」。
〔安石〕いはのゆるがざるがごとくに定まりてやすきこと。○〔史〕「仁人居處、前顧安如磐石」。
〔安山安〕泰山のごとく大いなる山のゆるがぬが如くにやすきこと。○〔論語〕「失節」「居貧賤之食、而顧」—」之」。
〔安樂安〕ひがをいるゝとやすし、御ち、離居のやすきはいとよし。○〔陶潛〕「春」—」之易」。

宋 ソウ、ス。蘇統切 冬

❶國の名、昔殷の微子の周に奔りて封ぜられたる處、春秋十二列國の一隋の時に至り改めて州となす、宋の時には更に改めて應天府となす、即ち、今の河南省の歸德府なり。○〔左〕「—大辰之墟也」。
❷ゐる、ゐる〔居〕。

完 クヮン、クヮン。胡官切 寒

❶全に同じ、まったし。○〔戰〕「不レ如二伐レ蜀之—」。
❷まったうす。
（い）全からしむ。○〔史〕「子・胥之智、而不レ能—レ矣」。
（ろ）つくろふ。〔轉〕。○〔左〕「大・叔—」。
❸古文の寛の字。
〔雜記〕つくろふ。○〔左〕「以・鮮・呂之謀・殺主」。「—」—苯」。
〔後漢〕前に同じ。○〔左〕「成・呂・謀・幕・若早」—」北」。
〔後漢〕前に同じ。○〔史〕「—」—孤・費」。
〔後漢〕すべてかけたるところなし。○〔後〕「顧士三子、欲・爲」—」。
〔後漢〕つゝしみよかくして缺けたるところなし。○〔後〕「顧・城」—」。
〔後漢〕かたくしてなったし。○〔文・章・明〕「衆・意・本・書」—」。
〔後漢〕かけたるところなし。○〔論・衡〕「月・形・如・白・書」—」。

宀 カイ、ケ。古拜切 泰

ひとり、〔獨〕。○〔揚雄〕「斉・無レ偶日レ—」。

宋 ソウ、ス。蘇統切 冬

本、突に作る、出で見はるゝ貌にいふ字、又、出づる貌にいふ字、いづ、あらはる。○〔揚雄〕「江・湘間謂二卒・相見一曰レ—」。

宋 エウ。伊鳥切 篠 伊嬌切 蕭

亦宴に作る。
❶室の東南の隅、すみ。○〔莊〕「鷄生二於—」。
❷ふかし、〔深〕、又、ふかき處、又、あなゝどより發する聲。○〔莊〕「—者咬者」。

宏 クヮウ。戶萌切 庚

❶屋の深き樣、ひろき、又、おほいなり、〔大〕、ひろし、〔廣〕、又、ふかし、〔深〕。○〔筐賦〕「泓—融・廣」。
❷ふかくす、ひろぐ、おほいにす。○〔書〕「用二茲賞二」。
〔秋官〕廣きも。○〔後・魏〕「論・地多—」。
〔安々〕ひろし、おほいなり、ふかし。○〔樂・記〕「聲宜—」。

宕 タウ、ダウ。大浪切 漾

❶すぐ。
（い）ゆきすぐ、とほる。○〔穀梁〕「具・展弟兄三人、佚二中・國」。
（ろ）度に超ゆ。○〔晉〕「久寧・酒・體」「就・逆・樂・聲浮」—」。
❷聲にいふ字。○〔曹植〕「—」—當二何依」。
❸岩石の深く凹みたる處あなほらあな。○〔集韻〕「不・石・工・謂之」—」戶」。
〔後漢〕「顧・節」—」。
〔後漢〕「國・方・以出・づるも。○〔後漢〕「顧・節・歌・哲」—」。
—在・巷・藩」。
〔後漢〕宮殿に同じ。○〔後〕「—」—不・鳴」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後〕「—」—不・鳴・時」。
〔後漢〕前に同じ。○〔後〕「佐」—」・不・鳴・時」。
〔後漢〕寺の水を夢つ鶴に上・鳴。○〔左・思〕「雨・夢、鶴以上」—」。

宏 フク、ホク。房六切 屋

人の名。

家 ハウ、ホウ。博抱切 豪

なさむ、かくる、又、かくす、〔藏〕。○〔書〕「隣—赤・刀」。

家 寂に同じ。○〔楚辭〕「野—漠其無人」。

宝 シュ、ス。腮庾切 麌

主に通じ作る、たまやのぬし、〔神主〕、又、たまやのぬしを藏むる石の櫃。○〔左〕「許・公爲反二祏—」。

宏 クヮウ。胡肱切 庚

❶屋の響にいふ字。❷やすし〔安〕。

宀 ベン、メン。莫甸切 霰

冥合す、かなふ。

宜 セイ、シヤウ。積倉切 敬

宜の本字。

宀 ビツ、ミチ。美畢切 質

ひそか、〔秘〕、たづか、〔靜〕。
❷だまる、〔默〕、又、とどまる、とどむ〔止〕。
❸疾を去る、いゆ。❹やすし〔安〕。

宀 ケン、ゲン。古賢切 霰

❶一國の大小の政をあつかふ所、政府、朝廷、又、私に對して、おほやけ〔公〕。
❷つかさ。
（い）政府に奉仕する地位、おほやけの等級、又、地位等級に割りあてられたる職責、やくめ、つとめ。○〔禮〕「班レ朝治レ軍涖レ—行レ法非レ禮威嚴不レ行」。
（ろ）おほやけのくらゐに處り其のつとめに當たり其のことをあつかふ人、吏員、司僚。○〔後漢〕「善事二上—無失二名譽二」。
（は）はたらきありて一の任にあたるもの。○〔孟〕「心之—則思思則得之」。
❸つかさ人の出勤する廳舍、やくば。○〔禮〕「在レ—不レ俟履」。
❹つかふ。
（い）奉仕す、任用せらる、又、役に就く。○〔禮〕「—」於大・夫二者之爲二之服也」。
（ろ）更さなす、任用す、やくに就かす。○〔荀〕「—レ人益レ秩」。
❺法に從ふ、つとめに任ふ。○〔荀〕「以正・志一行・寡・論二則萬・物—矣」。
❻つとめに當たる、ことを處置す、主となりて掌視す、つかさどる。○〔禮〕「大・鎧不レ—」。

〔宀部〕（五畫）

宀 ハウ、ヘウ。披教切 效

醉ひて起つたつ又、さけに醉ふ。

宗 ソウ、ス。作冬切 冬

❶分出したる物の本源、おもなる、かなめなる、もと、みなもと、おほもと。○〔莊〕「以レ天爲—」以レ德爲レ本」。
❷第一なり、地位高し、たふとし、〔尊〕。○〔書〕「今王即命曰記二功—」。
❸首位者、おも立ちたる人、たふとき者なさ、つかさ。○〔晉〕「若學必爲二一代談—」。
❹祖先の中にて最も德のあらはれたる者、又、祖先の遺稱。○〔禮〕「周人祖二文・王・而—」武・王」。
❺一の祖先より分かれ出でたる親族、即ち同姓。○〔詩〕「—子維城」。
❻一の主要なる說より分かれ出でたる學派、又、教旨。○〔胥廢叢錄〕「道家南・北二—」南—先レ性、北—先レ命」。
❼君王に謁見す、朝會す、まみえ、まみゆ。○〔周〕「諸侯朝レ於天・子二春見曰レ朝、夏見曰レ—」。
❽奉じて本源となす、のっとる、むれとす、尊しとなす、たふとぶ、又、歸向す、おもむく。○〔史〕「孔・子以布・衣傳二十・餘世、學者—」之」。
❾種類。○〔後・魏〕「書以二八十・策、誤作二八十—因曲爲二之解」」。
〔大宗〕尊びて祭る所のもの、天地四方をいふ、又、一說に、天・地・人・星の三つと地にては河、渤海の三つを併せて稱すといふ。○〔書〕「—」。
〔宗宗〕泰山は四嶽のをさたるといふ。○〔書〕「東—」。
〔宗宗〕泰山は四嶽のをさたるといふ。○〔書〕「東—」。
〔宗宗〕諸侯の天子に謁見する禮より川流の海に宗ふ

宀 クヮン、ゴチ。五勿切 物

髮を去るの刑。○〔漢〕「—爲二城旦」」。

宀 カイ、ケ。古拜切 卦

ひとり、〔獨〕。○〔揚雄〕「斉・無レ偶日レ—」。

宀 クヮン。古丸切 寒

❶一國の大小の政をあつかふ所、政府、朝廷、又、私に對して、おほやけ〔公〕。
❷つかさ。
（い）政府に奉仕する地位、おほやけの等級、又、地位等級に割りあてられたる職責、やくめ、つとめ。○〔禮〕「班レ朝治レ軍涖レ—行レ法非レ禮威嚴不レ行」。
（ろ）おほやけのくらゐに處り其のつとめに當たり其のことをあつかふ人、吏員、司僚。○〔後漢〕「善事二上—無失二名譽二」。
（は）はたらきありて一の任にあたるもの。○〔孟〕「心之—則思思則得之」。
❸つかさ人の出勤する廳舍、やくば。○〔禮〕「在レ—不レ俟履」。
❹つかふ。
（い）奉仕す、任用せらる、又、役に就く。○〔禮〕「—」於大・夫二者之爲二之服也」。
（ろ）更さなす、任用す、やくに就かす。○〔荀〕「—レ人益レ秩」。
❺法に從ふ、つとめに任ふ。○〔荀〕「以正・志一行・寡・論二則萬・物—矣」。
❻つとめに當たる、ことを處置す、主となりて掌視す、つかさどる。○〔禮〕「大・鎧不レ—」。

〔史官〕歷史を編纂する役人、又、書の官。○〔周〕「掌・書・官」。
〔中官〕宮中に仕ふる役人、官官を謂ふ。○〔後漢〕「設置官—」。
〔宦官〕前に同じ、又、閹官とも稱す。○〔後漢〕「小黃門・宦官」。
〔宦官〕前に同じ。○〔後漢〕「中・黃門・宦官」。
〔宦官〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔宦官〕前に同じ。○〔後漢〕「—」。
〔宦官〕前に同じ。○〔後漢〕「—

定 テイ、ヂヤウ。徒徑切 徑

㊀さだまる、
（い）確かにある、平ぎ治まる、おちつく、ふづまる〔靜〕、やすまる〔安〕。○〔書〕「一二戎衣、天下大一」。
（ろ）移らず、散らず、一所に著きてゆるがず、とどまる〔止〕、こころ〔緩〕。○〔莊〕「宇泰一者、發乎天光」。
（は）易はらず、疑はしからず、判明す、たしかになる、きまる〔決〕。○〔禮〕「位一然後祿之」。
（に）緩に就く、休息す、やすむ。○〔白居易〕「人一月臘明」。
（ほ）にえさせほる、熟す、にゆ。○〔禮〕「羹一調於堂」。
㊁さだむ。
（い）さだまりてあらしむ、ふづむ、やすんず、たどすず、きむ、とどむ、やすます、にる、〔㊀の條參照〕。○〔易〕「天地一レ位」。
（ろ）おく〔寘〕。○〔國〕「一二三一革」。
（は）惡を亡ぼす、敵を降服せしむ。○〔史〕「可一傳檄而一也」。
㊂丘の名。○〔爾〕「左一澤日レ一」。
㊃星の名。○〔詩〕「一之方中、作二于楚宮」。
㊄ひたひ〔額〕。○〔詩〕「螓之一」。
㊅すき〔鋤〕。○〔爾〕「斬一斷謂二之一」。
㊆佛家にて坐禪觀法をなさめ、寂靜三昧即ち、無念無想の域に住するをいふ、又、清淨心。○〔智度論〕「入レ一水火不レ能レ害、亦不二命終一」。
㊇疑ひなく、必ず、さだめて。○〔世說〕「絕一奇逸」。
〔宋史〕まだ定まらぬなり。○伊文子、準寬在、貶人語之。「ふ一一也。
〔禮記〕くらべたがす、ならに事物はついてよ。○

〔絞字〕前に同じ。○〔後〕「音手一一」。
〔鎮字〕勝ち鎮む。○〔後元史〕「一一方無過」。
〔沾字〕前に同じ。○〔國〕「臣請一發一刑兵一」。
〔樓字〕やすんぜ。○〔國〕「未一能一一」。
〔保字〕前に同じ。○〔詩〕「天一一爾」。
〔鎮字〕討ち平ぐ。○〔史〕「將軍梁一一之」。
〔鎮字〕たてまつる。○〔國〕「一一天地之大德」。
〔鎮字〕やすんじ鎮む。○〔國〕「飲以一一時地」。
〔鎮字〕改めきむる。○〔國〕「弾論以一一俗」。
〔鎮字〕今、「鎮」は通じ。
〔鎮字〕何都もなくをさまる。○〔後國〕「今海內一一」。
〔鎮字〕始めさむ。○〔國〕「花」「一一王業」。
〔鎮字〕作りおむる。○〔後國〕「順宗紀」「一一禪」。
〔鎮字〕前以てきむる。○〔後國〕「就不一一」。
〔鎮字〕ゐはいにさむ。○〔國〕「花」「一一西陵」。
〔鎮字〕上聞に達してきむる。○〔後國〕「一一大」。
〔鎮字〕鎮文字。
〔鎮字〕穩びさむ。○〔國〕「一一官事」。
〔鎮字〕鎮めさむ。○〔國〕「一一大業」。
〔鎮字〕制りさむ。○〔國〕「陳被禪位、明年一一」。
「在」民。
〔鎮字〕をさまる。○〔周書〕「九州一一」。
〔鎮字〕さだまる。○〔國〕「乃御者可一一」。
〔鎮字〕はかりさだむ。○〔國〕「不調一一」。
〔鎮字〕あらためさだむ。○〔國〕「無所一一」。
〔鎮字〕をさめしづむ。○〔國〕「除下一一」。
〔鎮字〕やすらかに治まる。○〔國〕「天下一一」。
〔鎮字〕傳びさだむ。○〔晉書〕「一一律曆」。
〔鎮字〕止まる鎮にいふ。○〔平話〕「一一他」。
〔鎮字〕天一一。

宛 エン、チン。於阮切 阮

㊀曲ぐ、曲がる、かがむ〔屈〕。○〔周〕「弓有二六材一焉、欲一一而無負弦」。
㊁逆はす、ふたがふ〔順〕、又、ゆづる〔讓〕。○〔詩〕「好人提々、一然左辟」。
㊂坐ろにまかく見ゆるにいふ字、さながら、あたかも。○〔詩〕「一在二水中央一」。

〔鎮字〕前に同じ。○〔後〕「音手一一」。
〔鎮字〕勝ち鎮む。○〔後元史〕「一一方無過」。
〔沾字〕前に同じ。○〔國〕「臣請一發一刑兵一」。
〔樓字〕やすんぜ。○〔國〕「未一能一一」。
〔保字〕前に同じ。○〔詩〕「天一一爾」。
〔鎮字〕討ち平ぐ。○〔史〕「將軍梁一一之」。
〔鎮字〕たてまつる。○〔國〕「一一天地之大德」。
〔鎮字〕やすんじ鎮む。○〔國〕「飲以一一時地」。
〔鎮字〕改めきむる。○〔國〕「弾論以一一俗」。
〔鎮字〕今、「鎮」は通じ。
〔鎮字〕何都もなくをさまる。○〔後國〕「今海內一一」。
〔鎮字〕始めさむ。○〔國〕「花」「一一王業」。
〔鎮字〕作りおむる。○〔後國〕「順宗紀」「一一禪」。
〔鎮字〕前以てきむる。○〔後國〕「就不一一」。
〔鎮字〕ゐはいにさむ。○〔國〕「花」「一一西陵」。
〔鎮字〕上聞に達してきむる。○〔後國〕「一一大」。
〔鎮字〕鎮文字。
〔鎮字〕穩びさむ。○〔國〕「一一官事」。
〔鎮字〕鎮めさむ。○〔國〕「一一大業」。
〔鎮字〕制りさむ。○〔國〕「陳被禪位、明年一一」。
「在」民。
〔鎮字〕をさまる。○〔周書〕「九州一一」。
〔鎮字〕さだまる。○〔國〕「乃御者可一一」。
〔鎮字〕はかりさだむ。○〔國〕「不調一一」。
〔鎮字〕あらためさだむ。○〔國〕「無所一一」。
〔鎮字〕をさめしづむ。○〔國〕「除下一一」。
〔鎮字〕やすらかに治まる。○〔國〕「天下一一」。
〔鎮字〕傳びさだむ。○〔晉書〕「一一律曆」。
〔鎮字〕止まる鎮にいふ。○〔平話〕「一一他」。
〔鎮字〕天一一。

〔鎮字〕前に同じ。○〔後〕「音手一一」。
〔鎮字〕勝ち鎮む。○〔後元史〕「一一方無過」。
〔沾字〕前に同じ。○〔國〕「臣請一發一刑兵一」。
〔樓字〕やすんぜ。○〔國〕「未一能一一」。
〔保字〕前に同じ。○〔詩〕「天一一爾」。
〔鎮字〕討ち平ぐ。○〔史〕「將軍梁一一之」。
〔鎮字〕たてまつる。○〔國〕「一一天地之大德」。
〔鎮字〕やすんじ鎮む。○〔國〕「飲以一一時地」。
〔鎮字〕改めきむる。○〔國〕「弾論以一一俗」。
〔鎮字〕今、「鎮」は通じ。
〔鎮字〕何都もなくをさまる。○〔後國〕「今海內一一」。
〔鎮字〕始めさむ。○〔國〕「花」「一一王業」。
〔鎮字〕作りおむる。○〔後國〕「順宗紀」「一一禪」。
〔鎮字〕前以てきむる。○〔後國〕「就不一一」。
〔鎮字〕ゐはいにさむ。○〔國〕「花」「一一西陵」。
〔鎮字〕上聞に達してきむる。○〔後國〕「一一大」。
〔鎮字〕鎮文字。
〔鎮字〕穩びさむ。○〔國〕「一一官事」。
〔鎮字〕鎮めさむ。○〔國〕「一一大業」。
〔鎮字〕制りさむ。○〔國〕「陳被禪位、明年一一」。
「在」民。
〔鎮字〕をさまる。○〔周書〕「九州一一」。
〔鎮字〕さだまる。○〔國〕「乃御者可一一」。
〔鎮字〕はかりさだむ。○〔國〕「不調一一」。
〔鎮字〕あらためさだむ。○〔國〕「無所一一」。
〔鎮字〕をさめしづむ。○〔國〕「除下一一」。
〔鎮字〕やすらかに治まる。○〔國〕「天下一一」。
〔鎮字〕傳びさだむ。○〔晉書〕「一一律曆」。
〔鎮字〕止まる鎮にいふ。○〔平話〕「一一他」。
〔鎮字〕天一一。

㊃四邊高くて中央の低きこと、なかくぼ。○〔詩〕「一一邱之一」。
㊄四邊低くして中央の高きこと、なかたか。○〔國〕「一一中一丘」。
〔鎮字〕のびかやする鎮にいふ字。○〔國〕「一一一」。
〔鎮字〕かやむ。○〔國〕「摩訶之間、日一一、夕鎮也」。
〔鎮字〕たけのこの異名。

宛 エン、チン。於願切 願

小なる鋭にいふ字。○〔詩〕「一一彼鳴鳩」。

宛 ウツ、ウチ。紆勿切 物

苑と鬱とに通ト用ふ、ふさがる、いきこもる。○〔史〕「寒一溫氣一」。

宜 ギ。魚羈切 支

㊀よろし、又、よし
（い）其の事に適す、其の所を得たり。○〔周〕「山林其一物一」「毛一物、草物一」。
（ろ）安しとする所なり、このまし、可とすべし。○〔列〕「教一化不レ能レ違一所一」。
（は）相應せり。○〔梁簡文帝〕「春一風本自奇、楊柳最相一」。
（に）便利なり。○〔淮〕「用一」其人」。
（ほ）和順なり。○〔詩〕「一一其室家」。
（へ）善美なり。○〔太元〕「是一德」。
（と）よろしき程度、よろしき理義、よろしき物事。○〔禮〕「不レ易二其一一」。
㊁好む、よみしとす、よみす〔善〕。○〔國子〕「其一一其要」。
㊂よろしき讓ぜしむ、によろしくす、又、事に從ふ、ことさす。○〔詩〕「公一戶來燕來一」。
㊃志があるべき理なること、當然、うべ、むべ。○〔禮〕「武之遲一久、不二亦一一乎」。

宮 キウ、ク。居戎切 東

㊀人の住居し、又は、物を藏め置く大小堵、四一南其戶」。
㊁岩に穿ちたる洞、地に掘りたる穴、のものを實たす用をなすもの、むろ、又、棺槨を埋むる處、つかあな〔壙穴〕。○〔詩〕「百歲之後、歸二于其一一」。
㊂齒戶の內、へや。○〔史〕「蔡一秦乃開レ一不出、出二其書一、徧觀レ之」。
㊃おもてざしきなどに對して、おくざしき、ゐま、寢處。○〔詩〕「關關雎鳩、在二于河一之一」。
㊄妻の稱、つま、又、妾の稱にもいふ字、おくざしきに起臥する者の義。○〔禮〕「和二於一一人一」。
㊅家族、一門、又、同じやから。○〔晉〕「公族公一一之本」。
㊆家の資產、むろに納め置くもの、義。○〔國〕「施二一師一而分二其一一」。
㊇刃劍の鞘さや。○〔史〕「刃、劍一以二珠玉一飾之」。
㊈器具を藏むるもの、袋匣など。○〔詩傳〕「一一弓」。
㊉家に在る、又、さとひ。○〔後〕「君子一其居室」。
〔居室〕家屋、又、立派なる構への家、即ち、君王の住居なり。○〔後〕「東一一面畫力手隆強」。
〔玉室〕廟に五つの（やあるて其の中央のもの。○〔後〕「王入一一」。
〔鑑室〕まちかべに飾りたる家、土たる者は、我の中に祭に祭す。○〔後〕「士居一一」。
〔仙室〕宮殿をいふ。○〔後〕「一一」。
〔宴室〕月の名。○〔後〕「孟春之月、日在一一」。
〔聲室〕地中の暗室、即ちむろのこと。○〔後〕「北門外有一一花一一五間」。
〔幽室〕幽室（や、おくまりたる（や。○〔後〕「求一一！」「然」。
〔室〕自分の（や。○〔後〕「一一、鮮日華」。
〔室〕四人をいる、（や。○〔後〕「君人一一、鑑後世」。
〔室〕支子の家。○〔後〕「廣一一」。
〔室〕もとめ。○〔後〕「眼高手一一之子」。
〔室〕地中の（や。○〔後〕「一一夜飲」。
〔室〕藏をかわかす（や、自かわかるむろ。○〔後〕「一一」。
〔室〕あためてある（や。○〔後〕「一一皮數九貫」。
〔室〕祝しき（や。○〔後〕「一一皮數九貫」。
〔室〕まちうや。○〔後〕「一一皮數九貫」。

〔鑑室〕鑑室（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕玉をちりばめたる家、又、美麗なる家を讃する辭に用ふる語。○〔後〕「一一」。
〔鑑室〕鑑室（や、又、鑑堂のこと。○〔後〕「一一」。
〔室〕見苦しき家、あばら（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕鉄き家。○〔後〕「一一有水史」。
〔室〕くらき（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕のちぞひ。○〔後〕「一一」。
〔室〕先祖の靈をまつる（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕心の良れる事。○〔後〕「一一」。
〔室〕藏あげする（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕華校。○〔後〕「一一」。
〔室〕かからむろ。○〔後〕「一一」。
〔室〕これの身のみを容る、鉄き家。○〔後〕「一一」。
〔室〕ひむろ、こぼりを藏むる處。○〔後〕「一一」。
〔室〕「一一」。
〔室〕（い）かかとを藏よ（や。○〔後〕「一一」。
（ろ）宮刑を行ふべき罪人を囚（置く所。○〔後〕「一一」。
〔室〕宰相の別名、又、家令のこと。○〔後〕「一一」。
〔室〕天子の御一門。○〔後〕「一一」。
〔室〕事を司る官。○〔後〕「一一」。
〔室〕ひとや。○〔後〕「一一」。
〔室〕くら、倉庫。○〔後〕「一一」。
〔室〕あなぐら、地中にある（や。○〔後〕「一一」。

〔室〕（い）門のもと、本家。○〔後〕「一一」。
（ろ）門のもの。○〔後〕「一一」。
（は）太宗の廟。○〔後〕「一一」。
（に）門、又は、食べること。○〔後〕「一一」。
〔室〕（や。○〔後〕「一一」。
（ほ）十月ばかりの紙、少きい（かなにい上聞。○〔後〕「一一」。
（へ）之、必、有二市中如上」。
（と）本家。○〔後〕「一一」。
（ち）鑑子。○〔後〕「一一」。

〔室〕かやぶきの家、あばら（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕玉をちりばめたる家、又、美麗なる家を讃する辭に用ふる語。○〔後〕「一一」。
〔室〕鑑室、鑑堂のこと。○〔後〕「一一」。
〔室〕見苦しき家、あばら（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕鉄き家。○〔後〕「一一」。
〔室〕くらき（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕のちぞひ。○〔後〕「一一」。
〔室〕先祖の靈をまつる（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕心の良れる事。○〔後〕「一一」。
〔室〕藏あげする（や。○〔後〕「一一」。
〔室〕華校。○〔後〕「一一」。
〔室〕かからむろ。○〔後〕「一一」。
〔室〕これの身のみを容る、鉄き家。○〔後〕「一一」。
〔室〕ひむろ、こぼりを藏むる處。○〔後〕「一一」。
〔室〕「一一」。
〔室〕（い）かかとを藏よ（や。○〔後〕「一一」。
（ろ）宮刑を行ふべき罪人を囚（置く所。○〔後〕「一一」。
〔室〕宰相の別名、又、家令のこと。○〔後〕「一一」。
〔室〕天子の御一門。○〔後〕「一一」。
〔室〕事を司る官。○〔後〕「一一」。
〔室〕ひとや。○〔後〕「一一」。
〔室〕くら、倉庫。○〔後〕「一一」。
〔室〕あなぐら、地中にある（や。○〔後〕「一一」。

〔室〕（い）門のもと、本家。○〔後〕「一一」。
（ろ）門のもの。○〔後〕「一一」。
（は）太宗の廟。○〔後〕「一一」。
（に）門、又は、食べること。○〔後〕「一一」。
〔室〕（や。○〔後〕「一一」。
（ほ）十月ばかりの紙、少きい（かなにい上聞。○〔後〕「一一」。
（へ）之、必、有二市中如上」。
（と）本家。○〔後〕「一一」。
（ち）鑑子。○〔後〕「一一」。

〔室〕鑑室（や。○〔後〕「一一」。

室 シツ、シチ。式質切 質

㊀人の住居し、又は、物を藏め置く大小堵、四一南其戶」。
㊁岩に穿ちたる洞、地に掘りたる穴、のものを實たす用をなすもの、むろ、又、棺槨を埋むる處、つかあな〔壙穴〕。

㊉決定の意を表はすときに用ふる字、よろしく〔先づ讀みて、べし〕返し讀む。○〔孟〕「一一若小然」。
㊋土地の神主を祭るとき、まつり。○〔書〕「類二于上帝一、一二于冢一土」。
〔書宮〕ときのよろしきこと。○〔國〕「動作無一一」。
〔書宮〕たよりよきこと。○〔國〕「臣聞見上言」。
〔書宮〕前に同じ。○〔後〕「前言用之一一」。
〔書宮〕よきはづみ。○〔後〕「一一合」。

六畫

宰 クワイ、ケ。吉娃切 佳

たかどの〔樓〕。

宮 カフ、コフ。口合切 合

あふ〔合〕。

客 カク、キヤク。苦格切 陌

㊀まちうど。
（い）招待したる人、訪ひ來たれる者。○〔禮〕「然後出迎レ」。
（ろ）國內に居る他國の人。○〔史〕「十年大索逐レ」。
（は）すべて外より來たれる者の稱、外寇などにもいふ字。○〔易〕「重門擊柝、以禦二暴一客一」。
㊁主者に對する者の稱。○〔老〕「不二敢爲レ主而爲レ客」。
㊂旅行せる人、とほりがかりの人、故郷を離れたる人、定まりたる住居なき者、たびゝと。○〔史〕「關法難鳴而出レ」。
㊃身を託する人、寄食者、同寓者。○〔論衡〕「漢將軍衛青及霍去病、門無二一一客一、赤稱二名將一」。
㊄人士。○〔韓愈〕「寄言賢心一」。

（王意）君王の御一門。○（意）同カ—…—。
（敏部）（ル）ハ（ヘ）。○（敏陽性）（敏）無以—…—。
（ル）一家時。○（敏）之子于時、宜其—…—。

室 シ。式至切 寘

前條の一と二と三と四とに同じ。○（左思）「璽玉、鏤於金、勝、按圖錄於石、—一、考二層、動之所在、終三五、總之所在」。

宄 クヲウ。呼晃切 豪 呼浪切 宕

むなし（空）又、ひろし（廣）。

宄 クヲウ。呼光切 唐

なる、又、すまひ（居）。

宅 キ。古委切 紙 居僞切 寘

一こぼつ、やぶる（毀）。二さとる（通）。

宣 セン。息緣切 先

一あまねし（徧）。○（詩）「既順匹—」。
二のぶ。
（い）遠く及ぶ、あまねく至る、とほる、（通）。○（詩）「—哲維人」。
（ろ）あらはれ盛る、おこる（發）、あがる（揚）。○（左）「寵光不—」。
（は）あまねく致す、とどかす、及ぼす、施す、ふく（布）、ちらす（散）又、あらはれしむ、おこす、ゆく。○（書）「日—三三德」。
（に）殘らず致す、つくす（盡）、あらはに揭ぐ、あきらか、あきらかにす、明、あらはす、ふめす（示）。○（國）「爲レ川者決レ之、使導、爲レ民者—レ之使レ言」。
（ほ）苛きことなくなる、打ちくつろぐ、又、ゆるむ（緩）。○（宋文—則力減）。

突 エツ。切一叫 嘯

一室の東南の隅、おく。○（禮）「掃レ室聚—」。
二戶樞の聲、とゝまりのおと。
（本、竈に作り、俗に竈は突に作れり、或ヒ、突に竈に作れり。）

宥 イウ、ウ。于救切 宥

一ゆるす。
（い）苛くとりたゞさず、きびしく責問せず、ゆるぶ、なだむ。○（易）「君子以救過—限」。
（ろ）自由に任す、干渉せず。○（莊）「—レ之也者、恐三天下之遷二其德一」。
二宏くして深し、ふかし。○（詩）「夙夜基命—密」。
三たすく、（助）。○（左）「晉侯朝二於王一、王饗、醴命二之—一」。
四脩に同じ、ずゝむ（勤）。○（荀）「此蓋—坐之器」。

宦 クヲン、ゲン。胡慣切 諫

一まなび（學）。○（左）「—三年矣」。
二官に奉仕す、つかふ、つかへ、みやづかへ。○（國）「與二范蠡一入—二於吳一」。
三つかさ。
（い）官位、官職、くらゐ、やくめ。○（商）「才名位—當遠臨二於兄一」。
（ろ）つかふる人、官吏、臣僕。○（唐「羣—不レ乎」）

（仕宦）みやづかへ。○（史）「不好—…—」。
（巧宦）仕宦にたくみなるにいふ語。○（論語）「—…—」。
（諫官）始位泉台みやづかへ。○（陸贄）「同書—」。
（內官）內廷に奉仕する官をさをいふ。○（史）「高祖—…之無功也」。
（館官）地方に出で役人となるも。○（陸贄）「—…」。
（宦官）內廷の小臣。○（後漢）「—…充朝」。
（閹官）前に同じ。○（後漢）「所—與居、有恨—…」。
（敎官）外戚と內廷の官者をいふ。○（後漢）「此輩—…之臣、所敎敎」。
（隨官）いやしからずする役。○（北）「益仕都事、隨」。
（末官）卑しき役。○（任昉）「任—末—…」。
（散官）前に同じ。○（呉師道）「—…不、無官」。
（冷官）前に同じ。○（呉師道）「—…其、無所事事」。

宦 イ。與之切 支

一室の東北の隅、すみ、又、日光の漏れ入る處。
二やとなふ（養）。○（孝經）「東北隅、氣始起、育二養萬物、故曰—」。

宛 テウ、土了切 篠

ほしいまゝ（放肆）、一說に窕の僞字。

宴 ヤン。於甸切 霰

寧に同じ。

宋 七畫

成 セイ、ジヤウ。是征切 庚

物を受け容るゝ屋、ものおきぐら、又、特に書を藏むる室。○（字彙補）「明大內有二皇史—一」。

宗 タ。宅加切 麻 恥慣切 諫

一鑑態の貌にいふ字、こゞ、なまめく。
二正しからず、よこしま。

良 ラウ。魯堂切 唐 盧藏切 宕

屋ひろし、又、むなし（空虛）。○（司馬相如）「娄參差二以廉—」。

宕 クヲン、ゲン。仇文切 文

軍に通ト用ふ、むらがる。

宮 キウ、ク。居戎切 東

一みや。
（い）人の住居する處、すまひ、いへ、古昔は、貴賤とも通ト用ひき。○（儀）「夙夜莫レ違二一事一」。
（ろ）帝王、及び其の者の居處、皇居、王城、秦以後に始まりたる專稱。○（漢）「蕭何作二未央一—」。
（は）祖先の靈を祭れる處、宗廟。○（詩）「子以用レ之、公侯之—」。
（に）神仙の居處、又、すまひの尊稱。○（決疑經）「銀—金闕、列仙牧レ館」。
二曜れ歡はれたる宴、おくの間、嚴處。○（周）「以陰禮教二六宮一」。
三后妃、皇子女、（貴きものにては）又、妻子、○（荀）「賜二予其一室一」。
四かき、（壕垣）。○（禮）「儒有二一步之—一」。
五五音の一、其のうちの中聲にして主となるもの。○（史）「上音、聲出二於脾一、合二於口一而通レ之」。
六男は、淫勢を割き、女は、淫部を幽閉する刑、腐刑。○（禮）「公族無二—刑一」。
七圍む、めぐる、（繞）。○（爾）「大山—、小山霍」。
（神宮）學校。○（詩）「既作—…泮宮、獻」。
（行宮）天子のみゆきせる處になるみや、かりのみや。○（呉都賦）「—…之處」。
（貴宮）皇太子の在す宮殿、又、皇太子を尊ずるに用ふる語。○（詩）「—…之條」。

（漢宮）周の時代には皆村を離れる宮殿をいふ。○（後）「天子、留二于—一」。
（中宮）漢の時代には皇后を稱する語。○（後）「有二樹屏—…之重」。
（後宮）內宮のことにて、妃嬪を總する語。○（後）「有二嬪」。○（西都賦）「—…之間、十有四位」。
（後宮）正殿をいふ。○（後）「五帝神靈處—…之中」。
（離宮）皇居をはなれて別處にある宮殿。○（後）「離」。
（離宮）「よつぎの宮、御ちゝ、女を離していふ。○（後）「離日、離宮別館—…」。
（春宮）前に同じ。○（竹書紀年）「周厲王居—…」。
（青宮）前に同じ。○（初學記）「—…一日、春宮、」。
（東宮）陳は東方の數にて長男の數なり、故に同じ。○（後漢）「木德、青—…」。
（東宮）いつきの宮、即ち神には（まつる宮殿。○（後）「王即—…」。
（沖宮）御幸をいふ。○（後漢文帝）「華陰流—」。
（殿宮）前に同じ。○（朱慶餘）「聞書入—…」。
（黃宮）黃葉に成て用ふる語にて國王をいふ。○（後漢）「—…風塵緯羅月」。

宮 ゴ、ク。五故切 遇

寤に同じ、さむ、又、れざめ。

宰 カウ、ケウ。許交切 巧 或は孳に作るとあり。

氣上がり蒸す、うむす。

言 ゴウ、ゲ。五東切 東

やはらぐ（和）。

宰 サイ。子亥切 賄

一司掌す（處置す、をさむ（治）、きりもりす、制、萬物、役二使羣動一）。○（史）「—二制萬物」。
二つかさ。
（い）つかさどる者、主任者、官吏、職員、○（周）「里—掌レ比三其邑之粢、寡與二其六畜兵器一」。

（ろ）家臣の長、かさ。○（詩）「諸—君、趨」。
三料理す、膳羞をつかさどる、にる（烹）、ほふる（屠）。○（通）「夜則烹—燕樂」。
四料理人、ちだし方。○（漢）「里中社平、宰肉、分肉甚均」。
（冢宰）天子を相けて百官を御する役、相國、大冢宰、「秦漢時代の長上官。○（書）「—…邦伯、天宰」。
（冢宰）前に同じ。○（周）「吉凶禮」。
（冢宰）前に同じ。○（後漢）「時論陶」。
（冷宰）前に同じ。○（後漢）「—…」。
（太宰）女、治行政の長官、又、前に同じ。○（呂）「將、以求—…」。
（守宰）つかさ。○（後漢）「—…殺見擒」。
（屠宰）料理人、仕出し方。○（禮）「身執—…」。
（主宰）つかさ。○（呂）「心實爲之—…」。
（庖宰）料理。○（禮）「躬親—…」。
（膳宰）前に同じ。○（史）「—…」。
（眞宰）まことのつかさ、造物者。○（史）「有—…」。
（樵宰）つかさどる。○（孔叢子）「何時還—…」。

宰 キウ、ク。巨鳩切 尤

求に同じ、室內を搜す、もとむ、さぐる。

宰 サ。助駕切 禡

一ひろし、ゆるし（寬）。二まこと（實）。

寒 カ、ケ。虛訝切 禡

牌に同じ、ひまぢきまど（窗）。

害 カイ、ガイ。何蓋切 泰

一そこなふ。
（い）創を負はす、うちたゝく、切り割く、傷つく。○（水經註）「水流迅、急勢同二三峽一、破二舟船一」。

（ろ）不利な被らす、危からしむ、患に

いたす、災難に逢はす。○（易）「鬼、神—レ益而祐—レ謙」。
二さはりなく爲す、さまたぐ、妨。○（左）「謂二其三時不レ—而民和年豐一」。
三己れに不利の及ぶを患ひて惡む、それむ、いむ（忌）。○（史）「上官太夫與レ之同列、爭レ寵而心—其能」。
四傷つけらるゝと、不利なること、危患、わざはひ、災難、さはり、さまたげ、惡み。○（後漢）「上長三不測之難、下懼二劍客之一—」。
五山川、地形の國防上に最も利益あると、又、其の場所、即ち、敵の不利となる義。○（戰）「秦之號令賞、罰地形利—天下不レ如也」。
（害害）わざはひ、さまたげ、又、惡みを受くるやうなる行をなすにいふ語。○（左）「吾聞君、此其以—也」。
（枝害）そこなふ。○（呉）「而上皮蟲蟲—…」。
（妨害）前に同じ。○（改亞之）「敎力—…」。
（害害）前に同じ。○（魏）「—…之賊、關於軍事」。
（害害）自然に起こりたる災をいふ。○（公羊）「火者、皆惡—…也」。
（害害）惡き觀をいふ。○（呉）「標作—…」。
（害害）惡しきものをそこなふ。○（後漢）「—…」。
（害害）惡しきものをそこなふ、人を害をそこなふ。○（後漢）「性—…邑惡惡之」。
（害害）惡に人をそこなふ。○（後漢）「別性對敎—…」。
（害害）きびしく惡きてそこなふ。○（後漢）「—…之吏」。
（害害）水を棲む虫の物をそこなふ、人の爲をそこなふものにいふ語。○（史）「非、物敎—…、不、爲—…加、非、道」。
（害害）前に同じ。○（後漢）「海陸人、性敎害」。
（害害）おびやかし傷ふ。○（後漢）「—…」。
（害害）苦しきそこなひ。○（周、書）「病見—…」。
（害害）さまたげ。○（後漢）「豎、師、家、相—…」。
（害害）そねみにくむ。○（南史）「而自嫉—…」。
（害害）猛き鳥の物をそこなふより、よくそこなふ、にいふ語。○（後）「時忌—…」。
（害害）みどもそこなふ。○（呉）「—…、—敗、」。

〔孤客〕 孤獨をうかゞひてそこなう。○〔書〕「——
〔孤客〕 そこなう。○〔孟〕「——
〔孤客〕 わざはひ。○〔孟〕「——
〔孤客〕 そこなふ。○〔孟〕「多財孤——」。
〔孤客〕 なやましそこなふ。○〔孟〕「——
〔孤客〕 ——無相——」。
〔孤客〕 必要の語。○〔孟〕「不——」。
〔孤客〕 前に同じ。○〔詩〕「中——」。

害 カツ、ガチ。何割切 〔曷〕

曷に同じ、反語にて疑問の意を表はすときに用ふる字。

(い)いつか。〔時に就きて〕。○〔孟〕「時日——害」。

(ろ)いづれ。〔物に就きて〕。○〔詩〕「——何故に、なんすれぞ、いづくんぞ。○〔書〕「王——不レ違」。

宴 エン。於甸切 〔霰〕 〔醼・讌・燕に通じて作る。〕

(ち)ひまなり。間暇なり。○〔霰〕

士「蠶龍里—閭」。

(ろ)たのしむ。静かなり。○〔黄〕

庭内景經「大神合集虛—中」。

(に)たのしむ。たのしみ。〔樂〕。○〔詩〕「總—角之—」。

(ほ)ひまにて居る。心ゆづかに起臥す、やすむ。○〔易〕「君子以懼レ晦入—息」。

(へ)酒に同じ、酒飲みてたのしむこと、客に酒食をすゝむること、さかもり。○〔左〕「有二折俎一」。

〔孟宴〕 やすむ。○〔左〕「——
〔休宴〕 前に同じ。○〔左〕「——
〔飲宴〕 さかもり。○〔後漢〕「——
〔飲宴〕 酒盛なるさかもり。○〔水滸〕「——
〔飲宴〕 ——」。○〔詩〕「——
〔飲宴〕 水のさかもり。○〔詩〕「——

宵 セウ。相邀切 〔蕭〕

(い)よひ、よさ、よる。〔夜。○〔詩〕「——
「人離—外—刑—者」。

(ろ)明坦の塗に由らざること。○〔荘〕「——
(ち)ちひさし。〔小。○〔禮〕「——雅肆レ三」。

(ほ)かはる。〔化。○〔洛神賦〕「恨—神—而
(へ)鏡に通じて用ふ。○〔後漢〕「——
(と)——行。

〔宵宴〕 よるすがら。○〔書〕「——
〔宵宴〕 夜のなかば。○〔書〕「——
〔宵宴〕 よるすがら。○〔書〕「——
〔宵宴〕 周の穆王の愛で寵ひし周の名。○〔後漢書〕「——
〔宵宴〕 夜のいとまで。○〔李商隱〕「——
〔宵宴〕 前に同じ。○〔孟〕「——
〔宵宴〕 ——夜に同じ。○〔孟〕「——
〔宵宴〕 ——夜に同じ。○〔孟〕「——
〔宵宴〕 ——夜

容 ヨウ、ユ。余蹤切 鍾

前條の㊀の(ロ)と㊁とに同ト。

八畫

宮 キヨ、コ。九魚切 魚 一本、略に作る。

㊀うる。(賣。)㊁たくはふ。(貯。)㊂なる。(居。)㊃やどる。おく。(舍。)

寂 ウ。衣過切 箇

かりれ、うたゝれ。(假寐。)一說に、寐の譌字とあり。

宿 シユク。息逐切 屋

㊀とまる、とゞまる。(止。)

(い)一定の處に居りて移らず。○(荀)「使下臣下百吏莫不二一レ道鄉レ方而務一一。」

(ろ)とりつゞまる。○(荀)「所歸一一。」

(は)やどる。㊁に同ト。

㊁やどる。

(い)夜中にとまる、とまりて夜を過ごす、特に、一夜とまるにいふ字。○(左)「有レ客一一。」

(ろ)途中にて息む。○(北)「街坐著一一處。々遊行。」

(は)暫の間假りて住む、やど借る。○(莊)「仁義先王之逵廬也、止可二以一一一、而不レ可二以久處一一。」

(に)星其の座に移る。○(說苑)「日月五星之所一一也。」

㊂とどむ。

(い)移らしめず又、やどらしむ、やど借す、やどす。○(後漢)「光武笑因留一一閒語。」

(ろ)論議す、ひまをいう。○(論)「子路從而後、行、遇丈人、以杖荷蓧。問曰、子見夫子乎。丈人曰、四體不勤、五穀不分、孰爲夫子。植其杖而芸。子路拱而立。止子路宿、殺雞爲黍而食之。見其二子焉。明日、子路行以告。子曰、隱者也。使子路反見之。至則行矣。子路曰、不仕無義。長幼之節不可廢也。君臣之義如之何其廢之。欲潔其身而亂大倫。君子之仕也、行其義也。道之不行、已知之矣。」

㊃やどり、又、とまり。

(い)やどると、又、やどる場所、やど旅舍、やどりはたごや。○(周)「三十里有レ一一。」

(ろ)星移ると、又、星の座、卽ち、星のあつまりて一團をなす現象、支那古昔の天文にては之を二十八區に分かちたりき。○(素問)「故天有二一一度一。」

㊄一よさ。○(王褒)「連三五一一分建レ」

㊅やすんず(安。)○(左)「官一一其業一。」

㊆まもる。(守。)とのゐ(直。)○(劉孝威)「直一一九重一。」

㊇ひさし。(久。ふるし。(舊。)又、もと。(素。)○(史)「晉鄙嚴、暗一一將。」

㊈夙に同ト。はやし。はやくす。(早。)○(周)「世婦掌二女宮之一一戒一。」

㊉齋に同ト。つゝしむ又、つゝします、いましむ。(戒。)○(禮)「宮宰一一夫人一。」

㊊ひさしく其の事に從事したる者、老練者又、年を重ねたる者、老人。○(杜甫)「深藏供二老一一。」

(律管)ものいみして一夜を過ごす。○(禮)「弟子一一一而後敢言。」

(律管)二日のとまり。○(禮)「殺女一一。」

(律管)前に同ト。○(左)「一宿餘食一一一。」

(後漢)「孟。」

(韓愈)宮の外に於ける。○(後漢)「商人一一一宇(草書)前に同ト。○(禮)「明行一一。」

(論語)前に同ト。○(禮)「一一早決。」

(公羊)名高き老人。○(後漢)「浮游之所中一一。」

(比喩)やとかる。○(左)「假道于仁、一一于義。」

(名語)年たけたる者。○(後漢)「山中一一依然」

(宮語)一夜をあかす。○(禮)「有客一一。」(注。)

(宮語)やどる又、かりの住居。○(史)「一一軍兵」

(宮語)「軍會。」

(宮語)やどる、とまる。○(禮)「一一去夜。」

(宮語)とまること。○(後漢)「付家收一一。」

(止語)前に同ト。○(後漢)「書圖一一幸上。」

(宮語)前に同ト。○(禮)「故明王動中禮、則不一一而知。」

(宮語)前に同ト。又、やどり。○(後漢)「盜賊共言、多見聊城。」

(宮語)若人の住居する所。○(後漢)「一一大貴形勢。」

(宮語)「後漢書」「一一軍兵、傳語。」

(宮語)「後漢書」「王伯一一、長樂在、廣。」

(宮語)日をかさねてとまる。○(後漢)「方直。」

(宮語)日をかさねてとまる。○(後漢)「一一、思

宿 古文の宿の字。

宵 セキ、シヤク。思積切 錫

よる、よさり。(夜。)

寀 サイ。此宰切 賄 倉代切 隊 又、采に作る。

つかさ。

(い)官府の職務、つとめ。○(封禪文)「官府の職務を帶ぶる者、官吏、官人、特に其の采邑あるものゝ稱。」○(宗)「官二吏一一稱寀。」

(韓愈)太子に屬する官。○(蘇軾)「中以一一王官、卽ち、諸侯。」

(宮語)官吏のこと。○(孟)「滕絃」「一一毋以國」

(宮語)宮中に奉仕する役人。○(劉)「一一無田以謀言。」

(宮語)朝廷の役員。○(沈佺期)「一一與任命。」

(宮語)貴客と役人と。○(白居易)「其一一官、有以親之。」

寀 サン、子感切 感 セフ。切 豏

さしはやし、すみやか、速、亟。○(詩)「無我惡、反、不レ一一故也。」

寂 セキ、シヤク。前歷切 錫

まづか。

(い)動かざること、定まり安んずること。○(易)「一一然不レ動感而遂通天下之故一一。」

(ろ)人の居らざること、音聲の聞こえざること、むなしくしてはるかなること、ひッそりとしたること、さびし。○(管)「尊日垂二簾門、閉一一。」

(說苑)さびしく靜かなる處に上る。○(左)「一一寧宅。」

(韓愈)前に同ト。○(杜甫)「多病關愁常一一。」

(宮語)前に同ト。○(劉)「聊寄一一。」

(宮語)前に同ト。○(劉)「聞寂寂、刑罰寧一一。」

(宮語)靜謐なくして靜かなること。○(禮)「一一以俟。」

(宮語)まづかなること。○(參)「所以一一一、動之發。」

(宮語)前に同ト。○(劉)「嘯岳時一一。」

(宮語)前に同ト。○(文心雕龍)「子書一一。」

(宮語)長閑く靜かなること。○(白居易)「東都有山、曰翻谷一一。」

(宮語)「死必有。」

(宮語)「高賢傳」「陸公一一、方入若耶山。」

(宮語)まことに久く靜かなること。○(王)「何其門一一。」

(宮語)高妙にして靜かなること。○(方)「若紀、韋門一一。」

(宮語)前に同ト。○(崔)「太宮」「後漢」「一一、他之奠、測其根。」

(宮語)前に同ト。○(孔安國)「道不一一、非、者、」

(宮語)(い)前に同ト。○(孔)「爲本却一一。」

(ろ)さびし。○(李)「使民」「一一、一一、地。」

寄 キ。居義切 寘

㊀よす。

(い)まかす、たのむ、ゆだぬ、委任、囑託。○(論)「可三以一一二百里之命一一。」

(ろ)おくる、遣る、又、傳ふ。○(管)「先以二一一匹錦一一相一今可見一一。」

(は)むかふ、かたむく、つく。○(洛神賦)「長一一心於君子一一。」

(に)やどかす、とゞむ、やどす。○(周)「註」「不レ爲二一一廛舍一一、以一一身聖世一一。」

(ほ)もたせかく、又、かこつく。○(管)「

(ほ)よる。

(い)もたれかゝる、すがる、もたる、たよる、因緣す、繫がる、かゝる、ちなむ、又、てづる、たより、ちなみ、つて、因緣。○(漢)「請一一爲レ秦軍小日遣。」

(ろ)假りに住む、やどる、故土を離れて住む、寓居、羈旅。○(淮)「生者一一也、死者歸也。」

(は)迫まる、近づく。○(盧道人)「若二玄音有ア一。」

㊂やどりする場所、やどり、やど。○(國)「國無二一一寅。」

(宮語)みもの委任。○(後)「明公荷國一一一。」

(宮語)あたなるたのみ。○(宗)「人生若一一一。」

(宮語)信任、又、そのこと。○(江)「國風」「一一一。」

(宮語)前に同ト。○(孝)「周官」「委政一一一。」

(宮語)前に同ト。○(論)「宰問」「一一一。」

(宮語)ふかくまかす。○(管)「宰問」「一一可一一。」

(宮語)前に同ト。○(後)「陳相」「一一一、學者見從。」

(宮語)前に同ト。○(江)「前」「一一一、陳城。」

(宮語)「後漢」「僧」「一一一、陳城。」

(宮語)「朝」「朝廷よりの委任。○(管)「安國」「委國」「一一一、

(宮語)「東山之宅、始末不一一。」

(宮語)俗を離れたること。○(晉)「馬」「一一一。」

(宮語)「郭」「郭璞の委任。○(後)「人」「一一一。」

(宮語)「宮」「宮中なる委任。○(後)「人」「一一一。」

(宮語)またしみまかす。○(後)「西」「一一一。」

(宮語)またしみまかす。○(後)「西」「一一一。」

(宮語)いつくしみまかす。○(後)「文」「一一一。」

(宮語)よす。○(元)「摩」「摩」「一一一。」

(宮語)「松石」「書」「書委任のこと。○(朱)「書」「一一一。」

(宮語)「方」「國」「一方國を守る大將の任務。○(名)「臣百官付託」「書」「一一一。」

寅 イン。弋眞切 眞 イ。

以脂切 支

本、寅に作る。

(宮語)「一方國を守る大將の任務。○(名)「臣百官付託」「書」「一一一。」

(宮語)「一一一、不敢動。」

(宮語)「一一一、不敢動。」

(宮語)「一一一、不敢動

（外戚）母方より攻め來たる敵。○（篇）「一…」者少利。「一…」者不利。（樓宮）苑のさかひをかかすあたた。○（國）「得」紋器。

寀 臣に同じ。○（班固）「鼓―」即曹魏也。

九畫

賓 テイ、チャウ。知盈切 庚

人の名。

宵 セイ、シャウ。所景切 敬

省に通じて作る。宮禁に設けある官署、つかさどころ。

寒 ケン。九件切 銑

徒に磬を鼓つ、うつ。

寒 ケン。巨健切 阮

女の字（あざな）。

窒 古文の煙の字。

寃 ウツ、ウチ。紆勿切 物

びだれ、うづみび（火種）。

家 テン、デン。丑院切 銑

叢に同じ。

富 ヒウ、フ。方副切 宥 俗には冨に作る。

㊀（い）そなはる。（備）「又、みつ、（充）。○（禮）「君稷之祀易」―」。（ろ）厚し、多し、豐かなり。○（玉篇）之樂堂」「歌自三德」―」舞由三功深」。（は）裕に貯ふ、多く積む。○（史）「悼事王」―」於春秋」。（に）資産を多く有つ。○（易）「不二耕穫」不」―」。

㊁とみ。（い）とめると、資産多きこと、（㊀）の條參照。○（禮）「辭」―不」辭貧」。（ろ）貯ふる度合、資産の量。○（禮）「都城不」過三百雉」、家」―不」過三百乘」。（は）貨財、又、資産、又、價あるもの、泛稱。○（書）「非」宝」―寶」、「力」―天所」―」。

㊂とみてあらしむ、さます。○（後漢）（音宮）（シ）財寶多きを貴ぶ。○（禮）「殷人」―」而貴」財」。（ろ）地位高く且つ財寶多し。○（史）「今在勢」（殷宮）さかんにとむ。○（禮）「所」―」家」。（晉宮）前に同じ。○（易林）「呼」―」。（設宮）ゆたかにとめる。○（國）「飲」―」。（佈宮）前に同じ。○（禮）「家」―」。（鑑宮）すでにとめる。又、其の有。○（史）「使」天下」―」設」。（巨宮）前に同じ。○（後漢）「自」高」―」。（建宮）強くして且つとめる。○（史）「君」―」。（神宮）さかりなる。○（禮）「主」―」秋」。（宏宮）ひろくゆたかなる。○（禮）「文」―」。（等宮）ゆたかなる。○（禮）「醇」―」。（鑑宮）前に同じ。○（禮）「醇」―」。（詳宮）あきらかにして味かなる。○（禮）「醇」―」。（樂宮）うるはしく味かなる。○（禮）「亡」―」。（嘉宮）にはかにとめる。○（孔叢記）「長」―」。（繪宮）すぐれて多し。○（禮）「オ」―」。（頌宮）樂くゆたかなる。○（何承天）「文」―」。

盈 古文の寧の字。

病 ヘイ、ヒャウ。皮命切 敬 兵永切 梗 或は病に作る。

寢臥中に驚き覺むる病。おびえ、おそれ。一說に、多く寐ぬ。

窶 クワン、クワン。胡官切 寒

まほりのかき、かき（周垣）。

寘 クワン、クワン。巨官切 寒

地の名。

寐 ビ、ミ。密二切 寘

寢に就く、いぬ、（寢）やすむ、（息）、又、ふす。○（詩）「夙興夜」―」。（篇）目さむるにも、いぬるにも、樂しむ意。○（禮）「寢」―」。（後漢）うたゝね。○（詩）「―」木蘭。（夢寢）いねてゆめむ。○（後漢）「夙夜」―」。（熟寢）ふかいす、よくいぬ。○（荀）「夜則寢燭而」―」。（寢寢）臥床に入りていぬ。○（公羊）「―而不」―」。（寢寢）人の死ぬるにいふ語。○（古詩）「―」黃泉下」。（失寢）いねべき時をうしなひていねられぬ。○（前漢）「時智」―」。（夢寢）くたびれて前後を知らぬにいねる。○（孔叢）「嚴師」―」之」―」。

寐 エイ、於計切 エツ、烏結切 エチ。切 ふづか（靜）、やすし、安。

寢 古文の寢の字。

寒 カン、カン。胡安切 寒

㊀さむし、あつしの對。（い）ほなはだ冷かなり、熱さいと少し、冬の時氣なり。○（莊）「毛可三以禦風」―」。（ろ）さむきを感ず、又、ぞっとする心地す、身ぶるひす。○（名臣言行錄）「四賊開之、心骨」―」。（は）いやし、まづし、ひくし。○（晉）「出レ自」―微」（有文武才幹）。

㊁さむきと、さむき度合、さむさ、又、冬の季節。○（易）「一」―」暑」。

㊂將軍すくるしむなやむ。○（史）「范叔」―」如此說」。

㊃さむさになやむ、こゝゆ。○（韓愈）「父饑兮兒」―」。

（結寒）大寒に同じ、いたうさむし、又、其の季節。○（冬）「冬」―」。（凍寒）さえてさむし。○（左）「鄂山頂後、暗陰！」（凍寒）低に寄ひたるを、冬に談に思ひて行はむ。○（左）「今吾子曰、必尊、既、若尊」―」也、亦可」―」也」乃不尊」問」。（凍寒）さむさのきはまりなるに、又、其の時。○（冬）「陰」―」。（寒寒）前に同じ。○（禮）「冬」―」不」衣」。（冬寒）例に異なりていさむし。○（西陽雜俎）「今」―」。（凍寒）物すさくさむし。○（後漢）「冬不」―」。（凍寒）陰氣とりてさむし。○（禮）「冬時」―」之氣」。（寒寒）前に同じ。○（孔叢）「春前日」―」而南」。（寒寒）とよなきさむさ、又、其の季節。○（易）「雷雨」―」。（寒寒）前に同じ。○（管）「春何以」―」攻」。（寒寒）前に同じ。○（年穀）「冬只解作」―」。（寒寒）飢とゆえと。○（後漢）「―」供厨」。（寒寒）さむきを物の飢とる思はを言ふ。○（禮）「夜以」―」竹」。（寒寒）すこしのさむさ。○（前漢志）「孟月冰」―」。（寒寒）前に同じ。○（後漢文志）「―」皮」絵」。

寇 ケウ。奈幺切 篠

むなし（空）。

十畫

寖 漸に同じ。

寧 寧に同じ。○（漢）「永以康」―」。

索 サク、シャク。所責切 陌

索に同じ、さがす、もとむ。○（史）「大」―」天下」。

索 サク。蘇各切 鐸

索に同じ、つく、ちる、さびし。○（書）「惟水之」―」。

壹 籀文の漫の字。

寘 シ。支義切 寘 俗に、寘に作るはあし。

おく。

（い）納る。○（詩）「―」予于懷」。（ろ）すつ、（廢）。○（詩）「―」彼周行」。（は）移らしめす、とどむ、（止）。○（周）「―」之圜土」。（に）納む。○（左）「凡而器用財賄無」―」於許」。

（㊀）助けておく。○（宋）「―」社稷」。（名）呼びよせおく。○（史）「復」―」二昆」。（私）己れのみの利をはかりて個超なる處置をなす。○（荀）「功被天下、而不」―」。（貿）たからとしてをさめおく。○（經史）「趙中定得之」―」。（收）とりれておく。○（宋濂）「方孔法用西」―」門法」。

寡 ヒウ、ヒャウ。切勇主 麌 ともに別なり。

寡 寡の字とは音義

十一畫

寤 コウ、ク。居候切 宥 木蘚に作る。「く。

（㊀）おこたる、懶。○（史）「怠」―偷生」。（㊁）ゆがむ（邪）。○（史）「器不苦」―」。

寤 コウ、ク。居候切 宥 木蘚に作る。

（㊀）よる（夜）。（㊁）室の深くひそまりたる處、れや、おく。

窈 チウ、ウ。烏孔切 置

室の中暗し、なぐらし。

寐 ベイ、マイ。莫禮切 霽 或は寐に作る。

熟く寐ぬ、いぬ。

寤 バウ、マウ。謨郎切 豪

ねごと（寐語）。

寤 古文の寶の字。

十二畫

寮 カウ。苦岡切 陽 口期切 豪

屋の閑かなるにいふ字、まづか、又、むなし（空虛）。○（司馬相如）「委參差以―」寞」。

寞 バク、マク。慕各切 藥 本嘆に作る。

聲なきこと、定まり安んずること、ひっそりとしたること、まづか、さびし。○（王勃）「氣恬海―」。（神寞）よおくしてしづか。○（雜記）「軍趨」―」。（寂寞）かずかにしてまづかなること。○（王融）「仰華軍之」―」功」。（寥寞）まづか、さびし。○（方言）「太陽無光天！」（寂寞）さびし、又、まづかなること。○（邑）「」―」者」。（孤寞）前に同じ。○（禮）「才」「故曾同」―」。（孤寞）かたちの定まらざる說にいふ語。○（莊）「天下」―」無形」。

察 サツ、サチ。初八切 黠

（㊀）あきらか。（い）了解すること、疑はざること、又、つまびらか、審。○（李陵）「功大即小不」察」明」―」。（ろ）昭かに著はれたること、知れ且りたること、又、いちじるし。○（中）「言」其上下」―」。（は）注意の行き屆くこと、こまゝくしき事に迄もおちなきこと。○（荀）「人太」―則無徒」。（に）智慧の多きこと、才のすぐれたること。○（漢）「淮陽憲王于」時諸侯」（㊁）聰」―」矣」。

（㊁）あきらかに分別す、つまびらかに了解す、つまびらかにす、あきらかにす、あきらむ、ふる、（知）。○（左）「鄭」―」其政」。

（㊂）くりかへして正す、究めあきらむ、かんがふ（考）、仔細に取り調ふ、つまびらかにみる、みる（視）。○（唐）「一」―」官人善惡」―」賦役」。

（㊃）己れのみの想像なること、不公平のかんがへなること、偏見。○（莊）「道德不」一、天下多得」―」焉、以自好」。

（㊄）潔清の親にいふ字、きよし、いさぎよし。○（屈平）「安能以三身之」―」受」物之汶々」。

（㊅）不必要の細事多し、多くして厭ふべしくだ〳〵し、わづらはし。○（老）「其政」―」。

（智察）こまかな事にまでも目をつくること。○（荀）「―」分別」。（計察）分別しておちかはす。○（國）「懷陵下」―」。（察察）たてしみる。○（後漢）「其有」―」。（孤察）前に同じ。○（後漢）「其有」―」。（按察）よもやかんがへ。○（史）「」―」無實」。

（い）ふす。（寄）。○（禮）「大夫」―」祭器於大夫」、士」―」祭器於士」。（ろ）つく（屬）。○（左）「得三臣與」―」目焉」。（は）やどかす、やどす居らしむ。○（孟）「無」―」人於我室」。（に）或る目的の爲めに或る事を假り用ふ、かこつくことよす。○（史）「著書十萬、餘言大抵率」―」言也」。

（い）かゝりゐる、やどかる、やどる。○（禮）「諸侯不レ臣」―」公」。（ろ）ゐる（居）。○（左）「請」―」乘」。

（㊂）かりのすまひ、やどやどや。○（國）「無」寄」―」。（㊃）鳥の名、其の形は、鼠の如くに形翼あり其の音は羊の如しとぞ。

（㊄）獼猴の類、木の上により棲むよりいふ。○（爾）「有」―」屬」。

（使寄）前に同じ。○（社稷）「國」―」之主」。（除寄）敵國を滅ぼして他に居ること。○（國語）「南北」―」。（寄寄）（シ）一族の者を寄宿せしめる國食やさや。○（國）「屬」―」。（ろ）他の家にやさり居る。○（史）「賓客」―」之士」。（社寄）ことよす。○（史）「依」―」。（鑑寄）他郷にやさる、又、やさや。○（北）「臣」―」少」―」、而忘性無」。（旅寄）前に同じ。○（北）「而」―」時物」―」。（寄寄）水草の如く、或は處定めずかたこなたに身をよせること。○（宮士傳）「段干木自」―」―」長西」。（鑑寄）處定めず身をよせること。○（王勃）「我之」―」西」。（鑑寄）かりのすまひ。○（司馬光）「可使」郭逸者有」―」洋」―」者各」―」木」―」矣」。

寔 ショク、シキ。丞職切 職

まことに、實、又、たゞ、（止）、又、これ、（是）。○（左）「春正月」―」來」。

寔 ヒ。勇主切 麌 ともに別なり。

寔 寔の字とは音義

寔 サツ、サチ。初八切 黠

（㊀）おこたる、懶。○（史）「怠」―」偷生」。（㊁）ゆがむ（邪）。○（史）「器不苦」―」。

寤 コウ、ク。居候切 宥 木蘚に作る。

（㊀）よる（夜）。（㊁）室の深くひそまりたる處、れや、おく。

窈 チウ、ウ。烏孔切 置

室の中暗し、なぐらし。

寐 ベイ、マイ。莫禮切 霽 或は寐に作る。

熟く寐ぬ、いぬ。

寤 バウ、マウ。謨郎切 豪

ねごと（寐語）。

寤 古文の寶の字。

寮 カウ。苦岡切 陽 口期切 豪

屋の閑かなるにいふ字、まづか、又、むなし（空虛）。○（司馬相如）「委參差以―」寞」。

寞 バク、マク。慕各切 藥 本嘆に作る。

聲なきこと、定まり安んずること、ひっそりとしたること、まづか、さびし。○（王勃）「氣恬海―」。（神寞）よおくしてしづか。○（雜記）「軍趨」―」。（寂寞）かずかにしてまづかなること。○（王融）「仰華軍之」―」功」。（寥寞）まづか、さびし。○（方言）「太陽無光天！」（寂寞）さびし、又、まづかなること。○（邑）「」―」者」。（孤寞）前に同じ。○（禮）「才」「故曾同」―」。（孤寞）かたちの定まらざる說にいふ語。○（莊）「天下」―」無形」。

【廢】あらかじめ。○〔北〕「勢」に於歩―…。
【廢】つまびらかにみる。○〔周〕「邸」面―…。
「―」…明明如火。
【明】くもりなくあきらかなること。○〔孝〕「天」地―…。
【寥】前に同じ。○〔周〕「天」高―…。
【寥】前に同じ。○〔周〕「天」高―…。
【寥】前に同じ。○〔北〕「―…」草。
【寥】きわめて。○〔周〕「蟬」有―…。
【鮮】つぼに等よし。○〔北〕「足」下―…之。
【鮮】くはしく等よし。○〔北〕「顯」大―…之。
【鮮】かんがへよし。○〔北〕「以」鮮―…。
【鮮】物事に秘のつよく怜悧なること。○〔周〕「少」而―…。
【檢】えらべみる。○〔後漢〕「以」相―…。
【檢】前に同じ。○〔後漢〕「―」…工郎。
【檢】前に同じ。○〔後漢〕「能」―…廉潔。「―」…。
【檢】おしきはめ等よ。○〔後漢〕「所」宜―…。
【檢】そねみ等よ。○〔後漢〕「智」高―…。
【檢】十分にえらぶ。○〔北〕「明」朝所當―…。
【檢】あきらかにみる。○〔後漢〕「父」…未―…。
【檢】雨水等檢。
【檢】かんがみる。○〔周〕「―」…成敗。
【檢】うかがひみる。○〔周〕「尤」工―…。
【檢】めやすをえらぶ。○〔北〕「選」侍臣―…。
【檢】あきらかに等よ。○〔周〕「仕」…聖下―…。
【檢】探りえらぶ。○〔周〕「多」所―…。
【檢】たやしえらぶ。○〔周〕「在」…怪怪不―…。
【檢】…。
【檢】さとる。○〔北〕「明」…所不―…。
【檢】かたよりておしはかる。○〔北〕「朝」好―…。
【檢】たづねえらぶ。○〔北〕「學」…―…。「名」。
【檢】…。

寗 浸に同じ。一說に、寢の誤字。

寒 ク。其矩切 麌 ル。其遇切 遇

禮なくして居る、又、まづし、貧、まづしければ禮を備ふること能はざる義、又、まづしきになやめり、やつる、やつくし。○〔詩〕「鉄―且貫」。

【寒】前に同じ。又、貧の誤はくるしむ。○〔文仲子〕「……」。
【寒】…。
【寒】…。
【寒】…

𡨦 ガン、ゴン。午含切 覃
喰に同じ、寐中の語。れごと又、いびき。〔寐整〕。

𡨦 チョ。展呂切 圖
貯に同じ、たくはふ、たくはへ。○〔周〕註〔一〕二米穀一而時二久、雨疫、病、貴賣レ之。

窿 リウ、ル。力公切 東
穹―は、穹窿に同じ。○〔元好問〕〔鑑〕石穹―、與レ天終。

𥨊 セイ、シヤウ。息井切 梗
慥に通じ作り、又、借りて醒に作る、さむ、ささる、悟。

𥨊 サウ、ジヤウ。鋤耕切 庚
屋大いなり、おほいなり。

審 シン。式荏切 寑
○くはしく分別すること、熟く研究すること、事情を悉くすること、つまびらかに、あきらか。○〔唐〕〔書〕〔局者迷旁〕觀者〔一〕。
○きはむ。
〔い〕つまびらかに考ふ、はかる。○〔禮〕〔一〕二卦吉凶〔一〕。
〔ろ〕罪を取り調ふたること。○〔書〕〔其〕〔一〕克之〔一〕。
〔は〕〔周〕〔一〕十羽〔爲レ〕〔一〕。
○束ねたるもの、たば。○〔周〕〔一〕十羽〔爲レ〕〔一〕。
〔註〕〔一〕。
〔註〕〔一〕。
〔註

二十畫

𢤱 ボウ、モウ。忙肯切 𢤱
おろか、くらし。(疑)。

廿一畫

𢤱 ベイ、母禮切 ビ、母被切 ミ。切 𢤱
寐に同じ。寐れて覺めず、れいる、一說に、おそはる。(寬)。

廿二畫

𢤱 シン。七稔切 𢤱
病みて臥す、ふす、又、いぬ。(寢)。

𢤱 カン、ヰン。火含切 豐
冠帶を脫がずして寐ぬ、又、ふす。(偃)。

廿五畫

𢤱 寐に同じ。

寸 部

寸 ソン、スン。倉困切 𢤱
❶尺度の名、一分の十倍の長さ。○〔家語〕「布レ指知レ一」。
❷おもふ、はかる、「付」。○〔漢〕「一者付也、有二法・度可レ付也」。
〔一寸〕(い)十分の長さ。○〔禮〕「鄉也銅人長一寸毛、長一一許」。
(ろ)僅かばかりの長さ。○〔賈誼〕「一一之地、一人得レ之」。
〔寸寸〕前條のろに同じ。○〔禮〕「輝人伐鼓聲聞、一一之地無得有、形帝訴有也」。
〔方寸〕(い)一寸四方のこと。○〔禮〕「前金一一而置一斤」。
(ろ)心を指する語。○〔禮〕「今日失若斯、一一」。

〔寸寸〕さしわたし一寸あること。○〔禮〕「曾有一一之疾、思車後十二乘者十枚」。
〔尺寸〕わづか、又、すこしの意に用ふる語。○〔禮〕「無一一之功」。
〔分寸〕前に同じ。○〔禮〕「無有一一之功」。
〔寸々〕(い)一寸の長さ毎に。○〔牧野〕「一一而度之、恐未必盡」。
(ろ)おだやか。○〔禮〕「一一歌樂」。
(は)少しづゝ。○〔禮〕「太宗一一而強一一生」。

三畫

寺 シ、ジ。祥吏切 𢤱
❶政事をとりあつかふ所、つかさ、やくしよ、官廳、府廷。○〔唐〕「後魏以來、卿・名雖レ仍レ舊、而所レ涖之局謂二之一一」。
❷佛を安置して僧尼の住む家、てら、精舍、梵刹。○〔南〕「幸レ捨レ身」。
❸君王のそばにさぶらひて其の使令に供せらるゝ者、おもとびと、おそば、內小臣、宦官、侍從の者。○〔周〕「一人掌二王之內一人一」。

〔寺人〕前條に準ずる官職。○〔禮〕「除宮闈門、一一守之」。
〔寺官〕さぶしきてら。○〔許彥〕「月高一一夜」。
〔寺省〕役所のこと。○〔任昉〕「女婦預一一」。
〔所寺〕前に同じ。○〔後漢〕「一一罰徵」。
〔官寺〕(い)前に同じ。○〔禮〕「攻一一」。○〔百居易〕「一一行、春少」。
(ろ)朝廷より賜られたるてら。○〔百居易〕「一一北寺」。
〔北寺〕宦官の役所、又、轉じて宦官をさしていふ語。○〔後漢〕「下一一獄」。
〔關寺〕前に同じ。○〔後漢〕「早逸身獄在一一、而官寺」。
〔官寺〕前に同じ。○〔後漢〕「方士賜一一、無故發」。
〔寺〕朝廷。○〔後漢〕「及一一、皆駭」。
〔佛寺〕てらのこと。○〔後漢〕「皆禁一一」。
〔野寺〕のはらの中に建てられたるてら。○〔後漢〕「一一聚居」。
〔國寺〕諸侯なるてら。○〔後漢〕「商敬、陶子一一」。
〔廟寺〕あれたるてら。○〔許慎〕「一一入門禾黍高」。
〔御寺〕かたなかにあるてら。○〔賈島〕「一一多」。
〔將作寺〕隋の時代に宮殿土木の事を掌る役所の名。○〔後漢〕「一一、軍諸營繕」。
〔宗正寺〕唐の時代に皇室の親族の事を掌る役所の名。○〔後漢〕「一一、一人、少卿二人」。
〔太僕寺〕唐の時代に輿牧輪輿の政を掌る役所の名。○〔後漢〕「一一、一人、少卿二人」。
〔太常寺〕唐の時代に禮樂郊廟陵墓の事を掌る役所の名。○〔後漢〕「一一、一人、少卿二人」。
〔鴻臚寺〕唐・宋の時代に賓客の事を掌る役所の名。○〔後漢〕「一一、一人、少卿二人」。

四畫

寺 リツ、リチ。劣戊切 𢤱
五ツの指にて持ち取る、とる。

尅 剋に同じ。

五畫

尋 ガイ、ゲ。午代切 𢤱
廢に同じ。

尌 巨に同じ。

六畫

封 ホウ、フ。府容切 𢤱
❶君王よりあてがはれたる諸侯の領地ちぎやう、食邑、采地。○〔東方朔〕「裂レ地定レ一」。
❷諸侯となし領地をあてがふ、爵位を與ふ。○〔史〕「以レ此一レ若」。
❸土地の境界、さかひ、又、其の標しとして土を盛りてつくりたるどて、昔は、固めのために必ず其の上に樹木を植ゑたりといふ。○〔周〕「掌二設二王之社壝一、爲二壝一而樹之」。

〔封疆〕諸侯の領地。○〔禮〕「一一之內、一人伐鼓聲聞」。
〔封人〕諸侯の領地を守る官。○〔禮〕「一一、掌二設二王之社壝一、爲二壝一而樹之」。
〔封爵〕諸侯の位爵。○〔禮〕「一一、一人、一人、一人

〔鍼師〕鍼醫に官める官のかしら。○〔殿〕鎮撫官。「一」。
〔鎮師〕戰兵を指揮する者。○〔左〕「鎮撫守北」。
〔官師〕官家ある官のかしら。○〔東觀漢記〕「一一不如一鄙諺」。
〔宦師〕宦のかしら。○〔詩・魯〕「天子以社稷・在宦士・重」。
〔上師〕勇ある高位の官のかしら。○〔史〕「廷論自三國「一一也」。
〔將師〕兵事にたけたる官のかしら。○〔後漢〕「將・是時」。
〔鎮將〕すぐれたる官のかしら。○〔後漢〕「一一・鎮軍・鎮國・將・多」。
〔邊將〕邊境を守るいくさびと。○〔後漢〕「家世」。
〔官將〕つよきいくさびと。○〔後〕「祐誠」。
〔長將〕前に同じ。○〔史〕「三表・長・一也」。

專 セン。朱遄切 〔先〕

一もッぱら。もぱら。
（い）純一なること、まことりけなきこと、又、まこと。〔誠〕。○〔呂〕「不二一心致志則不得也」。
（ろ）自ら是と信ずること、己が儘に行ふこと。ほしいまゝ。擅。○〔中〕「踐而好二自一」。
（は）ひとり。
二ひとり。
（い）其のものゝみなること、他を加へざること。○〔左〕「是四國者一足長也、又加之以楚」。
（ろ）其のものゝみにて占有すること。○〔書〕「罔俾三阿衡一美有商」。
三ちやうめん。〔交渉〕。
〔專專〕まことりけなきこと。○〔史〕「專專」。
〔專之〕一一・等・敬・敬慎・謹・「仮・慎」。
〔專專〕まことりけなきこと。○〔國〕「專戒」。
〔專一〕一一之不可化者。○〔宋・呂〕「心」。
〔專專〕ほしいまゝ。○〔後漢〕「不敢有一一之」。
〔專專〕ひとり。○〔文選〕「專獨乃一一」。

尉 ウツ、ウチ。於勿切 〔物〕

ひのし。〔火斗〕。

尊 ソン。祖昆切 〔元〕

一酒を容れ置く器。參照、禮客の禮に供るものとかだる。○〔周〕「掌二六・彝六・一之位」。
二竹置高し。敬ふ可し。たふとし。たかし。○〔易〕「天一卑」。
三敬び重んず。たふとぶ。うやまふ。○〔禮〕「自卑而一レ人」。
四たふとき人。即ち君・父・夫は申・佛・神などの稱。○〔禮〕「國無二二君一、家無二二一」。
〔尊尊〕天位・父位・夫位・天子の國。○〔史〕「一一・一而親親」。
〔世尊〕釋迦・佛の稱。○〔社・他〕「一一・赤・聲・鬼」。
〔最尊〕すぐれてたふとし。○〔後・後〕「天子一一者」。

尊（日尊之圖）

尋 セン。須全切 〔先〕

一たづさむ。〔修〕。二おもて。ほか。〔表〕。
三手に循づ。なづ。
〔前尋〕前に同じ。又、父母に報ずるに用ふる語。○〔尊・後〕「尊・其始・本・始」。
〔尊・後〕たふとみ。○〔國〕「君子・敬・自・新・面・民」。
〔敬尊〕たふとみ。○〔國〕「君子・敬・自・新・面・民」。
〔尊尊〕（い）すぐれてたふとし。○〔孟〕「天下有二一三」。
（ろ）「貴ぶは親ぶ」。○〔孟〕「國・無二一之貴也」。
〔尊尊〕ひくき者が貴き者を尊ぶこと。○〔孟・長・女・…〕「者」。
〔卑尊〕卑しき者が貴き者を尊ぶこと。○〔史〕「一一・一・莊」。
〔尊王〕「國・天上・高」。
〔尊尊〕心よりせざるはなし敬ふこと。○〔史〕「項・好乃二一・一卑・王・國・義・尊」。
〔國尊〕自分のみ他にすぐれて貴きこと。○〔後・後・後〕「天上・天下・唯・我・一」。
〔敬尊〕たゞく貴きこと。○〔呂〕「一一・一・無」。
〔家尊〕家長の意に同じ。父が父を稱する語。○〔論・孟〕「自足・踰一一」。
〔檢尊〕すゝめたゞとよ。○〔後・九・國〕「樂史・一一」。
〔北辰尊〕北極星の眼星中にすぐれて貴きより極めて貴きと比喩していふ語。○〔國・眞・鄭〕「尊・一一」。
〔萬乘尊〕古は、天子の國よりは萬乘の車を出だせるより天子の位を稱するに用ふる語。○〔孝・自〕「厚・左一一」。
〔兩足尊〕釋迦佛の稱。足り智慧足りしと云ふ故。
〔九五尊〕周易にて天子の位を稱するに用ふる語。○〔孝・記〕「國」。
〔南面尊〕天子の位を稱するに用ふる語。○〔後・後〕「國」。
〔四海尊〕前に同じ。○〔後・後・文・帝〕「秦・始・一・之」。
〔皆尊尊〕天子の位は皆尊なるより天子の位を稱するに用ふる語。○〔後・後・後〕「陛下不以一一」。

道 タウ、ドウ。杜到切 〔號〕

一みちびく。
（い）さきだつてひきす。○〔孟〕「君使下人一レ之出レ疆」。
（ろ）ひらく。〔啓〕。○〔淮〕「不」可二以一一人」。
（は）とほす。〔通〕。○〔周〕「疏爲二川・谷一以一一其氣一」。
二みちびくもの。案内者。先進者。みちびき。○〔周〕「候・人爲レ一」。
三御の一種。けすたて。響導。○〔釋名〕「南・齊高・祖・性儉・約見二主衣・中有二玉一一、曰、留レ此與二長・敬・遂・命擊二碎之一」。
〔導導〕助けみちびく。○〔史〕「和・年以・語・導一一之功」。
〔導導〕前に同じ。○〔詩・鄭〕「戶之入・毫・使・一一之狀・謂之」。
〔導導〕つよく好きやうにみちびく。○〔史〕「善・國者、四・孔・勢・而一一之」。
〔後導〕道にみちびく。○〔後〕「前・後・宜一一」。
〔教導〕教へみちびく。○〔南〕「其・有一一之・法」。
〔化導〕德を以てみちびく。○〔後・後〕「儀・容一一」。
〔誘導〕足らざるを補ひ善にみちびく。○〔戰・甚〕「即一一之術」。
〔導導〕前に同じ。○〔書・實〕「有・使・命一一之・國」。
〔導導〕歌みちびく。○〔史〕「秀・以一一、民・華、與・俗・歌・舞」。
〔導導〕偶・伏・行・列のみちびき。○〔書〕「導・歌一一」。
〔導導〕みち案内をなすこと。○〔自〕「以・泥・導一一」。
〔導導〕引きみちびく。○〔書〕「有・所・以一一・國」。
〔導導〕みちびく。又、みちびきをなす。○〔書〕「有・善・長・國・永・無・答一一」。
〔導導〕眞・理のみちびき。○〔史〕「問・論一一」。
〔導導〕先に立てて案内すること、其の者。○〔史〕「導」。
〔導導〕「一一」。

對 タイ、ツキ。都内切 〔隊〕 本・對に作る。

俗の劃の字。

尉 ウツ。於勿切 〔物〕

俗の劃の字。

尋 ジン、シュ。常具切 〔侵〕

一たつ。〔立〕。○〔乾坤・鑿度〕「定レ風一一信」。○〔禮〕「君子問更端則起而一一」。○〔史〕「廣・年・六十餘矣・終不能復二刀・筆之吏」。
二わらはべ。こもべ。童僕。○〔後漢〕「紅・夫不・怒」。

尉 劃の字の誤。

對 タイ、ツキ。都内切 〔隊〕 本・對に作る。

一こたふ。こたへ。
（い）むくゆ。むくい。〔酬〕。○〔詩〕「以一一手天・下」。
（ろ）いらふ。いらへ。〔答〕。○〔禮〕「君子問更端則起而一一」。○〔史〕「廣・年・六・十餘矣・終不能復二刀・筆之吏」。
三あたる。あつ。〔當〕。○〔吳〕「凡・兩・軍・敵・前・以・同・也。○〔法・華・珠・林〕「一一・理・性」。
〔對對〕前に同じ。○〔法・華・珠・林〕「一一・理・性」。
〔對對〕くはしくたづぬ。○〔書・堯・七・德〕「舜・者・自・聞」。
〔對對〕かんがへたづぬ。○〔書・堯・七・德〕「聞・目・一一」。
〔對對〕前に同じ。○〔書・堯・七・德〕「聞・目・一一」。
〔對對〕さがす。○〔法・華・經・信・解〕「或・聞・語・而一一」。
〔對對〕よくたづぬ。○〔戰・國〕「或・聞・語・而一一」。
〔對對〕の記りたづぬ。名山かゞを訪ふ。○〔國・語〕「聞・語・而一一」。
〔對對〕「聞・語・而一一」。
〔參對〕おとづる。まゐる。○〔韓・愈〕「由・京・師・來・參一一」。
〔對對〕（い）前に同じ。○〔孟・子〕「水・有・科・而一一」。
（ろ）問ひたずす。○〔書・說・命〕「必・有・人・材・備一一」。
〔對對〕よりたづね。○〔書・堯・七・德〕「誠・非・小・鮮・所一一」。

封 シキ、シュ。常具切 〔遇〕

一たつ。〔立〕。○〔乾坤・鑿度〕「定レ風一一信」。
二わらはべ。こもべ。童僕。○〔後漢〕「紅・夫不・怒」。

尉 劃の字の誤。

對 タイ、ツキ。都内切 〔隊〕 本・對に作る。

一こたふ。こたへ。
（い）むくゆ。むくい。〔酬〕。○〔詩〕「以一一手天・下」。
（ろ）いらふ。いらへ。〔答〕。○〔禮〕「君子問更端則起而一一」。
三むかふ。むく。〔向〕。○〔史〕「廣・年・六・十餘矣・終不能復二刀・筆之吏」。

尉 ウツ。於勿切 〔物〕

俗の劃の字。

尋 ジン。徐林切 〔侵〕

一たづぬ。

導 タウ、ドウ。杜到切 〔號〕

一みちびく。
（い）さきだつてひきす。○〔孟〕「君使下人一レ之出レ疆」。
（ろ）ひらく。〔啓〕。○〔淮〕「不」可二以一一人」。
（は）とほす。〔通〕。○〔周〕「疏爲二川・谷一以一一其氣一」。
二みちびくもの。案内者。先進者。みちびき。○〔周〕「候・人爲レ一」。
三御の一種。けすたて。響導。○〔釋名〕「南・齊高・祖・性儉・約見二主衣・中有二玉一一、曰、留レ此與二長・敬・遂・命擊二碎之一」。
〔導導〕助けみちびく。○〔史〕「和・年以・語・導一一之功」。
〔導導〕前に同じ。○〔詩・鄭〕「戶之入・毫・使・一一之狀・謂之」。
〔導導〕つよく好きやうにみちびく。○〔史〕「善・國者、四・孔・勢・而一一之」。
〔後導〕道にみちびく。○〔後〕「前・後・宜一一」。
〔教導〕教へみちびく。○〔南〕「其・有一一之・法」。
〔化導〕德を以てみちびく。○〔後・後〕「儀・容一一」。
〔誘導〕足らざるを補ひ善にみちびく。○〔戰・甚〕「即一一之術」。
〔導導〕前に同じ。○〔書・實〕「有・使・命一一之・國」。
〔導導〕歌みちびく。○〔史〕「秀・以一一、民・華、與・俗・歌・舞」。
〔導導〕偶・伏・行・列のみちびき。○〔書〕「導・歌一一」。
〔導導〕みち案内をなすこと。○〔自〕「以・泥・導一一」。
〔導導〕引きみちびく。○〔書〕「有・所・以一一・國」。
〔導導〕みちびく。又、みちびきをなす。○〔書〕「有・善・長・國・永・無・答一一」。
〔導導〕眞・理のみちびき。○〔史〕「問・論一一」。
〔導導〕先に立てて案内すること、其の者。○〔史〕「導」。
〔導導〕「一一」。

小 セウ。私兆切 〔篠〕

古文の導の字。

小部

一ちひさし。〔大の反〕。○〔韓・愈〕「坐レ井觀レ天曰二天一一」。
（ろ）弱し。○〔左〕「國家之立也、本大而末一一」。
（は）低し。○〔漢〕「泰・山卑一一」。
（に）短し。○〔莊〕「一一・年不レ及二大年一一」。
（ほ）部し。○〔後漢〕「位一卑・輕」。
（へ）輕し。○〔史〕「南・陽・之・害一一」。
（と）すくなし。少。○〔易〕「力一而任重」。
（ちゝ）かし。〔幼〕。○〔晉〕「我一未レ能一一榮養」。
（り）僅かなり。すこし。○〔史〕「反・形未レ見・以・苛一一案・誅三滅之」。
（ぬ）ほそし。〔細〕。○〔周〕「穀一而長則柞」。
（る）こまか。〔微〕。○〔莊〕「秋・毫爲レ一一」。
（を）恭し。○〔詩〕「一一心翼翼」。
（わ）劣れり。○〔劉・勰〕「何者・術一故也」。
（か）主要ならず。○〔後漢〕「潤三略・抄一一之體」。
一心れちけたる者、品性よろしからざる人。小人。○〔漢〕「衆一在位」。
二めかけ。妾。○〔詩〕「憂心惴々、慢一一于群」。
三幼者、こども。わらはべ。わかて。○〔北〕「其老・一一殘疾」。
四下賤の者、いやしき人。○〔靈・經〕

（い）分明ならぬものをさがす。もとむ。〔求〕。○〔列〕「其夜眞夢「藏レ之之處」、又夢「得レ之之主」、爽・且求」所レ夢、而得レ之」。
（ろ）問きたずす。○〔北〕「研・精一一、更求二師・友」。
（は）考へ分く。○〔謝・靈・運〕「退一二平」。
（に）道跡すおひか。○〔宋〕「疑高・祖・淹・久、恐爲二賊所レ因、乃輕騎追二之」。
（ほ）訪ふ。おとづる。○〔李・白〕「相約相期何太・深・棹・歌・搖・艇・月・中一」。
（へ）肢體の感にてさぐる。○〔孟・郊・韓愈・聯句〕「流・滑・隨・爪・步、搜一一得深・行」。
（と）入りこむ。侵し來たる。○〔王・安石〕「行・路老侵一一」。
二もちふ。〔用〕。○〔左〕「將レ一一師」。
三かさぬ。〔仍〕。つぐ。〔繼〕。○〔左〕「日一二千・戈、以相征・討」。
四間もなく。ついで。又、にはかに。〔俄〕。○〔晉〕「傾・覆・亦一至」。
五借りて。「使二人請一レ盟」。
六尺度の名。八尺の長さ。ひろ。○〔大・載・禮〕「十一而・索」。
七ながし。ながさ。〔長〕。○〔揚・雄〕「自一關以四・秦・晉・梁・益間、凡物長・謂二之一一」。
八つれ。なみ。〔常〕。○〔指・月・錄〕「一個中〔千・卷〕「ちひち・尺度の長きに・いふ語。○〔眞・德〕「西一一・起」。
〔尺尋〕ちひちを十倍したるもの。前に同じ。○〔孟・郊〕「羽・翰・なれもしおそれもず、なほるに・曾・いふ語。○〔李・白〕「與・鄭・相一一」。
〔尋尋〕たづぬ。○〔禮・檀・弓〕「師・一一・故・事」。
〔尋尋〕前に同じ。○〔國〕「次・夜一一、し・不・得・師・師」。
〔尋尋〕「生之・志」。
〔尋尋〕「知・ふたづぬ。○〔史〕「歷・史一一」。○〔史〕「問・歷・乃一一」。

〔張・擧不・鬷好飲レ酒、與二羣一一日遊二市・肆一。〕

㊀ちひさきもの。○〔國〕「距・險而鄰二于一一。」

㊁ちひさきこと、ほそきこと、其の度合ほそさ。○〔晁補之〕「雖二一・拳一吾不以二百・金一售也之。」

㊂ちひさしとす、又、かろんず。○〔左〕「必レ細。」

㊃ちひさくす、ほそくす、ほそむ、へらす、又、ちひさくなる、ほそくなる、ほそる、ほそまる、へる。○〔馬令〕「水皆退一。」

㊄陽曆にては、一ケ月の日數の三十一日に滿たざるとの稱、陰曆にては、一ケ月の日數の三十日に滿たざるとの稱。○〔後漢〕「月當二先一。」

〔大小〕（ス）おほいなるとちひさなると。〔國〕「入山伐・材木一一・八萬餘枚。」（ス）深遠面積、かさ、體積。○〔左〕「問二諸之一一・蛇蛇。」（セ）すべての事、すべてのもの。○〔禮〕「勝・負有・事一一・必・計・勝負・結。」

〔細小〕狹くしてちひさし。○〔左〕「蔽・肩一一。」

〔微小〕前に同じ。○〔左〕「成・周一一。」

〔卑小〕前に同じ。○〔晁〕「秤・論一一。」

〔細小〕前に同じ。○〔孔叢子〕「孝生不以・細之一一。」

〔渺小〕身體の極めてちひさきこと。○〔晁〕「數・形・數一一。」

〔粗小〕前に同じ。○〔左〕「國人一一。」

〔小小〕すくなし。○〔晁〕「其父兄・爲・失・數以一一。」「勝、而不・復一一。」

〔微小〕道德さいなること。○〔晁〕「天子・明・圖・視・前・民・同。」

〔輕小〕前に同じ。○〔晁〕「是獸之一一者。」

〔薄小〕よわくして大いならざること。○〔左〕「今・則・薄一一、・難・事・主之少・・・・也。」

〔少小〕年わかし。○〔晁〕「此大・時・宜一一・時所・・・・。」

〔凡小〕なみ〳〵の德なきもの。○〔晁〕「一一之人、・・・・

尢部

尢 ヲウ。烏光切 陽
一に、尪に作り、今文に尪に作る。
一曲がれる脛。二身の丈短少なり、ひくし。三くゞせ、ぜむし。（僂。

尤 イウ、ウ。于求切 尤
一もッとも、もとも、最。
（い）第一に、勝ぐれて、はなはだ、（甚）。
○〔史〕「民爲レ養京師一甚」。
（ろ）第一なると、勝ぐれたると、他に比べなきこと。○〔莊〕「夫子物之一也」。
二つれにはづれたり、なみ〳〵ならず、けやけし。○司馬相如「未レ有殊一絕迹可レ考」。孔今一者上。
三とがむ。
（い）あしと爲す、責む、非難す。○〔左〕「一而效レ之」。
（ろ）うらむ、怨。○〔論〕「不レ一レ人」。
四とがむると、とがめ、非難。○〔楚辭〕「忍レ一而攘レ詢」。
五罪あると、まゝ〳〵とすると、とが、あやまち。○〔漢書〕「聞レ憲則循省而改レ一」。
〔はた尤〕うらむこと。○〔付遇〕「我無レ一」。
〔我尤〕とりわけてすぐるもの。○〔白居易〕「此賀一」。
〔怨尤〕とがめられたもの。○〔李白〕「自古多一」。
〔責尤〕とがめ。○〔韓愈〕「君子一」。
〔出尤〕出群の意に同じ、衆人にすぐれたるをいふ。○〔人物志〕「一之人能知衆人之數」。
〔眾尤〕あやまち。○〔論語〕「考之言行而無一」。

二畫

尤 リヨク、リキ。六直切 職
行くに脛の相交はる、ゆきなやむ、足よわ。

三畫

尥 レウ。方弔切 嘯 ハウ、蒲交切 肴
筋骨の弱くして行くに脛のすれ合ひて足のはこびの自在ならざるにいふ字。又、牛の行くに後の脛の相交はるにもいふ。足よわる、ゆきなやむ。○〔揚雄〕「以足鉤レ之爲レ」。

尪 ウ。憶俱切 虞
一に、尫に作る。
一股曲がる、又、體かゞまり曲がる、まがる、めぐる。（盤旋。

尫 テウ。都了切 篠
尥の本字。

四畫

尨 バウ、モウ。莫江切 江
一犬の一種、毛の長く多く生ひて垂れてあるもの、むくいぬ。○〔詩〕「無使一也吠」。
二まはる、まとろ、雜。○〔左〕「一一奇無常」。又、衣之一服、遠一其躬一也」。

尨 ボウ、モウ。謨蓬切 東
みだるゝ貌にいふ字。みだる、亂。○〔左〕「狐裘一茸」。

尭 ア。烏干切 寒
辛うして行くも容易に進み得られざる貌にいふ字、あしなゆ。

尬 キウ、ク。虛尤切 尤
不用となる、すたる、（廢。

尫 ヲウ。烏光切 陽 九に同じ。
一曲がれる脛。
二せむしの病の者、くゞせ。○〔左〕「夏大旱、公欲レ焚二巫一一」。
三つかれて弱しよわし。○〔韓愈〕「人固有二一一羸而壽者一」。

尬 槌の省字。

尬 俗の尫の字。

尬 カイ、ケ。古賣切 卦
歩み正しからず、又、其のもの、あしなへ。

尬 カツ、ケチ。訖黠切 黠
歩みの進まざるにいふ字。

尬 ス井。圭樂切 紙
小さなる貌にいふ字（一ヨリ）。

尬 ズ井。汝水切 紙
上に同じ。

五畫

尬 ハウ、ベウ。蒲交切 肴
脛のねぢれたるにいふ字。

尬 サ。子賀切 箇 子我切 歌
歩みの正しからざるにいふ字、あしなへ、又其のもの。

尬 クヮツ、ケツチ。戶八切 黠
一に、尬の字の譌り。
足の病。

尬 古文の跛の字。

六畫

尬 タ、ダ。都唾切 箇
あしなへ（蹇。

尬 クヮツ、ケツチ。戶括切 曷
行く貌にいふ字、ありく。

尬 キ。丘倚切 寘
うむ、つかる、（倦）、一說に、あしなへ、（跛）。

尬 尬の字の譌。

尬 クヮイ、ケ。呼回切 灰
互に擊ち合ふ、うつ、一說に、俗の尫の字。

尬 エウ。弋笑切 嘯 餘招切 蕭
歩みの正しからざるにいふ字、あしなへ、一說に、足腫る、又、はれもの。

尬 ケイ、ケ。戶圭切 齊
行く貌にいふ字、ありく。

尬 尬に通じ用ふ、くゞせ。

十畫

尬 タイ、徒回切 灰
一に、尬に作る、俗に、尬に作るはあし。
馬の病。

尬 尬の字の譌。

尬 尬の字の譌。

尬 尬に同じ。

十一畫

尬 テイ、タイ。都分切 齊
足なへの歩むこと能はずして人に扶け引かるゝにいふ字（一ヨリ）。

尬 尬に同じ。

十八畫

尬 クヮン、クヮン。跪頑切 刪
腰と膝との痛み、又其の病。

尬 ケン、ゲン。干全切 先
歩行の正しからざるにいふ字。

七畫

尬 タイ、テ。吐猥切 賄
行きて病む足なやむ、（委一）。

尬 タイ、テ。吐內切 隊
病の名、八體の筋關節等につきて甚だしき痛みを發す。今のりうまちすの如き病風疾。

尬 サ、ザ。在果切 哿
足の立たぬ不具、こしぬけ、ねざり、（元坐）。

尬 セウ。思邀切 蕭
尬に同じ、頭痛む。

尬 ペン、メン。民堅切 先
ないめにゆく、（邪行）。

八畫

尬 ケキ、ギヤク。巨逆切 陌
うむ、つかる。

尬 アン、オン。烏感切 感 烏含切 覃
あしなへ、（跛蹇）。

尬 ハ、步臥切 箇 ホウ、蒲候切 宥
パ。切 箇 ブ。切 宥
たふる、たふす、（仆）。

尬 ラ。盧臥切 箇
歩み正しからず、あしなへ。

尬 タウ、デウ。丑孝切 效
シヤク、サク。尺約切 藥
一に、踔に作る。

尬 タイ、テ。吐內切 隊 キ。苦委切 紙
前の尬の解に同じ、風疾、又、風毒。

尬 キ。去綺切 紙
一あしなへ（蹇）。
二片足萬足ならずして行くに正しからざるもの、ちんば、びッこ。

尬 キ。頻義切 寘
うむ、あく、（倦）。

就 就に同じ。

尬 寢に同じ。

九畫

就 シウ、シユ。才救切 宥
一つく。
（い）向く。○〔詩〕「一一其深」。奚方レ之「舟レ之」。
（ろ）近づく。○〔史〕「稍々近一レ之」。奉以二車馬金銀一」。
（は）なる、（成）。○〔詩〕「日一月將」。
（に）玉たがふ、（從）。○〔漢〕「遂自一レ焉」。
（ほ）つかしむ、つかす。○〔國〕「處」工「一官府」。
二めぐり、（巾）。○〔禮〕「大路繁纓一」。
三よく、（能）。○〔左〕「一用レ命焉」。
四なほる、なほり。○〔郭璞〕「凡事物成一亦終也」。
五其の物事につきて、其れて、すなはち。○〔晉〕「一加レ詔許レ之」。
六假りまうけて說くときに用ふる字。たとひ、たとへ、又、しよんば、（論旨の歩を進むる場合に用ふること多し。○〔後漢〕「一値二其人一非二禍一選」。

〔去就〕一方に離れ一方につくこと、又、官職をさるゝ。官職につくことの義に用ふる語。○〔後〕「知一一之分」。
〔近就〕ちかづく。○〔史〕「稍々一一之」。
〔進就〕さきなせて成す。○〔史〕「臣雖愚陳古聞事幸一一之」。
〔成就〕さきあがる。○〔國〕「等惡發早一一」。
〔從就〕つきたがふ。○〔後漢〕「官等一一」。「一一」。
〔樂就〕ことつけて作る。○〔史〕「不以私意一一」。
〔風就〕風疾といふに同じ、早くみなびたること。○
〔嚴就〕「早晨一一」。
〔嚴就〕「早晨のみをく成ること、晚成といふに同じ。○
〔疑就〕「疑一論委之一一」。

尬 ショウ、竪勇切 腫
足腫る、又、はれもの。○〔詩〕「飯微且一」。

尬 ワイ、烏賄切 賄
一に、瘣に作る。
風疾を病む、又、風毒。

尬 ハツ、ハチ。北末切 曷
一足大いなり、又、おほあし、（一蹩）。
二行くを惡しみにくし。

十畫

尬 カン、古咸切 咸 ケン。紀炎切 豏
ありくと正しからず、（一尬）。

尬 サツ、サチ。子末切 曷
足大いなり、おほあし、（一尬）。

尬 俗の尬の字。

尬 尬の字の譌り。

尬 コツ、コチ。古忽切 月

【膬】 ラ。力臥切 圖 ルイ。力爲切 支

腰と膝との痛み、又、其の病。

廿二畫

【𩕄】 ケイ、ケ。尸圭切 齊

𩕄の字の解に同ト。

尸部

尸

【尸】 シ。申之切 支

一 屍に通ト用ふ、命脈の絶えたるむくろ、ふかばれ、かばれ、死骸。○〔左〕「謂レ死不レ及レ」。

二 のぶ。

（い）骨節解けゆるぶ、うつぶしながまりてかばれのさまをなす。○〔論〕「殺不レ」。

（ろ）床に臥す、からだをのばすの義。○〔公羊〕「吾將レ」。

三 かたしろ、かみしろ。

（い）古昔、祖先を祭るときに假りに神の代りせしたる其の祭られたる者の血統者。○〔詩〕「皇—載起」。

（ろ）纏べて、神の象にいふ字。○〔楚辭〕「載レ集帷何所レ急」。

四 つかさどる、主。○〔詩〕「誰其—レ之」。

五 つらぬく、陳。○〔詩〕「有二母之—一レ」。

六 局に當たりて其の職分を盡さること。○〔禮〕「君レ將近而不レ諫則是—利也」。

（尸）いさをのある臣。○〔孔傳〕「—、事物府、不レ」。—、品名目録。

（尸）まかづきをかたしろとし、ものるとも。○〔禮記〕「天子朝有二子孫—一之禮」。

【尹】 キン。于準切 軫

一 たゞす（正）、又、つかさどる（主）。○〔書〕「簡界—殷命」。

二 公事をたゞしつかさどる者、つかさ、官吏、又、つかさの名、役名。○〔史〕「王之官—、有二宰予者上」。

三 まこと（誠信）。○〔禮〕「孚—旁達信也」。

（尹）もろ〳〵のつかさの長。○〔書〕「—、—」。

（尹）天子の宰相。○〔詩〕「—々—」。

（尹）官吏のかしら。○〔禮〕「命—、—中官令」。

（尹）周の時代の諸侯の卿相のこと。○〔論〕「—、子文」。

（尹）關門をつかさどるかさ。○〔左〕「敢煩官吏、—、以告」。

（尹）宰相のこと。○〔詩〕「—、以尹才、爾位」。

【尺】 セキ、シヤク。昌石切 陌

一 物の長さを度るに用ふる名、寸を十倍したるもの。○〔漢〕「十分爲レ寸、十寸爲レ—」。

二 物の長さを度るに用ふる器、さし。○〔隋〕「置二銅斗斛—于殿」。

三 物の長さを度るに用ふる器、さし。○〔杜甫〕「寒衣處々催刀—」。

四 法に合ふと度あること。○〔金〕「元好問文有二繩—、—衆體」。

（三尺）（い）一尺を三つあつめたる長さ、又、短き長さにいふ語。○〔史〕「後—、—之劍、取矢下」。

（ろ）法のこと、古は尺、法を三尺ある竹簡に書きたりしよりいふ。○〔史〕「—、—安出哉、前主所以墨守法令」。

（尺）（い）八寸を尺といひ十寸を尺といふよりたゆの類をもちたはすに用ふる語。○〔孔傳〕「公誠能勵二一介之使、加—、之書、則孝孫可期、家道可私矣」。

（ろ）圓盤の廻めて居ること。○〔孝經〕「—、在—」。

（一尺）前條の（ろ）に同じ。○〔史〕「—、—在前矣」。

（尺尺）一寸、寸寸。

（尺尺）さしわたし一尺なること。○〔孟子〕「女子之—玉—、—、不知其寶也」。

（百尺）（い）一尺を百倍したる長さ、又、時として高き義に用ふる語。○〔詩〕「伏枕—、—樓上」。

（ろ）倉の別稱。○〔禮〕「倉—勢鳳、稱—、—」。

（曲尺）かねざし、工人の使用する曲形にまがりたるさし。○〔白居易〕「紀酒鏡盃歌、移—、—飲、—、—、—

（ち）ふたがふ、（りくだる。○（諸葛亮）「自任—三二顧臣於草廬之中」。

（り）かゞましむ、まゞ、かゞます、（前各項參照。

㊀譏、又は、紛に通じ用ふ。○（呂氏）「威武不レ能レ—」。○（漢）「用レ之無レ度則民力—」。

㊁もとる（梗戾。○（漢）「乃欲レ以二新造未集之越一—中張於此上」。

（詩經）つはるる。○（楊慎）「窮迫—一」。○（張衡）「根銘—一」。

（盤經）まがる。○（楊貴妃）「根銘—一」。

（陳經）心をはりてたるる。○（後漢）「蘇不—一」。

（張經）わりやりにさく。○（後）「病不—一」也。

（張經）（りくだる。○（後）「宜調自—一以防其變」。

（沈經）ふつみてのびざるる。○（後）「鎧—一兵伍、而輪尚彌高」。

（論經）前に同じ。○（論語）「—一有所間其以」。

（論經）たわめかゞむ。○（史）「初不—一」。

（記經）ふりぞくる。○（史）「數至而光自—一」。

（禮經）わたかまりのびざるる。○（史）「心志—一不一聞」。

（禮經）はやて曲をくだるる。○（史）「安石區區之—一」。

屈　ケツ、クツチ。九月切　月

前條の㊀に同じ。○（歐陽修）「不レ學而剛・有レ摧必折、毅々程公、其剛不レ—」。

屈　テイ、タイ。他計切　霽

鞍下のふきもの、ふたぐら、くらしき。

戾　シ。刷視切　霽　或は、屍に作る。

くそ、（糞）。

屍　トン、ドン。徒渾切　元

臀に同じ、ねさらひ、ふり。

屑　屑の本字。

屋

屋　クワン、グワン。胡曼切　寒

ふくろ、（袋）、一說に、譎りの字。

屑　カイ、ケ。許介切　卦

いびき、れいき、（臥息。

屑　キ。虛器切　霽

肚大の貌にいふ字、さかんなり、おほいなり、りッパなり。

屋　ヲク。烏谷切　屋

㊀人の住居するための建物、いへ、や、へや、すまひ、すみか。○（詩）「侃々彼有レ—」。

㊁いへの上を覆ふ部、やれ、むれ。○（詩）「誰謂二雀無レ角何以穿二我一—」。

㊂やれありていへの形をなすもの。○（晉）「張二幔一—於城南」。○（史）「乘二黃一—車」（傳左轟）。

㊃かぶり物の上部、又、舟の覆ひなど。○（陸游）「落葉拂二朝一—」。（詩）「於レ我乎夏—渠々」。

㊄棺を覆ふに用ふる小さき帳。○（禮）「諸侯素錦以爲レ—士輔纂以爲レ—」。

（禮經）ゆたかなる家。○（晉）「—生況」。

（禮經）かきとやねとかこひの略。○（詩）「使我—一」。

（晉經）大なる家。○（史）「虞之—一之下」。

（晉經）天子の用は黃色の瓦を表裏となすよりかりて天子を稱するに用ふるなり。○（朱子）「—帝輝堂」。

（白居）時に書のをる所を稱するに用ふる語。○（史）「外不—一之士」。

（珠經）くさりのやね。○（後）「—一場戶」。

（梅經）前に同じ。○（後）「品—一、以絕水蟲」。

（張經）やぶれや。○（後）「蓬蒿居—一中」。

（張經）あるものをすき家。○（後）「成大○—一陳々」。

（詩經）

（ろ）島の甲のふ。○（梅聞）「—一鳥車魚」。

（何經）前に同じ。○（杜甫）「武鈴—一常鄰近」。

（宅經）屋家。○（史）「宅廬—一」。

（詩經）たけ長き家。○（楊萬里）「—一後天不可居」。

（詩經）こはれたるやね。○（後）「或在瓦—一上」。

（張經）魚行の家。○（後）「宮闕—一」。

（張經）ぬれたるやね。○（後）「宮闕—一」。

（梅經）舟の覆ひ。○（史）「在—一上、蓋謂之屋」。

（梅經）俳才諧如此、乃復作詼耶。

（梅經）けわしろの家。○（史）「其間無二論郭一、—以屋取向開戶」。

（梅經）試驗場のこと。○（史）「學論士、在—一」。

（梅經）有無名。

（梅經）大なる家。○（白居易）「銀鈴屋—一」。

（梅經）まちの家。○（王安石）「—鈴亦曲」。

（梅經）すぐれたる家。○（王安石）「綠幢—一靜相宜」。

（梅經）料理べや。○（後）「四庫與秀儒、日夕論議」。

（梅經）いへのこと。○（晉書）「家徒壁々無一一」。

（梅經）秋ヒ家。○（陸機）「—一雨來初變、蟲」。

屑　キ。詰利切　霽　カイ、詰計切　霽

まり、（尻、ねさらひ、（臀）。

屏　屍に同じ。

屋　クワ、ケ。胡瓦切　麻

くつ、（履）。

屍　シ。申之切　支

命終はりたるむくろ、ふかばれ、かばれ。○（左）「封二殷一—而還」。

（唐書）「殷使レ「男兒要當死於平場野、以—一—」。

（唐經）かりをさひ、ひびをさひ。○（後）「所歸作—一—韓詩」。

（唐經）人の家にたよりてをる、又、其のもの。○（晉書）人生如二寄居一。

居　キ。居之切　支

や。

（い）疑がひ問ふときに用ふる字。○（禮）「何—我孝之前聞一也」。

（ろ）物事を呼び掛くるときに用ふる字。○（詩）「日—月諸」。

屆　カイ、ケ。古拜切　卦

俗に、屆に作る、古文體に作る、由に从ふはあし。

及　及ぼす、いたる、いたらす、（至）、きはむ、きはまる、（極）、ことごとく。○（書）「惟德動レ天、無二遠弗一—」。

屈　テン、デン。徒連切　先

あな、（穴）、一說に、屆の字の譌。

屈　クツ、コチ。區勿切　物

㊀かゞむ、（伸の反。

（い）れぢれ曲がる、まがる。○（呂氏）「無名之指—而不レ伸」。

（ろ）折る。○（左）「曲而不レ—」。

（は）縮み寄る。○（易）「尺蠖之—以求レ信」。

（に）むすぼる。○（韓愈）「鬱—尙不平」。

（ほ）志撓むくとく。○（韓愈）「男兒爲二不義一不レ可レ—也」。

（へ）おしつまる。○（史）「卿其令二張公能辭—乃當レ飲之耳」。

（と）志成らず、下位に沈む、理ありて非とせらる。○（晉）「朝野僉二多其非一—」。

（ち）ふたがふ、（りくだる。○（諸葛亮）「自任—三二顧臣於草廬之中」。

（り）かゞましむ、まゞ、かゞます、（前各項參照。

㊀譏、又は、紛に通に用ふ。○（呂氏）「威武不レ能レ—」。○（漢）「用レ之無レ度則民力—」。

㊁もとる（梗戾。○（漢）「乃欲レ以二新造未集之越一—中張於此上」。

（詩經）つはるる。○（楊慎）「窮迫—一」。○（張衡）「根銘—一」。

（盤經）まがる。○（楊貴妃）「根銘—一」。

（陳經）心をはりてたるる。○（後）「蘇不—一」。

（張經）わりやりにさく。○（後）「病不—一」也。

（張經）（りくだる。○（後）「宜調自—一以防其變」。

（沈經）ふつみてのびざるる。○（後）「鎧—一兵伍、而輪尚彌高」。

（論經）前に同じ。○（論語）「—一有所間其以」。

（論經）たわめかゞむ。○（史）「初不—一」。

（記經）ふりぞくる。○（史）「數至而光自—一」。

（禮經）わたかまりのびざるる。○（史）「心志—一不一聞」。

（禮經）はやて曲をくだるる。○（史）「安石區區之—一」。

屈　ケツ、クツチ。九月切　月

前條の㊀に同じ。○（歐陽修）「不レ學而剛・有レ摧必折、毅々程公、其剛不レ—」。

屈　テイ、タイ。他計切　霽

鞍下のふきもの、ふたぐら、くらしき。

戾　シ。刷視切　霽　或は、屍に作る。

くそ、（糞）。

屍　トン、ドン。徒渾切　元

臀に同じ、ねさらひ、ふり。

屑　屑の本字。

屋

屋　クワン、グワン。胡曼切　寒

ふくろ、（袋）、一說に、譎りの字。

屑　カイ、ケ。許介切　卦

いびき、れいき、（臥息。

屑　キ。虛器切　霽

肚大の貌にいふ字、さかんなり、おほいなり、りッパなり。

屋　ヲク。烏谷切　屋

㊀人の住居するための建物、いへ、や、へや、すまひ、すみか。○（詩）「侃々彼有レ—」。

㊁いへの上を覆ふ部、やれ、むれ。○（詩）「誰謂二雀無レ角何以穿二我一—」。

㊂やれありていへの形をなすもの。○（晉）「張二幔一—於城南」。○（史）「乘二黃一—車」（傳左轟）。

㊃かぶり物の上部、又、舟の覆ひなど。○（陸游）「落葉拂二朝一—」。（詩）「於レ我乎夏—渠々」。

㊄棺を覆ふに用ふる小さき帳。○（禮）「諸侯素錦以爲レ—士輔纂以爲レ—」。

（禮經）ゆたかなる家。○（晉）「—生況」。

（禮經）かきとやねとかこひの略。○（詩）「使我—一」。

（晉經）大なる家。○（史）「虞之—一之下」。

（晉經）天子の用は黃色の瓦を表裏となすよりかりて天子を稱するに用ふるなり。○（朱子）「—帝輝堂」。

（白居）時に書のをる所を稱するに用ふる語。○（史）「外不—一之士」。

（珠經）くさりのやね。○（後）「—一場戶」。

（梅經）前に同じ。○（後）「品—一、以絕水蟲」。

（張經）やぶれや。○（後）「蓬蒿居—一中」。

（張經）あるものをすき家。○（後）「成大○—一陳々」。

（詩經）

（ろ）島の甲のふ。○（梅聞）「—一鳥車魚」。

（何經）前に同じ。○（杜甫）「武鈴—一常鄰近」。

（宅經）屋家。○（史）「宅廬—一」。

（詩經）たけ長き家。○（楊萬里）「—一後天不可居」。

（詩經）こはれたるやね。○（後）「或在瓦—一上」。

（張經）魚行の家。○（後）「宮闕—一」。

（張經）ぬれたるやね。○（後）「宮闕—一」。

（梅經）舟の覆ひ。○（史）「在—一上、蓋謂之屋」。

（梅經）俳才諧如此、乃復作詼耶。

（梅經）けわしろの家。○（史）「其間無二論郭一、—以屋取向開戶」。

（梅經）試驗場のこと。○（史）「學論士、在—一」。

（梅經）有無名。

（梅經）大なる家。○（白居易）「銀鈴屋—一」。

（梅經）まちの家。○（王安石）「—鈴亦曲」。

（梅經）すぐれたる家。○（王安石）「綠幢—一靜相宜」。

（梅經）料理べや。○（後）「四庫與秀儒、日夕論議」。

（梅經）いへのこと。○（晉書）「家徒壁々無一一」。

（梅經）秋ヒ家。○（陸機）「—一雨來初變、蟲」。

屑　キ。詰利切　霽　カイ、詰計切　霽

まり、（尻、ねさらひ、（臀）。

屏　屍に同じ。

屋　クワ、ケ。胡瓦切　麻

くつ、（履）。

屍　シ。申之切　支

命終はりたるむくろ、ふかばれ、かばれ。○（左）「封二殷一—而還」。

（唐書）「殷使レ「男兒要當死於平場野、以—一—」。

屣 蹝に同じ。

八畫

屑 ク、コ。權倶切 遇
絢に同じ、履頭の飾り。

屈 ア。烏何切 歌
厠に上る。

屋 クヲ。苦臥切 屋
幄に同じ。ものほれ（幃・帷）、一説に、帑殿の間、またのあひだ、うちあはせ。

扇 ロウ、ル。盧候切 宥
屋に孔あきて雨水下るもの。

屋 トク。都木切 屋
俗の屍の字、ねさらひ、ものほり（帑）。

屋 テフ、デフ。的協切 葉 ―一に屋に作る
くだろ（下）。

屏 ヘイ、ヒヤウ。薄經切 青
❶門内に在る小さき墻門外より門内を望むを遮ぎり蔽ぐに設けたるもの、ついぢ、かき。○〔天・戴記〕「負―而立」。
❷室内に置く一種の建具、蔽び遮ぎるに用ふるもの、びやうぶ、ついたて。○〔南〕「帷幕衾―」。
❸ついひぢの形をなすもの。○〔高適〕「苦遭試―頭踐石―可攀倚」。
❹おほふ（蔽）。○〔荀〕「周・公―成王」。
❺而及―武王」。
❻蔽ふと蔽ふもの、おほひ。○〔書〕「乃命建―侯樹―」。

屏 ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗
❶ものぞく。
（い）除き去る。○〔書〕「我乃―雙輿」。
（ろ）後へ引く。○〔禮〕「乃左右―而待」。
❷邊邑、さかひ。○〔國〕「其在邊邑、東―之臣某」。

屏 ヘイ、ヒヤウ。府盈切 庚
彷徨す、たゝずむ、さまよふ、又、怔忪す、おづ、あわつ、おそれおどろく（―營）。○〔國〕「―營彷徨於山・林之中」。

屏 ヘイ、ヒヤウ。府盈切 庚
前後相蹶む、ふむ、一説に、小さく歩む、あゆむ。

屈 サフ、セフ。側洽切 洽
うすきくさび（薄・楔）。

屈 シフ。側入切 緝
くつ、はきもの、履。

九畫

屐 チユ、ヂヨ。遲據切 御 除遇切 遇
藁、又は、麻などにてつくりたるはきもの、わらぐつ、わらぢ、ざうり、あさうり―屐」。

屈 ヒ、ビ。父沸切 未
❶さく（裂）。○〔書〕「國孤屈―」。
❷ころす（殺）。○〔唐〕「每―戰得―敵」。
❸ほふる。
（い）牲體を刻く、肉を切り分く。○〔史〕「臣乃市―井之人、鼓―刀以―」。
（ろ）多くの家をこぼち多くの人を殺す。○〔漢〕「今―沛」。

屈 ヘン、ベン。紙延切 先 ―本、屈に作る。
❶ひとり（特）。❷小さき舟、こぶね。

十畫

屠 クツ、ゴチ。當物切 物
短かき尾のある鳥。

屐 クヲ。吁戈切 歌
靴に同じ。屐の屬、かはぐつ、くつ。

十一畫

屢 ル。龍遇切 遇
❶幾度ともなく繰り返して、おきりに、たびく、かさねて、しばく。○〔書〕「一省乃成」。
❷煩はし、やまし。○〔梅堯臣〕「相過言―」。

屬 ヒ。博美切 紙
❶あな（穴）。❷まり、ねさらひ（臀）。

屧 ケイ。去例切 霽
やすむ、いこふ（息）。○〔詩〕「民之―」。

屩 シヨ、ソ。此賂切 麌
❶伺ひ視る、うかがふ、みる。
❷行き前みて却くまざる、まりぞく。

屣 シ。所綺切 紙 ―所寄切 寘 ―一説は蹝に作る。
❶別に跟なつけざる履、即ち、底の平面なるはきもの、くつ、即ち、草履草鞋など。○〔孟〕「猶―棄―敝―」。
❷くつを著けて跟を踏まず曳きすり行くこと。○〔後〕「履―履迎―門」。
（興）正しく履を著けずして引きづり行くこと、あわてゝ、あわてゝ。○〔後〕「履―履迎―門」。
（興）「―」。
（後）「―」。
（後）「―」。
（後

（は）從ふ。○〔史〕羽渡し江騎能—者百餘人耳。○〔五〕宰・相論二於廷一英・后於二屏間一耳—レ之。

（に）其の方にのみ向く。

（ほ）いたる、（至）いたす、（致）又、かよはす、かよふ、（通）又、およぶ、およぼす、及又、ちかづく、（近）。○〔書〕「惡—渭汭」。

（へ）むすぶ、（結）。○〔國〕必—レ懲。

（と）つなぎ輯む、つゞる、（綴）。○〔漢〕善—レ文。

（ち）つゞく、つゞく、（續）、つらぬ、つらなる、（連）。○〔史〕平・原・君使者・冠・蓋相二—於魏一。

（り）其の外を願はず、たる、（足）。○〔左〕「願以二小人之腹一爲二君子心一」・願而已。

（ぬ）あはれむ、憐。○〔書〕「至二于敬寡至二于—ヒ孤」。

（る）敬みて專一なる貌にいふ字、うやうやしく。（恭）。○〔禮〕「—レ乎其忠也」。

（を）支配せらるゝもの、從者、部下。○〔禮〕「千・里之外設二方伯一王・國以爲レ「—」」。

（わ）やから。

（い）系統を同じくする者、肉親のつゞく者、一門、親族、みより、みうち。○〔史〕「田・單齊疏—也」。

（ろ）同種類の者、等輩、連中、たぐひ、ともがら。○〔史〕「今陛下起二布・衣一以三此—一取二天・下一」。

（は）官寮、ともづかさ、下役人。○〔書〕「各率二其—一以倡二九・牧一」。

（に）甲札の數、よろひのさねのかず。○〔漢〕「魏・氏武・卒衣三—一之甲」。

（ほ）言ひ傳ふ、ふくめ置く。○〔穀梁〕「退而—二其三三大夫一」。

（へ）たまく、まさに、（適）。○〔左〕「不・幸—當二我・行一」。

（と）日數も立たぬに、このほど、このごろ、ちかごろ。○〔漢〕「天・下—安・定」。

（ち）みより。○〔禮〕「六親—一—親」。

（り）陛下・君のみより。○〔漢〕「樂・陵・侯史・高以—一—」。○〔漢〕「大・司・馬・朝・侍・郎・侍・中・事」。

（ぬ）前に同じ。○〔晉〕「郎日・宗室—一」。○〔漢〕「籍之・秘書」。

（る）前に同じ。○〔後漢〕「或・子・孫—一」。

（を）同類の王・侯をいふ。○〔漢〕「天・子・孫・行、人・數—一」。

（わ）不かに服するも、○〔史〕「日・月・所・照・莫・不—一」。

（か）「札の三枚なるをいふ。○〔漢〕「醫・氏・步・卒・衣—一之・甲」。

（よ）三族に同じ。○〔後漢〕「一・人・犯・罪・族・至—一」。

（た）九族に同じ。○〔晉〕「左・氏・曾・孫・郭・氏・子・孫・父・母・兄・弟・妻・子・自・父・母・兄・弟・妻・子・自・父・母・兄・弟・妻・子・自

㞗 ダウ、ノウ。奴刀切 豪
山上の平かなるにいふ字、たひら。

屼 コツ、ゴチ。五忽切 月
山の貌にいふ字、たかし、又、はげ山の貌にいふ字。○〔元結〕山——兮水淪漣。
〔雪峯〕——。○〔吳都賦〕山のうるはしく高き貌にいふ字。○〔吳都賦〕前に同じ。○〔張融〕「南華高——」。

屼 カン。侯旰切 カン。魚旰切 翰
崖に同じ、山の名、一說に、岸の僞字。

屹 バウ、マウ。謨郎切 陽
山の名。

四畫

屹 キヨ、コ。虛器切 語
山の名。

屹 カウ、ゲウ。月交切 肴
山の名。

屹 ゲツ、グツチ。魚厥切 月
山の名。

屹 ギウ、ゴ。牛仲切 送
山の名。

岌 オン、烏很切 阮
やま、〔山〕。

岐 ヨウ、ヨ。當口切 有
坂、阪に同じ。

岋 トウ、ツ。當口切 有
山の名。

岷 エウ。伊鳥切 篠
山の名。

岑 ショク、ジキ。實側切 職
巽に同じ、山の峻しき貌にいふ字、けはし。

岵 コ、ク。侯古切 麌
小さき山の貌にいふ字、又、小さき山、こやま。

岬 ガウ。五浪切 漾
山の名。

岸 ガウ。魚剛切 陽
山の高き貌にいふ字、たかし。

岍 カ、ケ。虛加切 麻
谷の中の大空なるにいふ字、うつろ、又、むなし。

岥 ブツ、モチ。文拂切 物
高き貌にいふ字、たかし。○〔王延壽〕「隆嶁二平青雲二」。

岭 カイ、ケ。居拜切 卦
山の名。

岡 セツ、セチ。子結切 屑
山の隅の高き處、くま、すま、又、たかし。○〔左思〕「貪二綠山巖之一—二」。
〔倉頡〕高き山のくま。○〔沈約〕「重巒絜—一—二」。

岐 フ、ボ。奉甫切 麌
山の名。

岷 チ、ザ。直尼切 支
山の名。

岐 カフ、ゴフ。鄭合切 合 一に、坂に作る。
動く貌にいふ字、又、うごく、ゆるぐ。○〔攝雄〕「天動地—」。

岌 キフ、ゴフ。魚及切 緝
㊀高さまさる、すぐる。○〔樹〕「小山—二大山一相並」。
㊁あやふし、危、又、たかし、〔高〕。○〔晨平〕「高二余冠一—一兮」。
〔集韻〕〔ハ〕急き觀に上聲。○〔後漢〕「高節冠之一—」。
〔廣韻〕高き貌にいふ上聲。○〔張衡〕「思玄賦」「太子「華蓋形—一」。
〔玉篇〕前に同じ。○〔王褒〕「百仞登—一—」。
〔字彙〕前に同じ。○〔杜甫〕「觀官傳以—一—」。

岌 タウ、トウ。他刀切 豪
なめらか、〔滑〕。

岏 フン、ホン。數文切 文 亦、岔に作る。
山の貌にいふ字、さがし、たかし、又、山の岐かれたるにいふ字。○〔蜀都賦〕「—嶮廻靈」。

岏 クワン。五官切 寒
山の銳がりたる貌にいふ字、さがし、けはし、又、さかりたる山、又、其のさかりたる處、頂上。○〔江淹〕「山・巒—兮水環合」。
〔一以長企〕。
〔廣韻〕山の銳くとがりたる處。○〔前漢〕「登—」。

岐 キ、ギ。巨支切 支
山の名、一說に、巖の譌。

岐 ヘ。甫禾切 戈 陂に同じ。
平かならざる貌にいふ字、なゝめ、〔斜〕、又、地のなゝめなる處さか、〔阪〕。○〔潘岳〕「載——屹以隴—」。

岐 陂に同じ。

岐 リフ。力入切 緝
山の貌にいふ字、たかし、さがし。

岐 ショウ、ジヨウ。辰陵切 蒸
丞に同じ、たすく、〔翊〕。

岐 キク、コク。居六切 屋
ふかし、又、おく、〔奥〕、一說に、水厓の外、一說に、譌りの字。○〔黃香〕「鄒—」。
〔尾以閉閉〕。

岐 ケツ、クワチ。許月切 月
山の貌にいふ字、たかし、さがし、又、山。

岐 ヒ、ビ。蒲麻切 麻
山の二つ重なりたるもの、一說に、岐の譌字。

岩 テウ、デウ。田聊切 蕭 或は、昭に作る。
山の高き貌にいふ字、又、たかし。○〔張衡〕「狀亭々以—」。

岨 ショ、ソ。七余切 魚 今、砠に作る。
岩石にて成りたる山に土のかぶりたるもの。○〔詩〕「陟二彼—一矣」。

岨 ショ、ソ。壯所切 語
——嶇は、山の貌をなすにいふ語。

岩 俗の嵒・巖の字。

岫 ビ、ミ。無沸切 未
山の名。

岪 フツ、ブチ。數勿切 物 一に、沸に作る。
㊀山の脅にある道、やまみち。
㊁山の貌にいふ字、たかし、さがし。○〔司馬相如〕「盤紆—鬱」。

岫 シウ、シユ。似祐切 宥
イウ、ユ。爽周切 尤
㊀山にある穴、いはあな、あな、ほら。○〔左思〕「窮—泄レ雲、日・月恆翳」。
㊁山のてッぺん、いたゞき、みね。○〔謝朓〕「幕中列二遠—一」。
〔司馬〕「首」。
〔文選〕山の大なるうつろ。○〔張衡〕「——鳴長、岑々若の峰。○〔沈約〕「——杳冥冥、かさなりたる山の峰。○〔張衡〕「詩」「萬象干—一」。
〔廣韻〕深き山の峰。○〔後漢〕「——明且樂」。
〔玉篇〕前に同じ。○〔張都賦〕「——淡蒼」。
〔集韻〕高き山の峰。○〔鮑朴子〕「高・伊川・詩——」。
〔廣韻〕前に同じ。○〔張衡〕「——而傳遠」。
〔篇韻〕前に同じ。○〔許慎〕「——牛蓐三峽近」。
〔韻會〕山のかたはら、又、いたゞき。○〔吳都賦〕「——羅列」。
〔字彙〕山のほら。○〔陳繼〕「——絡・蒼」。
〔篇韻〕うみのはとりの山。○〔江淹〕「蒼——之青蓮」。
〔集韻〕けはしき山のほら。○〔魯靈恩〕「——」。

岬 カフ、ケフ。古狎切 洽
㊀山のかたはら、山のわき、山ののび

〔孟冬〕「寒氣山のふ。○〔月令〕「——之山、橫絕・地脈」。
〔天問〕八月の異名。○〔淮南子〕「八月枝條堅」。
〔淮南〕「日・月・——」。
〔淮南〕日かけのをか。○〔余蹟〕「竹・柏・——」。
〔淮南〕「——」。
〔廣韻〕小山のふ。○〔張衡賦〕「——」。
〔玉篇〕「——」。
〔廣韻〕「——」。

岣 ハウ、ヘウ。班交切 肴 本、包に作る。
山の名。

岣 ハ。湯禾切 歌 本、阪に作る。
さか、〔坂〕。

岩 ハ。普火切 哿 或は、いふ、岠に同じ。
山の貌にいふ字、たかし。

岩 密に同じ。

峽 シ。疎士切 紙
やま、〔山〕。

岢 カ。枯我切 哿
——嵐は山の名、又、州の名。

峋 コウ、ク。古厚切 有 居候切
——嶙は山の名。

峇 ハン、ホン。孚梵切 陷
山の名。

峐 ケツ、ケチ。呼決切 屑
山の穴、あな。○〔楚辭〕「憭兮慄虎・豹——」。

峒 ショ、ソ。七余切 魚 今、砠に作る。
岩石にて成りたる山に土のかぶりたるもの。○〔詩〕「陟二彼——一矣」。

峒 カフ、ケフ。古狎切 洽
㊀山のかたはら、山のわき、山ののび

引きて絶えたる處、さき、みさき、又、關山の間、はざま。○〔淮〕「徘」徊山。一之旁こ。㊁物のつゞく貌にいふ字、山の尾のびつゞきたるさまの義。○〔張協〕「車駕」一嶋。

岭 レイ、リヤウ。郎丁切 青

山の深く入り込みたる貌にいふ字、ふかし、又、其の處、おくやま。

岮 タ、ダ。唐何切 歌

平かならざる貌にいふ字、なゝめ、〔鉛〕。○〔潘岳〕「裁」峡一一以隱一隣。

岯 ヒ、ビ。符悲切 支 部鄙切 紙

ハイ。 餡枚切 灰

㊀山の上に更に山の重なりたるもの。㊁山の名。〔大一一〕。

岰 イウ、ウ。於糾切 有 アウ、エウ。於教切 效

山の曲がりたる貌にいふ字、又、山のくま。

岱 タイ、ダイ。徒耐切 隊

泰山の稱、〔山の條の熟語參照〕。○〔白虎通〕「東嶽爲二一宗一」。

〔解説〕 經の十二枝の一を置きたる地にて今の山東省の地方なり。○〔書〕「一一惟青州」。

〔資説〕 泰山は五嶽の中にて東方にあるよりいふ。○〔後漢〕「高盧東海一一」。

〔後漢〕 「泰山と蓬山と。○〔後漢〕「勝高如一一」、

〔説苑〕 「泰山は積土なり。○〔後漢〕「天子之賢、言如一一」。

〔説苑〕 泰山は周の時代の諸侯なる齊の領地のうちにあるよりいふ。○〔淮〕「徘」徊一一間」。

岷 キヤウ、カウ。許放切 漾

山の名。

岳 古文の嶽の字。○〔書〕「五月、南巡守至二于南一一」。

〔嶽岳〕 嶽の俗。○〔相牛經〕「一一狀爲大」。

〔類岳〕 ふちとたけと、物事のたゞかにしてゆるぎなきよりいふ。○〔文心雕龍〕「一一其心」。

〔川岳〕 かはとたけと、各地方の義にいふ。○〔顏延之〕「一一幅員廣」。

〔岡岳〕 古代の觀官。○〔書〕「帝曰、咨一一」。

岵 嶽に同ト。

岵 コ、ゴ。後五切 虞

草木のたゞけ生ふる山、たゞけやま。○〔詩〕「陟二彼一一」。

岫 カ、ゲ。具牙切 麻

衆山のつらなりつゞける貌にいふ字、又、つらなる、つゞく。○〔揚雄〕「鳳一一竭麟」。

岶 ハク、ヒヤク。普伯切 陌

密なる貌にいふ字、ひそか、嶺一一。

岷 ビン、ミン。武巾切 眞

甘肅省と四川省との境にある山脈の總稱、又、後魏の時の州の名、卽ち、岷山の地方一圓をいふ、後來因り轉ぎて其の名を呼ぶ。○〔廣雅〕「蜀山謂二之一一山一」。

〔岷説〕 びん山のある地方、卽ち、四川一帶の地にて右の四説をいふ。○〔後漢〕「蜀郡岷山本道一一」。

〔岷説〕 前に同じ。卽ち、蜀州一帶の地。○〔魚豢〕「魏略」一一之寶」。

〔江岷〕 前に同じ。卽ち、江水の岷山より出づる故にいふ。○〔張協〕「浩蕩乎于一一」。

〔高岷〕 びん山のゝ高きよりいふ。○〔徐陵〕「一一長有雪」。

岬 カン、コン。苦三切 覃

山の名。

岸 カン。五旰切 翰

㊀きし。

（い）水ぎはに接したる地、又、みぎは、なきさ、特に其の地の高くして水の深きもの。○〔詩〕「淇則有一一」。

（ろ）切り殺ぎたる如くにそばだちたる處、がけ。○〔呂覽〕「斬一一埋一谿」。

（は）〔稱處、又、かぎり。○〔詩〕「誕先登二于一一」。

㊁きざはし、〔階〕。○〔張衡〕「蠹一一爽一塗」。

㊂人の圭角あらはれてたくましきこと、がけきしのかど〳〵しきにかたどりていふ。○〔唐〕「仇士良以三李石棲一々有二風一一」、〔淮忌〕「之」。

㊃額を露はすこと。○〔後漢〕「帝一一幘而見レ授」。

㊄獄の名、ひとや、宿驛にあるもの。○〔詩〕「宜一一宜レ獄」。

〔岸説〕 前に同じ。○〔後漢〕「爲二一一」。

〔岸説〕 前に同じ。○〔荀彧元龜〕「爲二相一一」。

〔岸説〕 ゆるゝ物に屈せず。○〔李白〕「宿生何一一」。

〔岸説〕 （い）佛家の語にて煩惱の苦を脫して苦進の樂を得ること。○〔金剛經〕「離一相見、見、能度一一」。

（ろ）佛家にて春分と秋分との日を中日とし其の前後の三日を合はせて七日の間をいふ語。

〔岸説〕 （い）ますはたらきて他に到なりたること。○〔後漢〕「不一一絕」。○〔後漢〕「能乘風雨、決一一濤」。

〔岸説〕 立派にして強し。○〔宋〕「氣骨一一、卽日如雪」。

〔岸説〕 前に同じ。○〔後漢〕「女孝風來一一」。

〔岸説〕 強しきさま。○〔後漢〕「樽俎一一、以一一木爵」。

〔岸説〕 前に同じ。○〔水經〕「注」「一一無一」。

〔岸説〕 前に同じ。○〔後漢〕「天子乃登一一、瑤臺以眺」。

〔岸説〕 前に同じ。○〔杜甫〕「秋雲當一一」。

〔岸説〕 風采かゞやきて強しきさま。○〔杜甫〕「一一、石助」。

〔岸説〕 嶺に連なりたるさま。○〔杜甫〕「一一、「峰巒」。

〔岸説〕 清き水の打ちぎはは、○〔陳琳書〕「一一」。

〔岸説〕 わたし場のきし。○〔經〕「注」「一一」。

〔岸説〕 水ぎは。○〔後漢〕「環水繞一一」。

〔岸説〕 きし、河かゝりはは、又、河かゝり。○〔後漢〕「一一五千餘里」。

〔岸説〕 「河ぎしの口」。

〔岸説〕 河ぎしにはびこりわたる。○〔後漢〕「南臨一一」。

〔岸説〕 「一一、「一一」。

〔岸説〕 かはの端。○〔後漢〕「一一陸地、汎一一」。

〔岸説〕 森、水際。

〔岸説〕 水面の端みたる處。○〔後漢〕「夜衣隨一一」。

〔岸説〕 かはぎしを守れおよ。○〔後漢〕「一一西疆」。

〔岸説〕 かはぎしに土を築き上ぐ。○〔後漢〕「堤」。

〔岸説〕 水ぎしに食ひ入る。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 さかしきさま。○〔後漢〕「一一三代人之所」。

〔岸説〕 高きさま。○〔水經注〕「一一」。

〔岸説〕 高強くして靡かなるさま。○〔水經注〕「一一」。

〔岸説〕 刺けづれたるかはぎし。○〔謝靈運〕「一一」。

〔岸説〕 つらなりならべるさまで、又、きしべにつゞくなり。○〔東京賦〕「一一」。

〔岸説〕 陽光あるさま。○〔後漢〕「西一一」。

〔岸説〕 陽しきさまし。○〔後書〕「一一」。

〔岸説〕 若し。○〔後書〕「一一」。

〔岸説〕 境。○〔呂和書賦〕「一一」。

〔岸説〕 ゆはしきさまし。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 あやとしべと、又、わかゝたての意に用ふる語。

〔岸説〕 長き川ぎし。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 みぎは。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 かゞやくばれたるさまし。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 玉よりなれるさまし。○〔江淹〕「石似一一」。

〔岸説〕 目かゞやきしべ。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 ゆしの現れるさまし。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 ゆはしきさまし。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 前に同じ。○〔杜甫〕「一一」。

〔岸説〕 水の端ひたるさまし。○〔後漢〕「芳草生一一」。

〔岸説〕 方々のさまし。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 みぎはのさまし。○〔後漢〕「一一」。

〔岸説〕 きしべ一面。○〔後漢〕「花似一一」。

〔岸説〕 苔のはえたるさまし。○〔方干〕「一一和」。

岺 嶺に同ト。

六畫

峪 カフ、ゴフ。曷閤切 合

山の貌にいふ字、たかし、さがし、（一一嶪）。

峇 カフ、ゴフ。渴合切 合

㊀山の形をなすにいふ字。㊁山の窟、ほら、あな。㊂峪に同ト。

峈 ラク。歷各切 藥

山の貌にいふ字、たかし、さがし、（一一嶩）。

峇 ガク、ギヤク。五陌切 陌

㊀山の高くして大いなる貌にいふ字。○〔楚辭〕「山鬼兮一一」。㊁山の齊しからざる貌にいふ字。○〔嵇康〕「峯一一嶮嶮」。

峘 山の名。

峙 セイ、サイ。思計切 霽

山の名。

峩 カイ。古哀切 灰

㊀草木なき山、はげやま。○〔爾〕「無二草一一」。㊁地の名。

峩 キ。口已切 紙

蛇に同ト。

峯 セン。逡緣切 先

山の嶺、いただきてっぺん。

峒 トウ、ヅ。徒紅切 東

崆一一は、黃帝又は、漢の武帝などの登りたる山の名にして今の甘肅省に在り。○〔莊〕「聞三廣成子在二一一之上一」。

峒 トウ、ヅ。徒弄切 送

㊀山にある一つの穴、ほらあな。㊁長く短く齊しからざる貌にいふ字、かたいがひ。

峒 トウ、ヅ。杜孔切 董

洞に通ト作る、ほら、あな。

峽 イ。以脂切 支

爽に通ト作る、嶋一は山の名。

峛 ボ、モ。莫補切 麌

慈一は大平府にある山の名。

峩 リン。良儉切 震

山の名。

峨 ジ、ニ。人之切 支

山の名。

峭 セイ、サイ。思計切 霽

山の名。

峩 カイ。古哀切 灰

㊀草木なき山、はげやま。○〔爾〕「無二草一一」。㊁地の名。

峩 キ。口已切 紙

蛇に同ト。

峯 セン。逡緣切 先

山の嶺、いただきてっぺん。

峒 トウ、ヅ。徒紅切 東

崆一一は、黃帝又は、漢の武帝などの登りたる山の名にして今の甘肅省に在り。○〔莊〕「聞三廣成子在二一一之上一」。

峒 トウ、ヅ。徒弄切 送

㊀山にある一つの穴、ほらあな。㊁長く短く齊しからざる貌にいふ字、かたいがひ。

峒 トウ、ヅ。杜孔切 董

洞に通ト作る、ほら、あな。

峽 イ。以脂切 支

爽に通ト作る、嶋一は山の名。

峛 ボ、モ。莫補切 麌

慈一は大平府にある山の名。

峩 リン。良儉切 震

山の名。

峨 ジ、ニ。人之切 支

山の名。

峽 タ、ダ。都果切 哿 都嗄切 禡

山の貌にいふ字。

峻 アン。於含切 覃 烏盱切 魚

山の名。

峗 キ、ギ。魚爲切 支 ゲ。切 灰

三一一は山の名。

峗 クヮイ、ゲ。五罪切 賄 クツ、コチ。魚屈切 物

山の貌にいふ字。

峘 クヮン、グヮン。胡官切 寒 コウ、ゴウ。胡登切 蒸

高き山の上にある小さき山の他の大いなる山より高きもの、こやま。○〔爾〕「小山岌一大山一」。

峥 ケン。苦堅切 先

山の名、隴州の吳山縣の吳嶽山。○〔書〕「導二一及岐一」。

峙 チ、ヂ。直里切 紙

㊀特に高く起こり立つ、たつ、そばだつ、そびゆ。○〔班固〕「通天誇以竦一一」。㊁そばだちたる山、そびゆる丘、高地。○〔張衡〕「散似二驚波一、聚似二京一一」。㊂そなふ、供、又、つも、積。○〔詩〕「以一一其糧」。

〔峙説〕 かなへの足の如く三方にそばだつもの。○〔見〕「成一一之業」。

〔峙説〕 殺伐なものをたゝへをいふ。○〔北〕「部一一嶽」。

〔峙説〕 そばだつもの。○〔後〕「嶋然一一」。

〔峙説〕 こいしの如くにならび立つもの。○〔見〕「方今英雄一一」。

〔峙説〕 まさはり立つ。○〔白居〕「五色相宣、屏帳

〔嵩峻〕高くそばたつこと。○〔嵩〕〔嵩善〕—…。〔嵩峻〕前に同じ。○〔嵩〕〔嵩峻〕—…。〔嵩峻〕前に同じ。○〔嵩〕〔嵩峻〕—…。〔嵩峻〕ならび立つこと。○〔嵩〕〔嵩峻〕百尋—…。〔嵩峻〕前に同じ。○〔嵩郡〕〔嵩峻〕三千—…而峻峻。〔嵩峻〕高く立つ。○〔嵩峻〕〔嵩峻〕—…。〔嵩峻〕獨りそばたつこと。○〔嵩峻〕〔嵩峻〕孤孤立而—…。〔嵩峻〕そばたつこと。○〔嵩峻〕〔嵩峻〕神字—…。〔嵩峻〕おびあひて立つ。○〔嵩峻〕〔嵩峻〕嵩峻心而—…。

崒 ビツ、ミチ。莫必切 質

山の名。

屼 リ。力紙切 紙

㊀山の高くして長く引きたる貌にいふ字、つらなる、つゞく。○〔揚雄〕〔甘泉賦〕東嶽而知二衆山之—一嵂一。

㊁上がり下がりの道、さかみち。○〔揚雄〕〔甘泉賦〕登降—一嵂一。

崟 キ。古器切 寘

數をはかると、算數。○〔管〕〔虞〕〔戲道〕六—一行、以迎二陰・陽一、作二九・々之數一、以合二天・道一。

嵩 トウ、ヅ。徒弄切 送

苗の類、郎ちえびすの名。

崑 キ。苦軌切 紙

山の貌にいふ字。

七畫

崖 サ。祖臥切 寘

山の名。

崖 サ。祖禾切 歌

山の名。

崖 ビ、ミ。武悲切 尾

山の名、一說に譌りの字。

峨 ガ。五何切 歌 又峩に作る。

㊀山高し、さがし、たかし、けはし。○〔司馬相如〕〔南山〕—…。

㊁りゝばなり、たかし、さかんなり。○〔詩〕〔奉レ璋〕—…。

㊂けはしき場處、又、みれ。○〔謝靈運〕〔奥陟レ一而善狂〕。

㊃四川省嘉定州にある峨眉山の稱。○〔唐〕〔登〕〔衡廬〕彷二徉峨一—一。

〔峨峨〕高き貌、けはしき貌。○〔書〕〔禹貢〕〔岱北辰〕、今—…。

〔峨峨〕前に同じ。○〔京方記〕〔俗〕—…而峨峨。

〔峨峨〕前に同じ。○〔大平御覽〕〔後漢〕—…。

〔三峨〕眉山のこと、大峨・中峨・小峨の稱あるよりいふ。○〔荊州記〕〔一〕—…〔吾鄉里〕。

峪 ヨク。余玉切 沃

たに、谷。

崞 シヤ。昌遮切 麻

山の名。

皖 クワン、ケワン。戶管切 旱

山の多き貌にいふ字。

皖 クワン、ケン。戶版切 潸

山の名。

峘 ベツ、ベチ。皮列切 屑

山の名。

崛 ビ、ミ。武悲切 尾

山の名、一說に譌りの字。

峨 ガ。五何切 歌 又峩に作る。

㊀山高し、さがし、たかし、けはし。○〔司馬相如〕〔南山〕—…。

㊁りゝばなり、たかし、さかんなり。○〔詩〕〔奉レ璋〕—…。

㊂けはしき場處、又、みれ。○〔謝靈運〕〔奥陟レ一而善狂〕。

㊃四川省嘉定州にある峨眉山の稱。○〔唐〕〔登〕〔衡廬〕彷二徉峨一—一。

〔峨峨〕高き貌、けはしき貌。○〔書〕〔禹貢〕〔岱北辰〕、今—…。

〔峨峨〕前に同じ。○〔京方記〕〔俗〕—…而峨峨。

〔峨峨〕前に同じ。○〔大平御覽〕〔後漢〕—…。

〔三峨〕眉山のこと、大峨・中峨・小峨の稱あるよりいふ。○〔荊州記〕〔一〕—…〔吾鄉里〕。

峨 ガ、ナ。囊何切 歌

山の名。

峨 ヤ。余遮切 麻

山の名。

峨 ジヤ。徐遮切 麻

山の貌にいふ字。

崖 カン、ガン。下孟切 旱

山の名。

崖 タイ、デ。徒回切 灰

山崩るゝ、一說に、罷の譌り。

崖 ダフ、ノフ。女法切 洽

ほづか、靜。

崖 ホ、フ。奔誤切 遇

形の好き貌にいふ字、かたちよし、みめよし。

峽 キウ、ケ。渠尤切 尤

山の名。

峭 セウ。七肖切 嘯

㊀けはし、さがし、嶮。○〔謝靈運〕〔巖〕—…嶺稠疊。

㊁おごそかにして苛し、はげし、厲、きびし、急。○〔漢〕〔錯傳〕人—一直刻深。

崑 キン、コン。玄倫切 眞

山の相連なる貌にいふ字、つゞく、つらなる。○〔張衡〕〔或—一嶙而纏聯〕。

崎 キ。口已切 紙 居吏切 寘

山の高き貌にいふ字、たかし。

崚 ヒウ、ブ。房尤切 尤

山の名。

崚 ロウ、盧貢切 送 一に、壚に作る。

あな、穴。

峻 タイ、デ。徒外切 泰

山の貌にいふ字。○〔馬融〕〔嶢嶢〕—…。

峯 ホウ、フ。敷容切 冬 一に峰に作る。

(い)山のてッぺん、山の嶺、山のとがりたる處れ。○〔荊州記〕〔衡山〕—名二芙蓉一。

(ろ)山の稱に用ふる字。○〔一統志〕〔雷〕—在二鎮・唐一。

〔奇峯〕めづらしき形のみね。○〔鶴性之〕〔夏雷峯〕—…。

〔絲峯〕けはしきみね。○〔海篇〕〔…〕—…太。

〔叢峯〕前に同じ。○〔江表〕〔臨二江上一之—…。

〔怒峯〕前に同じ。○〔後漢書〕〔…〕—…。

〔獸峯〕前に同じ。○〔後漢〕〔…州・…州・…南臨水有—…。

〔奇峯〕すぐれて高きみね。○〔張衡〕〔…〕—…以

〔怒峯〕前に同じ。○〔江表〕〔…山之—…。

〔怒峯〕かさなれるみね。○〔李白〕〔…〕—…如…

〔怒峯〕前に同じ。○〔韓愈〕〔…〕—…〔…〕

峰 峯に同じ。

峯 キ、ケ。巨希切 微

山の旁の石。

猶 ダウ、ノウ。奴刀切 豪 又嶩に作る。

山の名。○〔詩〕〔遭二我乎—之間一〕。

崇 リ。眞以切 紙

遥ひ行く、おふ、一說に、荆の字の譌り。

崚 トウ、ヅ。徒侯切 尤

山の峻しきにいふ字、けはし、さがし。○〔揚雄〕〔一—嶙峋〕。

崟 イウ、ユ。爽周切 尤

—…は獸の名。○〔山海經〕〔陸山有レ獸、狀如レ馬、羊目四角、牛尾名曰二—…〕〔見則其國多二狡客一〕。

峭 エン。於緣切 先

山の曲がれる貌にいふ字、まがる、又、やまのくま〔山・阿〕。

崇 ウウ、マウ。武方切 陽

山の名。

崇 ラウ、ロウ。魯當切 陽

峻—は山の名、冬至の節に日の入る處といふ。

崇 ラウ、ロウ。盧黨切 養

山の空しき貌にいふ字、むなし、ほら。

峴 ケン、ゲン。胡典切 銑

㊀山の名、襄陽に在り、古昔、晉の羊祜の登りたるゆゑに名あらはる。○〔晉〕〔祜與二鄧潤甫一登—…山一〕〔垂淚曰、自レ有二宇宙一、便有二此山一、因立レ碑、後人名二墮淚碑一〕。

峴 ケン、ゲン。胡典切 銑

㊀山の小さくしてけはしき處、一說に、嶺の上の平かなる處。○〔謝靈運〕〔逕遥陟二陘—一〕。

〔崇峯〕峴山のこと、羊祜此上より名あらはれたるよりいふ。○〔漢書〕〔意氣—…〕〔師古曰〕。

崤 クワウ。平崩切 庚 一に鮫に作る。

崤—は、一の澗くして險しき貌にいふ語、けはし。○〔王延壽〕〔靈光殿賦〕以崤—…。

島 タウ、トウ。都皓切 皓

㊀海中に起こりたる陸地、ちまた。○〔木華海賦〕〔崇—一巨鰲〕。

㊁海の曲、はまべ。○〔書〕〔—夷奔服〕。

〔海島〕海中のしま。○〔魏〕〔沈兵—…〕。

〔絕島〕往來のたえたるしま、はなれしま。○〔社甫〕〔—…皆中霧〕。

〔孤島〕はなれしま、又、海のなかにある一つのしま。○〔王褒〕〔主人—…中〕。

〔山島〕山よりなるしま。○〔後漢〕〔飲—…〕〔註〕〔居〕。

〔洲島〕しま。○〔宋〕〔孫—居—…〕。

〔陸島〕えものゐりたるしま。○〔社甫〕〔—…〕〔…〕〔…〕。

崗 カウ、古到切 號 コウ。苦沃切 沃

山の貌にいふ字、一說に、山の名。

皓 カウ、コウ。乎老切 皓

山の貌にいふ字。

昭 臣に同じ。

峪 谷に同じ。

峪 カン、ゴン。呼含切 覃 本谿に作る。

谷の中の大いに空しきにいふ字、むなし、ほら、又、おほいなるたに、大谷。

峽 カフ、ゲフ。侯夾切 洽

㊀嶺しき山と山とにはさまれたる處、はさま、たに、だにあひ。○〔淮〕〔仿〕〔伴於山—之旁〕。

㊁はざまを流るゝ川、又、山と山との間にある川。○〔杜甫〕〔高・江急—一雷〕〔…〕。

〔三峽〕〔…〕〔…〕〔…

屺 バウ、マウ。毋剛切 [陽] 莫郎切 [陽]
莫派切 [麗]
山の貌にいふ字、たかし、さがし。○〔張衡〕「其山則嵽—嶪刺」。

崀 ラウ。力當切 [陽]
山の空しきにいふ字、むなし、又、ほら。

㟧 嶵に同上。○〔汪端明〕「松・穎—レ煙、楮・英餘—露」。

崶 ホツ、ボチ。蒲沒切 [月]
やま〔山〕。

嶮 サン、セン。士山切 [刪]
けはしさがし〔峻・嶮〕。

八畫

嵸 コウ、ク。苦紅切 [東]
一—嵸は山の名。
二山の高き貌にいふ字、たかし。

崆 カウ、コウ。枯江切 [江]
山の高く峻しき貌にいふ字、たかし、けはし。

嶇 嶇に同上。

嶇 テウ、デウ。巴聊切 [蕭]
山の貌にいふ字、たかし、さがし。

嶂 テキ、チヤク。他歷切 [錫]
山の名。

嶠 嶠に同上。

崇 シウ、ス。鉏弓切 [東]
古文の羌の字、一說に、羌の字の篆文。
一たかし。
〔い〕上へ長し。○〔揚雄〕「—〔—〕圜・丘」。
〔ろ〕すぐれたり。○〔吳澄〕「才能志—」。
〔は〕たふとし、〔貴〕。○〔揚雄〕「窮レ寵極レ—」。
二たかきと、たかき度合、たかさ。○〔周〕「紀—三尺・有三寸」。
三重んず、うやまふ、尊敬す、たふとぶ、あがむ。○〔國〕「—事宗・廟社稷」。
四高くなす、たかむ、たかむる、又、厚くす〔興・こす〕益す。○〔左〕「今將レ—」諸侯之地」。
五積もりてたかくなる、たかまる、興る、又、あつまる〔聚〕。○〔詩〕「福・祿來—」。
六なふ、をはる〔終〕。○〔詩〕「誰謂二宋遠一、曾不レ—レ朝」。
七充實す、もる、みつ。○〔儀〕「主・人再拜レ—酒」。
八かざる〔飾〕。○〔國〕「容・貌之—」。
九樂器のかざり、鐘磬を懸くる處、崇牙。○〔家〕「設レ—殷也」。
〔武英〕たふとみる。○〔後〕「—ニ—ニ—天道」。
〔敦煌〕前に同上。○〔後〕「—ニ—ニ—佛・事」。
〔薩〕積みあつむ。○〔左〕「—ニ—ニ—之」。
〔薩〕其・本・根。
〔薩〕高きと。○〔記〕「—ニ—ニ—時・事」。
〔薩〕弓なりに高きと。○〔後・門・記〕「—ニ—ニ—數・而」。
〔薩〕の欲してたかくす。○〔韓・愈〕「—ニ—學・眞」。
〔薩〕信・如・す。○〔洛・陽・伽・藍・記〕「—ニ—ニ—三寶」。
〔薩〕ねつきたくあつまる。○〔殷・書〕「—ニ—ニ—旅」。
〔薩〕〔薩〕〔薩〕

嶈 ショク、ジキ。仕力切 職
山の峻しき貌にいふ字、さがし、けはし。

崢 サウ、ジャウ。鋤耕切 庚
たかし、けはし、又、たかき山。○〔韓愈〕「高青軋—青—」。
〔續漢〕高き貌にいふ字。○〔張衡〕「超—玉倉之—」。〔蜀入—〕。
〔廣韻〕山の高くけはしき貌にいふ字。○〔司馬相如〕「—嶸」。

嵊 ヘイ、部迷 齊 ヒ、類彌 紙
ヒ。切
高き貌にいふ字、たかし。○〔司馬相如〕「—嶸—嶏起」。

嶁 カウ、ゲウ。胡交切 肴
山の名、又、水の名。

嶉 ヒ、ビ。井弭切 紙
山の足もと、ふもと。○〔揚雄〕「崔嵬不レ崩—頹〔彼峽〕—」。

崦 エン。央炎切 鹽 於檢切 琰
—嵫は、山の名、日の入る處といふ。○〔屈平〕「吾令ヲ羲・和弭レ節兮、望—ー—一勿レ迫」。

崧 シウ、ス。息弓切 東
大いにして高き山の稱、だけ、又、たかし。○〔詩〕「高維—」。

嶇 セフ。疾葉切 葉

崩 ホウ。北朕切 蒸
(い)くづる。
(い)山壞る、たかきものくだけこはる、こはれて上より下に墜つ、つぶる。○〔春秋〕「八月辛卯沙鹿—」。
(ろ)亂る、衰ふ、破る、散り失なふ。○〔論〕「三年不レ爲レ樂、々必—」。
(ろ)天子君王の殂落し給ふにいふ字、かみさる、かんさる、かくる。○〔史〕「未レ授二使者一、始皇—」。
〔土崩〕つちくづる、物事のくづれて手のつけやうなきに譬いふ語。○〔史〕「天下之患在二于—一」。
〔分崩〕わかれくづる、ちりぢりに離る。○〔論〕「邦—一離析而不能守」。
〔瓦崩〕ゆるみくづる。○〔論〕「譬不—一、一瓦物有所」。

巋 巋に同ト、みち、こみち、ちまた。○〔枚乘〕「—路奏・樂」。

嵯 キ。嵬位切 寘
筋のひきつる貌にいふ字、つる、ひく。○〔列〕「筋節—急」。

巋 シ、ジ。莊吏切 寘
刃を刺す、さす。

嶇 岡に同ト。

九畫

嶈 ショク、ジキ、〔ソク〕士力切 職
山の峻しき貌にいふ字、さがし、けはし。

嶄 リツ、リチ。劣戌切 質
高くして大いなる貌にも、又、高くして峻しき貌にもいふ字。○〔司馬相如〕「隆崇—率」。

嶠 ゲシ。魚蹇切 阮 魚變切 霰
たかし、高くけはし、(峻。○〔潘岳〕「峻—峭以繩—直」。
〔嶠嶠〕きしのけはしき貌にいふ字。○〔郭璞〕「崖嶠—之—」。
〔嶠嶠〕山のけはしきこと。○〔劉逸〕「怪使欲—」。

嶷 ビ、ミ。眉否切 紙
やま、山。

嶂 ショ、ソ。寫與切 語
山の名。

嶐 カン、コン。姑南切 覃 古暗切 勘
嶐—は、山の名。

嶐 ケイ、胡雞 齊 ガイ。切 未レ見レ上、未レ見レ字 ケイ、ガイ、未レ見レ上、未レ見レ字
山の名、又、人の姓。

嵇 前條に同ト。

嵒 タン。多官切 寒
山の名。

嵒 クワン、クヮン。胡管切 旱
山の名。

嵒 クワン、クヮン。胡官切 寒
山の名。

嵒 ガン、五感 感 サン、士減 豏 ゼン。切
山の貌にいふ字。○〔左思〕「恆・碣—ニ嶂—千青・青—」。

嶄 ガン、士減 豏 ゼン。切
山の名。

嶄 ホン、ボン。步奔切 元

嶄 リツ、リチ。劣戌切 質
形、蚤に似たる山。

嶄 ショウ、ショウ。石讓切 漾
山の名、又、蘇の名。

嶄 ショウ、ジョウ。神陵切 蒸 本、蟲に作る。
亭の名。

嶄 ビ、武悲切 支 ミ。切 マイ。 灰
嶄—は、山の名、四川省嘉定府にあり。○〔李白〕「嶄—山月半輪秋」。

嶄 カン、呼監 銜 ゲン。切 サン、才敢 感 ゾン。切
山の深く入りたる貌にいふ字、又、ふかし、又、ふかくなりたる處、たに、あなぼら。○〔樂觀〕「—巖深・谷」。
山の聞き張れる貌にいふ字。○〔揚雄〕「—巖々其龍・鱗」。
〔廣韻〕山のけはしき。○〔沈約〕「車駕—巖—」。
〔玉篇〕山のけはしき。○〔陶潛〕「四面山・圍門—」。
〔字彙〕如・丹・絕・壁。
〔字彙〕前に同ト。○〔後漢書〕「—巖・樓・觀—」。
〔廣韻〕岩穴。○〔文選〕「西南望—巖—」。

嶄 カン、コン。苦濫切 豏
岸の欹ちて峻しき貌にいふ字、さがし、けはし。

嶄 ク。康俱切 虞

嶄 コウ、ク。胡溝切 尤
山の名。

嶄 エン。鄢殘切 阮
山の形。

嶄 ソウ、ス。子紅切 東
峰のあつまれる山。○〔司馬相如〕「淩二三—之危—」。

嶄 カウ、コウ。胡江切 江
山の名。

嶄 ソウ、ス。蠶叢切 東
山の貌にいふ字、一說に譌字。

嶄 ラン、ロン。盧含切 覃
山の氣の蒸し潤へるもの、又、單に山氣にもいふ字。○〔謝靈運〕「夕・曦—氣陰」。
〔嶄嶄〕山のけはしきこと。○〔郭璞〕「—山・山・山」。
〔嶄嶄〕山のけはしきこと。○〔張衡

嵎 井。於非切 微

—嵎は、山の名。

嵒 ガン、魚咸切 咸 —巖に通ず、俗に岩に作る。

嵒に同ト。

嵒 ガン。大いなる石、いはほ、いは。○〔郭璞〕「三—鼎立勢欲壓。」

㊁いはのきしの連なりつゞける形にいふ字、けはし、さがし。○〔郭璞〕「碕嶇岩岌之—嶙」。

㊂いかめしく立てる貌にいふ字。○〔張衡〕「冠——其映、奢兮。」〔李善〕高くけはしき貌。○〔江淹〕「——而蔭日。」〔嵒嵒〕みぢりの貌。○〔金莊〕「詩」「——」。

嵒 前條に同ト。

嵒 コ。洪孤切 虞

山の名。

嵒 嵒に同ト。

嵒 ト、ツ。迪都切 虞

山の名。

嵒 泉に同ト、又、崇に作る。

嵒 ガン。魚旰切 翰

㊀あつし（厚）。㊁恭しからず。

嵒 ヘイ、ヒヤウ。邦景切 梗

人の名。

嵒 ト、ツ。迪胡切 虞

十一畫

今、塗に通ト作る、山の名。

嵒 チヨウ、チユ。展魚切 魚

山の名。

嵒 タウ、トウ。他刀切 豪

山の名。

嵒 アイ、エ。烏懈切 卦

崿に通ト川ふ、けはし、さがし、〔險〕。

嵒 コウ、ク。呼貢切 送

山、谷の深き貌にいふ字、ふかし。

嵒 ベイ、ミヤウ。母迥切 迥

山高し、たかし、又、山氣暗し、くらし。○〔左思〕「—靄—鬱崩」。

嵒 ヒ、ビ。符鄙切 紙

くづる、やぶる（壞）。

嵒 タイ、都回切 灰 デ。タイ、杜罪切 賄

たかし（高）。

嵒 嶐に同ト。

嵒 エウ。余招切 蕭

山の貌にいふ字。

嵒 チウ。烏公切 東

山の名。

嵒 チウ。鄒孔切 董

山の貌にいふ字。

嵒 サウ。千郎切 陽

山の勢にいふ字。

嵒 タウ、ダウ。徒郎切 陽

—は、山の名。

嵒 タウ、ダウ。待期切 蕭 徒浪切 漾

—は、山の貌にいふ語、又、山の石の廣く大いなるにいふ語。○〔張衡〕「——崒嵂—剌」。

嵒 ケイ、互扃切 迥 キヤウ。切 庚

峻に同ト。

嵒 ケイ、于平切 庚 キヤウ。切

山の深き貌にいふ字、おくふかし、ふかし。

嵒 クワウ、キヤウ。戶萌切 庚

山の峻しき貌にいふ字、けはし、さがし。

嵒 ケツ、ゲチ。渠列切 屑

たかし（高）。○〔郭璞〕「虎—牙—豐以屹峮」。

嵒 齒の字の譌。

嵒 エウ。以沼切 篠

山の貌にいふ字、一說に、嶢の字の譌と。

嵒 トツ、トチ。吐骨切 月

——は、山の貌にいふ語。

嵒 ゲン、ケワン。愚袁切 元

嵒 サウ。千郎切 陽

—は、山の巔、一說に譌字。

嵒 ガイ。五來切 咸 カイ。可亥切 賄

山の貌にいふ字。

嵒 サイ、牀皆切 佳 ザイ。楚改切 賄

平林にある山、はえやま。

嵒 俗の塞の字。

嵒 リウ、ル。力求切 尤

山の貌にいふ字。

嵒 チ、ウ。於五切 麌

山の名、又、一說に、俗の鴟の字。

嵒 シウ、ス。思酸切 寒

㊀山の名、五嶽の一、河南省にある高山。○〔唐〕「萬歲通天二年封—」。

㊁たかし（高）。○〔陸機〕「——」。

〔嵒嵒〕たかきに似り月上る貌。○〔嵒嵒〕三年本〔嵒嵒〕華山と嵩山と、又、前に同じ。○〔名〕〔嵒嵒〕華山と嵩山と。○〔嵒嵒〕細山と嵩山と。○〔嵒嵒〕細山と嵩山と。

嵒 カウ、ケウ。丘交切 肴

峭に同ト、やせつち。

嵒 カウ、コウ。丘刀切 豪

山の峻しき貌にいふ字、けはし、たかし。

嵒 リツ、リチ。力質切 質

山の名。

嵒 嵒に同ト。

嵒 カ、ケ。胡駕切 禡

山の名。

嵒 俗の巖の字。

嵒 シ。子之切 支

けはし、さがし（峻、險）。○〔王延壽〕「崩—岌—嶪」。

嵒 クワイ、ケ。魚回切 灰

㊀石山の上に土を載くもの、いしやま、いはやま。○〔詩〕「陟彼崔—」。

㊁高くして大いなり、高くして平かならず、たかし、おほいなり、けはし。○〔班固〕「增—盤崔—」。

〔嵒嵒〕大いなして高し、又、けはし。○〔嵒嵒〕「嵒嵒」前に同じ。○〔嵒嵒〕「嵒嵒」前に同じ。○〔嵒嵒〕「嵒嵒」前に同じ

嵃 イ。興支切 支
山の名。

嶠 ト、ツ。他胡切 虞
一ー嶠は、山の名。

麻 バ、マ。謨加切 麻
山の名。

嵇 キ。去智切 霽
山の名。

嶁 ロウ、ル。郎斗切 有
耶豆切 宥 耶候切 尤
山の嶺、いたゞき、てッぺん。
〔前漢〕崑山のみね、上に高玉の磊ありといふ。○〔千載山川攷〕「郭璞曰、衡山別名ー一」。

嶁 前條に同ト。

嶂 シャウ、サウ。之亮切 漾
高くして險しき山、又、山のたかくしてけはしき處、みね、又、山の屏障を立てたる如くにのびつゞけるもの、稱。○〔錢起〕「玉鑾豆ー遠」。
〔後漢〕碁石のみね、又、けはし。○〔水經〕「莊ー一」。
〔後漢〕かさなりたちて立てる山。○〔後漢・理通論〕「重巒ー一」。
〔山經〕今世の屏障の如く立てるも。○〔沈約〕「ー一連重巒」。
〔後漢〕みねのつらなりたてるも。○〔何遜〕「百ー一陸」。
〔列子〕前に同じ。○〔張衡〕「疊天ー一都相侍」。
〔後漢〕みね。○〔呉之間〕「ー一鄣・鄣起」。
〔後漢〕前に同じ。○〔李白〕「ー一赤城」。
〔後漢〕かさなれるみね。○〔天・地〕「ー一巒・巒色」。

嶄 セン。七豔切 豔
塹に同ト、城を遶る水、ほり、又、あな、（坑）。

嶄 サン、セン。士減切 豏
高くして峻しき貌にいふ字、たかし、さがし、けはし。○〔丘遲〕「ー一絶峰殊狀」。

嶄 サン、セン。鋤咸切 咸
サン、鋤咸切 咸 又、嶄に作る。
嶄に同ト、山の尖りてするどき貌にいふ字、するどし、とがる。○〔司馬相如〕「ー一巖巒」。

嶄 前條に同ト。

嶄 ガウ、ゴウ。五勞切 豪
㊀小石の多き山、いしやま。○〔木華海賦〕「或挂ー於岩ー一之峰」。
㊁一に磯に作る、山の高き貌にいふ字、たかし。○〔韓愈〕「山礫ー々而相軋」。
㊂動搖の貌にいふ字、うごく、ゆるぐ。○〔揚雄〕「嘩ー々旭ー々天・地稠ー一」。

嶪 前に同ト。

嶪 ヘウ。方小切 篠 卑遙切 蕭
山の峯の出でたる貌にいふ字、そびゆ、そばだつ、そばだつ、一說に、そばだてるてッぺん、いたゞき、みね。○〔郭璞〕「稍ー雲霓」「其ー一」。

嶼 ジ、ヨ。以諸切 魚
山の名。

嶼 嶼に同ト。

嶼 リン。黎針切 侵
山の名。

嶽 キ。去智切 霽
山の名。

嶢 ロウ、ル。郎斗切 有
耶豆切 宥 耶候切 尤
山の嶺、いたゞき、てッぺん。
〔前漢〕崑山のみね、上に高玉の磊ありといふ。○〔千載山川攷〕「郭璞曰、衡山別名ー一」。

嶁 前條に同ト。

嶂 シャウ、サウ。之亮切 漾
高くして險しき山、又、山のたかくしてけはしき處、みね、又、山の屏障を立てたる如くにのびつゞけるもの、稱。○〔錢起〕「玉鑾豆ー遠」。
〔後漢〕碁石のみね、又、けはし。○〔水經〕「莊ー一」。
〔後漢〕かさなりたちて立てる山。○〔後漢・理通論〕「重巒ー一」。
〔山經〕今世の屏障の如く立てるも。○〔沈約〕「ー一連重巒」。
〔後漢〕みねのつらなりたてるも。○〔何遜〕「百ー一陸」。
〔列子〕前に同じ。○〔張衡〕「疊天ー一都相侍」。
〔後漢〕みね。○〔呉之間〕「ー一鄣・鄣起」。
〔後漢〕前に同じ。○〔李白〕「ー一赤城」。
〔後漢〕かさなれるみね。○〔天・地〕「ー一巒・巒色」。

嶄 セン。七豔切 豔
塹に同ト、城を遶る水、ほり、又、あな、（坑）。

嶄 サン、セン。士減切 豏
高くして峻しき貌にいふ字、たかし、さがし、けはし。○〔丘遲〕「ー一絶峰殊狀」。

嶄 サン、セン。鋤咸切 咸
サン、鋤咸切 咸 又、嶄に作る。
嶄に同ト、山の尖りてするどき貌にいふ字、するどし、とがる。○〔司馬相如〕「ー一巖巒」。

嶄 前條に同ト。

嶄 ガウ、ゴウ。五勞切 豪
㊀小石の多き山、いしやま。○〔木華海賦〕「或挂ー於岩ー一之峰」。
㊁一に磯に作る、山の高き貌にいふ字、たかし。○〔韓愈〕「山礫ー々而相軋」。
㊂動搖の貌にいふ字、うごく、ゆるぐ。○〔揚雄〕「嘩ー々旭ー々天・地稠ー一」。

嶪 前に同ト。

嶪 ヘウ。方小切 篠 卑遙切 蕭
山の峯の出でたる貌にいふ字、そびゆ、そばだつ、そばだつ、一說に、そばだてるてッぺん、いたゞき、みね。○〔郭璞〕「稍ー雲霓」「其ー一」。

嶢 ジャウ、サウ。楚雨切 麌 俗に、峽に作る。
山の互に聯りよれる貌にいふ字、つゞく、よる。○〔杜甫〕「草ー山爲レ之相ー一」。

嶈 ジャウ、サウ。七羊切 陽
㊀たかし、（高）。○〔班固〕「激ー神巒之ー一」。
㊁おごそかにして正しき貌にいふ字、いかめし。○〔嵇璩〕「箭高・驤」以周ー盼觀ー秦門之ー一」。

嶈 ス井。徂睫切 緝
㊀山の曲、くま。
㊁山の貌にいふ字。
㊂林木のあつまり積める貌にいふ字、うづだかし。○〔揚雄〕「雲譎波詭誕ー一而成ー觀」。

嶈 サイ、セ。徂猥切 賄
前條の㊁と㊂とに同ト。

嶈 セイ、サイ。七計切 霽
山の名。

嶋 島に同ト。

嶋 島に同ト。○〔史〕「入居ー海ー一」。

嶇 コ。乎古切 麌
卑くして大いなる山、ひろきやま、又、山の廣き貌にもいふ字、ひろし。

嶈 巒に同ト。

嶈 嶈に同ト。

嶈 フク、ホク。芳六切 屋
山覆ふ、おほふ。

嶈 ハイ、ヘ。滂佩切 隊
崩るゝ、聲、又、石の墜つる聲にいふ字。

嶈 ヒ、ピ。皮鄙切 紙 フツ、數勿切 物
やぶる、（圮）。

嶈 タン。都寒切 寒 一ー一に、巒に作る。
孤立して高き山。

嶈 テイ、タイ。都黎切 齊
ー一弧は、山の名。

嶈 嶈に同ト。

嶈 リウ、リュ。良中切 東 又、隆に作る。
山の形にいふ字。○〔張衡〕「ー一崛崎嶇」。

嶈 シャウ、ザウ。似兩切 養
山の名。

嶈 崎に同ト。

嶈 シウ、ジュ。疾僦切 宥
嶈の名。

嶈 ケン。巨俨切 阮 又、巘に作る。
山の貌にいふ字、又、山の屈曲せる貌にもいふ字。

嶈 イ。於巳切 紙

嶈 カン、ケン。居覓切 銑
澗に同ト、山に夾まれる水、たに。

嶈 ジュン、ニン。儒順切 震
白ー一は、地の名。

嶈 トウ、ヅ。徒紅切 東
㊀山の貌にいふ字。
㊁草木なき山、はげ山。

嶈 ショウ、ソウ。疾陵切 蒸
山の貌にいふ字。○〔何遜〕「絶壁驚ー一峻ー一」。

嶈 サウ、シャウ。鋤耕切 庚
崎、又は、崢に同ト。

嶈 キョ、コ。丘魚切 魚 或は、虛に作る。
巖に同ト、けはし。

嶈 シン、ソン。茲錦切 寢
山の名。

嶈 ハ、博禾切 歌 精過切 箇
ー一嶈は、山の名。

嶈 キン、巫音コン。切 侵 ケン。丘廉切 鹽
ー一嶈は、山の名。

嶈 山の聳え立てる貌にいふ字、たかし、さがし、又、そびゆ、そばだつ。○〔張衡〕「墓・歷阪之ー一崟」。
㊁開き張れる貌にいふ字、又、ひらくはる。○〔釋名〕「開ー張其口ー一ー然」。
〔後漢〕たかし、又、ひらく、又、そばだつ。○〔後漢〕「眼林ー一・等」。

嶈 嶈に同ト。

嶈 ケン。巨俨切 阮 又、巘に作る。
山の貌にいふ字、又、山の屈曲せる貌にもいふ字。

嶈 イ。於巳切 紙

嶈 カン、ケン。居覓切 銑
澗に同ト、山に夾まれる水、たに。

嶈 ジュン、ニン。儒順切 震
白ー一は、地の名。

嶈 トウ、ヅ。徒紅切 東
㊀山の貌にいふ字。
㊁草木なき山、はげ山。

嶈 ショウ、ソウ。疾陵切 蒸
山の貌にいふ字。○〔何遜〕「絶壁驚ー一峻ー一」。

嶈 サウ、シャウ。鋤耕切 庚
崎、又は、崢に同ト。

嶈 キョ、コ。丘魚切 魚 或は、虛に作る。
巖に同ト、けはし。

嶈 シン、ソン。茲錦切 寢
山の名。

嶈 ハ、博禾切 歌 精過切 箇
ー一嶈は、山の名。

嶈 キン、巫音コン。切 侵 ケン。丘廉切 鹽
ー一嶈は、山の名。

嶈 山の聳え立てる貌にいふ字、たかし、さがし、又、そびゆ、そばだつ。○〔張衡〕「墓・歷阪之ー一崟」。
㊁開き張れる貌にいふ字、又、ひらくはる。○〔釋名〕「開ー張其口ー一ー然」。
〔後漢〕たかし、又、ひらく、又、そばだつ。○〔後漢〕「眼林ー一・等」。

嶈 嶈に同ト。

嶈 前條に同ト。

嶈 嶈に同ト、或はいふ國字と。

嶝 トウ。都鄧切 [圖]

一本、鐙に作り、又、蹬に作る。

㊀山に登り下りする道、さかみち、さか。○〔沈約〕「峰—互相拒」。

㊁あふぐ、仰。

〔字彙〕切り立ちたるが如きけはしきさま。○〔木蘭詩〕「—千萬仞」。

〔字彙〕曲がりたるさま。○〔王粲賦〕「遂小山而炎—」。

〔字彙〕山に登るみち。○〔蘇軾〕「上山絕—」。

隋 タ、ダ。徒果切 [圖]

山の狹くして高きもの、又、さがる。○〔詩〕「—山喬嶽」。

嶟 ソン。祖昆切 [元] シュン。將倫切 [阮] ソン。徂本切 [阮]

峻しく秀でたる貌にいふ字、そばだつ、ひいづ、又、たかし、さがし。○〔揚雄〕「浜臺嶍其獨出兮、撥三北極之—」。

嶠 ケウ、ゲウ。渠廟切 [嘯]

㊀山の貌くして高きもの、たかやま、一說に、水絕えたる處。○〔王彪之〕「銘—跡峻—」。

㊁山の逕、やまみち ○〔顏延之〕「山、祗洋—路」。

嶠 ケウ、ゲウ。巨蟜切 [蕭]

橋に通ト用ふ、たかし。

嶔 ケイ、ケ。姑衝切 [侵]

山の崛起する貌にいふ字、そびゆ、そばだつ。

嶡 ケツ、クツチ。居月切 [月]

一種の遐、脚に横木のあるもの。○〔禮〕「夏后氏用—」。

嶢 ケウ、ゲウ。古僚切 [蕭]

たかし（高）。○〔漢〕「華山之高嶢—」。

〔晉書〕高き貌にいふ語。○〔後魏〕「—者昌」。

〔字彙〕前に同じ。○〔晉書〕「望—之高峯」。

嶘 ホウ。疋登切 [蒸]

くづる、（崩）。

十三畫

嶠 セン。之廉切 [鹽]

みね、（山峰）。

嶠 セン、ゼン。時豔切 [豔]

さか、（山阪）。

嶧 エキ、ヤク。羊益切 [陌]

連なりつゞきたる山。○〔爾〕「屬者—」。

嶱 カク、コク。苦角切 [覺]

大石の多き山、いしやま。○〔韓愈〕「吟二巴山舉—」。

嶔 イン、オン。於錦切 [侵]

山の岑の貌にいふ字、一說に、嶔の字の誤。

嶩 ダウ、ノウ。奴刀切 [豪]

平—は、山の名。

嶪 ゲフ、ゴフ。魚怯切 [葉]

たかし（高）。○〔張衡〕「狀嶪峩以岌—」。

嶫 ニ。

前條に同じ。○〔何晏〕「峨々—」。

嶒 クヨイ、エ。古外切 [泰]

山の貌にいふ字。○〔馬融〕「巖—崿—」。

嶝 コツ、クチ。苦忽切 [月]

山の貌にいふ字、又、はげ山。

嶬 ギ。宜崎切 [支] 魚倚切 [紙] 一に義に作る。

けはし、さがし。○〔王延壽〕「上崎—而重注」。

嶵 サイ、ザイ。徂賄切 [賄]

險峻にして齊しからざる貌にいふ字、かたゝがひ、又、さがし、たかし、けはし。○〔沈烱〕「其北則嶵岑—鬼」。

〔廣韻〕けはし、又、けはしくしてかたゝがひなるも。

○〔張協〕「上林賦以—」。

〔集韻〕けはしく齊しからざる貌にいふ語。○〔後漢〕「夫山嶵崖—」。

嶵 コ、ク。結戶切 [麌] 古胡切 [虞]

山の名。

嶮 ケン。虛檢切 [琰] ゲン。魚窆切 [豏]

さがし、けはし、たかし。○〔郭璞〕「壯三天、塹之—介」。

嶲 ホウ、セウ。莫紅切 [東]

山の名。

嶾 ハイ、ヘ。方實切 [質]

山谷の陂、たに、たにあひ、又、たにあひの田。

嶽 カウ、ゲウ。魚教切 [效]

山の高き貌にいふ字、たかし。

嶾 ウン、チン。王問切 [問]

大—は、山の名。

嶼 シ。之義切 [寘]

山の名。

嶽 ヲフ。側立切 [緝] サフ、側洽切 [洽]

山の名。

嶰 カイ、ケ。胡買切 [蟹] 居蟹切 [蟹]

㊀山澗の間、たに、はざま、かひ。○〔左思〕「—澗間—」。

㊁谷の名。○〔通鑑綱目〕「取二竹於—溪之谷」。

嶤 ヰ。羽鬼切 [尾]

けはし、（險）、又、けはしき山。

嶠 カツ、カチ。苦曷切 [曷]

山に石多くして高峻なる貌にいふ字、たかし、けはし、又、いしやま、たかやま。○〔張衡〕「其山則崆峒—嶫」。

〔字彙〕めぐりかゞまりてたかし。○〔杜甫〕「愛蒼蒼—」。

嶜 セイ、サイ。子計切 [霽]

山の名。

嶲 ス井。選委切 [紙] 本、巂に作る。

郡の名。

嶓 サウ、シヤウ。充爭切 [庚]

衆くの山の奇怪なる形をなせるにいふ字。○〔揚雄〕「嶓—隱倚」。

巖 巖に同じ。

十四畫

嶷 ギ。語其切 [支]

九—は、湖南省にある山の名、舜を祀りたるゆゑに著し。○〔漢〕「祀二虞舜於九—」。

嶷 ギヨク、魚力切 [職] 本、嶷に作る。

㊀小兒知多し、さとし。○〔詩〕「克岐克—」。

㊁たかし、（高）。○〔史〕「其德——」。

〔字彙〕さとし。○〔爾〕「如而—」。

〔集韻〕すぐれたかし。○〔爾〕「鼻調—」。

〔廣韻〕高し。○〔左思〕「——峰駢」。

〔字彙〕たかし。○〔沈約〕「—山命」。

〔字彙〕前に同じ。○〔揚雄〕「勢—以山命」。

〔集韻〕前に同じ。○〔徐幸伯〕「嶷—分埔鄉」。

〔字彙〕正しく高し。○〔王僧孺〕「天神—」。

嶠 カツ、カチ。苦曷切 [曷]

山に石多くして高峻なる貌にいふ字、たかし、けはし、又、いしやま、たかやま。○〔張衡〕「其山則崆峒—嶫」。

〔字彙〕めぐりかゞまりてたかし。○〔杜甫〕「愛蒼蒼—」。

嶜 セイ、サイ。子計切 [霽]

山の名。

嶲 ス井。選委切 [紙] 本、巂に作る。

郡の名。

嶓 サウ、シヤウ。充爭切 [庚]

衆くの山の奇怪なる形をなせるにいふ字。○〔揚雄〕「嶓—隱倚」。

巖 巖に同じ。

嶷 ギ。語其切 [支]

九—は、湖南省にある山の名、舜を祀りたるゆゑに著し。○〔漢〕「祀二虞舜於九—」。

嶷 ギヨク、魚力切 [職] 本、嶷に作る。

㊀小兒知多し、さとし。○〔詩〕「克岐克—」。

㊁たかし、（高）。○〔史〕「其德——」。

〔字彙〕さとし。○〔爾〕「如而—」。

〔集韻〕すぐれたかし。○〔爾〕「鼻調—」。

〔字彙〕高し。○〔左思〕「——峰駢」。

〔字彙〕たかし。○〔沈約〕「—山命」。

〔字彙〕前に同じ。○〔揚雄〕「勢—以山命」。

〔集韻〕前に同じ。○〔徐幸伯〕「嶷—分埔鄉」。

〔字彙〕正しく高し。○〔王僧孺〕「天神—」。

嶽 カウ、ゴウ。乎刀切 [豪]

山の名。

嶨 カン、ガン。俄寒切 [寒] 或は、巘に作る。

たかし（高）。

嶸 クヨウ。戶崩切 エイ、于兵切 ヤウ。切 [庚]

高峻なり、たかし、さがし。○〔班固〕「金石—峰」。

嶠 カウ、コウ。呼高切 [豪]

山の名。

嶨 サク、シヤク。士革切 [陌]

山の名。

嶺 レイ、リヤウ。良郢切 [梗]

㊀延びつゞけける山。○〔後漢〕「踰二越五—」。

㊁遠在二海濱一。

㊂山中の通行路、さか、やまみち。○〔沈約〕「置—白雲間」。

㊃山のてッぺん、いただき、みね。○〔張文琮〕「飛梁架二絕—」。

〔廣韻〕新疆省の西北にある山脈。○〔図〕「東嶺、嶺北、以二天門、平南、嶺、嶺以—」。

〔孝經〕陝西省の嶺南府の南にあるたけ。○〔韓愈〕「—」。

〔字彙〕四川省と西藏との境にある山脈。○〔字彙〕「沙南—」。

〔廣韻〕竹はしらたけ。○〔王讚之〕「此地有二長山—」。

〔集韻〕かさなれるみね。○〔閑登〕「草間—」。

〔廣韻〕前に同じ。○〔仕雅〕「—」。

〔廣韻〕黃巖に發えたる山。○〔張手思〕「不、能二長—」。

嶸 ハ。普火切 [哿]

一峩は、山坡の貌にいふ語。

嶷 タイ、ダキ。徒對切 [隊] 又、嶷に作る。

山の貌にいふ字。○〔左思〕「—若二舉山一而崔嵬」。

嶭 エフ。益涉切 [葉]

山谷の形にいふ字。

嶼 ショ、ソ。徐呂切 [語]

水中の小洲、ことま、ふまま。○〔郭璞〕「石帆蒙龍以蓋—」。

〔洲嶼〕ふなま。○〔後漢〕「有必依—」。

〔高嶼〕前に同じ。○〔江賦〕「密—」。

〔嶼嶼〕二つならべるかたち。○〔鮑思〕「衆鮑—」。

〔長嶼〕ながく續たなれるまま。○〔王勃〕「—」。

〔高嶼〕草木のまばゆるまま。○〔吳筠〕「—」。

〔嶼嶼〕いくつもならべるまま。○〔韓愈〕「一角—」。

嶽 ガク、ゴク。五角切 [覺]

㊀高くして大いなる山、だけ。○〔禮〕「載二華—而不重」。

㊁立ちならべる貌にもいふ字。○〔漢〕「五——、朱雲折二其角一」。

〔字彙〕周の時に至るまでは天下の山の宗となりたるは、華、嵩、泰、衡、恭の四嶽なりしが、周に至りて此れに岱山を加へて五つとなす、嶽を中國といひ、華を西嶽といひ、泰を東嶽といひ、衡を南嶽といへり。○〔爾〕「——嶺三公」。

〔字彙〕たかたけ。○〔詩〕「沙北高山曜山—」。

〔河嶽〕かはとだけと、地上の有形の物にて最も高大なるもの、轉じて、地上の有形の物の總稱にも用ひ上聞。○〔文天祥〕「下開嶽—」。

〔視嶽〕高位高官に借りいふ語。○〔後漢〕「當—嶽地之義」。

〔字彙〕諸侯國の義に借りいふ語。○〔後漢〕「華嶽、嶽宜—」。

〔廣韻〕あつまりならべる貌にいふ語。○〔後漢〕「華—し勢草駢羅」。

〔廣韻〕國名の義に借りいふ語。○〔王思〕「—」。

〔字彙〕「嶽」は、山の峻なる貌にいふ語、たかし、けはし。○〔潘岳〕「裁陂陀以—嶙」。

嶽 ゼツ、サチ。才葛切 [曷]

山の短くして峻しき貌にいふ字、けはし。○〔揚雄〕「椒——梅—而爲七」。

嶽 セツ、ゼチ。昨結切 [屑]

山の高峻なる貌にいふ字、たかし、さがし、けはし。

嶽 コ、ク。結戶切 [麌] 古胡切 [虞]

山の名。

嶮 ケン。虛檢切 [琰] ゲン。魚窆切 [豏]

さがし、けはし、たかし。○〔郭璞〕「壯三天、塹之—介」。

嶲 ホウ、セウ。莫紅切 [東]

山の名。

嶾 ハイ、ヘ。方實切 [質]

山谷の陂、たに、たにあひ、又、たにあひの田。

嶽 カウ、ゲウ。魚教切 [效]

山の高き貌にいふ字、たかし。

嶾 ウン、チン。王問切 [問]

大—は、山の名。

嶼 シ。之義切 [寘]

山の名。

嶽 セフ。側立切 [緝] サフ、側洽切 [洽]

山の名。

嶰 カイ、ケ。胡買切 [蟹] 居蟹切 [蟹]

㊀山澗の間、たに、はざま、かひ。○〔左思〕「—澗間—」。

㊁谷の名。○〔通鑑綱目〕「取二竹於—溪之谷」。

嶤 ヰ。羽鬼切 [尾]

けはし、（險）、又、けはしき山。

嶠 カツ、カチ。苦曷切 [曷]

山に石多くして高峻なる貌にいふ字、たかし、けはし、又、いしやま、たかやま。○〔張衡〕「其山則崆峒—嶫」。

〔字彙〕めぐりかゞまりてたかし。○〔杜甫〕「愛蒼蒼—」。

嶜 セイ、サイ。子計切 [霽]

山の名。

嶲 ス井。選委切 [紙] 本、巂に作る。

郡の名。

嶓 サウ、シヤウ。充爭切 [庚]

衆くの山の奇怪なる形をなせるにいふ字。○〔揚雄〕「嶓—隱倚」。

巖 巖に同じ。

嶷 ギ。語其切 [支]

九—は、湖南省にある山の名、舜を祀りたるゆゑに著し。○〔漢〕「祀二虞舜於九—」。

嶷 ギヨク、魚力切 [職] 本、嶷に作る。

㊀小兒知多し、さとし。○〔詩〕「克岐克—」。

㊁たかし、（高）。○〔史〕「其德——」。

〔字彙〕さとし。○〔爾〕「如而—」。

〔集韻〕すぐれたかし。○〔爾〕「鼻調—」。

〔字彙〕高し。○〔左思〕「—峰駢」。

〔字彙〕たかし。○〔沈約〕「—山命」。

〔字彙〕前に同じ。○〔揚雄〕「勢—以山命」。

〔集韻〕前に同じ。○〔徐幸伯〕「嶷—分埔鄉」。

〔字彙〕正しく高し。○〔王僧孺〕「天神—」。

嶽 カウ、ゴウ。乎刀切 [豪]

山の名。

嶨 カン、ガン。俄寒切 [寒] 或は、巘に作る。

たかし（高）。

嶸 クヨウ。戶崩切 エイ、于兵切 ヤウ。切 [庚]

高峻なり、たかし、さがし。○〔班固〕「金石—峰」。

嶠 カウ、コウ。呼高切 [豪]

山の名。

嶨 サク、シヤク。士革切 [陌]

山の名。

嶺 レイ、リヤウ。良郢切 [梗]

㊀延びつゞけける山。○〔後漢〕「踰二越五—」。

㊁遠在二海濱一。

㊂山中の通行路、さか、やまみち。○〔沈約〕「置—白雲間」。

㊃山のてッぺん、いただき、みね。○〔張文琮〕「飛梁架二絕—」。

〔廣韻〕新疆省の西北にある山脈。○〔図〕「東嶺、嶺北、以二天門、平南、嶺、嶺以—」。

〔孝經〕陝西省の嶺南府の南にあるたけ。○〔韓愈〕「—」。

〔字彙〕四川省と西藏との境にある山脈。○〔字彙〕「沙南—」。

〔廣韻〕竹はしらたけ。○〔王讚之〕「此地有二長山—」。

〔集韻〕かさなれるみね。○〔閑登〕「草間—」。

〔廣韻〕前に同じ。○〔仕雅〕「—」。

〔廣韻〕黃巖に發えたる山。○〔張手思〕「不、能二長—」。

嶸 ハ。普火切 [哿]

一峩は、山坡の貌にいふ語。

嶷 タイ、ダキ。徒對切 [隊] 又、嶷に作る。

山の貌にいふ字。○〔左思〕「—若二舉山一而崔嵬」。

嶭 エフ。益涉切 [葉]

山谷の形にいふ字。

嶼 ショ、ソ。徐呂切 [語]

水中の小洲、ことま、ふまま。○〔郭璞〕「石帆蒙龍以蓋—」。

〔洲嶼〕ふなま。○〔後漢〕「有必依—」。

〔高嶼〕前に同じ。○〔江賦〕「密—」。

〔嶼嶼〕二つならべるかたち。○〔鮑思〕「衆鮑—」。

〔長嶼〕ながく續たなれるまま。○〔王勃〕「—」。

〔高嶼〕草木のまばゆるまま。○〔吳筠〕「—」。

〔嶼嶼〕いくつもならべるまま。○〔韓愈〕「一角—」。

嶽 ガク、ゴク。五角切 [覺]

㊀高くして大いなる山、だけ。○〔禮〕「載二華—而不重」。

㊁立ちならべる貌にもいふ字。○〔漢〕「五——、朱雲折二其角一」。

〔字彙〕周の時に至るまでは天下の山の宗となりたるは、華、嵩、泰、衡、恭の四嶽なりしが、周に至りて此れに岱山を加へて五つとなす、嶽を中國といひ、華を西嶽といひ、泰を東嶽といひ、衡を南嶽といへり。○〔爾〕「—嶺三公」。

〔字彙〕たかたけ。○〔詩〕「沙北高山曜山—」。

〔河嶽〕かはとだけと、地上の有形の物にて最も高大なるもの、轉じて、地上の有形の物の總稱にも用ひ上聞。○〔文天祥〕「下開嶽—」。

〔視嶽〕高位高官に借りいふ語。○〔後漢〕「當—嶽地之義」。

〔字彙〕諸侯國の義に借りいふ語。○〔後漢〕「華嶽、嶽宜—」。

〔廣韻〕あつまりならべる貌にいふ語。○〔後漢〕「華—し勢草駢羅」。

〔廣韻〕國名の義に借りいふ語。○〔王思〕「—」。

〔字彙〕「嶽」は、山の峻なる貌にいふ語、たかし、けはし。○〔潘岳〕「裁陂陀以—」。

嶽 ゼツ、サチ。才葛切 [曷]

山の短くして峻しき貌にいふ字、けはし。○〔揚雄〕「椒—梅—而爲七」。

嶽 セツ、ゼチ。昨結切 [屑]

山の高峻なる貌にいふ字、たかし、さがし、けはし。